二　縣條例ノ制定及改廢
三　縣稅及使用料手數料夫役並ニ現品ノ賦課
四　縣債ノ募集又ハ其ノ條件ノ變更
五　豫算外ノ支出及豫算外支出トナルヘキ義務ノ負擔
六　縣基本財産ノ設置並ニ其ノ管理及處分
七　不動産ノ購入及其ノ處分
八　穀倉ノ設置並ニ其ノ管理及處分

其ノ他縣長ニ於テ重要事項ト認ムルモノハ縣自治委員會ニ付議スルコトヲ得

第三十二條　縣自治委員會ハ縣行政ニ關シ縣長又ハ其ノ他ノ官署ニ意見ヲ提出スルコトヲ得

第三十三條　縣自治委員會ハ每年一回以上縣長之ヲ召集ス

縣自治委員會ノ會期ハ省長ノ認可ヲ經テ縣長之ヲ定ム

第三十四條　縣自治委員ノ定數三分ノ一以上開會ヲ請求スルトキハ縣長ハ縣自治委員會ヲ召集スヘシ

第三十五條　縣自治委員會ニ委員長一人ヲ置キ委員之ヲ互選ス

委員長故障アルトキハ互選ニ依リ委員ノ一人之ヲ代理ス

第三十六條　縣自治委員會ハ委員過半數ノ出席アルニ非サレハ開會スルコトヲ得ス

第三十七條　縣自治委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス

可否同數ナルトキハ委員長之ヲ決ス

委員會ノ議事規則ハ民政部總長別ニ之ヲ定ム

第三十八條　縣長及參事官ハ縣自治委員會ニ出席及發言スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ加ルヲ得ス

第三十九條　縣長ハ縣自治委員會ノ決議ニ對シ權限ヲ越エ又ハ法令ニ違反スト認ムルトキハ之ヲ取消スコトヲ得但シ其ノ理由ヲ明示スヘシ

第四十條　縣長ハ縣自治委員會ノ決議ニ對シ公益ニ害アリト認ムルトキハ民政部總長ノ指揮ヲ申請スヘシ但シ緊急ノ場合ハ其ノ意見ニ依リ處分シタル後民政部總長ノ裁決ヲ請フヘシ

縣自治委員會縣ノ收支ニ關シ不適當ナル決議ヲナシタルトキモ亦前項ニ同シ

第四章　財政

第四十一條　縣ハ縣住民ニ對シ縣稅夫役及現品ヲ賦課徵收スルコトヲ得縣稅夫役及現品ノ賦課徵收ニ關シテハ國ノ法令ヲ以テ定ムルモノノ外縣條例ヲ以テ之ヲ定ム

第四十二條　縣ハ營造物若ハ公共財産ノ使用ニ對シ使用料ヲ徵收シ並ニ特定人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第四十三條　縣內ニ三箇月以上滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ縣稅ヲ納付スル義務ヲ有ス

縣內ニ住所ヲ有セス若ハ滯在三箇月以上ニ及ハサル者ト雖モ縣內ニ於テ土地家屋及物件ヲ所有シ使用シ若ハ占有シ又ハ營業所ヲ定メテ營業其ノ他ノ特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業若ハ其ノ收入又ハ行爲ニ對シテ賦課スル縣稅ヲ納付スル義務ヲ有ス

第四十四條　縣稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ハ縣ハ吏員ヲ派シ家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿及其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第四十五條　納稅者ハ納稅最終期日迄ニ納稅セルトキハ縣ハ一定ノ期間ヲ定メテ之ヲ督促シ仍滯納スル場合ハ縣ハ法令ノ定ムル手續ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四十六條　縣ハ夫役現品ノ徵收ニ應セサル者アル場合ハ自ラ之ヲ支辨シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ支辨セシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコトヲ得

前項費用ノ徵收ニ關シテハ前條ニ依ル

第四十七條　縣ハ其ノ公共事務及法令ニ依リ縣ニ屬スルノ事務ヲ執行シ並ニ縣內行政事務ヲ處理スル爲ニ要スル費用ヲ負擔スル義務ヲ負フ

縣ハ其ノ財産ヨリ生スル收入縣稅使用料手數料過怠金其ノ他法令ニ依リ縣ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充ツ止ムヲ得サル事由ニ依リ仍不足アルトキハ國ノ補助ヲ受クルコトヲ得

第四十八條　縣ノ歲出入豫算ハ民政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

民政部總長ハ縣ノ豫算ニシテ不適當ト認メ又ハ法令上ノ義務ニ違反スルモノアリト認ムルトキハ其ノ修正若ハ追加ヲ命スルコトヲ得

第四十九條　縣ノ會計年度ハ國ノ例ニ據ル

第五十條　縣ハ民政部總長ノ認可ヲ受ケ縣債ヲ募集スルコトヲ得其ノ條件變更ニ付テモ亦同シ

第五十一條　縣ハ每年會計年度締切後三箇月以內ニ決算書ヲ作成シテ民政部總長ニ提出スヘシ

附　則

第五十二條　本縣制ヲ施行スヘキ縣ハ敎令ヲ以テ別ニ之ヲ定ム

第五十三條　本縣制施行ノ日ハ別ニ之ヲ定ム

●特別市制

大同元年八月十七日
敎令第七十七號

改正　大同二年六月　敎令第五十號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ特別市制ヲ制定シ之ヲ公布セシム

特別市制

第一章　通則

第一條　特別市ハ法人トシ直接國ノ監督ヲ受ケ省ノ行政範圍ニ入ラス

特別市ハ法令ノ範圍內ニ於テ其ノ行政事務ヲ處理ス

第二條　特別市ノ區域ハ別ニ之ヲ定ム

第三條　特別市ノ境界ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係アル縣長ノ意見ヲ徵シ民政部總長之ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ財産アルトキ又同シ

第四條　特別市內ニ居住スルモノハ特別市住民トス

特別市住民ハ本法ニ從ヒ特別市ノ財産及營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ特別市ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第五條　特別市ハ其ノ住民ノ權利義務及市ノ事務ニ關シ特別市條例及特別市規則ヲ設クルコトヲ得但シ本法其ノ他ノ法令ニ抵觸スルコトヲ得ス

特別市條例及特別市規則ノ制定及改廢ハ民政部總長ノ認可ヲ受クルヲ要シ且一定ノ公告式ニ依リ之ヲ告示スヘシ

第二章　特別市公署

第六條　特別市ニ特別市公署ヲ置ク

第七條　特別市公署ニ左ノ職員ヲ置ク

市長　簡任

理事官　簡任若ハ薦任

技正　簡任若ハ薦任

事務官　薦任

視學　薦任

屬官　委任

技士　委任

第八條　市長ハ特別ノ行政事務ヲ統括シ特別市ヲ代表ス

第九條　市長ハ所部ノ官吏ヲ指揮監督シ其ノ進退及賞罰ニ關シ民政部總長ニ上申シ委任官以下ハ之ヲ專行ス

第十條　市長事故アルトキハ理事官ノ一人命ヲ承ケテ其ノ職務ヲ代理ス

第十一條　理事官ハ市長ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

技正ハ市長ノ命ヲ承ケ技術ヲ掌ル

事務官ハ上官ノ命ヲ承ケ事務ヲ掌ル

視學ハ上官ノ命ヲ承ケ學務視察其ノ他敎育ニ關スル事務ヲ掌ル

第十二條　屬官ハ上官ノ指揮ヲ承ケ事務ニ從事ス

技士ハ上官ノ指揮ヲ承ケ技術ニ從事ス

第十三條　特別市公署ニ左ノ三處ヲ置ク

總務處

行政處

工務處

第十四條　處ニ處長ヲ置ク理事官又ハ技正ヲ以テ之ニ充ツ

第十五條　總務處ハ左ノ事項ヲ掌ル

一　機密ニ屬スル事項

二　人事ニ關スル事項

三　文書及統計ニ關スル事項

四　官印ノ管守ニ關スル事項

五　會計ニ關スル事項

六　他處ノ主管ニ屬セサル事項

第十六條　行政處ハ左ノ事項ヲ掌ル

一　公共團體ノ監督ニ關スル事項

二　財務ニ關スル事項

三　文敎ニ關スル事項

四　衞生ニ關スル事項

五　實業ニ關スル事項

六　水利交通ニ關スル事項

七　賑恤救濟ニ關スル事項

八　其ノ他一般行政ニ關スル事項

第十七條　工務處ハ左ノ事項ヲ掌ル

一　土木ニ關スル事項

二　建築ニ關スル事項

第十七條ノ二　民政部總長必要アリト認ムルトキハ特別市ヲ指定シテ第十三條所定ノ各處ノ外財務處ヲ置キ財務ニ關スル事項ヲ掌理セシムルコトヲ得

第十八條　市長ハ民政部總長ノ許可ヲ承ケテ公共企業ヲ經營スルコトヲ得

市長ハ前項ノ企業經營ニツキ局ヲ設クルコトヲ得

第十九條　各處局ノ分科規程ハ市長之ヲ定ム

第三章　特別市自治委員會

第二十條　特別市自治委員會ハ定數十五人ノ委員ヲ以テ之ヲ組織ス前項委員ノ定數ハ特別市ノ情況ニ依リ民政部總長ノ許可ヲ承ケ特別市條例ヲ以テ特ニ之ヲ增減スルコトヲ得

第二十一條　特別市自治委員ハ左ノ要件ヲ具フル者ニツキ民政部總長ノ認可ヲ承ケテ市長之ヲ選任ス

一　相當ノ智識經驗ヲ有シ德望高キ者

二　引續キ二年以上特別市內ニ居住シ年齡二十五歲以上ノ男子必要アル場合ハ前號二年ノ制限ヲ特免スルコトヲ得

第二十二條　左記各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ委員ニ選任スルコトヲ得ス

一　在職ノ綸旨官警察官吏收稅官吏及特別市事務ヲ直接監督スヘキ官署ノ官吏タル者

二　現役軍人及學生生徒タルモノ

三　現ニ特別市ノ官吏タル者

四　刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ執行ヲ終リタル後三箇年ヲ經過セサル者

第二十三條　特別市自治委員ノ任期ハ二年トス但シ重任ヲ妨ケス

第二十四條　特別市自治委員會ニ委員長ヲ置ク

委員長ハ委員之ヲ互選ス

委員長事故アルトキハ委員ノ一人互選ニ依リ之ヲ代理ス

第二十五條　特別市自治委員會ハ市長之ヲ召集ス

委員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ニ附スヘキ事件ヲ示シテ特別市自治委員ヲ選任スヘシ但シ其ノ任期ハ前任者ノ殘餘期間トス

第二十六條　特別市自治委員ヲ選任シタルトキハ遲滯ナク市長ヨリ民政部總長ニ之ヲ報告スヘシ

第二十七條　左記ノ事項ハ特別市自治委員會ノ議決ヲ經ルコトヲ要ス

一　特別市條例ノ制定及改廢

二　法令ニ依ルモノヲ除クノ外特別市費ヲ以テ支辨スヘキ事業ノ管理及經營

三　特別市豫算及決算

四　特別市稅及使用料手數料ノ賦課

五　特別市債ノ募集又ハ其ノ條件ノ變更

六　特別市基本財產ノ設置並ニ其ノ管理及處分

七　不動產ノ購入及處分

八　積立金穀ノ設置並ニ其ノ管理及處分

九　豫算外ノ負擔若ハ權利ノ拋棄

十　財產及營造物ノ管理方法ノ決定

其ノ他市長ニ於テ必要アリト認メタル事項ハ之ヲ特別市自治委員會ニ附議スルコトヲ得

第二十八條　特別市自治委員會ハ特別市ノ公益ニ關スル事項ニ付關係官署ニ意見書ヲ提出スルコトヲ得

第二十九條　市長及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十條　特別市自治委員會ハ市長之ヲ召集ス

委員定數ノ三分ノ一以上ヨリ會議ニ附スヘキ事件ヲ示シテ特別市自治委

員會召集ノ請求アリタル時ハ市長ハ之ヲ召集スヘシ

前二項ノ場合ニ於テ市長ハ會期ヲ定メテ之ヲ召集スヘシ必要アリト認ムル場合ハ更ニ期間ヲ定メテ其ノ會期ヲ延長スルコトヲ得召集及會議ノ事項ハ開會ノ前日三日目迄ニ之ヲ告知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

特別市自治委員會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ市長ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ附スルコトヲ得會議ニ附スル日前三日目迄ニ告知ヲ爲シタル事件ニ付亦同シ

特別市自治委員會ハ市長之ヲ開閉ス

第三十一條　特別市自治委員會ハ委員定數ノ過半數出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得ス

第三十二條　特別市自治委員會ノ議事ハ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナル時ハ委員長ノ決スル所ニ依ル

委員長ハ其ノ職務ヲ行フ場合ニ於テモ之カ爲委員トシテ議決ニ加ハルノ權ヲ失ハス

市長ハ會議ニ關シ規則ヲ制定スルコトヲ得

第三十三條　特別市自治委員會ノ議決其ノ權限ヲ超ヘ又ハ法令ニ違反シタルモノアリト認ムルトキハ市長ハ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ附シ仍ホ改メサルトキハ之ヲ取消スコトヲ得

第三十四條　特別市自治委員會ノ議決明カニ公益ヲ害スト認ムルトキハ市長ハ理由ヲ示シテ民政部總長ニ申請シテ其ノ指揮ヲ請フヘシ但シ緊急ノ場合ハ其ノ意見ニ依リ處分シタル上民政部總長ニ報告スヘシ

特別市自治委員會ノ議決收支ニ關シ執行スルコト能ハサルトキ亦同シ

第三十五條　特別市自治委員會召集ニ應セス又ハ成立セサルコト二回ニ及ヒタルトキハ市長ハ事情ヲ具シテ民政部總長ニ申請シ其ノ附議セントスル事項ノ處置ニ付指揮ヲ請フヘシ

前項ノ場合急施ヲ要スルトキハ市長ハ其ノ意見ニ依リ專決シタル上民政部總長ニ之ヲ報告スヘシ

第四章　俸給及給與

第三十六條　市長理事官其ノ他ノ官吏俸給旅費其ノ他諸給與ハ市ニ於テ之ヲ負擔スヘシ

第三十七條　特別市自治委員ハ名譽職トス但シ市長ハ委員ノ職務上支出シタル實費ヲ辨償スルコトヲ得

實費辨償ノ方法及金額ハ特別市條例ヲ以テ之ヲ制定スヘシ

第五章　財務

第三十八條　特別市ハ市住民ニ對シ市稅ヲ賦課スルコトヲ得

市稅ノ賦課徵收ニ關シテハ法令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除キ特別市條例ヲ以テ之ヲ定ムルコトヲ要ス

第三十九條　三箇月以上特別市內ニ滯在スル者ハ其ノ滯在ノ初ニ遡リ市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

特別市內ニ居住セス若ハ三箇月以上滯在スルコトナシト雖モ特別市內ニ於テ土地家屋物件ヲ所有シ使用シ占有シ又ハ營業其ノ他特定ノ行爲ヲ爲ス者ハ其ノ土地家屋物件營業又ハ其ノ收入ニ對シ若ハ行爲ニ對シテ賦課スル市稅ヲ納ムル義務ヲ負フ

第四十條　市稅ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ特別市職員ハ家屋若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ檢查ヲ爲スコトヲ得

第四十一條　特別市ハ市稅ノ納期迄ニ納入セサル者アル場合一定ノ期間ヲ定メテ督促シ仍ホ滯納スル場合ハ法律ニ定ムル手續ニ依リ之ヲ徵收スルコトヲ得

第四十二條　特別市ハ營造物若ハ公共ノ用ニ供シタル財產ノ使用ニ付使用料ヲ徵收シ特定人ノ爲ニスル事務ニ付手數料ヲ徵收スルコトヲ得

第四十三條　特別市ハ其ノ行政事務ヲ處理スルニ要スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

特別市ハ其ノ財產及事業ヨリ生スル收入市稅使用料手數料過怠金其ノ他法令ニ依リ特別市ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充ツルモノトス此ノ收入ヲ得サル事由ニ依リ仍ホ不足アル時ハ國ノ補助ヲ受クルコトヲ得

第四十四條　特別市ノ歲出入豫算ハ民政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

特別市ノ編成セル豫算中不適當ト認ムルモノ若ハ法令上ノ義務ニ違反スルモノアリタルトキハ民政部總長ハ其ノ修正又ハ追加ヲ命スルコトヲ得

第四十五條　特別市ノ會計年度ハ國ノ例ニ依ル

第四十六條　特別市ハ民政部總長ノ許可ヲ承ケテ市債ヲ起スコトヲ得其ノ條件ノ變更ニ付亦同シ

第四十七條　特別市ハ每年會計締切後四箇月以內ニ決算書ヲ作製シ民政部總長ニ提出スヘシ

第四十八條　特別市ノ會計ハ監察院ノ審計ヲ受ク

附則

第四十九條　特別市ハ敎令ヲ以テ別ニ之ヲ指定ス

第五十條　本特別市制ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年八月十七日）

●特別市指定ニ關スル件

大同二年四月十九日
敎令第二十三號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ特別市指定ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

特別市指定ニ關スル件

大同元年敎令第七十七號特別市制第二條及第四十九條ニ依リ新京ヲ特別市ニ指定シ其ノ區域ヲ別圖實線內ノ地域ト定ム

（地圖略ス）

說明

一　大同廣場ヨリ北西七・六粁ノ崔家營子ヲ北西端ト爲シ之ヨリ東上白子ヲ經テ約九粁ノ金錢堡ヲ東北端ノ地點トス

二　金錢堡ヨリ南一・九粁王家皮舖ヲ經テ東一・五粁八里堡ヨリ南吉林街道ニ至リ十里堡葦山屯ヲ經テ更ニ南柳貫窖子ニ至ル

三　柳貫窖子ヨリ南一〇・五粁四河腰逢窩棚三家子及吳家店ヲ經テ西十里堡ヲ南東端ノ地點ト爲ス

四　西十里堡ヨリ西小朝陽溝ヲ經テ無名河ニ至ル六・三粁ノ地點ヲ南西端ノ地點ト爲ス

五　南西端ヨリ北三家子司家屯二十五里堡五孤林大隨窩堡李家屯茫家店火李子及車家窩棚ヲ經テ北西端崔家營子ニ至ル

●特別市指定ニ關スル件

大同二年六月二十一日
教令第五十一號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ特別市指定ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

特別市指定ニ關スル件

大同元年教令第七十七號特別市制第二條及第四十九條ニ依リ哈爾濱ヲ特別市ニ指定シ其ノ區域ヲ別表ノ如ク定ム

特別市ノ承繼スヘキ權利義務並ニ事務ノ引繼ニ關シテハ民政部總長之ヲ定ム

附　則

本令ハ大同二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

大同元年教令第六十二號哈爾濱市政籌備所官制同年教令第六十三號哈爾濱市政籌備委員會官制及同年教令第六十四號哈爾濱市政各機關ニ顧問ヲ置クノ件ハ之ヲ廢止ス

別　表

哈爾濱特別市區域表

一　北滿特別區哈爾濱市
一　北滿特別區哈爾濱特別市
一　吉林省濱江市
一　黑龍江省松浦市
一　吉林省濱江縣
一　吉林省阿城縣內左記ノ各屯

成高子　扁臺子溝　萬家窩棚　丁家屯　張家油房　小南屯　耿家油房　楊咕嚕屯　黃家窩棚　紀家店　葬家溝　黃家凹子　五惠屯　杜家店　馬家窩棚　袁家窩棚　韓家窪子　張家屯　王家屯　洛道屯　拉拉屯　大平橋　萬治　萬德號　顧家屯　灰菜溝　謝家屯　五力屯　懷家窩屯　興隆溝　劉成溝

一　黑龍江省呼蘭縣內左記ノ各屯

王家窩棚　窮棒子崗　吳家店　韓增店　小南屯　雙口面　斗溝子　新街口　耿家窩棚　老陳家

●新京特別市公署分科規程

大同二年四月十九日

玆ニ新京特別市公署分科規程ヲ左ノ如ク規定ス

第一條　總務處ニ左ノ三科ヲ設ク

庶　務　科
會　計　科
水　道　科

第二條　庶務科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一　機密ニ關スル事項
二　人事ニ關スル事項
三　文書及統計ニ關スル事項
四　官印ノ管守ニ關スル事項
五　涉外其ノ他交際ニ關スル事項
六　自治委員會ニ關スル事項
七　其ノ他特ニ命セラレタル事項
八　他處科ノ主管ニ屬セサル事項

第三條　會計科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一　豫算及決算ニ關スル事項
二　現金及有價證券ノ出納及保管ニ關スル事項
三　物品及營繕ニ關スル事項
四　其ノ他會計ニ關スル事項

第四條　水道科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一　水道事業ノ經營ニ關スル事項

第五條　行政處ニ左ノ四科ヲ設ク

社　會　科
財　務　科
教　育　科
衞　生　科

第六條　社會科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一　公共團體行政ノ監督ニ關スル事項
二　他科ノ主管ニ屬セサル特別市事業ノ管理及經營ニ關スル事項
三　實業ニ關スル事項
四　水利交通ニ關スル事項
五　賑恤救濟ニ關スル事項
六　其ノ他一切行政ニ關スル事項

第七條　財務科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一　市稅ノ賦課徵收ニ關スル事項
二　使用料手數料其ノ他ノ諸收納金ニ關スル事項
三　市債及借入金ニ關スル事項
四　基本財產ノ設置管理及處分ニ關スル事項
五　財產ノ管理及處分ニ關スル事項
六　其ノ他財務ニ關スル事項

第八條　教育科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一　學校教育ニ關スル事項
二　社會教育ニ關スル事項
三　體育ニ關スル事項
四　宗教及社寺ニ關スル事項
五　其ノ他文教ニ關スル事項

第九條　衞生科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一　清掃ニ關スル事項
二　防疫ニ關スル事項
三　病院療養所診療所其ノ他ノ管理ニ關スル事項
四　墓地及屠場ニ關スル事項
五　其ノ他衞生ニ關スル事項

第十條　工務處ニ左ノ二科ヲ設ク

土　木　科
建　築　科

第十一條　土木科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

第六輯　地方制度

一　土木工事ニ關スル事項
二　土地區劃整理ニ關スル事項
三　其ノ他土木ニ關スル事項

第十二條　建築科ハ左ノ事項ヲ掌理ス

一　建築工事ニ關スル事項
二　其ノ他建築ニ關スル事項

第七輯　警察、衛生

●治安警察法

大同元年九月十二日
敎令第八十六號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ治安警察法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

治安警察法

第一條 政事ニ關スル結社ヲ組織セムトスルトキハ主幹者其ノ名義ヲ以テ左記各號ノ事項ヲ具シ事務所所在地ヲ管轄スル警察官署ヲ經テ民政部總長ノ許可ヲ受クヘシ其ノ許可事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一　名稱
二　目的
三　規則
四　事務所ノ所在地
五　主幹者ノ住所氏名年齡職業及經歷
六　社員ノ住所氏名及年齡

第二條 民政部總長ハ安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ前條ノ結社ニ社員ノ除名ヲ命シ又ハ其ノ解散ヲ命スルコトヲ得

第三條 公事ニ關スル結社ヲ組織セムトスルトキハ主幹者其ノ名義ヲ以テ結社組織ノ日ヨリ二週間以內ニ左記各號ノ事項ヲ具シ事務所所在地ヲ管轄スル警察官署ヲ經テ民政部總長ニ屆出ツヘシ其ノ屆出事項ニ變更アルトキ亦同シ

一　名稱
二　目的
三　規則
四　事務所ノ所在地
五　主幹者ノ住所氏名年齡職業及經歷
六　社員ノ住所氏名及年齡

第四條 民政部總長ハ公事ニ關スル結社ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ第一條及第二條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第五條 秘密ノ結社ハ之ヲ禁止ス

第六條 屋內ニ於テ政事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ヲ開カムトスルトキハ發起人其ノ名義ヲ以テ開會十二時間前ニ左記各號ノ事項ヲ具シ管轄警察官署ニ屆出ツヘシ

一　目的
二　場所
三　日時

屆出ノ時間ヨリ三時間ヲ過キテ開會セス若ハ三時間以上中斷スルトキハ屆出ハ其ノ效力ヲ失フ

第七條 民政部總長ハ屋內ニ於テ公事ニ關シ公衆ヲ會同スル集會ニシテ政治ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ保持スル爲必要アリト認ムルトキハ命令ヲ以テ前條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第八條 法令ニ依リ組織シタル議會ノ議員ノミノ集會ニシテ議事準備ノ爲ニスルモノハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第九條 屋外ニ於テ公衆ヲ會同シ又ハ多衆運動セムトスルトキハ發起人其ノ名義ヲ以テ十二時間以前ニ左記各號ノ事項ヲ具シ管轄警察官署ニ屆出

ツヘシ

但シ婚禮祭葬學生生徒ノ體育運動其ノ他社會ノ慣習ニ許サルヘキモノニ付テハ此ノ限リニ在ラス

一　目的

二　場所又ハ經路

三　日時

第十條　警察官ハ安寧秩序ヲ保持シ又ハ善良ノ風俗ヲ維持スル爲必要アリト認ムルトキハ屋外ノ集會又ハ多衆ノ運動若ハ群集ヲ制限禁止又ハ解散シ又ハ屋内ノ集會ヲ解散スルコトヲ得

第十一條　警察官ハ集會ニ於ケル講談論議ニシテ安寧秩序ヲ紊リ又ハ善良ノ風俗ヲ害スル虞アリト認ムルトキハ之カ中止ヲ命スルコトヲ得

第十二條　結社集會又ハ多衆運動ニ關シ警察官ノ尋問アリタルトキハ主幹者發起人又ハ警察官ニ於テ主タル社員若ハ主タル集會者ト認ムルモノニ於テ其ノ姓名住所ヲ答フヘシ

警察官署ハ警察官ヲ派シ政事ニ關スル集會又ハ多衆運動ニ臨監セシムルコトヲ得集會ニシテ政事ニ關セサルモノト雖安寧秩序ヲ妨害スルノ虞アリト認ムルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ警察官ハ發起人又ハ警察官ニ於テ主タル會衆者ト認ムル者ニ對シ席又ハ位置ヲ指定シテ請求スルコトヲ得

第十三條　集會又ハ多衆運動ノ場合ニ於テ戎器爆裂物其ノ兇器並ニ戎器爆裂物又ハ兇器ヲ裝備シタル物件ノ携帶ヲ禁止スルコトヲ得

第十五條　街頭大通其ノ他公衆ノ集合往來スル場所ニ文書圖書ヲ貼附シ若ハ散布朗讀シ又ハ其ノ他言語形容並一切ノ行爲ヲ爲シ其ノ狀況安寧秩序ヲ紊リ又ハ善良ナル風俗ヲ害スルノ虞アリト認ムルトキハ警察官ハ之ヲ禁止シ並其ノ印寫物品ヲ抑留スルコトヲ得

第十六條　第一條ニ違反シタル者或ハ虚僞ニ依リ第一條ノ許可ヲ得タル者或ハ第二條ノ命ニ服セサル者ハ百圓以上五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第三條ニ違反シタル者ハ四十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十八條　秘密ノ結社ヲ組織シタル者又ハ之ニ加入シタル者ハ三年以下ノ有期徒刑又ハ二百圓以上千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十九條　第六條又ハ第九條ニ違反シタル者及第十條ノ制限禁止又ハ解散ノ命ニ服セサル者ハ四十圓以上二百圓以下ノ罰金ニ處ス第六條又ハ第九條ニツキ屆出ヲ爲スモ實ヲ以テセサル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十條　第十一條ノ中止ノ命ニ服セサル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　第十二條第一項ノ尋問ニ答ヘス又ハ答フルモ實ヲ以テセサル者又ハ第二項ノ臨監ヲ拒ミ又ハ第三項ノ席若ハ位置ヲ提供セサル者ハ三十圓以上百五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十二條　第十三條ニ違反シ又ハ第十四條ノ禁止ノ命ニ服セサル者ハ二十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十三條　第十五條ノ禁止ノ命ニ服セス又ハ抑留ニ應セサル者ハ十圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十四條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年九月十二日）

●逆産處理法

大同元年六月二十日
教令第三十六號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ逆産處理法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム

逆産處理法

第一條　舊政權ニ依據シ又之ヲ背景トシテ其ノ權勢ヲ利用シ不當ノ私利ヲ圖リタル者若ハ國家ノ安寧秩序ヲ紊リ人民ニ對シ多大ノ損害ヲ蒙ラシメタル者其ノ他建國ニ違害アルノ行爲アリ其ノ罪顯著ナル者ノ財産ハ逆産トシテ本法ニ依リ之ヲ處分ス

第二條　逆産ハ總テ之ヲ沒收ス

第三條　逆産ノ査定並ニ處理ハ逆産處理委員會ノ決議ニ依リテ之ヲ行フ

前項ノ逆産處理委員會ニ關スル官制ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　逆産處理委員會ハ逆産決定前ニ公告ニ依リ當事者ニ陳述ノ機會ヲ與フルコトヲ得

前項ノ外必要ニ應シ當事者以外ノ關係人ノ陳述ヲ求ムルコトヲ妨ケス

第五條　逆産處理委員會ハ逆産タルノ疑充分ナル財産ニ就キテハ其ノ決定前ト雖之ヲ臨時領置シ若ハ其ノ處分ヲ禁止スルコトヲ得

第六條　逆産處理委員會ハ逆産ヲ沒收スル場合ニ於テ其ノ逆産所有者ノ犯罪ノ情狀又ハ其ノ家族ノ情況ニ依リ逆産ノ一部ノ沒收ヲ免除スルコトヲ得

第七條　會社商店財産ノ一部逆産ニ關スルトキハ逆産處理委員會ハ之ヲ沒收スルコトヲ得但シ他ノ出資者ノ權利ヲ害スルコトヲ得ス

第八條　逆産ノ査定ハ財産ノ實體的關係ニ就キテ之ヲ行ヒ必スシモ形式的關係ノミニ據ルコトヲ要セス

逆産處理委員會ハ前項査定ノ爲銀行錢莊其ノ他ノ會社商店ニ就キ逆産所有者ノ財産ヲ調査スルコトヲ得

第九條　逆産處理委員會ハ逆産ニ就キ他ノ機關ノ爲シタル違法又ハ不當ノ處分ニ對シ其ノ處置ヲ變更スルコトヲ得

第十條　逆産處理委員會逆産ノ査定ヲ爲シタルトキハ左記各號ノ事項ヲ公告スヘシ

一　逆産所有者若ハ其ノ管領者ノ氏名

二　逆産ノ所在地

三　逆産ノ種類及數目

四　査定ノ理由

第十一條　逆産處理委員會ハ査定ヲ爲シタル逆産ノ性質所在地其ノ他ノ關係ニ依リ地方ニ於テ保管又ハ處分スルヲ便トスルモノニ就テハ之カ處理ヲ當該關係機關ニ委任スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テモ必要ニ應シ報告書ノ提出ヲ求メ若ハ委員ヲ派遣シテ之ヲ立會ハシムルコトヲ得

第十二條　逆産處理委員會ノ査定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十三條　逆産沒收ノ虞アルコトヲ懸見シテ爲シタル財産權移轉ノ行爲ハ

本法施行前ナルト施行後ナルトヲ問ハス總テ無効トス但シ逆產讓受人ニ於テ其ノ情ヲ知ラサルトキハ該移轉行爲ニ要シタル費用ノ償還ヲ逆產處理委員會ニ請求スルコトヲ得

第十四條　沒收シタル逆產ハ總テ國庫ニ歸屬ス

第十五條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年六月二十二日）

●道路交通取締規則

大同二年六月二十七日
首都警察廳令第三號

玆ニ道路交通取締規則左ノ如ク定ム

道路交通取締規則

第一章　通則

第一條　本規則ニ於ケル用語ハ左ノ例ニ依ル

一　道路トハ公衆ノ通行ニ供スヘキ道路及橋及之ニ附屬スル廣場ヲ謂フ道路ニ附屬スル溝渠及並木其ノ他ノ地物ハ之ヲ道路ト看做ス

二　車馬トハ諸車並ニ牛馬ノ類ヲ謂フ但シ軌道ニ依ル諸車、小兒車ノ類ヲ除ク

三　緩行車トハ足踏自轉車、人力車、荷車、乘用馬車、索引自動車、手曳車ノ類ヲ謂ヒ疾行車トハ自動車、自動自轉車ノ類ヲ謂フ

第二章　信號及交通標識

第二條　道路ヲ通行スルモノハ警察官吏ノ信號、指示其ノ他交通ニ關スル標識ノ標示ニ從フヘシ

第三條　車馬ヲ操縱スル者ハ左ニ定ムル所ニ從ヒ信號ヲ爲スヘシ但シ方向指示器其ノ他適當ナル信號ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得

一　右折又ハ右寄セントスルトキハ右手ヲ右方水平ニ出ス

二　左折又ハ左寄セントスルトキハ左手ヲ左方水平ニ出ス

三　直進セントスルトキハ右手（又ハ左手）ヲ前方水平ニ出ス

四　後車ヲシテ追越サシメントスルトキハ右手ヲ右方（又ハ左手ヲ左方）水平ニ出シ前後ニ動カス

第三章　通行路、轉向、徐行、追越、連續進行

第四條　道路ヲ通行スルモノハ左側ニ依ルヘシ

第五條　車馬ハ進行中ノ他ノ車馬ノ直前又ハ直後ヲ橫斷スヘカラス

第六條　車馬ハ左ノ場合ハ音響器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ徐行スヘシ

一　道路ノ交叉點、曲角其ノ他屈曲ノ場所又ハ交通頻繁ナル場所並ニ雜踏ノ場所ヲ通過スルトキ

二　坂路、橋梁其ノ他危險ナル場所ヲ通過スルトキ

三　學校、病院、兒童遊園地又ハ遊步場附近ヲ通過スルトキ

四　公園內及其ノ附近ヲ通過スルトキ

五　步道ヲ橫斷スルトキ

六　泥濘ノ場所ヲ通過スルトキ

第七條　諸車連續シテ進行スルトキハ後續車ハ衝突其ノ他危險ヲ防止スルニ必要ナル距離ヲ保ツヘシ

第八條　人家連檐ノ場所ニ在リテハ車馬ハ其ノ幅員ノ二倍半以上ノ幅員ヲ有スル道路ニ非レハ通行スルコトヲ得ス但シ警察官吏ノ承認ヲ受ケタル場合ニハ此ノ限リニ在ラス前項ノ車馬ノ幅員ハ車馬自體及積荷ノ最突出

シタル部分ニツキ之ヲ測定ス

第九條　車馬前方ニ在ルモノヲ追越ス場合ハ止ムヲ得サル場合ヲ除クノ外前者ハ左方ニ避ケ後者ハ其ノ右方ヲ通過スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ後者ハ音響器ヲ鳴ラシ又ハ掛聲其ノ他ノ合圖ヲ爲シ前者ノ避讓又ハ合圖ヲ待チテ進行スヘシ

第十條　鐵道又ハ軌道ノ踏切ニ差掛リタルトキハ一時停車シ汽車軌道車ノ接近セサル事ヲ確メタル後通行スヘシ

第十一條　車馬ニ依リ人畜ヲ傷害シ又ハ物件ヲ損壞シタルトキハ直チニ停止シ被害者ノ救護其ノ他必要ナル應急ノ措置ヲ爲シ速ニ其ノ旨警察官吏ニ申告スヘシ

第四章　優先通行

第十二條　消防車、郵便車、傷病人運搬車及隊伍、神輿、葬列等接近シ來リタルトキハ避讓スヘシ

第十三條　車馬ノ進路交叉シ衝突ノ虞アルトキ他ノ車馬ヲ左ニ見タルトキハ徐行又ハ停止シ他ノ通過ヲ待ツヘシ

第五章　駐車

第十四條　車馬ハ濫ニ長時間ニ亘リ道路ニ駐ムル可ラス

第十五條　車馬ヲ道路ニ駐ムルトキハ其ノ左端部ニ於テ通行ノ方向ニ向ケ置クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ車馬ノ轉行奔逸ヲ防クニ必要ナル措置ヲ爲スヘシ但シ並木、道路元標ノ里程及道路標識等ニ之ヲ繫クヘカラス

第十六條　左ノ場所ニ車馬ヲ駐ムヘカラス

一　道路ノ交叉點、坂路曲角、隘路又ハ橋梁及夫等ニ接近セル場所

二　消防署ノ直前及其ノ兩端ヨリ三米以內ノ場所

三　火災報知器又ハ消火栓ヨリ三米以內ノ場所

四　其ノ他交通ノ妨害トナルヘキ場所

第六章　車馬

第十七條　荷車ノ荷臺ノ長サ及幅ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一　牛馬車ノ類　長サ三・四「米」幅二「米」

二　手曳車　長サ三・四「米」幅一・五「米」

第十八條　荷車ノ輪帶幅ハ左ノ制限ニ從フヘシ

一　牛馬車ノ類　一〇糎以上

四輪車ニ在リテハ其ノ前輪ヲ後輪ノ三分ノ二迄縮小スルコトヲ得

二　手曳車　荷臺ノ面積　一・三平方「米」以下ノモノハ三糎以上

荷臺ノ面積　一・三平方「米」ヲ超ユルモノハ六糎以上

無限軌道其ノ他ノ道路ヲ損傷セサル特別ノ裝置ヲ爲セル車ニ在リテハ其ノ裝置ノ幅ヲ以テ前項ノ輪帶幅トス

第十九條　荷車ノ積載量ハ車體ノ重量ヲ合セ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一　牛馬車ノ類　四輪車　二、五〇〇瓩

其ノ他　一、五〇〇瓩

二　手曳車　六〇〇瓩

第二十條　荷車ノ積荷ノ容積ハ左ノ制限ヲ超ユルコトヲ得ス

一　前後ノ出幅荷臺ヨリ各六〇糎

二　左右ノ出幅荷臺ヨリ各三〇糎

第二十一條　第十九條及第二十條ノ規定ニ依ル荷車ノ積載量、其ノ積荷ノ容積ノ制限ヲ超ユルモノニシテ分割スヘカラサル場合ハ出發地所轄警察

官署ノ許可ヲ受クヘシ

第二十二條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ車馬ヲ操縱スヘカラス

一　精神病者、聾者、啞者、盲者

二　酩酊セル者

三　不熟練ナル者

第二十三條　車馬ヲ操縱スルモノハ左記各號ノ事項ヲ遵守スヘシ

一　狂縱其ノ他惡癖アル牛馬ヲシテ諸車ヲ輓カシメサルコト

二　濫ニ車馬ヲ疾驅セシメサルコト

三　夜間通行スルトキハ相當光度ヲ有スル燈火（無罩ニ非ルモノ）ヲ前面ヨリ見易キ樣携帶若ハ設備スルコト

第七章　廣告紙ノ散布、行列其他交通上支障ヲ生スヘキ行爲ノ制限

第二十四條　道路ニ於テビラ又ハ廣告紙ノ類ヲ散布スヘカラス

第二十五條　隊伍ヲ組ミ又ハ行列ヲ爲シ道路ヲ通行セントスルトキハ左ノ事項ヲ遵守スヘシ

但シ婚禮、葬祭、學生生徒ノ隊伍其ノ他慣例アルモノハ此限リニ在ラス

一　隊伍ハ適當ニ區分シ各隊ニハ監督者ヲ附スコト

二　區分セル各隊間ニハ相當ノ間隔ヲ保ツコト

警察署長必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ依ルノ外隊伍行列ニ關シ遵守事項ヲ命スルコトヲ得

第二十六條　長大物件又ハ危險物ヲ運搬セントスルトキハ危險豫防及交通障害豫防上必要ナル措置ヲ爲スヘシ

第二十七條　警察官署ノ許可ヲ受クルニ非サレハ道路ニ於テ演藝、設教、演說、露店ノ開設其ノ他人寄セノ行爲ヲ爲スヘカラス

道路ノ附近ニ於テ爲ス行爲ト雖モ因ツテ交通上支障ヲ生スル虞アリト認ムル場合ハ警察官吏ハ其行爲ノ停止其ノ他必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二十八條　道路及其ノ附近ニ於テ危險又ハ交通妨害トナルヘキ行爲ヲナスヘカラス

第二十九條　交通頻繁ナル道路ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル行爲ヲ爲シ又爲サシムヘカラス

一　諸車運轉又ハ乘馬ノ練習ヲ爲スコト

二　遊戲ヲ爲スコト

三　保護者ナクシテ四歲未滿ノ幼兒ヲ徘徊セシムルコト

第八章　道路ノ保全

第三十條　道路ヲ汚損シタル者ハ直ニ之ヲ原狀ニ回復スヘシ

道路又ハ其ノ附近ニ於テ工作物ヲ毀損シ交通上支障ヲ生スル虞アル場合亦同シ

第三十一條　道路ヲ通行以外ニ使用セントスルトキハ所轄警察署ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第三十二條　道路使用ノ許可ヲ受ケタルモノハ其ノ占用中現場見易キ箇所ニ許可證又ハ其ノ寫ヲ掲出シ置クヘシ

第三十三條　道路ヲ掘鑿シ又ハ道路ニ於テ作業ヲナス場合ハ左記各號ノ規定ニ從フヘシ

一　作業區域ハ作業上直接必要ナル限度ニ止ムルコト

二　作業區域比較的長キニ亘ル場合ニ於テハ之ヲ數區ニ區分シ一區毎

ニ順次施行スルコト

三　掘鑿シタル土砂又ハ作業材料若ハ器具ノ類ハ特ニ道路ノ一側ニ片寄セ置クヘシ

四　道路ヲ橫斷シテ施行スル場合ハ之ヲ兩分シテ其ノ一半ヲ終リタル後ニ非サレハ他ノ一半ニ著手スヘカラス但シ已ムヲ得サル場合ニシテ架橋其ノ他適當ナル設備ヲ爲シタルトキハ此限ニ在ラス

五　交通杜絶ヲ來スノ虞アルトキ又ハ交通頻繁ナル場所ニ於テハ夜間作業ノ方法ニ依リ速ニ施行スヘシ

六　作業場ハ點燈其ノ他危險豫防上必要ナル裝置ヲナスヘシ

七　工事ノ終リタルトキハ直ニ交通上支障ナキ狀態ニ復スコト

第三十四條　道路ニ扁、日除、看板、廣告塔、煙突、陳列棚等突出セシメントスルトキハ警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ但シ路面ヨリ高サ三米以上道路境界線ヨリ七・〇米以內ノ位置ニ釣看板、標燈、標旗、煙突又ハ柱ヲ設ケサル取外シ自在ノ布製日除ヲ掲出スルハ此限ニ在ラス

前項ニ依リ設置セル扁、日除、看板、煙突、標燈等ニシテ衞生上危害ヲ生スルノ虞アルトキハ警察署長ハ其ノ許可ヲ取消シ又ハ撤去或ハ構造裝置ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第九章　雜則

第三十五條　警察官署ハ道路及道路ニ接近セル場所ニ於ケル工作物其ノ他ニ就キ交通保全ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第三十六條　警察官署ハ危險豫防上其ノ他公安上必要ト認ムルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第三十七條　道路管理者ハ道路ニ關スル工事ノ爲必要アルトキハ道路ノ通行ヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ管理者ハ豫メ所轄警察官署ニ其ノ旨通報スヘシ

第十章　罰則

第三十八條　第二條第五條乃至第三十四條若ハ第三十七條ノ規定ニ違反シ又ハ第三十五條第三十六條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ三十日以下ノ拘役又ハ三十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十九條　法人ニ在リテハ本規則ノ罰則ハ其ノ代表者ニ之ヲ適用ス

附則

第四十條　本規則ハ大同二年七月十日ヨリ之レヲ施行ス

第四十一條　新ニ本規則ノ適用ヲ受クルニ至リタルモノニ在リテハ大同二年十月十日迄ニ願出許可ヲ受クヘシ

本規則施行ノ際現ニ使用セル荷車ノ輪帶幅ハ當分ノ間本規則ニ依ラサルコトヲ得

●黑龍江省會屠宰場暫行章程

大同元年十二月一日
黑龍江省令第一號

茲ニ黑龍江省會屠宰場暫行章程ヲ制定シ之ヲ公布ス

黑龍江省會屠宰場暫行章程

第一條　現ニ屠宰事業ヲ管理スルニ便ナラシムル爲本城從來ノ屠宰場及清眞屠宰場ヲ公安局ノ直接經營ニ歸シ黑龍江省會屠宰場ト稱ス

第二條　豉ニ民族習慣ニ便ニスル爲東西兩場ニ分チ屠宰ス東場ハ豚ヲ屠殺シ西場ハ牛羊ヲ屠殺ス

第三條　東西兩場ノ地點及設備ハ均シク暫時舊狀ノ儘トシ漸次其ノ改良ヲ謀ル

第四條　本場ノ職員夫役ノ定員左ノ如シ

一　場長一人公安局ヨリ之ヲ委派シ場内一切事務ヲ管理ス

二　書記二人公安局ヨリ一人ヲ委派シ清眞董事ヨリ一人ヲ委派ス場長ノ命ヲ承ケ文書出納及費用徵收等ヲ行フ

三　獸醫一人公安局ヨリ委派シ場長ノ命ヲ承ケ獸疫檢查ヲ擔任ス

四　稽查二人公安局ヨリ一人ヲ委派シ清眞董事ヨリ一人ヲ委派ス場長ノ命ヲ承ケ屠宰稽查事項ヲ掌ル

五　巡查四人公安局ヨリ委派ス場長ノ命ヲ承ケ檢漏及差遣等ノ事項ヲ巡查ス

六　屠宰師一人回教人ヲ以テ之ニ充ツ專ラ屠宰事宜ニ任ス

七　夫役四人

前項人員ハ公安局ニテ情形ヲ酌量シテ之ヲ增減ス

第五條　場務ノ進行ニ資スル爲清眞學校及東場居商ヨリ各董事二名ヲ舉ク均シク給料ヲ支給セス場内事務ノ討論ニ備ヘ並ニ意見ヲ提出スルヲ得

第六條　本場ハ從前通地方警費ヲ代收スル外左ノ諸經費ヲ徵收ス

甲　清眞教育費

一　牛一頭ニ付　大洋一圓三角四分

二　羊一頭ニ付　大洋二角二分

乙　場費

一　牛一頭ニ付　大洋五角

二　羊一頭ニ付　大洋一圓四角

三　豚一頭ニ付　大洋一圓四角

第七條　青眞費票照ハ清眞學校ニテ印刷シ每月ノ收金ハ該校ニ交付シテ其經費ニ充ツ場費票照ハ公安局ニテ印刷シ收金ハ本場ノ經費ニ充ツ

第八條　本場每月ノ收支各費ハ月末ニ簿册ヲ製シ省會公安局ニ提出シ審查ニ備フヘシ

第九條　凡ソ牲畜ヲ場内ニ牽入ルル時ハ先ツ本場獸醫之ヲ檢查シ確ニ病症ナシト認メタル時檢查證ヲ交付シ各種費用ヲ納付セシメ始テ屠宰ヲ許可ス（其ノ證式ハ別ニ之ヲ定メ公安局ニテ印刷填用ス）

第十條　入場ノ牲畜ニシテ獸醫ノ檢查ヲ經テ病症アリト認メタル時ハ屠宰ヲ禁止ス若シ傳染病ナル時ハ之ヲ隔離ス

前項未タ屠殺セサル牲畜ニ付テハ各種費用ヲ徵收スルヲ得

第十一條　屠殺シタル牲畜ノ毛血及食用ニ供スヘキ臟腑等ノ部分ハ屠商ノ携出ヲ許スモ其ノ他ノ汚物ハ汚物池内ニ投棄スヘシ必要ト認ムル時ハ消毒ヲ施シ或ハ之ヲ埋沒スルヲ得

第十二條　凡ソ場外ニ在テ私宰スルモノヲ查覺シタル時ハ省會公安局ニ送リ從前ノ私宰處罰章程ヲ按シ左記ノ例ニ依テ處罰ス

一　牛一頭　十五圓以下一圓以上ノ罰金ニ處ス

二　豚羊一頭　十圓以下一圓以上ノ罰金ニ處ス

第十三條　屠商或ハ其ノ他飲食店以外ノモノ自家用ノ爲ニ場外私宰ヲナスモノハ前條ノ制限ヲ受ケス

第十四條　本章程不備ノ處アレハ從來ノ習慣ニ依テ處理スルヲ得其ノ重要ニ關スル事項ハ隨時省會公安局ニ申請シテ許可ヲ受クヘシ

第十五條　本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年二月二十八日）

●暫行銃砲取締規則

大同二年五月十八日
民政部令第六號

豉ニ暫行銃砲取締規則ヲ規定シ之ヲ公布ス

暫行砲銃取締規則

第一條　本令ニ於テ銃砲ト稱スルハ裝藥ニ依リ彈丸ヲ發射スル銃砲及空氣銃ニシテ厚サ七耗ニ仕上ケタル紅松板ニ對シ十米突ノ距離ニ於テ發射シタル彈丸五發ノ内一發以上貫通セシメ得ヘキ威力ヲ有スルモノヲ謂フ前項ノ銃砲ニ使用スル彈藥及銃砲ニ裝著スルコトヲ得ル銃劍並ニ銃砲ヲ組成スル主要部分（卽チ主要部分品）ハ銃砲ト看做ス

第二條　銃砲ハ官ノ委託ヲ受ケタル場合ノ外之ヲ製造又ハ販賣スルコトヲ得ス

第三條　銃砲ノ製造ニ付官ノ委託ヲ受ケタル者ハ事業開始前委託官廳ノ證明書ヲ添ヘ民政部總長ニ屆出ツヘシ

第四條　銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ハ民政部總長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ營ムコトヲ得ス

第五條　銃砲ハ官ノ委託又ハ民政部總長ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ輸入又ハ輸出スルコトヲ得ス但シ所持ノ許可ヲ有スル者之ヲ携帶シ一時旅行スル場合ハ此ノ限ニアラス

第六條　銃砲ヲ積載シタル船舶本邦内各港ニ入港シタルトキハ船長ハ遲滯ナク積載セル銃砲ノ種類數量及積載ノ事由ヲ所轄警察官署ニ屆出ツヘシ

第七條　銃砲ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ他人ニ讓渡シ又ハ他人ヨリ讓受クルコトヲ得ス

第八條　銃砲ハ警察官署ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ所持スルコトヲ得ス但シ法令ニ依リ携帶シ得ル者及製造ニ付官ノ委託ヲ受ケタル者又ハ修繕改造ノ許可ヲ受ケタル者運送業者並ニ其ノ從業者カ業務上取扱フ場合ハ此ノ限ニアラス

第九條　銃砲所持ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ左記事項ヲ具シタル書面ニ六個月以内ニ撮影セル無帽半身二寸寫眞二枚ヲ添ヘ保證人二名連署ノ上所轄警察官署ニ願出ツヘシ

一　本籍住所職業氏名生年月日

二　所持セムトスル銃砲ノ種類名稱番號數量

三　所持ノ目的

第十條　銃砲ノ輸入又ハ讓受ケヲ爲シタルトキハ五日以内ニ輸入又ハ讓受許可證ヲ添ヘ前條ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ單ニ彈藥ノミヲ輸入又ハ讓受ケタルトキハ許可證ヲ添ヘ其ノ旨屆出ツヘシ

第十一條　銃砲所持ノ許可ヲ受ケタル者ハ常ニ許可證ヲ携帶シ警察官吏ノ要求アルトキハ直ニ之ヲ提示スヘシ

第十二條　銃砲ハ之ヲ他人ニ貸與スルコトヲ得ス

第十三條　銃砲又ハ其ノ許可證ヲ亡失毀損若ハ盜難ニ罹リタルトキハ遲滯ナク其ノ旨最寄警察官署ニ屆出ツヘシ

銃砲所特許可證ノ記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ五日以内ニ其ノ旨所轄警察官署ニ屆出テ許可證ノ訂正又ハ書換ヲ受クヘシ

第十四條　銃砲ヲ廢棄セムトスルトキハ所特許可證ヲ添ヘ警察官署ニ屆出テ指示ヲ受クヘシ

第十五條　銃砲ヲ所持スル者死亡又ハ行方不明トナリタルトキハ戸主家族若ハ同居人ハ遲滯ナク其ノ旨所轄警察官署ニ届出ツヘシ

第十六條　本令ニ依リ民政部總長ニ提出スヘキ願届ハ所轄警察官署及省長ヲ經由スヘシ

第十七條　所轄省長ハ取締上必要アリト認ムルトキハ銃砲ノ輸出入ヲ制限シ製造販賣修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者又ハ銃砲ノ所持者ニ對シ取締上必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第十八條　當該官吏ハ何時ニテモ銃砲ヲ製造修繕販賣又ハ收藏スル場所若ハ其ノ疑アル場所ニ臨檢シ銃砲彈藥帳簿其ノ他ノ物件ヲ檢査スルコトヲ得

第十九條　警察官署長ハ安寧秩序ヲ維持スル爲必要アリト認ムルトキハ銃砲ノ所持又ハ讓受渡ノ許可ヲ取消シ又ハ銃砲ヲ領置スルコトヲ得

第二十條　本令又ハ本令ニ基ク命令ニ違反シ若ハ本令ニ基ク當該官吏ノ職務ノ執行ヲ拒ミ又ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シタル者ハ二個月未滿ノ拘役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第二十一條　本令ノ罰則ハ法人ニ在リテハ其ノ代表者ニ適用ス

第二十二條　本令ニ於テ省長トアルハ東省特別區（哈爾濱警察廳管内ヲ除ク）ニ在リテハ東省特別區長官トシ首都警察廳管内ニ在リテハ首都警察總監トシ哈爾濱警察廳管内ニ在リテハ哈爾濱警察廳長トス

第二十三條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年五月二十六日）

第二十四條　本令施行ノ際現ニ銃砲ノ修繕又ハ改造ノ業ヲ營ム者ハ本令施行後一個月以内ニ第四條ニ定ムル許可ヲ受クヘシ

第二十五條　本令施行ノ際現ニ銃砲ノ輸出入ノ許可ヲ受ケタル者ハ本令ニ依リ許可ヲ受ケタル者ト看做ス

第二十六條　本令施行ノ際現ニ銃砲ヲ所持スル者ハ本令施行ノ日ヨリ二個月以内ニ第九條又ハ第十四條ニ定ムル手續ヲ爲スヘシ

●暫行銃砲取締規則施行細則

大同二年五月十八日
民政部訓令第二百八十三號

奉天吉林黑龍江各省公署
東省特別區長官公署　ニ令ス
首都警察廳
哈爾濱警察廳

暫行銃砲取締規則ハ本部ニテ制定シ部令第六號ヲ以テ公布シタリ本部ハ更ニ該規則施行細則ヲ規定シ該規則ト共ニ本令ニ添附頒布スルニ付貴署、區、廳ハ遵照シ並ニ所屬ニ轉令シ遵照セシムヘシ此ニ令ス

暫行銃砲取締規則施行細則

第一條　銃砲ノ修繕又ハ改造ノ營業許可願ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ進達スヘシ

一　資產信用性質素行經歷等ニ於テ不都合ノ點ナキヤ
二　作業所ノ位置ハ適當ナリヤ
三　試驗射撃ノ場所及其ノ他ノ構造設備ハ保安上支障ナキヤ
四　附近住民ノ意嚮

第二條　銃砲ノ修繕又ハ改造ノ營業ノ許可ヲ受ケタル者ニ對シテハ直ニ左記事項ヲ命シ取締上遺憾ナキヲ期スヘシ

一　別記第一號樣式ノ帳簿ヲ備ヘ所定ノ事項ヲ記載セシムルコト
二　別記第二號樣式ニ依リ毎月五日迄ニ前月分ノ營業狀況ヲ報告セシムルコト
三　銃砲所持許可證ヲ有セサル者ノ銃砲ヲ修繕又ハ改造スヘカラサルコト
四　其ノ他取締上必要ト認ムル事項

第三條　警察官署長ハ毎月三回以上所屬官吏ヲ營業場所ニ臨檢セシメ前條ニ依リ命令シタル事項カ確實ニ實施セラレ居ルヤ其ノ他保安上危險ノ廢ナキヤ等嚴重監視セシムヘシ

第四條　銃砲ノ輸出入許可願ヲ受理シタルトキハ左記事項ヲ調査シ許否ニ關スル意見ヲ附シ進達スヘシ

一　願人ノ性質素行經歷上許可不適當ト認ムル點ナキヤ
二　輸出入ノ目的ニ於テ疑ハシキ點ナキヤ
三　輸入ニアリテハ匪賊其ノ他不逞ノ徒ニ脅迫サレ又ハ之等ト連絡ヲ有スル疑ナキヤ
四　匪賊等ニ奪取セラレサル樣充分監守シ得ル見込アリヤ

第五條　銃砲ノ輸出入許可ノ通知ヲ受ケタルトキハ直ニ管内關係警察機關ニ通報スヘシ

第六條　銃砲ノ讓受又ハ讓渡シ許可ノ出願アルトキ讓渡人ニ對シテハ正當ニ所持シ居ルモノナリヤ否ヤヲ讓受人ニ對シテハ性質素行經歷讓受ノ目的及其ノ必要ノ程度將來匪賊其ノ他不逞ノ徒ニ渡ルカ如キ慮ナキヤ等嚴重調査シ許可支障ナシト認ムルトキハ別記第三號樣式ノ許可證ヲ下付スヘシ

第七條　規則第九條ニ依リ銃砲所持ノ許可出願アリタルトキハ左記事項ヲ嚴重調査シ不都合ナシト認ムルニアラサレハ許可スヘカラス但シ規則第二十六條ノ規定ニ依リ期間内ニ手續ヲ爲シタル者ニ對シテハ特殊ノ事由ナキ限リ第三號以下ノ調査ヲ省略シ許可證ヲ下付スヘシ

一　本籍住所職業氏名生年月日ハ願書記載ノ通リ相違ナキヤ
二　添附ノ寫眞ハ本人ト相違ナキヤ
三　性質素行經歷上許可不適當ト認ムル點ナキヤ
四　未成年者前科者白痴瘋癲其ノ他神經系統疾患者ニアラサルヤ
五　所持ノ目的ニ於テ疑シキ點ナク且ツ必要已ムヲ得スト認ムヘキ事由アリヤ
六　匪賊其ノ他不逞ノ徒ニ渡ル虞ナキヤ
七　保證人ハ其ノ署管内ニ永住シ一定ノ生業ヲ有シ且ツ相當信用スルニ足ル者ナリヤ

第八條　前條第一項ノ規定ニ依リ許可ヲ與ヘタルトキハ別記第四號樣式ニ所定ノ事項ヲ記載シ甲號ハ其ノ署ニ臺帳トシテ保管シ乙號ハ願人ニ交付シ丙丁號ハ一月分ヲ取纏メ警務廳及管轄警備司令部ニ進達スヘシ

第九條　前條ノ許可證ハ小銃及拳銃ニ分別シ各別ニ一連番號ヲ附シ銃器一挺毎ニ許可證一枚ヲ下付スヘシ

前項許可證下付ノ場合ハ小銃ニ在リテハ別記第五號樣式ノ烙印ヲ爲スヘシ

第十條　本細則第七條第一項但書ノ規定ニ依リ下付シタル許可證ト普通ノ許可證ハ之ヲ區分シ將來ノ整理ニ備フヘシ

第十一條　規則第六條ニ依ル届出アリタルトキハ直ニ現品ヲ檢査シ輸入其ノ他制規ノ手續ヲ經ルニアラサレハ他所ニ運搬セシムヘカラス必要アリ

ト認ムルトキハ一室ニ格納シ封印又ハ監守者ヲ置キ若ハ一時警察官署ニ保管シ上級官廳ノ指示ヲ求ムル等機宜ノ處置ヲ講スヘシ

第十二條　規則第十三條第一項ニ依ル屆出アリタルトキハ實否ヲ調査シ盜難亡失セルトキハ直ニ警務廳長ニ報告スルト共ニ全省警察機關及所轄警備司令部ニ通報スヘシ

前項ノ報告ヲ受ケタル警務廳長必要アリト認ムルトキハ各省警務廳ニ手配スヘシ

第十三條　規則第十三條第二項ニ依リ許可證ノ訂正又ハ書換ヲ爲シタルトキハ臺帳ヲ整理スルト共ニ警務廳長及警備司令部ニ其ノ旨報告スヘシ

第十四條　銃砲ヲ廢棄セムトスル者アルトキハ警察官立會ノ上再ヒ使用シ得サル樣主要部分ヲ破壞シ彈藥ニシテ藥莢ニ裝塡シタルモノハ安全ナル場所ニ於テ發射シ火藥ニシテ分離セルモノハ安全ナル場所ニ於テ燒却スヘシ

第十五條　前條ノ處置ヲ爲シタルトキハ許可證及臺帳ヲ整理シ其ノ旨警務廳及所轄警備司令部ニ報告スヘシ

第十六條　銃砲ヲ所持スル者死亡又ハ行方不明トナリタルトキハ相續人又ハ遺贈ヲ受ケタル者所持ヲ希望セス若ハ所持セシムルコト不適當ト認ムル事由アルトキハ之ヲ廢棄セシムルカ警察官署ニ領置スヘシ

第十七條　警察官署長ニ於テ規則第十九條ニ基ク處分ヲ爲シタルトキハ其ノ都度警務廳長及所轄警備司令部ニ報告スヘシ

第十八條　警察官署長ハ別記第六號樣式ニ依リ毎月十日迄ニ前月中ニ於ケル違反者數ヲ警務廳長及所轄警備司令部ニ報告スヘシ

第十九條　規則第二十六條ニ定ムル期間ヲ經過シ尙手續ヲ爲ササル銃砲ヲ發見シタルトキハ之ヲ領置スヘシ

第二十條　規則第十九條本細則第十六條及前條ニ依リ銃砲ヲ領置シタルトキハ別記第六號樣式ノ臺帳ニ所定ノ事項ヲ記載シ領置銃砲ニ第七號樣式ノ紙札ヲ附シ保管スヘシ

第二十一條　領置銃砲ヲ還付シタルトキハ領收書ヲ徵シ之ヲ編綴保存スヘシ

第二十二條　警察官署長ハ毎月一回以上銃砲所持者ニ就キ臺帳許可證及現品ヲ照合シ異動ノ有無保管ノ狀況ヲ監査スルト共ニ不正ニ使用スル疑ナキヤヲ視察スヘシ

第二十三條　警察官署ニ於テ規則第十六條ニ依ル書類ヲ受理シタルトキハ速ニ必要ナル事項ヲ調査シ警務廳ニ進達スヘシ

第二十四條　本細則ニ於テ警務廳長トアルハ首都警察廳ニ在リテハ警察總監哈爾濱警察廳ニ在リテハ警察廳長東省特別區ニ在リテハ警察管理處長トス

（各樣式略）

●暫行銃砲取締規則

大同元年十二月二十六日
首都警察廳令第一號

改正　大同二年二月　首都警察廳令第一號

玆ニ暫行銃砲取締規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

暫行銃砲取締規則

第一條　銃砲ヲ所持スル者ハ左ノ事項ヲ具シタル書面ニ最近六ケ月以內ニ撮影セル無帽半身名刺型寫眞二枚ヲ添ヘ大同二年三月末日迄ニ所轄警察署長ニ屆出銃砲所持許可證ノ下付ヲ受クヘシ

一　本籍住所職業氏名生年月日
二　銃砲ノ種類名稱番號數量
三　所持ノ事由

警察署長ハ管轄地域ノ狀況ニ依リ前項寫眞ノ提出ヲ延期セシムルコトヲ得

第二條　前條ニ定ムル期間內ニ正當ノ事由無クシテ屆出ヲ怠リタル者ハ二ケ月未滿ノ拘役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第三條　本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十二月二十八日）

●雜業取締規則

大同二年四月十五日
首都警察廳令第二號

玆ニ雜業取締規則並ニ同規則執行細則ヲ制定シ之ヲ公布ス

雜業取締規則

第一條　本規則ニ於テ雜業ト稱スルハ屋外ニ於テ左ノ業ヲ爲スヲ謂フ

一　紙屑買綿屑買襤褸買空樽買空瓶買空罐買毀レ硝子買屑織類買其ノ他特殊物品ノ行商
二　靴直洋傘直履物直錠前直帽子洗濯及刃物研
三　煙管羅宇替
四　紙屑拾

第二條　雜業ヲ爲サムトスル者ハ本籍住所氏名生年月日雜業種目ヲ具シ最近六ケ月以內ニ撮影セル手札形寫眞二枚ヲ添ヘ所轄警察署長ニ願出許可ヲ受クヘシ

第三條　雜業者左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ五日以內ニ所轄警察署ニ屆出ツヘシ但シ第四號ノ場合ハ戶主又ハ家族ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ

一　廢業シタルトキ
二　他ノ警察署管轄內ニ轉居シタルトキ
三　許可證記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ
四　死亡又ハ所在不明トナリタルトキ

第四條　許可證ヲ紛失毀損シタルトキハ五日以內ニ所轄警察署長ニ屆出許可證ノ再下附ヲ受クヘシ

第五條　雜業ヲ爲ス者ハ每年一回（五月）所轄警察署ニ出頭シ許可證及容器ノ檢查ヲ受クヘシ

但シ正當ノ事由ナクシテ檢查ヲ受ケサルモノハ廢業シタルモノト看做ス

第六條　雜業者ハ從業中必ス許可證ヲ携帶シ他人ニ貸與スヘカラス

第七條　雜業ハ日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　雜業ヲ爲ス者ハ居住者又ハ管理者ノ承諾ヲ受クルニ非サレハ其ノ邸宅建築物內ニ出入スヘカラス

第九條　本規則ニ違反シ又ハ公安風俗ヲ害スル虞アリ若ハ就業上不適當ト認ムルトキハ許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十條　本規則ニ違反シタル者ハ一圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年四月二十一日）

本規則施行ノ際現ニ雜業ニ從事スル者ハ十日以內ニ所轄警察署ニ願出許可ヲ受クヘシ

雜業取締規則執行細則

第一條　雜業取締規則（以下單ニ規則ト謂フ）第二條ニ依ル出願者アルトキハ第一號樣式ノ臺帳ニ其ノ業名本籍住所氏名生年月日略歷等記入指紋ヲ採取シ第二號樣式ノ許可證ヲ交付スヘシ

第二條　規則第三條ノ屆出アリタル場合ハ臺帳ヲ加除訂正スヘシ

第三條　規則第四條ニ依リ許可證ノ再下付ヲ請フ者アルトキハ其ノ事實ヲ調査シ正當ト認メタルトキハ第一條ニ準シ取扱フヘシ但シ許可證面ノ異動ニ係ルモノハ舊許可證ノ消印ヲ爲スヘシ

前項ニ依リ消印ヲ爲シタルトキハ臺帳ヲ訂正シ其事由及年月日ヲ記入スヘシ

第四條　規則第六條ノ檢査ハ適宜日時ヲ豫告シ許可證ト共ニ容器ヲ檢査シ適當ト認メタルトキハ第二號樣式中記載事項欄ニ記入スヘシ

第五條　容器ハ常ニ清潔ニ保持シ看易キ箇所ニ指令番號ヲ附記スヘシ但シ容器ニシテ破損シ若ハ不潔ノモノハ速ニ改造若ハ修理セシメ再檢査ヲ實施スヘシ

（各樣式略）

●私帖其ノ他紙幣類似證券取締暫行辦法

大同元年七月五日
敎令第五十三號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ私帖其ノ他紙幣類似證券取締暫行辦法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム

私帖其ノ他紙幣類似證券取締暫行辦法

第一條　私帖其ノ他紙幣類似證券ハ本辦法ニ依ルノ外一切其ノ發行及流通ヲ禁止ス

第二條　從來流通スル私帖其ノ他紙幣類似證券ニシテ其ノ發行ニ付官公署ノ許可ヲ受ケタルモノハ本辦法施行後三月以內ニ政府ノ認可ヲ受ケタル場合ニ限リ現ニ流通スル額ヲ限度トシテ本辦法施行後一年以內ニ限リ從前ノ通リ通用スルコトヲ得

第三條　前條ノ規定ニ依リ政府ノ認可ヲ受ケントスル者ハ認可申請書ニ發行機關代表者署名シ左ノ事項ニ關スル詳細ナル說明書並ニ發行シタル私帖其ノ他紙幣類似證券ノ見本ヲ添附シテ財政部總長ニ提出スヘシ

一　發行シタル私帖其ノ他紙幣類似證券ノ名稱
二　發行許可ノ年月日及發行ノ年月日
三　發行ノ目的
四　發行機關及其ノ代表者ノ氏名年齡住所及職業
五　發行額既回收額及現在流通總額

六　發行シタル種類及各種類ノ金額
七　印刷ヲ爲シタル場所及印刷數量
八　流通區域
九　回收又ハ償還期限
十　未發行額
十一　引換準備及保證準備ノ內容及金額但シ金錢以外ノ物件ヲ以テ準備ト爲ス場合ニ於テハ其ノ評價額
十二　此ノ後ノ回收又ハ償還方法並ニ要スル時日

第四條　未發行又ハ爾後回收若ハ償還シタル私帖其ノ他紙幣類似證券ハ直ニ縣財務局官吏立合ノ上燒棄シ其ノ內容及其ノ額ニ付縣公署ノ證明アル報告書ヲ財政部ニ提出スヘシ

第五條　政府ハ取締上必要アリト認ムルトキハ何時ニテモ第二條ノ認可ヲ取消シ其ノ他必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第六條　本辦法第一條ニ違反シ私帖其ノ他紙幣類似證券ノ發行ヲ爲シ又ハ之カ受授ヲ爲シタルモノハ一萬圓以下ノ罰金ニ處シ其ノ私帖其ノ他紙幣類似證券ヲ沒收ス

第七條　本辦法第三條ニ揭クル認可申請書ニ添附スヘキ說明書ノ內容ニ付虛僞ノ記載ヲ爲シ又ハ政府ノ命令ニ違反シタルモノハ一萬圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

本辦法ハ大同元年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●外國人入國取締規則

大同二年六月十七日
民政部令第七號

玆ニ外國人入國取締規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

外國人入國取締規則

第一條　本邦ニ入國セントスル外國人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ別ニ指定シタル官署ニ於テ其ノ入國ヲ禁止スルコトヲ得但シ從前ノ條約又ハ慣行ニ依リ入國ニ付旅券査證ヲ要セサル者ニシテ旅券又ハ國籍證明書ヲ所持セサル場合ハ此ノ限リニ在ラス

一　旅券又ハ國籍證明書ヲ所持セサル者
二　本邦ノ利益ヲ害シ公安ヲ亂シ又ハ風紀ヲ紊ス虞アル者
三　公衆衞生上危險ナル疾患アル者
四　公私ノ救助ヲ要スヘキモノ

前項第一號ノ旅券及國籍證明書ハ本人ノ寫眞ヲ貼付シ其ノ旅券ハ我カ當該官署ノ査證ヲ受ケタルモノナルコトヲ要ス

第二條　前條第一項ノ官署ハ本邦ニ入國セントスル外國人ニ對シ百圓以上ノ提示ヲ求ムルコトヲ得

第三條　本邦ニ入國セントスル外國人ハ警察官吏ノ請求ニ應シ旅券又ハ國籍證明書ヲ提示シ及第一條第一項ノ各號其ノ他必要ナル事項ノ調査ニ關スル推問ニ對シ眞實ナル陳述ヲ爲スヘシ

第四條　前條ニ依ル警察官吏ノ請求ニ應セス又ハ其ノ推問ニ對シ眞實ノ陳述ヲ爲ササル者ハ入國ヲ禁止シ又ハ國外退去ヲ命スルコトヲ得

第五條　本規則施行期日ニ於テ本邦入國ノ途中ニ在ル外國人ニシテ正當ノ事由アリト認ムルトキハ本規則第一條第一項第一號ノ規定ヲ適用セサルコトヲ得

第六條　本規則ハ大同二年六月十七日ヨリ之ヲ施行ス

●民政部令第七號外國人入國取締規則第一條ノ規定ニ依ル官署指定

大同二年六月十七日
民政部令第八號

玆ニ民政部令第七號外國人入國取締規則第一條ノ規定ニ依リ官署ヲ指定スルコト左ノ如シ此ニ令ス

一　各省長（奉天／吉林／黑龍江／熱河／東省特別區長官）

一　首都警察總監　哈爾濱警察廳長

一　各國境警察隊長（安東／山海關／滿洲里／綏芬河／瓦房店／營口海邊警察隊長）

●虎列拉防疫暫行令

大同元年八月十二日
民政部佈告

虎列拉防疫暫行令

傳染病豫防法令公布サル、迄ハ本令ヲ遵守シ虎列拉豫防ニ努ムヘキモノトス

第一條　醫師虎列拉患者又ハ疑似症患者ヲ診斷シ若クハ其ノ屍體ヲ檢案シタル時ハ其ノ家人ニ防疫上必要ナル事項ヲ指示シ且直ニ患者若クハ屍體所在地ノ警察官署ニ屆出ツヘシ其ノ轉歸ノ場合又同シ

前項ノ屆出ヲ受ケタル警察官署ハ速カニ之ヲ上級官廳並ニ關係官廳ニ通報スヘシ

第二條　虎列拉患者並ニ屍體ハ當該吏員ノ許可ナクシテ他所ニ移轉スルヲ得ス

第三條　兵營官廳學校病院工場汽車汽船等多數人員ノ集合スル個所ニ於テ虎列拉患者及其疑似症患者或ハ死亡者ヲ發見シタル時ハ管理責任者ハ直ニ之ヲ管轄警察署ニ屆出ツヘシ

第四條　第一條第三條ノ屆出ヲ受ケタル警察官署ハ直ニ防疫員ヲ派遣シ患者ハ之ヲ隔離所ニ移シ家具其ノ他消毒ノ必要アル物件ニ對シテハ消毒ヲ施行シ患者並ニ傳染ノ疑アル近隣家族ノ檢便ヲ行ヒ患者及保菌者ノ發見ニ努ムヘシ

第五條　傳染病豫防上必要ト認ムル時ハ當該吏員ハ五日間ヲ限度トシテ交通ヲ遮斷スル事ヲ得但シ續發患者アル時ハ尙其ノ期間ヲ延長スル事ヲ得

第六條　當該官署ハ其ノ管轄內ニ於テ虎列拉或ハ其ノ疑似患者發生ノ屆出ヲ受ケタル時ハ必要ナル豫防法ヲ所轄區域內住民ニ告示シ直ニ事態ヲ民政部衞生司長ニ報告シ追テ患者ノ症狀診斷（眞性又ハ疑似）處置其ノ傳染系統防疫處置ニ關シテ可及的速ニ之ヲ報告スヘシ

但シ流行激甚ノ際ハ每日ノ發生患者數現在ノ患者數及初發以來ノ累計及死亡數ヲ每週土曜日現在トシテ報告スヘシ

第七條　患者ヲ發見セル時消毒ヲ要スヘキ物件及消毒方法ハ左ノ如シ

一　吐瀉物及其ノ處置ニ使用シタル器物

生石灰ヲ以テ製シタル一〇%石灰乳ヲ吐瀉物ノ容量ノ四分ノ一以上ヲ加ヘ充分攪拌シタル後一定ノ個所ニ集メ置クヘシ生石灰ヲ得難キ時ハ消石灰粉ヲ容量ノ三十分ノ一ヲ加ヘ攪拌スヘシ

器物ハ石炭酸三十三倍稀釋液或ハ「クレゾール」十六倍稀釋液（クレゾール石鹼液六水九十四）ニテ消毒スヘシ

二　患者看護人ノ用ニ供シタル衣類寢具患者運搬用器具ハ蒸氣消毒「フオルマリン」瓦斯（氣積一立方米ニ付フオルマリン十四瓦水四十瓦ノ割ニ噴霧ノコト）消毒石炭酸三十三倍稀釋液噴霧消毒ヲ施行スヘシ

右物件ニシテ甚シク汚染シ消毒後再ヒ使用ニ堪ヘサルモノハ燒却スヘシ

三　患者看護人ノ飮食器具ハ總テ煮沸消毒スヘシ

四　患家及汚染ノ虞アル近隣ノ井戶ハ左ノ方法ニ依リテ漂白粉ノ消毒ヲナスヘシ漂白粉一定量ヲ取リ之ニ少量ノ水ヲ加ヘ搗磨シ更ニ加水シテ三%ノ割合トナス暫時靜置スル時ハ石灰ハ沈澱スルヲ以テ傾瀉ニヨリテ其ノ溶液ヲ取ル該溶液ハ「ピール」壜ノ如キ着色壜ニ入レ直射日光ヲ避ケテ室內ノ冷所ニ保存スル時ハ其ノ效力ノ失墜ヲ防キ得ヘシ該溶液ヲ更ニ數十倍ノ水ニテ稀釋シ左ノ割合ニテ井戶中ニ注入シ釣瓶ニテ良ク振盪攪拌スヘシ（單位ハC.C.）

水深 ／ 井戶ノ口徑	五尺	六尺	七尺	八尺	九尺	十尺	十二尺	十四尺
三尺	二〇〇	二三〇	二七〇	三〇〇	三三〇	四〇〇	四六〇	五〇〇
四尺	三五〇	四一〇	四七〇	五二〇	五八〇	七〇〇	八〇〇	九〇〇

右混入攪拌後三十分ニシテ虎列拉菌ハ完全ニ滅殺サルルモノナリ混入ノ當初多少鹽素ノ臭氣ヲ有スルモ飮用シテ人體ニ害ヲ及ホサス

五　汚水溝汚水溜ハ石灰又ハ石灰水ヲ散布スヘシ

第八條　虎列拉流行猖獗ノ兆アル時ハ當該官署ハ醫師及衞生官吏ヲ含ム防疫委員會ヲ組織シ本規定以外ノ防疫上必要ナル事項ヲ協議シ決定セル事項ハ速ニ本部ニ報告シ本部ノ指令ヲ俟チテ施行スヘシ尤モ防疫上急速ヲ要スルモノハ事後報告スルモ可ナリ

第九條　當該官署ハ豫メ虎列拉流行時ニ備フルタメ必要ナル隔離所ノ設置計畫ヲ建テ流行時ニ於テハ直ニ之ヲ實施スヘシ

虎列拉隔離所ハ可及的專用トシ住居區域ニ近カラス交通遮斷ニ便ナル所ニ設クルヲ可トスルモ場合ニ因リテハ一般傳染病院ノ內適當ナルモノヲ指定シテ之ニ充當スルモ可ナリコノ場合ニ於テハ嚴重ニ他ノ病舍ト分離シ交通遮斷ヲ行フ隔離所內ニハ醫師藥劑師看護人專用使役以外ノ出入ヲ

禁シ出入ヲ許サレタル者ト雖モ出所ニ際シテハ何レモ消毒ヲ嚴重ニナスヘシ

第十條　患者ノ附添人又ハ面會人ノ出入ハ已ムヲ得サル場合之ヲ許可スル事アルモ物品飲食ノ搬出入並ニ隔離所内ニ於テ飲食スル事ヲ嚴禁シ且ツ出所ニ際シテハ嚴重ニ消毒スヘシ

第十一條　隔離所收容患者ハ完全ニ治癒シ且ツ保菌者ナラスト認メラル迄ハ退院ヲ許サス退院ニ際シテハ防疫員之ニソノ證明書ヲ交附スヘシ

第十二條　虎列拉屍體ハ火葬ニ付スヘキモノナルモ習慣上已ムヲ得サル時ハ當該吏員ノ許可ヲ得テ土葬ニ付スル事ヲ得コノ場合ハ地下二米以上ノ深度ニ埋葬シ當該官署ノ許可ナクシテ轉葬スルヲ禁ス若モ水中又ハ地上ニ放棄スルカ如キ事ハ嚴禁ス

第十三條　患者又ハ屍體運搬ニハ黃色旗ヲ立テタル特定運搬車ヲ用フヘシ

第十四條　患者ノ吐瀉物及汚染サレタル物品ハ之ヲ隨所ニ放棄スヘカラス

第十五條　虎列拉流行地域ヨリ魚貝果物野菜類ヲ他ニ搬出スルヲ禁ス

第十六條　虎列拉流行時ニハ特ニ飲食物ノ取締ヲ嚴重ニシ腐敗ニ傾ケル魚貝果物野菜類ノ販賣ヲ禁ス

第十七條　飲食物取扱業者交通業者接客業者其ノ他一般希望者ニ對シテハ豫防注射ヲ勵行スヘシ

第十八條　虎列拉流行期ニハ當該官署ハ一般ノ集合演劇宴會等ヲ禁スル事アルヘシ

第十九條　當該官署ハ一般清潔掃除ヲ勵行スルト共ニ虎列拉流行ニ對スル衞生思想普及ニ努ムヘシ

第二十條　本訓令ニ違反スル者アル時ハ六ケ月以下ノ徒刑又ハ一日以上二ケ月以下ノ拘役又ハ一圓以上百圓以下ノ罰金ヲ課スルコトアルヘシ

第二十一條　本暫定規則ニシテ不備ノ點アラハ更ニ追加スヘシ

第二十二條　本暫定規則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年八月二十日）

●出版法

大同元年十月十三日
敎令第百三號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ出版法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

出版法

第一章　通則

第一條　本法ニ於テ出版物ト稱スルハ發賣頒布ノ目的ヲ以テ機械的又ハ化學的方法ニ依リ複製セラレタル文書圖畫ヲ謂フ

第二條　出版物ヲ分チテ左ノ三種トス

一　新聞紙　一定ノ題號ヲ用ヒ七日以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メ又ハ定メス繼續シテ發行スルモノ

二　雜誌　一定ノ題號ヲ用ヒ四月以内ノ期間ニ於テ時期ヲ定メ又ハ定メス繼續發行スルモノニシテ前號ニ該當セサルモノ

三　普通出版物　前二號ニ該當セサルモノ新聞紙又ハ雜誌ト同一題號ヲ用ヒ臨時發行スル出版物ハ其ノ新聞紙又ハ雜誌ト看做ス

同一題號ノ新聞紙又ハ雜誌ヲ他ノ地方ニ於テ發行スルトキハ各別種ノ新聞紙又ハ雜誌ト看做ス

第三條　出版關係人ヲ分チテ左ノ四者トス

一　發行人　出版物ノ發賣頒布ヲ管理スル者

二　著作人　文書圖畫ヲ著述シ又ハ作製スル者

三　編輯人　新聞紙又ハ雜誌ノ編輯ヲ管理スル者

四　印刷人　出版物ノ印刷ヲ管理スル者

出版關係人ハ相兼ヌルコトヲ得ス

他人ノ演述ヲ筆記シテ出版物ニ登載シ或ハ人ヲシテ之ヲ登載セシメタルトキハ其ノ筆記人ヲ著作人ト看做ス演述人カ其ノ登載ニ關シ特ニ承諾ヲ與ヘタルトキハ演述人亦著作人ノ責任ヲ負フ

著作物ノ編纂ニ關シテハ其ノ編纂人ヲ著作人ト看做ス原著作人カ其ノ編纂ニ關シ特ニ承諾ヲ與ヘタルトキハ原著作人亦著作人ノ責任ヲ負フヘシ

著作者ノ繙譯ニ關シテハ其ノ繙譯人ヲ著作人ト看做ス

學校會社協會其ノ他ノ團體ヲ出版關係人トスル出版物ニ付テハ各其ノ代表者ヲ定ムルコトヲ要ス

第四條　出版物ニハ左ノ事項ヲ揭載スルコトヲ得ス

一　國家組織ノ大綱ヲ不法ニ變革シ又ハ國家存立ノ基礎ヲ危殆ナラシメムトスル事項

二　外交又ハ軍事ノ機密ニ關スル事項

三　國交上重大ナル影響ヲ及ホス虞アル事項

四　犯罪ヲ煽動シ若ハ曲庇シ又ハ刑事被告人又ハ犯人ヲ賞恤若ハ陷害スル事項

五　公開セサル訴訟ノ辯論

六　民心ヲ惑亂シ又ハ財界ヲ攪亂スル虞アル事項

七　檢察官若ハ警察ノ職務ヲ行フ者ノ差止メタル事項

八　其ノ他安寧秩序ヲ亂リ又ハ風俗ヲ害スル事項

第五條　出版物ニハ官公署若ハ法令ヲ以テ組織シタル議會ニ於テ公ニセサル文書又ハ公開セサル會議ノ議事ハ當該官公署ノ許可ヲ受クルニアラサレハ之ヲ揭載スルコトヲ得ス

第六條　民政部總長軍政部總長又ハ外交部總長ハ外交軍事若ハ財政上障害アリ又ハ治安維持上必要アリト認メタル事項ニ付特ニ事項ヲ指示シテ新聞紙又ハ雜誌ニ揭載スルコトヲ禁止シ又ハ制限スルコトヲ得

第七條　官署ニ於テ發行スル出版物ニ對シテハ本法ヲ適用セス但シ發行ト同時ニ製本二部ヲ民政部總長ニ送付スヘシ

第八條　本法ニ於テ編輯人責任ニ關スル規定ハ左ノ者ニ之ヲ準用ス

一　假編輯人

二　編輯人ノ外實際ニ編輯スル者

三　揭載事項ニ署名セル者

四　正誤或ハ辯駁ニ關シ揭載ヲ請求セル者

本法ニ於テ發行人ノ責任ニ關スル規定ハ假發行人ニ之ヲ準用ス

第二章　新聞紙及雜誌

第九條　新聞紙又ハ雜誌ヲ發行セムトスル者ハ左ノ事項ヲ具シ發行人及編輯人連署ノ上履歷書ヲ添ヘ民政部總長ノ許可ヲ申請スヘシ第一號乃至第五號ノ事項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　題號

二　揭載事項ノ種類

三　時事ニ關スル事項ノ揭載ノ有無

四　發行ノ時間

五　發行所及印刷所ノ名稱及所在地

六　發行人編輯人及印刷人ノ原籍住所氏名及生年月日

時事ニ關スル事項ヲ揭載スル新聞紙又ハ雜誌ノ印刷所ハ之ヲ本法施行ノ

地域外ニ設クルコトヲ得ス

天災其ノ他已ムヲ得サル事由ニ因リ發行所或ハ印刷所ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ民政部總長ニ屆出ツヘシ

第十條　新聞紙又ハ雜誌ノ發行者ヲ變更セムトスルトキハ新ニ發行者タラムトスル者其ノ履歷書ヲ添ヘ發行者ト連署シテ民政部總長ノ許可ヲ申請スヘシ

新聞紙又ハ雜誌ノ發行人死亡シタルトキハ新ニ發行人タラムトスル者ハ履歷書ヲ添ヘ其ノ事由ノ發生シタル後二十日以內ニ民政部總長ノ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ許可ヲ受クル迄ハ假發行人ヲ定メ事由ノ發生後二月ヲ限リ其ノ新聞紙又ハ雜誌ヲ繼續シテ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ假發行人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ民政部總長ニ屆出ツヘシ

第十一條　新聞紙又ハ雜誌ノ編輯者ヲ變更セムトスルトキハ發行者ハ新ニ編輯者タラムトスル者ノ履歷書ヲ添ヘ民政部總長ノ許可ヲ申請シ新聞紙又ハ雜誌ノ編輯人死亡シタルトキハ發行人ハ新ニ編輯人ヲ定メ其ノ履歷書ヲ添ヘ事由ノ發生後十日以內ニ民政部總長ノ許可ヲ申請スヘシ

前項ノ許可ヲ受クル迄ハ假編輯人ヲ定メ事由發生後二月ヲ限リ其ノ新聞紙又ハ雜誌ヲ繼續シテ發行スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ發行人ハ遲滯ナク其ノ旨ヲ民政部總長ニ屆出ツヘシ

第十二條　新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ許可セラレタル者許可ノ日ヲ過クルコト二月ニ及フモ尙發行セサルトキハ其ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十三條　新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ廢止シタルトキハ原發行人ハ遲滯ナク民政部總長ニ屆出ツヘシ

新聞紙カ所定ノ刊期ヲ過キルコト二月ニ及ヒ或ハ雜誌カ所定ノ刊期ヲ過キルコト四月ニ及フモ尙發行セサルトキハ發行ノ廢止ト看做ス

發行ヲ廢止シタルトキハ許可ハ其ノ効力ヲ失フ

第十四條　新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ休止シ又ハ延期セムトスルトキハ發行人ハ其ノ期間ヲ定メテ民政部總長ニ屆出ツヘシ

第十五條　新聞紙又ハ雜誌ノ發行人ハ其ノ事務ニ從事スル者ノ原籍住所氏名生年月日及擔當事務ヲ從事ノ時ヨリ十日以內ニ民政部總長ニ屆出ツヘシ其ノ屆出事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第十六條　新聞紙又ハ雜誌ニハ發行人編輯人及印刷人ノ氏名發行所及印刷所ノ名稱所在地並發行年月日ヲ記載スヘシ

第十七條　新聞紙又ハ雜誌ノ發行人ハ新聞紙ニ在リテハ發行每ニ其ノ發賣又ハ頒布前雜誌ニ在リテハ發行前三日迄ニ民政部警務司ニ二部所轄警察官署及地方檢察廳ニ各一部ヲ納ムヘシ

第十八條　新聞紙又ハ雜誌ニ掲載シタル事項ノ錯誤ニ付其ノ事項ニ關スル本人又ハ直接關係人ヨリ正誤書或ハ辯駁書ノ掲載ヲ請求シタルトキハ日刊新聞ニ在リテハ其ノ請求ヲ受ケタル後三日以內ニ正誤ヲ爲シ又ハ正誤書辯駁書ノ全文ヲ掲載スヘク其ノ他ノ新聞紙又ハ雜誌ニ在リテハ請求ヲ受ケタル後次回ノ發行ニ於テ之ヲ爲スヘシ但シ其ノ正誤或ハ辯駁ノ內容カ顯ニ本法或ハ其ノ他法令ニ違ヒ或ハ請求人ノ姓名住所ヲ明記セス或ハ掲載ノ日ヨリ六月ヲ逾ヘテ始メテ請求ヲ行フトキハ此ノ限ニ在ラス

正誤辯駁ノ掲載ノ地位及文字ノ大小ハ原文ト相當スルコトヲ要ス

正誤又ハ正誤書或ハ辯駁書ノ字數カ原文ノ二倍ヲ超過スルトキハ其ノ超過字數ニ付請求人ニ對シ新聞紙又ハ雜誌ニ定ムル普通廣告料ト同一ノ代價ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　公報或ハ他ノ新聞紙又ハ雜誌ヨリ抄錄セシ事項ニシテ公報或ハ新聞紙又ハ雜誌ニ於テ正誤シ又ハ正誤書又ハ辯駁書ヲ掲載シタルトキハ本人又ハ直接關係人ノ請求ナシト雖其ノ公報新聞紙又ハ雜誌ヲ得タル後前條ノ例ニ依リ正誤シ又ハ正誤書或ハ辯駁書ヲ掲載スヘシ但シ料金ヲ請求スルコトヲ得ス

第二十條　外國又ハ本法施行ノ地域外ニ於テ發行スル新聞紙又ハ雜誌ヲ本法施行區域內ニ於テ發賣頒布ノ目的ヲ以テ輸入若ハ移入セムトスルトキハ其ノ取次人ハ左ノ事項ヲ具シ民政部總長ニ屆出ツヘシ但シ取次人ナキ場合ニ於テハ發行人ヨリ其ノ手續ヲ爲スヘシ其ノ屆出事項ニ變更アリタルトキ亦同シ

一　題號

二　發行所ノ名稱及所在地

三　發行人及編輯人住所氏名

四　時事ニ關スル事項ノ掲載ノ有無

五　發行ノ時期

六　輸入若ハ移入開始年月日

七　輸入若ハ移入ノ經路及發賣頒布ノ區域

八　取次人ノ住所氏名生年月日及職業

九　取次所ノ名稱及所在地

第二十一條　前條ノ規定ニ依リ輸入若ハ移入スル新聞紙又ハ雜誌ノ發行人ハ其ノ發賣頒布每ニ輸入ニツキテハ輸入地移入ニツキテハ發行所最寄ノ警察官署及地方檢察廳ニ各一部並民政部警務司ニ二部納ムヘシ

第三章　普通出版物

第二十二條　普通出版物ヲ發行セムトスルトキハ發行人ハ到達ニ要スル日數ヲ除キ發行ノ日ヨリ三日以前ニ民政部警務司ニ製本二部ヲ納メ著作人連署ノ上民政部總長ニ屆出ツヘシ其ノ改訂增補スル場合亦同シ

第二十三條　普通出版物ニハ其ノ末尾ニ發行人著作人及印刷人ノ住所氏名及發行所印刷所ノ名稱及所在地並發行及印刷年月日ヲ記入スヘシ

第二十四條　書籍雜誌程督業報告書目錄傳單廣告戲單秩序單各種表格證書證券及照片ハ前二條ノ規定ヲ適用セス

第二十五條　政治ニ關係アル傳單或ハ標語ヲ印行セムトスルトキハ發行人ハ原稿ヲ添ヘ所轄警察官署ノ許可ヲ申請スヘシ

第四章　出版物ニ對スル行政處分

第二十六條　民政部總長ハ本法第四條乃至第六條ニ掲クル禁止若ハ制限シタル事項ヲ出版物ニ掲載シタリト認ムルトキハ其ノ發賣頒布ヲ禁止シ必要ト認ムルトキハ之ヲ差押ヘ尙新聞紙又ハ雜誌ニ付テハ其ノ發行ヲ停止シ又ハ發行ノ許可ヲ取消スコトヲ得

民政部總長ハ其ノ出版物ノ差押ヘヲ爲スニ當リ必要アルトキハ其ノ原版ヲ差押フルコトヲ得

第二十七條　民政部總長ハ外國又ハ本法施行ノ地域外ニ於テ發行シタル出版物ニシテ第四條乃至第六條ニ掲クル禁止若ハ制限シタル事項ヲ掲載シタリト認ムルトキハ其ノ發賣頒布ヲ禁止シ尙其ノ事項ヲ繼續シテ掲載スルトキハ其ノ輸入若ハ移入ヲ禁止シ必要アルトキハ之ヲ差押フルコトヲ得

第二十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ所轄警察官署長ハ當該出版物ヲ差押フヘシ

一　發賣頒布ヲ禁止シタル出版物ヲ更ニ發賣頒布ノ目的ヲ以テ印刷シタルトキ

二　輸入若ハ移入ヲ禁止シタル出版物ヲ輸入若ハ移入シタルトキ

三　許可ヲ受ケスシテ新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シタルトキ

四　發行停止期間内ニ新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シタルトキ

第二十九條　本法ニ依リ差押ヘタル出版物又ハ原版ニシテ六月以上其ノ差押ヲ解除セラレサルモノハ差押ヲ執行シタル官署ニ於テ之ヲ處分スルコトヲ得

第三十條　新聞紙又ハ雜誌ノ發行人本法ニ違反シテ二回以上處罰セラレタルトキハ民政部總長ハ其ノ新聞紙又ハ雜誌ノ發行ヲ停止シ又ハ發行ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第五章　罰則

第三十一條　第三條第二項又ハ第五項ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　第四條第一號乃至第八號ニ該當スル事項ヲ出版物ニ揭載シタルトキハ發行人編輯人及著作人ヲ一年以下ノ有期徒刑又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十三條　第四條第一號ニ該當スル事項ヲ出版ニ附シタルトキハ印刷人ヲ六月以下ノ有期徒刑ニ處ス

第三十四條　第五條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行人編輯人及著作人ヲ六月以下ノ有期徒刑又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十五條　第六條ノ規定ニ依ル禁止又ハ制限ニ違反シタルトキハ發行人及編輯人ヲ一年以下ノ有期徒刑又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ發行者ヲ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第九條第十條第十一條ノ規定ニ違反シテ新聞又ハ雜誌ヲ發行シタルトキ

二　第二十二條ノ屆出ヲ爲サス又ハ虛僞ノ屆出ヲ爲シ普通出版物ヲ發行シタルトキ

第三十七條　第十三條第一項第十四條又ハ第十五條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行人ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十六條第十八條第二十一條又ハ第二十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　第二十二條ノ規定ニ違反シテ納本ヲ爲ササリシトキ

第三十九條　第十八條第一項第二項又ハ第十九條ニ違反シタルトキハ編輯人ヲ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十條　第二十條ノ規定ニ違反シテ新聞紙又ハ雜誌ヲ輸入若ハ移入シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十一條　第二十五條ノ規定ニ違反シタルトキハ發行人ヲ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十二條　第二十六條又ハ第三十條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シテ出版物ヲ發行シタルトキハ發行人ヲ一年以下ノ有期徒刑又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

第四十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ一年以下ノ有期徒刑ニ處ス

一　第二十七條ノ規定ニ依ル處分ニ違反シテ出版物ヲ發賣頒布シ又ハ輸入若ハ移入シタル者

二　第二十六條及第二十七條ノ規定ニ依リ既ニ發賣頒布又ハ輸入若ハ移入ヲ禁止セラレタル出版物ヲ事情ヲ知リテ發賣頒布又ハ輸入若ハ移入シタル者

附則

第四十四條　本法ハ大同元年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四十五條　本法施行前既ニ新聞紙又ハ雜誌ヲ發行シ又ハ之ヲ輸入若ハ移入シ居ル者ハ本法施行ノ日ヨリ二月以内ニ本法ニ依ル手續ヲ爲スヘシ

●暫行阿片收買法

大同元年九月十六日
敎令第九十號

改正　大同元年十一月　敎令第百八號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行阿片收買法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

暫行阿片收買法

第一條　現ニ阿片ヲ所有シ又ハ所持スル者ハ本法施行ノ日ヨリ大同二年一月十日ニ至ル期間内ニ縣長旗長又ハ市長ノ指定スル場所若ハ巡廻シタル阿片收買人ニ之ヲ提出スヘシ

第二條　前條ノ規定ニ依リ提出シタル阿片ハ阿片收買人ヲシテ相當價格ヲ以テ之ヲ收買セシム

第三條　第一條ノ規定ニ依リ阿片ヲ提出シタル者ニハ該阿片ニ關スル限リ刑法及禁煙法ノ規定ハ之ヲ適用セス

第四條　阿片收買人ハ必要ノ人員ヲ限リ縣長旗長又ハ市長之ヲ特許ス

第五條　縣長旗長又ハ市長ハ阿片收買人ニ對シ其ノ收買阿片一兩ニ付五分ノ特許料ヲ徵收スルコトヲ得

第六條　阿片收買人ハ縣長旗長又ハ市長ノ認定スル阿片收買見込量一兩ニ付一角ノ割合ヲ以テ保證金ヲ縣長旗長又ハ市長ニ寄託スヘシ

第七條　阿片收買人及其ノ從業人ニハ後ニ揭クル樣式ノ阿片收買人之證又ハ從業人之證ヲ交付ス

阿片收買人及其ノ從業人ハ從業中前項ノ證票ヲ携帶スヘシ

第八條　阿片收買人ハ其ノ收買ニ係ル阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納付シタル阿片ニ對シテハ補償金ヲ交付ス

前項ノ補償金ニ關シテハ財政部總長別ニ之ヲ定ム

第九條　阿片收買人其ノ收買ニ係ル阿片ヲ藏匿シ私買シ其他本法ニ違反シタルトキハ五年以下ノ有期徒刑或ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス阿片收買人ノ從業人前項ノ罪ヲ犯シタルトキ亦同シ

第十條　阿片收買人本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ縣長旗長又ハ市長ハ其ノ特許ヲ取消シ又ハ併セテ保證金ノ一部若ハ全部ヲ沒收スルコトヲ得

阿片收買人ハ其ノ從業人カ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス

第十一條　本法施行ニ關シ必要ナル命令ハ財政部總長之ヲ定ム

第十二條　本法ハ大同元年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

阿片收買人之證ノ樣式

第　號

阿片收買人之證

何　某

年　月　日下附

縣　印

阿片收買人從業人之證ノ樣式

第　號

阿片收買人何某從業人之證

何　某

年　月　日下附

縣　印

●暫行阿片收買法中改正ニ關スル佈告

大同元年十一月十六日
財政部佈告第八號

本月十六日附敎令第百八號ヲ以テ暫行阿片收買法中第一條ヲ改正セラレ阿片ノ提出期間ヲ大同二年一月十日迄延長セラレタル所以ハ他ニ非ス法令ノ普及未タ週カラス其ノ趣旨徹底セサル地方アリ知ラス識ラス法網ニ觸ルル者アランコトヲ慮ルニ因ルナリ故ニ特ニ期間ヲ延長シ以テ此弊ヲ除ク一般人民克ク立法ノ精神ヲ體シ左記各項ヲ遵奉シ敢テ違反スルコト勿レ

一　阿片ヲ所有シ又ハ所持セル者ニシテ未タ之ヲ提出セサルモノハ速ニ縣長旗長又ハ市長ノ指定スル場所又ハ阿片收買人ニ全部ヲ提出シテ賣渡スヘシ

二　阿片ノ提出ヲ爲サスシテ之ヲ隱匿スル者アラハ其ノ所有スルト所持スルトヲ論セス國法ニ依リ嚴罰ニ處シ稍假藉セス並ニ該阿片ハ全部之ヲ沒收ス

●暫行阿片收買法施行規則

大同元年九月十七日
財政部令第九號

暫行阿片收買法施行規則左ノ通之ヲ定ム

暫行阿片收買法施行規則

第一條　縣長旗長又ハ市長暫行阿片收買法第一條ノ規定ニ依リ阿片ノ提出場所ヲ指定シタルトキハ適當ノ方法ヲ以テ之ヲ告示スヘシ

第二條　縣長旗長又ハ市長阿片收買人ヲ特許シタルトキハ其ノ住所氏名及保證金額並ニ其ノ保管方法ヲ具シ財政部總長ニ報告スヘシ

第三條　阿片收買人ハ每旬收買阿片ノ數量及價額其ノ他收買狀況ヲ翌旬五日以內ニ縣長旗長又ハ市長ニ申告スヘシ

縣長旗長又ハ市長前項ノ申告ヲ受理シタルトキハ之ヲ取纏メ遲滯ナク財政部總長ニ報告スヘシ

第四條　收阿片收買人其ノ收買阿片ヲ納付セムトスルトキハ相當量ヲ取纏メ住所氏名及阿片ノ數量ヲ記シタル納付書ヲ隨メ縣長旗長又ハ市長ヲ經テ財政部總長ニ提出シ現品ハ其ノ經由公署長ノ指示スル場所ニ之ヲ納付スヘシ

第五條　縣長旗長又ハ市長ハ阿片ノ蒐集提出保管及運送ニ關シ便宜及保護ヲ供與スヘシ

第六條　特許料ハ阿片收買人ニ於テ其ノ收買阿片ヲ納付シタル後之ヲ徵收スヘシ

第七條　本令ニ依リ財政部總長ニ提出スル書類ハ省長又ハ分省長ヲ經由スヘシ

第八條　本令ハ暫行阿片收買法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●暫行阿片收買法施行規則取扱手續

大同元年九月十七日
財政部訓令第八十號

奉天吉林黑龍江各省公署
東省特別區長官公署
各特別市政公署　ニ令ス
哈爾濱市政籌備處

本部ハ左記ノ通暫行阿片收買法施行規則取扱手續ヲ制定シ之ヲ送付スルニ付所屬ニ轉令シ一體ニ遵守處理セシムヘシ此ニ令ス

暫行阿片收買法施行規則取扱手續

第一條　暫行阿片收買法第四條ノ規定ニ依リ阿片收買人ヲ特許セムトスルトキハ其ノ職業經歷資產信用等ヲ調查シ身元確實ニシテ收買能力充分ナリト認ムル者ヲ選定スヘシ

第二條　收買阿片ハ財政部總長ノ指定スル場所ニ送付セシムヘシ

第三條　阿片收買人ヨリ收買阿片運送ノ爲執照ノ請求アリタルトキハ縣長旗長又ハ市長ハ其ノ阿片ノ數量發送人並荷受人ノ住所姓名及政府ノ公認阿片タルコトヲ記載シタル煙土運送執照ヲ發給スヘシ

第四條　保證金ハ特許ノ際之ヲ提出セシメ保管證ヲ交付スヘシ

前項ノ保管證ニハ保證金ニ利子ヲ附セサル旨ヲ明記スヘシ

保證金ハ最寄中央銀行（總分支行ヲ謂フ）ニ預金スヘシ但シ其ノ公署所在地ニ中央銀行アラサルトキハ縣長旗長又ハ市長ハ自己ノ責任ヲ以テ其ノ地ノ信用確實ナル商號ニ預金スルコトヲ得

第五條　暫行阿片收買法第九條ノ規定ニ依リ阿片收買ノ特許ヲ取消シ又ハ

併セテ保證金ヲ沒收セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ省長又ハ分省長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　阿片收買人ニ對シテハ別紙阿片收買人心得ヲ交付シ法令ノ主旨ヲ說明シ實績ヲ擧クルコトニ努力セシムヘシ

（別紙略）

●暫行鴉片收買法施行規則ヲ援用スルノ件

大同元年九月二十三日
興安總署令第四號

南
興安東分省公署ニ令ス
北

玆ニ財政部制定ノ暫行鴉片收買法施行規則ヲ援用ス知照スヘシ此ニ令ス

●暫行鴉阿片收買法施行規則及辦理手續ヲ援用スルノ件

大同元年九月二十三日
興安總署訓令第九十五號

南
興安東分省長ニ令ス
北

玆ニ財政部制定ノ暫行鴉片收買法施行規則及辦理手續ヲ援用ス今本令ト共ニ委遠ス關係諸方ニ分令スル外貴分省長ハ所屬各旗ニ轉命シ一體ニ遵照シ違フ勿レ此ニ令ス

●阿片法

大同元年十一月三十日
教令第百十一號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ阿片法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

阿片法

第一條　本法ニ於テ阿片トハ生阿片阿片煙膏及藥用阿片ヲ謂フ

第二條　阿片ハ之ヲ吸食スルコトヲ得ス但シ未成年者ニ非サル阿片癮者ニシテ疾病上必要アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　阿片ノ賣下及阿片煙膏藥用阿片ノ製造ハ政府ニ於テ之ヲ行フ但シ第五條第二號及第三號ノ規定ニ依リ阿片煙膏ヲ製造スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第四條　阿片又ハ阿片吸食器具ハ之ヲ輸入シ又ハ輸出スルコトヲ得ス但シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　政府カ阿片ヲ輸入シ又ハ輸出スルトキ

二　命令ノ定ムル所ニ依リ藥用阿片賣捌人カ藥用阿片ヲ輸出スルトキ

三　命令ノ定ムル所ニ依リ阿片卸賣人カ阿片吸食器具ヲ輸入スルトキ

第五條　阿片又ハ阿片吸食器具ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テ命令ノ定ムルトコロニ依ルノ外之ヲ製造シ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スルコトヲ得ス

一　阿片卸賣人カ阿片吸食器具ヲ製造シ又ハ生阿片阿片煙膏若ハ阿片吸食器具ヲ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スルトキ

二　阿片小賣人カ阿片煙膏ヲ製造シ又ハ生阿片阿片煙膏若ハ阿片吸食器具ヲ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スルトキ

三　第二條但書ノ規定ニ依ル阿片吸食者カ阿片煙膏ヲ製造シ又ハ生阿片阿片煙膏若ハ阿片吸食器具ヲ讓受ケ又ハ之ヲ所有シ若ハ所持スルトキ

四　罌粟栽培ノ許可ヲ受ケタル者カ生阿片ヲ製造シ讓渡シ所有シ又ハ所持スルトキ

五　阿片收買人カ生阿片ヲ收買シ授受シ所有シ又ハ所持スルトキ

六　製藥者カ生阿片又ハ藥用阿片ヲ讓受ケ又ハ之ヲ所有シ若ハ所持スルトキ

七　醫師醫士齒科醫師獸醫師藥劑師藥商又ハ藥用阿片賣捌人カ藥用阿片ヲ賣買シ授受シ所有シ又ハ所持スルトキ

八　醫師齒科醫師又ハ獸醫師ノ處方箋ヲ以テ藥用阿片ヲ讓受ケ又ハ之ヲ所有シ若ハ所持スルトキ

九　前各號ノ規定ニ依リ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ所有シ若ハ所持スル場合ニ於テ之ヲ所有シ若ハ所持スルコト能ハサルニ至リタルトキ又ハ之ヲ所有シ若ハ所持スル者ナキニ至リタルトキ本人相續人又ハ其ノ財產ヲ管理スル者ニ於テ之ヲ讓渡シ又ハ所持スルトキ

第六條　阿片卸賣人又ハ阿片小賣人ハ專賣公署ヨリ賣下ケタル阿片煙膏ニ加工シ又ハ他物ヲ混和シテ販賣若ハ讓渡スルコトヲ得ス

第七條　營利ノ目的ヲ以テ他人ニ阿片ヲ吸食スル場所又ハ其ノ設備ヲ供スルコトヲ得ス但シ阿片小賣人ニシテ政府ノ許可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第八條　政府ノ許可ヲ受クルニ非サレハ阿片又ハ其ノ代用品製造ノ目的ヲ以テ罌粟ヲ栽培スルコトヲ得ス

第九條　前條ノ目的ヲ以テ罌粟ノ種子ヲ賣買シ又ハ授受スルコトヲ得ス但シ政府ノ許可ヲ受ケタル罌粟栽培者ニ販賣シ若ハ讓渡スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十條　政府ノ許可ヲ受ケタル罌粟栽培者ハ其ノ生產ニ係ル生阿片ヲ政府ニ納付スヘシ但シ當分ノ間政府ノ指定シタル阿片收買人ニ賣渡スコトヲ得

阿片收買人ハ其ノ收買ニ係ル生阿片ヲ政府ニ納付スヘシ

第十一條　民政部總長ハ阿片吸食ノ習癖ヲ矯正スル爲阿片吸食者ニ對シ必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

前項ノ處分ニ要スル費用ノ負擔ハ民政部總長ノ定ムル所ニ依ル

第十二條　政府ハ必要アリト認ムル事項ニ付第五條各號ニ揭クル者ヲシテ報告ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條　政府ハ必要アリト認ムルトキハ當該官吏ヲシテ第五條各號ニ揭クル者ノ製造場店舖其ノ他ノ場所ニ立入リ原料製造品器具機械帳簿書類其ノ他ノ物件ヲ檢查シ又ハ取締上必要ナル處分ヲ爲サシムルコトヲ得

第十四條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五年以下ノ有期徒刑又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ徒刑ト罰金トノ併科ヲ妨ケス

一　販賣ノ目的ヲ以テ阿片ニ關シ第四條又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者

二　第七條又ハ第八條ノ規定ニ違反シタル者

第十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ有期徒刑又ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違反シタル者
二　販賣ノ目的ヲ以テ阿片吸食器具ニ關シ第四條又ハ第五條ノ規定ニ違反シタル者
三　第六條又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル未成年者ニ對シテハ法院ハ情狀ニヨリ刑ノ言渡ヲ猶豫シテ第十一條ノ處分ニ移付スルコトヲ得

第十六條　前二條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ拘役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第二條但書ノ規定ニ依ル阿片吸食者ニシテ政府ノ賣下ニ係ル阿片以外ノ阿片ヲ吸食シタル者
二　販賣ノ目的ニ出テスシテ第四條又ハ第五條ニ違反シタル者

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一月以下ノ拘役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十一條ノ規定ニ依ル處分ニ從ハサル者
二　正當ノ理由ナク第十二條ノ規定ニ依ル報告ヲ怠リ又ハ虚僞ノ報告ヲ爲シタル者
三　正當ノ理由ナクシテ第十三條ノ規定ニ依ル檢査ヲ拒ミ妨ケ若ハ忌避シ又ハ訊問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虚僞ノ陳述ヲ爲シ其ノ他當該官吏ノ處分ニ從ハサル者

第十九條　本法ノ規定ニ違反シタル者ノ犯罪物件タル阿片罌粟又ハ阿片吸食器具ハ犯人ニ屬スルト否トヲ問ハス之ヲ沒收ス

前項ノ物件ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ相當價格ヲ徵收ス

第二十條　第四條第二號又ハ第三號ノ規定ニ依リ藥用阿片又ハ吸食器具ヲ輸入シ又ハ輸出スル者又ハ第五條第一號第二號若ハ第四號乃至第七號ニ揭クル者ハ其ノ代理人戶主家族雇人其ノ他ノ從業者カ其ノ業務ニ關シ第四條又ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第二十一條　法人ノ代表者又ハ其ノ雇人其ノ他ノ從業者法人ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ法人ノ代表者ヲ處罰ス

第二十二條　本法施行ノ期日ハ敎令ヲ以テ之ヲ定ム

●阿片法施行期日ニ關スル件

大同二年一月六日
敎令第一號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ阿片法施行期日ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム阿片法施行期日ニ關スル件

大同元年敎令第一百十一號阿片法ハ大同二年一月十一日ヨリ之ヲ施行ス

●阿片法施行令

大同元年十一月三十日
敎令第百十二號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ阿片法施行令ヲ制定シ之ヲ公布セシム

阿片法施行令

第一章　阿片ノ吸食

第一條　阿片法第二條但書ノ規定ニ依ル阿片吸食者ハ管轄警察官署長ノ發給シタル證明書ヲ携帶ス可シ

第二條　阿片吸食者ハ前條ノ證明書ヲ提示スルニ非レハ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓受クルコトヲ得ス

第三條　阿片吸食者ハ阿片小賣人以外ノ者ヨリ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓受クルコトヲ得ス

第二章　生阿片、阿片煙膏及阿片吸食器具ノ製造及販賣

第四條　生阿片阿片煙膏又ハ阿片吸食器具ハ阿片卸賣人ニヨリ阿片小賣人ニ阿片小賣人ヨリ阿片吸食者ニ讓渡スヘシ

阿片卸賣人ハ專賣公署以外ヨリ阿片ヲ讓受クルコトヲ得ス

第五條　阿片卸賣人ハ專賣公署長阿片小賣人ハ所轄省長之ヲ指定ス

第六條　阿片卸賣人及阿片小賣人ハ指定セラレタル以外ノ場所ニ於テ營業ヲ爲スコトヲ得ス

阿片卸賣人其ノ營業出張所ヲ設置セムトスルトキハ專賣公署長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條　阿片卸賣人阿片吸食器具ヲ輸入セムトスルトキハ其ノ出荷人ノ住所氏名輸入數量及輸入徑路ヲ具シ專賣公署長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第八條　政府ノ賣下ニ係ル阿片煙膏ハ政府ノ指定スル價格ヲ以テ之ヲ販賣スヘシ

阿片卸賣人ハ阿片煙膏ヲ開罐シテ讓渡スルコトヲ得ス

第九條　阿片小賣人ハ第一條ノ證明書ヲ提示シタル阿片吸食者以外ニ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ讓渡スコトヲ得ス

第十條　製藥者ニ於テ製藥ノ爲生阿片ヲ要スルトキハ民政部總長ノ阿片購入許可書ヲ添ヘ專賣公署長又ハ同支署長ニ其ノ賣下ヲ請求スヘシ

第十一條　阿片卸賣人及阿片小賣人ハ帳簿ヲ備ヘ生阿片阿片煙膏及阿片吸食器具ノ受拂ニ付其ノ種類數量價格年月日並ニ受拂先ヲ其ノ都度記載スヘシ

阿片卸賣人及阿片小賣人ハ生阿片阿片煙膏阿片吸食器具ノ受拂ニ付其ノ前月分ヲ每月十日迄ニ所轄省長及專賣公署長ニ報告スヘシ

第三章　生阿片ノ生產及收納

第十二條　罌粟栽培ノ區域及其ノ面積ハ每年專賣公署長之ヲ定ム

第十三條　罌粟ヲ栽培セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ每年所轄省長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ之ヲ變更シ又ハ栽培ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

一　住所　氏名　生年月日
二　栽培ノ場所　面積

第十四條　前條ノ許可ヲ受ケタル者ハ栽培地每ニ其ノ場所面積栽培者ノ住所氏名ヲ記載シタル標木ヲ建ツヘシ

第十五條　罌粟栽培者ハ所轄省長ノ指定スル期日迄ニ其ノ生產阿片ノ數量ヲ所轄省長及專賣公署長ニ報告スヘシ

第十六條　罌粟栽培者ハ其ノ生產ニ係ル生阿片ヲ專賣公署長ノ指定シタル場所ニ提出シ又ハ阿片收買人ニ賣渡スヘシ

第十七條　阿片收買人ハ必要人員ヲ限リ專賣公署長之ヲ指定ス

第十八條　阿片收買人ハ其ノ收買ニ係ル生阿片ヲ專賣公署ニ納付スヘシ

第十九條　前條ノ納付阿片ハ專賣公署長ニ於テ之ヲ鑑別シ其ノ品位ニ依リ補償金ヲ交付ス

第二十條　阿片收買人及其ノ從業人ニハ別ニ揭クル樣式ニ依リ阿片收買人之證又ハ從業人之證ヲ交付ス

阿片收買人及其ノ從業人ハ從業中前項ノ證票ヲ携帶スヘシ

第四章　藥用阿片ノ賣下

第二十一條　藥用阿片ハ藥用阿片賣捌人ヨリ醫師齒士齒科醫師獸醫師藥劑師藥商又ハ製藥者ニ讓渡スヿ可シ

第二十二條　藥用阿片賣捌人ハ藥劑師ノ藥商中ヨリ所轄省長之ヲ指定ス

第二十三條　藥用阿片ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ヲ除クノ外之ヲ賣買シ又ハ授受スルコトヲ得ス

一　藥劑師又ハ藥商カ醫師齒科醫師獸醫師藥劑師藥商又ハ製藥者ニ讓渡ストキ

二　藥劑師カ醫師齒科醫師又ハ獸醫師ノ處方箋ニ依リ醫療用トシテ需要者ニ供給スルトキ

三　醫師齒科醫師又ハ獸醫師カ醫療用トシテ需要者ニ供給スルトキ

第二十四條　藥用阿片賣捌人ニ於テ藥用阿片ヲ輸出セムトスルトキハ其ノ輸出先及輸出數量ヲ具シ輸出先當該官憲ノ輸入許可證明書ヲ添ヘ民政部總長ニ願出テ許可ヲ受クヘシ

第二十五條　藥用阿片賣捌人藥劑師及藥商ハ帳簿ヲ備ヘ藥用阿片ノ受拂ニ付其ノ數量用途年月日竝ニ受拂先ヲ其ノ都度記載スヘシ但シ藥劑師調劑用ニ使用シタルモノニ就テハ此ノ限リニ在ラス

前項ニ揭クル者ハ藥用阿片ノ受拂ニ付毎年一月末日迄ニ其ノ前年分ヲ所轄省長ニ報告スヘシ

第五章　雜　則

第二十六條　阿片收買人阿片卸賣人及阿片小賣人其ノ指定ヲ受ケタルトキハ省長又ハ專賣公署長ノ定ムル所ニ依リ保證金ヲ納付スヘシ

第二十七條　本令ニ依リ指定又ハ許可ヲ受ケタル者又ハ阿片吸食者カ廢業シ又ハ死亡シタルトキハ當該事實發生ノ日ヨリ三十日以內ニ阿片收買人及阿片卸賣人ニ在リテハ專賣公署長又ハ專賣支署長ニ其ノ他ノ者ニ在リテハ所轄省長ニ本人相續人又ハ其ノ財產ヲ管理スル者ヨリ届出テ現存阿片罌粟又ハ阿片吸食器具ノ處分ニ付指示ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ保證金ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ本人又ハ相續人ヨリ省長專賣公署長ニ其ノ還付ヲ請求スヘシ

第二十八條　阿片小賣人ニシテ他人ニ阿片吸食ノ場所及設備ヲ供與セムトスル者ハ左記事項ヲ具シ所轄省長ノ許可ヲ受クヘシ

一　住所　氏名　生年月日

二　場所及設備

第二十九條　本令ニ依リ省長ニ提出スル書類ハ所轄警察官署ヲ專賣公署ニ提出スル書類ハ最寄專賣官署ヲ經由スヘシ

第六章　罰　則

第三十條　第六條第八條ノ規定ニ違反シタル者ハ拘役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十一條　第十一條第十四條又ハ第二十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ一月以下ノ拘役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第三十二條　本令ニ依リ阿片又ハ阿片吸食器具ヲ取扱フ者若ハ罌粟栽培ノ許可ヲ受ケタル者其ノ業務上ニ關シ不正ノ行爲アリタルトキハ其ノ業務ヲ停止シ指定又ハ許可ヲ取消シ保證金ヲ沒收スルコトアルヘシ

附　則

第三十三條　本令中民政部總長トアルハ興安省ニ在リテハ興安總署總長所轄省長トアルハ東省特別區（哈爾濱警察廳管轄區域ヲ除ク）ニ在リテハ東省特別區長官新京特別市及長春縣ニ在リテハ首都警察總監哈爾濱警察廳管轄區域ニ在リテハ哈爾濱警察廳長興安省ニ在リテハ所轄分省長トス

第三十四條　本令ハ阿片法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●阿片法施行ニ關スル佈告

大同元年十一月三十日
國務院佈告第六號

阿片ノ吸食ハ其ノ由來スル所古ク日常習慣ニ浸潤スル所深シ內自ラ毒財ヲ消耗シ外列國ノ輕侮ヲ蒙ル永ク此ノ陋習ヲ離脫スルコト能ハサルトキハ建國ノ精神ニ照シテ寔ニ遺憾ニ堪ヘサル次第ナリ蓋シ阿片制度ノ適否ハ國家ノ隆替ニ關スル重要問題ナリ今ヤ我カ滿洲國ノ建設成リ庶政革新ノ秋ニ際會ス速カニ根本方針ヲ樹立シ以テ排煙ノ方途ヲ講スルニアラサレハ將來其ノ弊益々瀰漫シ終ニ拔クヘカラサルニ至ルヘシ

然リト雖モ時ノ制度ノ如ク現存スル多數癮者ノ處置ヲ度外視シテ一ニ之ヲ斷禁セントスルハ恰モ水源ヲ治メスシテ其ノ下流ヲ遮斷スルニ等シク其ノ政策ヲ誤リタルモノト謂ハサルヘカラス之レ夙ニ禁煙ノ法令整備セルニ拘ラス毫モ其ノ實効ヲ奏セサル所以ナリ

此ノ積年ノ宿弊ヲ矯正セムニハ須ラク斷禁主義ニ基ク癮者漸減方策ヲ採リ一般ニハ吸煙ヲ嚴禁シ唯既ニ癮ニ陷リタル者ニ限リ救療上吸煙ヲ認ムルト共ニ救療ノ機關ヲ特設シテ癮者ノ救療ニ努メ又敎化其ノ他ノ社會施設ニ依リ人民ノ自覺ヲ喚起シテ新癮者ノ發生ヲ防遏シ以テ弊風ノ漸減根絕ヲ圖ルヘシ之レ世界各國ノ制度ノ實績ニ徵シ最モ有效適切ナル禁煙方策ナリト確信ス依テ政府ハ玆上ノ方針ニ則リ大同元年十一月三十日敎令第百十一號ヲ以テ阿片法ヲ公布シ以テ所期ノ目的ヲ達成セムトス一般民衆克ク立法ノ主旨ヲ體シ深ク自省シテ以テ去陋新生ノ大業ニ違背ナカラムコトヲ期スヘシ

●阿片卸賣人ノ販賣區域

大同元年十二月二十四日
財政部令第十七號

阿片卸賣人ノ販賣區域左表ノ通リ之ヲ定ム

阿片卸賣人販賣區域表

區名	縣市名	
奉天區	奉天 瀋陽 新民 撫順 鐵嶺 法庫 開原 昌圖 梨樹 西豐 西安 東豐 海龍 清原 新賓 金川 柳河 輝南 本溪	
遼陽區	遼陽 營口 遼中 海城 蓋平 復縣 臺安	
錦縣區	錦縣 黑山 北鎭 盤山 義縣 錦西 興城 綏中	
安東區	安東 莊河 岫巖 寬甸 寬仁 輯安 通化 臨江 鳳城 長白 撫松 安圖	
遼源區	遼源 彰武 康平 通遼 雙山 開通 瞻榆 洮南 突泉 洮安 安廣 鎭東 興安南分省	

新京區	新京　長春　伊通　雙陽　德惠　扶餘　農安　長嶺　懷德　乾安設治局
吉林區	吉林　永吉　磐石　濛江　樺甸　敦化　額穆　舒蘭　延吉　琿春　汪清　和龍
濱江第一區	松浦　哈爾濱特別市　東省特別區市政管理局管內之哈爾濱市街地所成之區域　濱江
濱江第二區	呼蘭　肇東　肇西　雙城　阿城　綏棱　五常　珠河　賓縣　延壽　葦河　寧安　穆稜　東寧　巴彥　木蘭　通河　方正　依蘭　勃利　密山　虎林　寶清　樺川　湯原　蘿北　綏濱　富錦　同江　饒河　撫遠　綏化　望奎　慶城　鐵驪　綏楞　海倫　通化　烏雲　佛山　奇克特　遜河設治局　鳳山設治局　東興設治局
龍江區	齊々哈爾　龍江　泰來　克山　肇州　大賚　安達　青岡　景星　明水　林甸　拜泉　依安　克東　甘南　訥河　龍鎮　嫩江　璦琿　大黑河　呼瑪　鷗浦　漠河　興安東分省　興安北分省　泰康設治局　富裕設治局　德都設治局

●阿片緝私法

大同元年十二月二十日
敎令第百十五號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ阿片緝私法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

阿片緝私法

第一條　專賣官員ハ阿片法違反者ト認メタル者若ハ其ノ犯罪ニ係ル阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ本法ニ依リ之ヲ逮捕又ハ押收スヘシ
專賣官員前項ニ依リ逮捕シタル者及押收セル物件ハ之ヲ最寄警察官署ニ送致スヘシ

第二條　專賣官員ハ所有者不明若ハ所有者所在不明ノ阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ之ヲ押收スヘシ
前項ノ押收物件ハ專賣公署ノ所在地外ニシテ已ムヲ得サル事情アルトキハ最寄警察官署ニ之ヲ送致スルコトヲ得

第三條　前條ノ物件ハ專賣官署長又ハ送致ヲ受ケタル警察官署長ニ於テ之ヲ公示シ其ノ公示期間內ニ所有權ヲ主張スル者ナキトキハ國庫ニ歸屬ス
前項ノ公示ハ物件ノ名稱種類數量形狀及發見場所日時等成ルヘク其ノ物件ヲ知ルニ容易ナル事項ヲ詳記シ十四日間最寄揭示場ニ揭示スヘシ

第四條　警察官署長ハ前條ニ依リ國庫ニ歸屬シタル阿片及阿片吸食器具ヲ最寄專賣官署ニ引渡スヘシ
警察官署長前項ノ引渡ヲ爲ストキハ事件別ニ其ノ種類數量國庫歸屬ノ年月日ヲ記シタル書類ヲ添付スヘシ

第五條　專賣官署長又ハ警察官署長ハ第三條ノ公示期間中ニ權利ノ主張アリタル場合ハ事實ヲ審査シ之ヲ權利者ニ返還スヘシ

第六條　專賣官員ハ阿片法違反ノ嫌疑アリト認ムル場合ハ搜索ヲ爲シ必要アルトキハ嫌疑者又ハ參考人ヲ訊問スルコトヲ得

第七條　專賣官員搜索訊問押收又ハ逮捕ヲ爲ストキハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證票ヲ携帶シ要求アルトキハ之ヲ提示スヘシ
前項ノ證票ハ別記樣式ニ依ル

第八條　專賣官署長ハ必要ト認ムルトキハ專賣官員ニ武器ヲ携帶セシムルコトヲ得

第九條　專賣官員搜索又ハ押收ヲ爲スニ當リ必要アリト認ムルトキハ警察官吏緝私隊又ハ軍隊ニ應援ヲ求ムルコトヲ得

第十條　警察官吏其ノ職務執行ニ當リ所有者不明又ハ所有者所在不明ノ阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ第二條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第十一條　鹽務官員稅務官員及稅關官員其ノ職務執行ニ當リ阿片法違反者ト認メタル者若ハ所有者不明又ハ所有者所在不明ノ阿片及阿片吸食器具ヲ發見シタルトキハ第一條乃至第五條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　本法ニ別段ノ規定アル場合ノ外搜索押收及訊問ニ付テハ刑事訴訟法ノ規定ヲ準用シ逮捕ニ付テハ檢察廳訊度司法警察章程ノ規定ヲ準用ス

第十三條　本法ハ阿片法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

專賣官員身分證票樣式

第　號

契印

專賣官署
專賣官員之證
之印

官職何某
生年月日

●查獲私土奬勵規則

大同元年十二月二十日
敎令第百十六號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ查獲私土奬勵規則ヲ制定シ之ヲ公布セシム

查獲私土奬勵規則

第一條　本令ニ於テ私土トハ阿片法違反ニ係ル阿片及所有者不明又ハ所有者所在不明ノ阿片ヲ謂フ

第二條　私土ヲ官ニ告ケタル者又ハ取締官員ニシテ私土ヲ查獲シタル者ニハ本令ニ依リ奬勵金ヲ支給ス

第三條　私土ハ專賣官署ニ於テ之ヲ換價シ其ノ價額中ヨリ保管運搬其ノ他ニ要シタル費用ヲ控除シ殘餘金額ノ十分ノ六ヲ奬勵金トス

第四條　前條ノ奬勵金ハ左ノ區別ニ從ヒ專賣官署ニ於テ之ヲ支給ス

一　奬勵金ハ其ノ十分ノ七ヲ官ニ告ケタル者ニ十分ノ三ハ査獲ニ從事セル官署ノ守員ニ之ヲ支給ス但シ官ニ告ケタル者無キ場合ハ奬勵金全額ヲ査獲ニ從事セル官署ノ官員ニ支給ス

二　二以上ノ官署ニ於テ協力シテ査獲シタル場合ハ奬勵金額ノ十分ノ七ヲ官ニ告ケタル者ニ支給シ其ノ殘餘額ヲ査獲ニ從事セル人員ニ比例シ各官署ニ分配ス但シ官ニ告ケタル者無キ場合ハ其ノ奬勵金全額ヲ査獲ニ從事セル人員ニ比例シ分配ス

三　官署ノ官員ニ支給スル前二號ノ奬勵金ハ其ノ功績ヲ考査シ各官署ノ長官適當ニ之ヲ決定支給ス

四　官ニ告ケタル者ノ奬勵金ハ受告ノ官署長ニ送付シ之ヲ本人ニ支給ス

第五條　本規則ハ阿片法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

●阿片法施行令取扱手續

大同二年三月十八日
財政部訓令第七十三號

奉天吉林黑龍江各省公署
東省特別區長官公署
專賣公署
首都警察廳　ニ令ス
哈爾濱警察廳

阿片法施行令取扱手續左ノ通リ制定シ之ヲ送付スルニ付遵奉處理スヘシ此ニ令ス

阿片法施行令取扱手續

第一條　專賣公署長阿片法施行令（以下單ニ施行令ト稱ス）第五條ノ規定ニ依リ阿片卸賣人ヲ指定セムトスルトキハ其ノ職業經歷資產信用公共事業ニ對スル功勞及其ノ他營業場所ノ適否等ヲ審査報告シ財政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　專賣公署長阿片卸賣人ノ營業出張所設置ヲ許可シタルトキハ之ヲ財政部總長ニ報告スヘシ

第三條　專賣公署長ハ第一號樣式ニ依ル阿片卸賣人臺帳ヲ備ヘ所定事項ヲ記入シ其ノ副本ヲ阿片卸賣人ノ營業場所ヲ管轄スル省長ニ送付スヘシ

前項ノ臺帳記載事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　省長阿片小賣人ヲ指定シタルトキハ其ノ指定年月日指定番號住所氏名生年月日及營業場所ヲ專賣公署長ニ通報スヘシ

前項ノ通報事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　專賣公署長ハ施行令第十二條ノ規定ニ依ル罌粟栽培ノ區域及其ノ面積ヲ定メ每年一月末日迄ニ之ヲ所轄署長ニ通報スヘシ

前項ノ罌粟栽培ノ區域面積ヲ定メムトスルトキハ財政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

第六條　省長第五條第一項ノ通報ヲ受ケタルトキハ當該區域ニ之ヲ佈告シ施行令第十三條ノ規定ニ依ル願出アリタルトキハ身元栽培地ノ適否及面積ヲ調査シ適當ト認メタル者ニ限リ之ヲ許可スヘシ

省長前項ノ許可ヲ爲シタルトキハ栽培人ノ住所氏名及其ノ栽培面積ヲ縣別トシテ專賣公署長ニ通報スヘシ

第七條　專賣公署長施行令第十七條ノ規定ニ依リ阿片收買人ヲ指定セムトスルトキハ其ノ職業經歷資產及信用ヲ審査シ財政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

第八條　專賣公署長ハ第三號樣式ニ依ル阿片收買人臺帳ヲ備ヘ所定事項ヲ記入シ其ノ副本ヲ收買地ヲ管轄スル省長ニ送付スヘシ

前項ノ臺帳記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨當該省長ニ通報スヘシ

第九條　省長施行令第二十二條ノ規定ニ依ル藥用阿片ノ賣捌人ヲ指定シタルトキハ其ノ指定年月日指定番號住所氏名生年月日及營業場所ヲ專賣公署長ニ通報スヘシ

前項ノ通報事項ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第十條　專賣公署長施行令第二十六條ノ規定ニ依ル保證金ヲ納付セシムルトキハ第三號樣式ノ納付命令書ニ依リ滿洲中央銀行專賣公署保證金口座ニ拂込マシムヘシ

第十一條　專賣公署長ハ第四號樣式保證金臺帳ヲ備ヘ整理スヘシ

第十二條　專賣公署長ハ保證金ニ對シ寄託ノ翌月ヨリ年利率五分ノ利子ヲ附シ每年七月ニ於テ其ノ前月迄ノ利子ヲ寄託者ニ支拂フヘシ

第十三條　專賣公署長施行令第三十二條ノ規定ニ依リ阿片卸賣人阿片收買人ノ業務停止又ハ指定取消若ハ保證金ノ沒收ヲ爲サムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ財政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

專賣公署長前項ノ指定取消處分ヲ爲シタルトキハ其ノ現存阿片並ニ阿片吸食器具ノ處置ニ付指示ヲ爲スヘシ

附　則

第十四條　本令中省長トアルハ興安省ニ在リテハ興安各分省長東省特別區（東省特別區哈爾濱市ヲ除ク）ニ在リテハ東省特別區長官新京及長春縣ニ在リテハ首都警察總監哈爾濱警察廳管轄區域ニ在リテハ哈爾濱警察廳長トス

樣式（各樣式ハ省略ス）

●阿片法施行令施行手續

大同二年四月二十一日
民政部訓令第二百十六號

改正　大同二年五月　民政部訓令第二百六十號

奉天吉林黑龍江各省公署
東省特別區長官公署ニ令ス
首都哈爾濱各警察廳

阿片法施行令施行手續ハ已ニ大同二年四月二十一日附本部訓令第二一六號（衞字九一八號）ヲ以テ發布シタル所ナルモ其ノ成文中ノ用語阿片法施行令ト相違ノ點アルヲ發見シタルニ因リ玆ニ訂正ヲ加ヘ本令ト共ニ發送ス分令スルト共ニ貴署ニ令ス直ニ遵照スヘシ此ニ令ス

阿片法施行令施行手續

第一條　省長ハ阿片法施行令（以下單ニ施行令ト稱ス）第五條ノ規定ニ依リ民政部總長ノ指示スル豫定員數ノ阿片小賣人ヲ指定シ第壹號樣式ニ依リ民政部總長ニ報告スヘシ

第二條　省長ハ土地ノ事情又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ豫定員數ヲ超過シテ指定セムトスルトキハ民政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　省長ハ第二號樣式ノ阿片小賣人臺帳ヲ備ヘ所定ノ事項其ノ他ヲ記

載シ其ノ副本ヲ民政部總長ニ送付スヘシ

前項ノ臺帳記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨民政部總長ニ報告スヘシ

第四條　警察官署長阿片吸食者之證ヲ下付セルトキハ毎月之ヲ省長ニ報告シ省長ハ第三號樣式ニ依リ前月分ヲ毎月十五日迄ニ民政部總長ニ報告スヘシ

第五條　省長ハ施行令第十條ノ規定ニ依リ阿片購入許可書ノ下付ヲ受ケムトスルモノアルトキハ第四號樣式ノ願書ヲ所轄警察官署及省長ヲ經由シ民政部總長ニ提出セシムヘシ

第六條　省長ハ施行令第十三條ノ規定ニ依リ罌粟栽培ノ許可ヲ爲シタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ栽培面積及栽培人員ヲ縣別トシテ第五號樣式ニ依リ民政部總長ニ報告スヘシ

第七條　省長ハ施行令第二十二條ノ規定ニ依ル藥用阿片賣捌人ヲ指定セムトスルトキハ第一條及第二條ニ準據スヘシ

第八條　省長ハ第六號樣式ノ藥用阿片賣捌人臺帳ヲ備ヘ其ノ住所氏名其ノ他所定事項ヲ記載シ之カ副本ヲ民政部總長ニ送付スヘシ

前項ノ臺帳記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨民政部總長ニ報告スヘシ

第九條　省長ハ施行令第二十四條ニ依リ藥用阿片ヲ輸出セムトスルモノアルトキハ第七號樣式ノ願書ニ輸出先當該官憲ノ輸入許可證明書ヲ添ヘ所轄警察官署及省長ヲ經由シ民政部總長ニ提出セシムヘシ

第十條　省長ハ施行令第十四條ノ規定ニ依リ藥用阿片ヲ輸出セムトスルモノアルトキハ第八號樣式ノ保證金臺帳ヲ備ヘ所定ノ事項ヲ記載スヘシ

第十一條　省長ハ第九號樣式ノ保證金臺帳ヲ備ヘ所定ノ事項ヲ記載スヘシ

第十二條　省長ハ保證金ニ對シ寄託ノ翌月ヨリ年利率五分ノ利息ヲ附シ毎年七月ニ於テ其ノ前月迄ノ利息ヲ計算シ第十號樣式ノ利息支拂通知書ヲ發シ最寄中央銀行本支行ヲ經テ寄託者ニ支拂フヘシ

第十三條　省長ハ阿片小賣人ノ指定期間滿了セルトキ又ハ施行令第二十七條第二項ニ依リ保證金ヲ還付セムトスルトキハ第十一號樣式ノ還付命令書ヲ發シ最寄中央銀行本支行ヲ經テ寄託者ニ還付スヘシ

第十四條　省長ハ保證金納付利息支拂及保證金還付ノ期限ハ土地ノ事情其ノ他ヲ考慮シ納付並ニ受領可能ナル日時ヲ指定スヘシ

第十五條　省長施行令第二十八條ニ依リ阿片吸食ノ場所及設備ヲ供與セムトスル者ヲ許可セムトスルトキハ小賣人營業所內一ケ所ニ限リ許可スヘシ

第十六條　省長施行令第三十二條ノ規定ニ依リ指定若ハ許可ヲ取消シ又ハ保證金ノ沒收ヲ爲サムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ民政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

第十七條　本令中省長トアルハ東省特別區（東省特別區哈爾濱市ヲ除ク）ニ在リテハ東省特別區長官新京及長春縣ニ在リテハ首都警察總監哈爾濱警察廳管轄區域ニ在リテハ哈爾濱警察廳長トス

（各樣式略）

●阿片法施行令取扱手續

大同二年五月十九日
興安總署訓令第二百三十一號

興安各分省長ニ令ス

茲ニ阿片法施行令取扱手續十六箇條ヲ制定シ表式十三種ト共ニ同封送付スルニ付貴分省長ハ務メテ本取扱手續及表式規定ニ依照シ切實ニ處理シ輕忽ニスルカ勿レ切々此ニ令ス

阿片法施行令取扱手續

第一條　興安分省長ハ（以下單ニ分省長ト稱ス）阿片法施行令（以下單ニ施行令ト稱ス）第五條ノ規定ニ依リ興安總署總長ノ指示スル豫定員數ノ阿片小賣人ヲ指定シ第一號樣式ニヨリ興安總署總長ニ報告スヘシ

第二條　分省長ハ土地ノ事情又ハ其ノ他ノ理由ニ依リ豫定員數ヲ超過シテ指定セムトスルトキハ興安總署總長ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　分省長ハ第二號樣式ノ阿片小賣人臺帳ヲ備ヘ所定ノ事項其ノ他ヲ記載シ其ノ副本ヲ興安總署總長ニ送付スヘシ

前項ノ臺帳記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ直ニ其ノ旨興安總署總長ニ報告スヘシ

第四條　興安警察署長阿片吸食者之證ヲ下付セルトキハ毎月之ヲ所屬興安警察局長ヲ經テ分省長ニ報告シ分省長ハ第三號樣式ニ依リ前月分ヲ毎月十五日迄ニ興安總署總長ニ報告スヘシ

第五條　分省長ハ施行令第十條ノ規定ニ依リ阿片購入許可書ノ下付ヲ受ケムトスルモノアルトキハ第四號樣式ノ願書ヲ所轄興安警察局署及分省長ヲ經由シ興安總署總長ニ提出セシムヘシ

第六條　分省長ハ施行令第十三條ノ規定ニ依リ罌粟栽培ノ許可ヲ爲シタルトキハ之ヲ取纏メ其ノ栽培面積及栽培人員ヲ旗又ハ縣別トシテ第五號樣式ニ依リ興安總署總長ニ報告スヘシ

第七條　分省長施行令第二十二號ノ規定ニ依ル藥用阿片賣捌人ヲ指定セムトスルトキハ第一條及第二條ニ準據スヘシ

第八條　分省長ハ第六號樣式ノ藥用阿片賣捌人臺帳ヲ備ヘ住所氏名其ノ他所定事項ヲ記載シ之カ副本ヲ興安總署總長ニ送付スヘシ

前項ノ臺帳記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ旨興安總署總長ニ報告スヘシ

第九條　分省長ハ施行令第二十四條ニ依リ藥用阿片ヲ輸出セムトスルモノアルトキハ第七號樣式ノ願書ニ輸出先當該官憲ノ輸入許可證明書ヲ添ヘ所轄興安警察局署及分省長ヲ經由シ興安總署總長ニ提出セシムヘシ

第十條　分省長ハ施行令第二十六條ノ規定ニ依ル保證金ヲ納付セシメムトスルトキハ第八號樣式ノ納付命令書ヲ發シ最寄中央銀行分支行ヲ經テ分省公署所在地中央銀行本支行阿片小賣人保證金口座ニ拂込マシムヘシ

第十一條　分省長ハ第九號樣式ノ保證金臺帳ヲ備ヘ所定ノ事項ヲ記載スヘシ

第十二條　分省長ハ保證金ニ對シ寄託ノ翌月ヨリ年利率五分ノ利息ヲ附シ毎年七月ニ於テ其ノ前月迄ノ利息ヲ計算シ第十號樣式ノ利息支拂通知書ヲ發シ最寄中央銀行分支行ヲ經テ寄託者ニ支拂フヘシ

第十三條　分省長ハ阿片小賣人ノ指定期間滿了セルトキ又ハ施行令第二十七條第二項ニ依リ保證金ヲ還付セムトスルトキハ第十一號樣式ノ還付命令書ヲ發シ最寄中央銀行本支行ヲ經テ寄託者ニ還付スヘシ

令書ヲ發シ最寄中央銀行分支行ヲ經テ寄託者ニ還付スヘシ

第十四條　分省長ハ保證金納付利息支拂及保證金還付ノ期限ニ付キテハ土地ノ事情其ノ他ヲ考慮シ納付金並ニ受領可能ナル日時ヲ指定スヘシ

第十五條　分省長施行令第二十八條ニ依リ阿片吸食ノ場所及設備ヲ供與セムトスルトキハ小賣人營業所内一箇所ニ限リ許可スヘシ

第十六條　分省長施行令第三十二條ノ規定ニ依リ指定若ハ許可ヲ取消シ又ハ保證金ノ沒收ヲ爲サムトスルトキハ其ノ理由ヲ具シ奧安總署總長ノ認可ヲ受クヘシ

（各樣式略）

第八輯　社會、土地

●興安各分省各旗旗地ノ保全ニ關スル件

大同元年十一月三日
敎令 第百五號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ興安各分省各旗旗地ノ保全ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

興安各分省各旗旗地ノ保全ニ關スル件

興安各分省各旗旗地ハ旣開放地ニ於テ現ニ合法ノ權利ヲ有スル者又ハ興安總署總長ノ許可ヲ受ケタル者ヲ除クノ外私放又ハ私ニ租與墾種ヲ行フヲ禁止ス但シ原有蒙古旗民カ自ラ墾種シ又ハ放牧其ノ他ノ爲旗地ヲ利用スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十一月三日）

●國都建設計畫法

大同二年四月十九日
敎令第二十四號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ國都建設計畫法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

國都建設計畫法

第一條 本法ニ於テ國都建設計畫トハ國都建設計畫區域內ニ於テ交通衞生保安及經濟ニ關シ永久ニ公共ノ安寧ヲ維持シ又ハ福利ヲ增進スル爲ノ重要施設ノ計畫ヲ謂フ

第二條 新京特別市ノ區域ヲ以テ國都建設計畫區域ト爲ス

第三條 國都建設計畫國都建設計畫事業及每年度執行スヘキ國都建設計畫事業ハ國都建設局長ノ稟請ニヨリ國務總理之ヲ決定ス

第四條 國務總理ハ國都建設局長ヲシテ前條ノ規定ニヨリ決定シタル事項ノ中必要ト認ムルモノハ其ノ要領ヲ佈告セシム

第五條 國都建設計畫事業ハ國都建設局長之ヲ執行ス

國都建設計畫事業中舊市街區域ニ於ケルモノニシテ國務總理必要ト認ムルモノハ民政部總長及新京特別市長ノ意見ヲ徵シ新京特別市長ヲシテ執行セシムルコトヲ得

第六條 國都建設計畫事業ノ執行ニ要スル費用ハ前條第一項ノ場合ニアリテハ國前條第二項ノ場合ニアリテハ新京特別市ノ負擔トス但シ第十一條ノ場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條 國務總理ハ新京特別市ヲシテ前條ノ規定ニ依リ國ニ於テ負擔スヘキ國都建設計畫事業執行費用ノ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル負擔金ノ額及納付時期ニ關シテハ民政部總長新京特別市長及國都建設局長ノ意見ヲ徵シ之ヲ定ム

第八條 新京特別市ハ民政部總長ノ認可ヲ得テ國都建設計畫事業ニヨリ著シク利益ヲ受クル者ヲシテ其ノ受クル利益ノ限度ニ於テ第六條及第七條ノ規定ニ依リ市ニ於テ負擔スヘキ費用ノ全部又ハ一部ヲ負擔セシムルコトヲ得

新京特別市ハ第六條及第七條ノ規定ニ依リ市ニ於テ負擔スヘキ費用ニ充ツル爲特別稅ヲ賦課スルコトヲ得

前二項ノ規定ニ依ル受益者負擔及特別稅ノ決定ニ付テハ國都建設局長ノ

意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第九條　國都建設計畫トシテ住居地域商業地域工業地域雜種地域及特殊地域並ニ建築線ヲ指定スルコトヲ得

第十條　宅地トシテノ土地ノ利用ヲ增進スル爲國都建設計畫事業トシテ地區ヲ設ケ左記ノ土地區劃整理ヲ執行スルコトヲ得

一　土地ノ交換分合地目變換其ノ他區劃形狀ノ變更及道路ノ變更廢置

二　前號ノ事項施行ノ爲若ハ施行ノ結果必要ナル工作物ノ設置其ノ他ノ設備又ハ其ノ維持管理

第十一條　土地區劃整理ニ要スル費用ハ整理執行地區內ノ土地ノ所有者又ハ關係人ノ負擔トス

第十二條　土地區劃整理ノ爲必要アルトキハ國都建設局長及新京特別市長ハ換地豫定地ヲ指定シテ整理執行地區內ニ存スル建物其ノ他ノ工作物ノ所有者又ハ管理者ニ對シ其ノ移轉ヲ命スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ少クトモ二月前ニ所有者又ハ管理者及占有者ニ其ノ旨ヲ豫告スヘシ

所有者又ハ占有者カ前項ノ移轉ニヨリテ損害ヲ受ケタルトキハ國都建設局長又ハ新京特別市長其ノ通常受クヘキ限度ニ於テ之ヲ補償スヘシ

第十三條　土地區劃整理ヲ執行スル爲國又ハ新京特別市ノ所有ニ屬スル道路溝渠等ノ全部又ハ一部ヲ廢止シタルニ因リ不用ニ歸シタル土地ハ無償ニテ之ヲ整理執行地區內ノ土地所有者ニ交付ス

土地區劃整理ノ執行ニヨリ道路廣場其ノ他公共ノ用ニ供スルモノト爲リタル土地ハ國都建設局長執行シタル場合ハ國新京特別市長執行シタル場合ハ新京特別市ノ所有地ニ無償ニテ編入ス

第十四條　土地區劃整理ノ執行ニヨリ整理執行地區內ニ於テ公共ノ用ニ供セサル土地ノ總面積カ執行前ノ總面積ヨリ二割以上ヲ減少スルニ至リタルトキハ其ノ二割ヲ超ユル部分ニ對シ整理執行地區內ノ土地所有者又ハ關係人ニ補償金ヲ交付スルコトヲ要ス

第十五條　國都建設局長及新京特別市長ハ土地區劃整理ノ設計費用ノ負擔方法換地處分並ニ第十三條及前條ノ處分ニ關シテハ土地ノ所有者又ハ管理者及關係人ノ意見ヲ徵スルコトヲ要ス

第十六條　國都建設局長及新京特別市長ハ換地處分ヲ決定シタルトキハ之ヲ佈告シ既登記ノ不動產ニ付登記ヲ囑託シ且管轄徵稅官署ニ通知スヘシ

換地ハ前項佈告ノ日ヨリ之ヲ從前ノ地ト看做ス

第十七條　國都建設局長及新京特別市長ハ國都建設計畫事業ニ必要ナル土地又ハ建物ヲ收用又ハ使用スルコトヲ得

第十八條　國都建設局長ハ其ノ管理ニ屬スル國有ノ土地建物ノ中公用又ハ公共用ニ供セサルモノハ賣却又ハ貸付スルコトヲ得

第十九條　國都建設局長ハ國都建設計畫事業完了前ト雖國務總理ノ承認ヲ得テ其ノ執行セル國都建設計畫事業ニヨリ生シタル營造物ノ管理權ノ移轉ヲ爲スコトヲ得

第二十條　國都建設局長新京特別市長及首都警察總監ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令又ハ命令ニ基キテ爲ス處分ニ依リ命シタル行爲又ハ不行爲ヲ强制スル爲左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　自ラ義務者ノ爲スヘキ行爲ヲ爲シ又ハ第三者ヲシテ之ヲ爲サシメ其ノ費用ヲ義務者ヨリ徵收スルコト

二　强制スヘキ行爲ニシテ他人ノ爲スコト能ハサルモノナルトキ又ハ不行爲ヲ强制スヘキトキハ三十圓以下ノ怠金ニ處スルコト

第二十一條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ規定シタル事項ニ付キ官公署ノ爲シタル處分ニ不服アル者ハ處分決定後三十日以內ニ訴願スルコトヲ得

第二十二條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年四月二十六日）

●國都建設計畫法施行令

大同二年四月十九日
敎令第二十五號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ國都建設計畫法施行令ヲ制定シ之ヲ公布セシム

第一條　國都建設計畫法第五條ニ舊市街區域ト稱スルハ南滿洲鐵道附屬地境界線タル八島通朝日通交叉點ヨリ大經路東ニ馬路交叉點ヲ西南ニ曲リ五虎屯西門ヲ經テ伊通河西側ニ至リ南關外端ヨリ吉長鐵路西側ヲ經テ租界經ニ出テ朝日通八島通交叉點ニ至ル線以內ノ區域トス（別圖略照）

第二條　國都建設計畫法第十一條第十四條及第十五條ニ關係人ト稱スルハ地上權者永佃權者及典權者ヲ謂フ

第三條　國都建設計畫法第十五條ニ定ムル土地ノ所有者又ハ管理者及關係人ハ土地區劃整理執行地區佈告後二十日以內ニ住所氏名並ニ權利ノ種別及其ノ目的タル土地ノ所在ヲ具シ整理執行者ニ申告スヘシ

第四條　國都建設計畫法第十四條ノ補償金ハ國又ハ公共團體ニハ之ヲ交付セス

第五條　國都建設計畫法第十四條ノ補償金ノ總額ハ土地區劃整理執行前ニ於ケル其ノ地區內ノ宅地ノ平均價格ニ同條ノ規定ニ依ル二割ヲ超ユル部分ノ面積ヲ乘シタル額トス但シ前條ノ規定ナシトセハ國又ハ公共團體ニ交付スヘキ額ハ之ヲ控除ス

第六條　國都建設計畫法第十四條ノ補償金ハ同法第十六條佈告後一月以內ニ之ヲ交付ス

第七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年四月二十六日）

●哈爾濱特別市及其ノ隣接區域ニ於ケル土地ノ賣買ニ關スル件

大同二年八月二日
敎令第六十四號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ哈爾濱特別市及其ノ隣接區域ニ於ケル土地ノ賣買ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

哈爾濱特別市及其ノ隣接區域ニ於ケル土地ノ賣買ニ關スル件

第一條　北滿特別區長官、哈爾濱特別市長及哈爾濱特別市隣接縣長ハ土地ノ賣買ニ付契約註册若ハ國有貸下地權利移讓ノ申請アリタル場合ニ於テ該契約若ハ權利移讓カ將來ノ哈爾濱都市計畫施行上著シキ支障アリト認ムルトキハ之カ註册若ハ准許ヲ拒否スルコトヲ得

第二條　國又ハ哈爾濱特別市ニ於テ將來ノ哈爾濱都市計畫ニ必要ト認ムル土地ヲ買收セムトスルトキハ其ノ土地ノ所有者ハ正當ナル理由アル場合ヲ除クノ外之ヲ拒ムコトヲ得ス

第三條　前條ノ買收價格ハ大同二年二月二十八日以前ノ時價ヲ基準トシテ協定ニ依リ之ヲ定ム協定調ハサルトキハ民政部總長之ヲ裁定ス

第四條　本令ノ施行ニ必要ナル規定ハ民政部總長之ヲ定ム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年八月二日）

●陸地測量法

大同二年五月十日
敎令第四十號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ陸地測量法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

陸地測量法

第一條　本法ニ於テ測量ト稱スルハ國ニ於テ施行スル陸地ノ三角測量水準測量及地形測量ヲ謂ヒ測量標ト稱スルハ三角點標石水準點標石規標標杭測旗及假杭ヲ謂フ

第二條　測量官吏又ハ其ノ命シタル測量傭夫ハ測量施行ノ爲必要ナル土地ニ立入ルコトヲ得但シ鐵道用地燈臺用地建物敷地祠廟地又ハ墓地ニ立入ラントスルトキハ豫メ其ノ管理官公署又ハ所有者若ハ管理者及借地人アルトキハ該借地人ニ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ測量官吏又ハ測量傭夫ハ其ノ身分ヲ證明スヘキ證標ヲ携帶スヘシ

第三條　國縣市區村其ノ他ノ公共團體ノ所有ニ屬スル土地ニシテ公園地鐵道用地電柱敷地燈臺用地建物敷地祠廟地又ハ墓地ニ於テハ測量標ヲ設置スルコトヲ得ス但シ測旗又ハ假杭ノ設置ニ付テハ測量官吏ニ於テ當該管理官公署ニ豫メ之ヲ通知シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

測量官吏ハ前項ニ揭ケタルモノヲ除キタル國縣市區村其ノ他ノ公共團體ノ所有ニ屬スル土地ニ於テ豫メ當該管理官公署ニ通知シテ測量標ヲ設置スルコトヲ得

第四條　測量官吏ハ鐵道用地建物敷地祠廟地又ハ墓地ニ非サル私有地ニ標石ヲ設置スルコトヲ得

前項ノ場合國ハ標石敷地ノ寄附ヲ受ケ又ハ之ヲ收用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ標石敷地ヲ收用シタルトキハ其ノ所有權者及地上權者永佃權者又ハ典權者アルトキハ其ノ權利者ニ主管總長ノ相當ト認ムル補償金ヲ交付スルコトヲ要ス

第五條　測量官吏ハ私有地ニ於テ規標又ハ標杭ヲ設置スルコトヲ得

第六條　測量官吏ハ測量施行ノ爲障碍トナルヘキ園牆籬柵植物其ノ他ノ物ヲ已ムヲ得サル場合ニ限リ取除キ若ハ伐採スルコトヲ得但シ其ノ公園地鐵道用地燈臺用地建物敷地祠廟地又ハ墓地ニ在ルモノニ付テハ公有ニ屬スルモノハ其ノ管理官公署ニ私有ニ屬スルモノハ其ノ所有者又ハ占有者ニ豫メ之ヲ通知スルコトヲ要ス

前項ノ場合ニ於テ其ノ私有ニ屬スルモノニ付テハ其ノ所有者ニ主管總長ノ相當ト認ムル補償金ヲ交付スルコトヲ要ス

測量官吏ハ測量ノ爲必要アルトキハ樹上ニ規標ヲ設置スルコトヲ得

第七條　公共團體其ノ他ノ者ハ主管總長ノ許可ヲ得テ其ノ目的ニ從ヒ標石ヲ使用スルコトヲ得

第八條　標石ヲ移轉除却若ハ毀壞シ又ハ其ノ効用ヲ害シタル者ハ二年以下ノ有期徒刑又ハ六百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　規標又ハ標杭ヲ移轉除却毀損シ又ハ其ノ効用ヲ害シタルモノハ六月以下ノ有期徒刑又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　測旗又ハ假杭ヲ移轉除却毀損シ又ハ其ノ効用ヲ害シタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　測量標ニ瓦礫其ノ他ノ物ヲ擲チ獸類ヲ繫キ若ハ繩索ノ類ヲ懸ケ又ハ貼紙戲書其ノ他ノ惡戲ヲ爲シタルモノハ五圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第十二條　本法施行ノ細則ハ部令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　主管總長ハ區域ヲ指定シテ本法ニ依ル測量ノ執行ヲ委託スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ測量ノ委託ヲ受ケタルモノニ對シテハ本法及之ニ基ク命令中測量官吏ニ關スル規定ヲ其ノ使用スル測量傭夫ニ對シテハ測量官吏ノ命ヲ受ケタル測量傭夫ニ關スル規定ヲ準用ス

第十四條　本法ハ公布ノ日ニリ之ヲ施行ス（大同二年五月十日）

●古跡保存法

大同二年七月一日
敎令第五十六號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ古跡保存法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

古跡保存法

第一條　本法ニ於テ古跡ト稱スルハ古墳及城塞、雙闕臺、驛站、廟宇、陶窯等ノ遺址戰跡其ノ他史實ニ關係アル遺跡並ニ貝殼、石器、土器、骨角器類ヲ埋藏スル先史遺跡ヲ謂フ

第二條　古跡ヲ發見シタル者ハ遲滯ナク北滿特別區長官、特別市長、縣長又ハ市長其ノ他之ニ準スル官署ノ長官ニ届出ツヘシ

第三條　古跡ニシテ其ノ所有者ノ知レサルモノハ國ノ所有トス

第四條　古跡ノ調査ニ關シ必要アルトキハ當該吏員ハ他人ノ土地ニ立入リ土地ノ發掘、障碍物ノ撤去、標石標柱ノ建設等ノ行爲ヲ爲スコトヲ得

第五條　特ニ保存ノ必要アリト認ムル古跡ハ文敎部總長之ヲ指定ス

第六條　文敎部總長ハ指定古跡ノ保存ニ關シ地域ヲ定メテ一定ノ行爲ヲ禁止若ハ制限シ又ハ所有者若ハ管理者ニ一定ノ措置ヲ命スルコトヲ得

第七條　第四條ノ規定ニ依ル行爲又ハ前條ノ規定ニ依ル處分若ハ措置ニ依リ損害ヲ被リタル私人ニ對シテハ文敎部總長ハ其ノ相當ト認ムル補償ヲ爲スコトヲ得

第八條　文敎部總長ノ許可アル場合ヲ除クノ外古跡ノ現狀ヲ變更シ又ハ其保存ニ影響ヲ及ホスヘキ行爲ヲ爲スコトヲ得ス

國ニ於テ道路鐵道其ノ他公益ニ關スル事業ノタメ古跡ノ現狀ヲ變更スルノ必要ヲ生シタル場合ニ於テハ當該官廳ハ豫メ文敎部總長ト協議スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ未指定ノ古跡ニ限リ機宜ノ措置ヲ爲シ文敎部總長ニ其ノ旨通告スルコトヲ得

第九條　國有ノ指定古跡ハ文敎部總長之ヲ管理ス

公共用又ハ公用ニ供スル國有ノ指定古跡ノ管理ニ付テハ文敎部總長主管官署ト協議ノ上之ヲ定ム

第十條　第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ二十圓以下ノ怠金ニ處ス

第十一條　第六條ノ規定ニ依ル禁止若ハ制限ヲ侵シ又ハ同條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　第八條第一項ノ規定ニ違反シタル者ハ六月以下ノ有期徒刑拘役又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條　古跡ヲ損壞又ハ毀棄シタル者ハ五年以下ノ有期徒刑拘役又ハ千

罰以下ノ罰金ニ處ス

第十四條　本法施行ニ關シ必要ナル規定ハ文教部總長之ヲ定ム

附　則

第十五條　現ニ古跡ヲ所有シ又ハ管理スル者ハ本法施行後一年以內ニ北滿特別區長官、特別市長、縣長又ハ市長其ノ他之ニ準スル官署ノ長官ニ届出ツヘシ

前項ニ關シテハ第十條ノ規定ヲ準用ス

第十六條　本法ニ於テ文教部總長及縣長トアルハ興安省ニアリテハ興安總署總長及縣長又ハ旗長トス

第十七條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年七月一日）

第九輯　財　務

●興安分省公署會計事務處理臨時辦法章程

大同元年八月八日
興安總署令第三號
南
興安東分省公署ニ令ス
北

茲ニ興安分省公署會計事務處理臨時辦法章程ヲ制定シ同細則寫ヲ夫々送付致スニ付遵奉スヘシ此ニ令ス

興安分省公署會計事務處理臨時辦法章程

第一章　現金出納

第一條　現金ノ出納及保管ハ興安各分省總務廳會計科（以下單ニ總務廳會計科ト稱ス）ニ於テ執行スルモノトス

第二條　現金ノ出納及保管ハ總務廳會計科長之ヲ掌リ其ノ出納及保管ニ係ル一切ノ責任ハ總務廳長及會計科長之ヲ負フモノトス

第三條　現金ノ支拂要求ハ總テ支拂要求書ニ依リ興安各分省長（以下單ニ分省長ト稱ス）之ヲ爲シ總務廳長又ハ會計科長ノ認印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第四條　現金ノ支拂要求ハ令達ヲ受ケタル預算ノ範圍内タルコトヲ要ス

第五條　總務廳長及會計科長ハ讓メ自己ノ使用スル印鑑ヲ興安總署總長（以下單ニ總長ト稱ス）ニ届出置クヘシ

第六條　各分省長ハ總長ニ對シ令達ヲ受ケタル預算ノ範圍内ニ於テ支拂準備金ノ支拂ヲ要求スルコトヲ得

第七條　支拂準備金ハ俸給及酬金（以下人事費ト稱ス）ノ支拂ニ當ツルコトヲ得ス

第八條　現金ノ支拂ニ對シテハ必ス本人ノ受領證ヲ徵シ置クヘシ

第九條　支拂準備金ハ支拂ノ都度現金出納簿ニ記入シ常ニ現金殘高ト帳簿殘高トヲ符合セシメ置クヘシ

第十條　支拂準備金ノ收支ニ對シテハ毎月十日二十日月末現在ニ於ケル現金出納旬報（別紙添付樣式）ヲ作成シ之ニ證憑書類ヲ添付ノ上興安總署總務處會計科（以下單ニ總務處會計科ト稱ス）宛送付スヘシ

第十一條　人事費ノ支拂要求ハ毎月二十日迄ニ之ヲ爲シ支拂要求書ニハ別ニ定ムル明細書（政府公報第三號雜報欄揭載第二號樣式）ヲ添付スヘシ

第十二條　人事費ノ支拂ヲ受ケタルトキハ直ニ本人ニ交付シ本人ノ受領證ヲ徵シ置クヘシ

第二章　預　算

第十三條　預算ハ當分ノ間月割トシ毎月十日迄ニ翌月分ヲ編成シ總長ニ提出スヘシ

第十四條　預算ノ編成ハ總テ現大洋票ヲ以テ本位トシ所定ノ樣式（政府公報第三號雜報揭載第一號樣式）及暫定科目表（政府公報第三號雜報揭載第一號表）ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第十五條　預算ノ編成ニ當リ金額ノ算定ハ左記各項ニ依ルヘシ

一　俸給ハ臨時俸給令ニ依リ計算スルコト

二　人事費ハ既ニ就任シタル者及其ノ月就任スルコト確定シタル者ニ限リ之ヲ計上スルコト

三　月俸者ノ俸給ハ毎月月初メヨリ月末迄ヲ以テ一箇月分トシ日給者（傭員）ノ酬金ハ十六日ヨリ翌月十五日迄ヲ以テ一箇月分トス

四　新規採用者ノ俸給又ハ酬金ハ就任ノ日ヨリ日割ヲ以テ計算スルコト

五　物件費其ノ他ノ預算ハ數量單價ヲ記シ算出根據ヲ明ニスルコト

但シ複雜ナル件名ニ對シテハ文章ヲ以テ詳細ナル說明ヲ爲シ其ノ必要ナル事由ヲ明ニスルコト

第十六條　分省長ハ令達ヲ受ケタル預算ノ範圍内ニ於テ其ノ司掌スル經理ヲ爲スヘシ

第十七條　預算ノ各費目間ノ流用ハ之ヲ禁ス

第十八條　令達ヲ受ケタル預算ニシテ當該月内ニ決算不可能ノモノアルトキハ更ニ翌月ノ預算ニ計上シ認可ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テハ摘要欄ニ其ノ旨附記スルコトヲ要ス

第三章　決　算

第十九條　決算ハ毎月之ヲ行フモノトス

第二十條　月次決算ノ會計所屬ハ現金ニ在テリハ毎月初メヨリ月末迄トシ需用處配給品ニ在リテハ物品配給ノ所屬月次ニ依ル

第二十一條　分省長ハ毎月所管經費ノ支出ニ對シ決算表（別紙添付第二號表）ヲ作成シ翌月十日迄ニ總長ニ提出スヘシ

第二十二條　決算表ハ暫定科目別トシ令達豫算ト比較シテ其ノ增減ノ理由ヲ明記スヘシ

第二十三條　奧安各分省公署ハ左記帳簿ヲ備ヘ所屬管掌勘定ノ日次ノ增減ヲ明ニスヘシ

一　決算内譯簿

二　現金出納簿（支拂準備金ノ出納）

三　官有財產管理簿

四　物品出納簿

第二十四條　現金及物品ノ出納ハ各當該帳簿ニ記入スルト同時ニ一日分ヲ科目別ニ計算シ決算内譯簿ニ記入シ置クヘシ

第四章　物　品

第二十五條　物品ノ購入及官有財產ノ營繕ニ關スル要求ハ總テ令達ヲ受ケタル預算ノ範圍内ニ之ヲ爲スヘシ

第二十六條　營繕ノ必要アル場合ハ營繕申込用紙ニ要項ヲ記入シ責任者捺印ノ上總務處會計科長宛送付スヘシ

第二十七條　物品ノ配給ヲ受ケントスル場合ハ物品請求傳票ニ所要事項ヲ記入シ責任者捺印ノ上總務處會計科宛送付スヘシ

但シ前項ノ要求ハ緊急已ムヲ得サル場合ヲ除キ毎月十日二十日月末ノ三回ニ分チ一括シテ之ヲ爲スヘシ

第二十八條　分省長ハ物品ノ現地調達ヲ便益ナリト認メタル場合ニ限リ直接公署所在地ニ於テ物品ノ購入ヲナスコトヲ得

但シ前項ノ物品ニ對シテハ物品請求傳票ニ其ノ旨ヲ記載シ購入價格ヲ明記スヘシ

第二十九條　物品ノ配給ヲ受ケタル場合ハ責任者物品送付票ニ捺印シ遲滯ナク總務處會計科長宛回送スヘシ

第三十條　物品ノ出納ハ總テ品種別ニ所定ノ帳簿ニ記入シ常ニ其ノ殘高ト現品在高トヲ符合セシメ置クコトヲ要ス

第三十一條　物品ノ出納ニ關シテハ毎月必ス物品受拂月表ヲ作成シ翌月十日迄ニ總務處會計科長宛提出スヘシ

附　則

本章程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年八月十二日）

（各樣式略）

●物品會計規則

大同元年十一月九日
敎令第百六號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ物品會計規則ヲ制定シ之ヲ公布セシム

物品會計規則

第一章　總　則

第一條　本規則ニ於テ物品ト稱スルハ政府ニ屬スル工事材料機械器具備品消耗品其ノ他一切ノ動產ヲ謂フ但シ陸海軍ノ兵備ニ關スルモノ及ヒ法令ヲ以テ特ニ定ムルモノハ此ノ限ニアラス

第二條　政府ノ保管ニ屬スル物品ニシテ國務總理又ハ各部總長ノ特ニ指定スルモノハ本規則ヲ準用ス此ノ場合ニ於テハ國務總理又ハ各部總長ヨリ監察院ニ通知スヘシ

第三條　物品ノ會計ハ總テ年度ヲ以テ區分シ每年七月一日ヨリ翌年六月三十日ニ至ル十二箇月ヲ以テ一年度トス

第四條　物品ノ會計ハ現ニ物品ヲ出納シタル日ヲ以テ年度ノ所屬ヲ區分スヘシ

第二章　物品ノ購買供給及修理

第一節　通　則

第五條　物品ノ購買ハ凡テ國務總理之ヲ行フ但シ地方所在官署ノ長官ハ第十四條ノ貯藏物品ヲ除キ一廉一千圓未滿ノ物品ハ直接之ヲ購買スルコトヲ得

第六條　各官署ノ長官ハ需用緊急ニシテ請求ノ遑ナク且其ノ地ニ於テ調達シ得ル物品ハ直接之ヲ購買スルコトヲ得

前項ニ依リ物品ノ直接購買ヲ爲シタル場合ハ其ノ理由ヲ附シ遲滯ナク之ヲ國務總理及監察院ニ報告スヘシ

第七條　前二條ノ外各官署ノ長官ハ特別ノ理由アルトキハ國務總理ノ認可ヲ經テ物品ノ直接購買ヲ爲スコトヲ得

第八條　物品ノ修理ニ關シテハ本章ノ規定ヲ準用ス

第二節　供用物品

第九條　供用物品トハ國務總理ノ管理ニ屬シ各官署ニ配備シテ其ノ使用ニ供スル物品ヲ謂フ

供用物品ノ種類名稱及略記號ハ院令ヲ以テ之ヲ定ム

第十條　各官署ニ配備セラレタル供用物品ニ關シテハ其ノ配備ヲ受ケタル官署ノ物品出納官吏之カ保管ノ責ニ任スヘシ

第十一條　供用物品ノ帳簿及決算ハ國務總理ノ所管トス但シ特別會計ニ對シ配備セル供用物品ニ就テハ此ノ限ニアラス

第三節　貯藏物品

第十二條　貯藏物品トハ各官署ニ供給スル目的ヲ以テ國務院總務廳需要處ニ貯藏セラルル物品ヲ謂フ

貯藏物品ノ種類名稱及略記號ハ院令ヲ以テ之ヲ定ム

第十三條　國務總理ハ必要ナル地方ニ貯藏物品ノ分藏ヲ爲スコトヲ得

第十四條　國務總理ハ必要ナルトキハ貯藏物品貸付又ハ拂下スルコトヲ得

第三章　不用物品

第十五條　各官署ニ於テ不用トナリタル物品ハ遲滯ナク國務總理ニ戻納スヘシ但シ戻納ヲ爲ス能ハサル事由アルトキハ其ノ處置ニ關シ國務總理ノ指揮ヲ乞フヘシ

第十六條　國務總理特別會計ニ屬スル不用物品ノ戻納ヲ受ケタルトキハ其ノ受入價格ヲ定メテ之ヲ當該特別會計ニ拂込ムヘシ

前項ノ受入價格ハ戻納物品ノ現狀ニ於ケル利用價値又ハ處分價値ヲ超ユルコトヲ得ス

第十七條　戻納物品ハ之ヲ再用品及處分品ニ選別スヘシ

處分品ハ適當ノ時機ニ於テ之ヲ賣却處分ニ付スヘシ

再用品ニシテ賣却ヲ有利ト認ムルモノハ適當ノ時機ニ於テ賣却處分ニ付スコトヲ得

第四章　物品出納官吏

第十八條　物品ヲ保管シ之カ出納ヲ掌ル者ヲ物品出納官吏トス

第十九條　物品出納官吏ハ國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏之ヲ命ス

第二十條　國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ必要アル場合ニ於テハ物品出納官吏ノ代理官又ハ分任官ヲ置クコトヲ得

前項代理官ハ物品出納官吏ノ事務ノ全部ヲ代行シ分任官ハ其ノ一部ヲ分掌スルモノトス

第二十一條　國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ特ニ指定スル場合ニ限リ其ノ官署ノ事務員ヲシテ物品出納官吏所屬ノ物品出納員トシテ物品ノ出納保管ニ關スル事務ヲ分掌セシムルコトヲ得

第二十二條　物品出納官吏ニ關スル規定ハ物品出納員ニ之ヲ準用ス

第二十三條　物品出納官吏其ノ代理官若ハ分任官又ハ物品出納員ハ法令ニ據リタル命令アルニ非サレハ物品ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第二十四條　各官吏以下ノ使用ニ供シタル物品ノ亡失毀損ニ就テハ物品出納官吏ハ合規ノ監督ヲ怠リタル場合ノ外ハ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得

第二十五條　物品出納官吏ハ其ノ責任ニ屬スル物品ノ出納保管ニ付自ラ事務ヲ執ラサリシコトヲ理由トシテ其ノ責ヲ免ルルコトヲ得ス但シ其ノ代理官分任官又ハ物品出納員ノ行爲ニ就テハ此ノ限ニ在ラス

第五章　物品ノ出納保管檢査

第二十六條　國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ檢査ノ官吏ヲ指命シ毎年度末ニ於テ物品出納官吏其ノ代理官若ハ分任官又ハ物品出納員ノ保管スル帳簿及物品ノ全部ヲ精細ニ檢査セシメ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

第二十七條　國務總理又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ必要ト認ムルトキハ臨時ニ檢査ノ官吏ヲ指命シ物品出納官吏其ノ代理官若ハ分任官又ハ物品出納員ノ保管スル帳簿及物品ヲ檢査セシメ其ノ調書ヲ作成セシムルコトヲ得

第二十八條　前二條ノ調書ニハ檢査官吏及檢査ヲ受ケタル官吏若ハ事務員又ハ特ニ命セラレタル立會官吏之ニ署名スヘシ

第二十九條　物品ノ出納ニ關シテハ凡テ監察院ノ審定ヲ受クヘシ

第三十條　本規則ニ關スル事務取扱ニ就テハ院令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十一條　本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十一月九日）

●供用物品ノ種類名稱及略記號ニ關スルノ件

大同元年十一月九日
國務院令第十五號

玆ニ供用物品ノ種類名稱及略記號ニ關スルノ件ヲ制定シ之ヲ公布ス

教令第一百六號物品會計規則第二章第二節第九條ニ依ル供用物品ノ種類名稱及略記號ヲ左表ノ通リ定ム

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十一月九日）

（供用物品表略）

●供用物品取扱細則

大同元年十一月九日
國務院令第十六號

玆ニ供用物品取扱細則ヲ制定シ之ヲ公布ス

供用物品取扱細則

第一條　各官署ノ長官ハ翌年度ニ於テ配備ヲ必要トスル供用物品ノ種類名稱略記號用途員數及所要期限ヲ具シ經常費預算提出締切期日一ケ月前迄ニ國務院總務廳需用處長（以下需要處長ト稱ス）ニ請求スヘシ

前項ノ期限經過後供用物品ノ配備ヲ必要トスル事情生シタルトキハ各官署ノ長官ハ理由ヲ具シ前項ニ準シ追加請求ヲ爲スコトヲ得

第二條　需用處長ハ前條ノ請求ニ基キ供用物品ニ關スル豫定經費要求書又ハ追加豫定經費要求書ヲ作成スヘシ

前項ノ豫定經費要求書又ハ追加豫定經費要求書ニハ供用物品査定表（樣式第一號）ヲ添附スヘシ

第三條　供用物品ニ關スル豫算又ハ追加豫算決定シタルトキハ需用處長ハ各官署ニ對スル配備計畫ヲ決定シ供用物品通知書（樣式第二號）ニ依リ請求官署ニ通告スヘシ

第四條　前條ノ通告ニ依リ供用物品ノ配備ヲ受ケムトスル官署ハ供用物品請求書（樣式第三號）ニ依リ物品出納官吏捺印ノ上需用處長ニ請求スヘシ

第五條　需用處長前條ノ請求アリタルトキハ之カ配備ヲ爲スヘシ但シ需用處長ハ必要アリト認メタルトキハ請求官署長官ニ對シ現地ニ於テ之カ購入及配備ヲ委任スルコトヲ得

第六條　前條ニ依リ供用物品ノ配備ヲ受ケタルトキハ該官署ノ物品出納官吏ハ需用處長ニ供用物品保管證（樣式第四號）ヲ提出スヘシ

第七條　需用處長ハ供用物品管理臺帳（樣式第五號）ヲ備ヘ其ノ異動ヲ明ニスヘシ

第八條　各官署ノ長官ハ供用物品ニシテ不用トナリ又ハ長期ニ亘リテ使用セサルモノアルトキハ供用物品交回書（樣式第六號）ヲ添附シ之ヲ需用處長ニ戻納シ供用物品保管證ノ返付ヲ受クヘシ

供用物品保管證記載ノ員數ノ一部ヲ戻納シタルトキハ供用物品保管證ノ訂正ヲ受クヘシ

第九條　各官署ノ物品出納官吏ハ其ノ保管スル供用物品ノ管守ヲ嚴ニシ其ノ異狀アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ需用處長ニ通知スヘシ

第十條　各官署ノ物品出納官吏ハ毎年度末現在ニ於テ左ノ各號ヲ明瞭ニセル供用物品保管狀況報告書ヲ需用處長ニ提出スヘシ

一　供用物品保管證番號
二　種類名稱略記號
三　員　數
四　配備箇所及配備年月日
五　現在ノ狀況

第十一條　特別會計ニ對シ供用物品ヲ配備シタルトキハ供用物品管理臺帳所載ノ拂出價格ヲ該特別會計ヨリ徵收スヘシ

特別會計ヨリ供用物品ノ戻納ヲ受ケタルトキハ現品ニ就キ受入價格ヲ査定シテ供用物品管理臺帳ニ受入整理シ該特別會計ニ其ノ査定價格ヲ拂込ムヘシ

第十二條　本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十一月九日）

（樣式略）

●貯藏物品ノ種類名稱及略號ノ件

大同二年三月四日
國務院令第四號

玆ニ貯藏物品ノ種類名稱及略號ノ件ヲ制定シ之ヲ公布ス

貯藏物品ノ種類名稱及略號ノ件

大同元年教令第百六號物品會計規則第十二條ニ依リ貯藏物品ノ種類名稱及略號ヲ別表ノ如ク規定ス

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス（大同二年三月六日）

（別表略）

●政府契約規則

大同二年七月十二日
教令第五十八號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ政府契約規則ヲ制定シ之ヲ公布セシム

政府契約規則

第一章　總　則

第一條　政府ニ於テ賣買、貸借、請負其ノ他ノ契約ヲ爲ス場合ニ於テハ法律又ハ教令ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外本規則ノ規定ニ依ル

第二條　官署長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ契約ノ目的、履行期限、保證金額、契約違反ノ場合ニ於ケル保證金ノ處分方法、危險ノ負擔其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル契約書ヲ作成スヘシ

第三條　前條ノ契約書ニハ之ヲ作成シタル官吏署名捺印スヘシ

第四條　官署長ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ第二條ノ規定ニ依ル契約書ノ作製ヲ省略スルコトヲ得

一　物品ノ賣拂ノ場合ニ於テ買受人直ニ代金ヲ納付シ其ノ物品ヲ引取ルトキ

二　慣習ニ依リ契約書ニ代ルヘキ文書ヲ有スルトキ

第五條　政府ト契約ヲ爲ス者ハ現金又ハ國債證券ヲ以テ契約金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納付スヘシ

指名競爭契約若ハ隨意契約ニ依ル場合又ハ前條第一號ニ揭クル場合ニ於テハ官署長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ保證金ノ全部又ハ一部ヲ免除スルコトヲ得

第六條　政府ト契約ヲ爲シタル者其ノ義務ヲ履行セサルトキハ契約ニ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外保證金ハ政府ノ所得トス

第七條　政府ニ屬スル財產ノ賣拂ヲ爲ストキハ其ノ引渡前又ハ移轉ノ登錄若ハ登記前其ノ代金ヲ完納セシムヘシ

政府ニ屬スル財產ノ貸付ヲ爲ストキハ其ノ貸付料ヲ前納セシムヘシ但シ貸付期間ノ長期ニ涉ルモノニ付テハ每年定期ニ之ヲ納付セシムルコトヲ得

第八條　官署長千圓ヲ超ユル工事若ハ製造ヲ請負ハシメ又ハ物件ノ買入ヲ爲シタルトキハ竣工又ハ完納ノ後之ヲ監督又ハ檢査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ其ノ調書ヲ作成セシムヘシ

官署長契約ニ依リ工事若ハ製造ノ既濟部分又ハ物件ノ既納部分ニ對シ完濟前又ハ完納前代價ノ一部分ヲ支拂ハムトスルトキハ之ヲ檢査シタル官吏又ハ技術者ヲシテ調書ヲ作成セシムヘシ

前各項ノ調書ニ依ルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス

第九條　前條第二項ノ支拂ヲ爲サムトスルトキハ其ノ支拂金額ハ工事又ハ製造ニ付テハ既濟部分ニ對スル代價ノ十分ノ九物件ノ買入ニ付テハ既納部分ニ對スル代價ヲ超ユルコトヲ得ス

第十條　前二條ノ規定ハ工事又ハ製造以外ノ請負契約ノ全部又ハ一部ノ履行ニ對シ支拂ヲ爲サムトスル場合ニ之ヲ準用ス

第二章　一般競爭契約

第十一條　翌年度以降ニ涉ル契約ヲ爲サムトスル場合ニ於テハ官署長ハ理由書並契約金額及其ノ計算ノ基礎ヲ明ニシタル文書ヲ提出シテ國務總理ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

第十二條　官署長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏契約ヲ爲サムトスルトキハ別段ノ定メアル場合ヲ除クノ外一般競爭契約ニ依ルコトヲ要ス

第十三條　官署長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ左ノ各號ノ一ニ該當スト認メタル者ヲ二年間一般競爭ニ加ハラシメサルコトヲ得

一　契約ヲ履行スルニ當リ故意ニ工事、製造若ハ物件ヲ粗雜ニシ又ハ物件ノ品質數量ニ關シ欺罔ノ處爲ヲ爲シタル者

二　競爭ニ際シ不當ニ價額ヲ競上ケ又ハ競下クル目的ヲ以テ連合ヲ爲シタル者

三　競爭ノ加入ヲ妨害シ又ハ競落者ノ契約締結若ハ契約ノ履行ヲ妨害シタル者

四　檢查又ハ監督ニ際シ係員ノ職務執行ヲ妨ケタル者

五　正當ノ理由ナクシテ契約ヲ履行セサリシ者

六　前各號ノ一ニ該當スト認メラレタル後二年ヲ經過セサル者ヲ契約ニ際シ代理人、支配人、番頭、手代又ハ技術者トシテ使用シタル者

第十四條　一般競爭ハ第二十四條ニ規定スル場合ヲ除クノ外總テ入札ノ方法ヲ以テ之ヲ行フコトヲ要ス

第十五條　入札ヲ爲サムトスル者ハ現金又ハ國債證券ヲ以テ見積金額百分ノ五以上ノ保證金ヲ納ムヘシ

第十六條　落札者契約ヲ結ハサルトキハ保證金ハ政府ノ所得トス

第十七條　入札ノ方法ニ依リ競爭ニ付セムトスルトキハ入札期日ノ前日ヨリ起算シ少クトモ十日前ニ政府公報、入札地ニ於テ發行スル新聞紙上ニ揭示其ノ他ノ方法ヲ以テ公告スヘシ但シ急ヲ要スル場合ニ於テハ其ノ期間ヲ五日迄ニ短縮スルコトヲ得

第十八條　前條ノ公告ニハ左ニ揭クル事項ヲ明記スヘシ

一　入札ニ付スル事項

二　契約條項ヲ示ス場所

三　入札執行ノ場所及日時

四　入札ノ保證金額

第十九條　官署長又ハ其ノ委任ヲ受ケタル官吏ハ入札ニ付スル事項ノ豫定價額ヲ封書トシ開札ノトキ之ヲ開札場所ニ置クヘシ

第二十條　開札ハ公告ニ示シタル場所及日時ニ入札者ノ面前ニ於テ之ヲ行フコトヲ要ス但シ開札ノ際入札者ノ全部又ハ一部出席セサルトキハ入札又ハ開札ニ關係ナキ官吏ヲシテ開札ニ立會ハシメテ開札ヲ爲スコトヲ得

入札者一旦入札シタルトキハ入札書ノ取換若ハ變更又ハ入札ノ取消ヲ爲スコトヲ得ス一般競爭ニ加入スル資格ナキ者ノ爲シタル入札又ハ入札ニ關スル條件ニ違反シタル入札ハ無效トス

第二十一條　開札ノ場合ニ於テ各入札者ノ入札價額第十九條ノ規定ニ依ル豫定價額ノ制限ニ達シタルモノナキトキハ直ニ再度ノ入札ヲ爲サシムルコトヲ得

第二十二條　二人以上ノ入札者ノ入札價額落札トナルヘキ價額ニシテ同額ナルトキハ直ニ抽籤ヲ以テ落札者ヲ定ムヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該入札者中出席セサル者又ハ抽籤ヲ爲ササル者アルトキハ開札又ハ入札ニ關係ナキ官吏ヲシテ之ニ代リ抽籤ヲ爲サシムルコトヲ要ス

第二十三條　入札者若ハ落札者ナキ場合又ハ落札者契約ヲ結ハサル場合ニ於テ更ニ入札ニ付セムトスルトキハ第十七條ノ期間ハ五日迄ニ之ヲ短縮スルコトヲ得

第二十四條　官署長動產ノ賣拂ニ付特別ノ事由ニ因リ必要アリト認ムル場合ニ於テハ本章ノ規定ニ準シ隨意ニ付スルコトヲ得

第三章　指名競爭契約

第二十五條　左ニ揭クル場合ニ於テハ指命競爭契約ニ依ルコトヲ得

一　一般競爭入札ニ付スルヲ不利益ト認ムヘキ特殊ノ事由アルトキ

二　契約ノ性質又ハ目的ニ依リ競爭ニ加ルヘキ者少數ニシテ一般ノ競爭ニ付スル必要ナキトキ

三　五千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ノ請負又ハ財產ノ買入ヲ爲ストキ

四　賃借料ノ年額又ハ總額二千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

五　第二十八條第七號以下ニ揭クル場合

第二十六條　指命競爭ニ付セムトスルトキハ成ル可ク五人以上ノ入札者ヲ指定スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十八條各號ニ規定シタル事項ヲ各入札者ニ通知スヘシ

第二十七條　第十三條乃至第十六條及第十九條乃至第二十二條ノ規定ハ指名競爭契約ノ場合ニ之ヲ準用ス

第四章　隨意契約

第二十八條　左ニ揭クル場合ニ於テハ隨意契約ニ依ルコトヲ得

一　競爭ニ付スルヲ不利益ト認ムヘキ特殊ノ事由アルトキ

二　契約ノ性質又ハ目的カ競爭ヲ許ササルトキ

三　急迫ノ必要アルタメ競爭ニ付スルノ暇ナキトキ

四　特ニ秘密ヲ要スルトキ

五　三千圓ヲ超エサル工事若ハ製造ノ請負又ハ二千圓ヲ超エサル財產ノ買入ヲ爲ストキ

六　賃借料ノ年額又ハ總額千圓ヲ超エサル物件ノ借入ヲ爲ストキ

七　豫定賃貸料ノ年額又ハ總額三百圓ヲ超エサル物件ノ貸付ヲ爲スト

キ

八　豫定代價五百圓ヲ超エサル財產ノ賣拂ヲ爲ストキ

九　勞力ノ供給ヲ請負ハシムルトキ

十　運送又ハ保管ヲ爲サシムルトキ

十一　農工場學校試驗場刑務所其ノ他之ニ準スルモノノ生產又ハ製造ニ係ル物品ノ賣拂ヲ爲ストキ

十二　法律又ハ敎令ノ規定ニ依リ財產ノ讓與又ハ無償貸付ヲ爲シ得ル者ニ財產ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十三　非常災害ノ場合罹災者ニ政府ニ屬スル建築材料ノ賣拂ヲ爲スト

キ

十四　外國ニ於テ契約ヲ爲ストキ

十五　公法人公益法人產業組合又ハ慈惠ノ爲ニ設立セラレタル敎育所ヨリ直接ニ物件ノ買入又ハ借入ヲ爲ストキ

十六　移住地內ニ於ケル土木事業ヲ其ノ移住民ノ共同請負ニ付スルトキ

十七　學術又ハ技藝ノ保護奬勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ

十八　產業又ハ拓殖事業ノ保護奬勵ノ爲之ニ必要ナル物件ノ賣拂又ハ貸付ヲ爲ストキ又ハ生產者ヨリ直接ニ其ノ生產若ハ製造ニ係ル物件ノ買入ヲ爲ストキ

十九　公用、公共用又ハ公益事業ニ供スル爲之ニ必要ナル物件ヲ公共團體又ハ起業者ニ直接ニ賣拂又ハ貸付クルトキ

二十　建造物又ハ土地林野若ハ其ノ產物ヲ之ト特別ノ緣故アル者ニ賣拂又ハ貸付クルトキ

二十一　事業經營上他品ヲ以テ代ヘ難キ物品ノ買入ヲ爲シ若ハ製造ヲ爲サシメ又ハ土地建造物ノ借入ヲ爲ストキ

二十二　法律又ハ敎令ノ規定ニ依リ問屋業者ニ販賣ヲ委託スルトキ又ハ之ヲシテ販賣ヲ爲サシムルトキ

二十三　前各號ニ揭ケサル事項ニ付金額千圓ヲ超エサル契約ヲ爲スト

キ

第二十九條　競爭ニ付スルモ入札者ナキトキ又ハ再度ノ入札ニ付スルモ落札者ナキトキハ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ保證金及期限ヲ除クノ外最初入札ニ付スルトキ定メタル價額其ノ他ノ條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十條　落札者契約ヲ結ハサルトキハ其ノ落札金額ノ制限內ニ於テ隨意契約ニ依ルコトヲ得但シ期限ヲ除クノ外最初入札ニ付スルトキ定メタル條件ヲ變更スルコトヲ得ス

第三十一條　前二條ノ場合ニ於テ豫定價格又ハ落札金額ヲ分割計算シ得ル場合ニ限リ該價格又ハ金額制限內ニ於テ之ヲ數人ニ分割シテ契約ヲ爲ス

コトヲ妨ケス

第三十二條　隨意契約ニ依ラムトスルトキハ成ルヘク二人以上ヨリ見積書ヲ徵スヘシ

第五章　雜　則

第三十三條　本規則中國債證券ヲ以テ保證金ヲ納付セシムルトキハ其ノ額面金額ヲ以テ計算スルコトヲ要ス

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年七月十二日）

●雜種財産取扱規程

大同二年七月六日
財政部令第十六號

國有財産法ノ規定ニ基キ雜種財産取扱規程左ノ通定ム

雜種財産取扱規程

第一條　雜種財産ノ管理及處分ハ株式及出資ニ因ル財産權ヲ除クノ外本規程ニ依リ省長及興安分省長之ヲ取扱フヘシ但シ新京特別市ノ行政區域内ニ在リテハ此ノ限リニ在ラス縣長及旗長ハ前項ノ事務ニ付省長及興安分省長ヲ補助スヘシ

第二條　省長及興安分省長ハ常ニ所轄内ニ於ケル雜種財産ノ狀況ニ注意スヘシ

第三條　省長及興安分省長無主ノ不動産ヲ發見又ハ聞知シタルトキハ調査ノ上雜種財産臺帳ニ登錄スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ其ノ旨財政部總長ニ報告スヘシ

第四條　各官署長ヨリ雜種財産ノ引繼ヲ受クル場合ニ於テハ成ルヘク實地調査ノ上之ヲ爲スヘシ

第五條　雜種財産ノ賣拂ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ財政部總長ニ稟請スヘシ

一　臺帳記載事項及圖面
二　賣拂價額評定調書
三　代金納付ノ方法及時期
四　隨意契約ニ依リ特定ノ者ニ賣拂ヲ爲スノ必要アル場合ニ於テハ其ノ相手方及事由
五　賣拂ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件
六　其ノ他參考トナルヘキ事項

前項第二號ノ調書ハ賣買實例精通者ノ意見其ノ他ノ資料ニ依リ成ルヘク詳細ニ記載スヘシ

第六條　雜種財産ノ讓與ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ財政部總長ニ稟請スヘシ

一　臺帳記載事項及圖面
二　讓與スヘキ財産ノ見積價格
三　讓與ノ相手方及讓與ヲ必要トスル事由
四　讓與ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件
五　其ノ他參考トナルヘキ事項

第七條　雜種財産ノ交換ヲ爲サムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ財政部總長ニ稟請スヘシ

一　臺帳記載事項及圖面

二　交換ニ依リテ取得スヘキ物件ノ種目所在及數量
三　目的物ノ價格評定調書
四　交換ノ相手方及交換ヲ必要トスル事由
五　交換ニ附帶シテ條件ヲ定ムヘキ場合ニ於テハ其ノ條件
六　其ノ他參考トナルヘキ事項

第五條第二項ノ規定ハ前項第三號ノ調書ニ付之ヲ準用ス

第八條　寄附其ノ他ノ名義ニテ雜種財産ヲ取得セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ財政部總長ニ稟請スヘシ

一　財産ノ所在種目數量見積價格及圖面
二　相手方及取得ノ事由
三　條件アルモノニ付テハ其ノ條件
四　其ノ他參考トナルヘキ事項

第九條　雜種財産ヲ貸付セムトスルトキハ左ノ事項ヲ具シ財政部總長ニ稟請スヘシ

貸付期間ヲ更新セムトスルトキ及貸付料其ノ他ノ契約條項ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　臺帳記載事項及圖面
二　貸付スヘキ財産ノ見積價格
三　貸付ノ目的
四　貸付料ニ關スル調書
五　貸付期間其ノ他ノ條項
六　繼續貸付ノ場合ニ於テハ前貸貸料

前項ノ場合ニ於テ無償貸付ヲ爲ス必要アルトキ及隨時契約ニ依ラムトスルトキハ其ノ事由ヲ具申スヘシ

第十條　前條ノ規定ハ貸付ニ依ラスシテ雜種財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條　賣拂讓與及ヒ交換契約ヲ解除セムトスルトキ又ハ之ニ附帶シテ定メタル條件ヲ變更セムトスルトキハ其ノ事由ヲ具シ財政部總長ニ稟請スヘシ

第十二條　雜種財産ノ管理及處分ニ關シ地方法院ニ出訴スルノ必要アルトキハ事由ヲ具シ財政部總長ニ報告スヘシ

第十三條　雜種財産ノ臺帳ハ省公署及興安分省公署ニ之ヲ備ヘ縣公署及旗公署ニハ其ノ副本ヲ備フヘシ

第十四條　臺帳ニ附屬セシムヘキ圖面ハ重要ナラサル財産ニ係ルモノト雖モ漸次之ヲ調製スヘシ

第十五條　雜種財産ニ增減異動ヲ生シタルトキハ遲滯ナク之ヲ臺帳ニ登錄シ附屬圖面ヲ補修スヘシ

第十六條　雜種財産ヲ臺帳ニ登錄シタルトキハ決議書類調査書類其ノ他ノ關係書類ニ登錄濟ノ年月日ヲ記載シ主任官吏之ニ認印スヘシ

第十七條　省公署及興安分省公署ニ第一號樣式ニ據ル雜種財産貸付簿ヲ備ヘ雜種財産ニ付爲シタル貸付及貸付ニ準スヘキ契約ニ關スル事項ヲ登載整理スヘシ

第十八條　省公署及興安分省公署ニ第二號樣式ニ據ル貸付料金收納簿ヲ備ヘ貸付料金及使用收益料ノ徵收ニ關シ整理ヲ爲スヘシ

第十九條　左ニ揭クル場合ニ於テハ其ノ都度處理方針又ハ處理經過ヲ具シ財政部總長ニ報告スヘシ

一　各官署ニ於テ公用財産、公共用財産、林業財産又ハ鑛業財産トシテ管理スルモノノ內雜種財産ト爲スヘキモノヲ發見シタル時

二　雜種財産ニ付地方法院ニ出訴スルモノアリタルトキ及其ノ判決アリタルトキ

三　第五條及第九條ノ禀請ニ關シ入札ニ依ル賣拂又ハ貸付ノ指令ヲ受ケタル者ニ付入札ヲ執行シタルトキ及政府契約規則第二十九條ノ規定ニ依リ隨意契約ヲ締結シタルトキ

四　其ノ他雜種財産ニ付重要ナル事項ヲ生シタルトキ

第二十條　議決機關ノ決議ヲ要スル事項又ハ監督官廳ノ許可ヲ要スヘキ事項ノ出願ニ付テハ其ノ決議書及許可書ノ謄本ヲ提出セシムヘシ

第二十一條　雜種財産タル不動産ニ付賣拂讓與又ハ交換ヲ爲シタルトキハ國有地處分執照發給規則ノ定ムル所ニ依リ遲滯ナク執照ヲ發給シ其ノ登記ヲ所轄登記官署ニ囑託スヘシ

第二十二條　本規程ハ商租權ノ設定ニ付之ヲ準用ス

附　則

本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年七月十日）

●國有財産法

大同二年七月五日
教令第五十七號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ國有財産法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

國有財産法

第一條　本法ニ於テ國有財産ト稱スルハ國有ニ屬スル不動産竝左ニ揭クル動産及權利ヲ謂フ

一　總噸數二十噸又ハ積量二百擔以上ニシテ櫓櫂ヲ以テ主要ナル運轉方法ト爲ササル船舶

二　工場內ノ機械及重要器具

三　地上權地役權鑛業權及其ノ他物權的性質ヲ有スル權利

四　株式及出資ニ因ル財産權

前項第二號ニ揭ケタルモノノ範圍ニ付テハ財政部總長主管官署長ト協議シテ之ヲ定ム

第二條　國有財産ヲ分チテ左ノ五種トス

一　公用財産　國ニ於テ國ノ事務若ハ事業ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

二　公共用財産　國ニ於テ直接公共ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

三　林業財産　國ニ於テ林業經營ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

四　鑛業財産　國ニ屬スル鑛業權並國ニ於テ鑛業經營ノ用ニ供シ又ハ供スルモノト決定シタルモノ

五　雜種財産　前各號ニ屬セサルモノ

第三條　公用財産及公共用財産ハ國務總理各部總長及興安總署總長ヲ以テ主管官署長トス其ノ主管ノ範圍ハ國務總理之ヲ定ム

林業財産及鑛業財産ハ實業部總長及興安總署總長ヲ以テ主管官署長トス雜種財産ハ財政部總長ヲ以テ主管官署長トス但シ別段ノ協定アル場合ハ此ノ限ニ在ラス

國有財産ニ關スル總轄事務ハ財政部總長之ヲ行フ

第四條　主管官署長雜種財産以外ノ國有財産ノ用途ヲ廢止シタルトキハ特ニ財政總長ト協定シタルモノヲ除クノ外之ヲ財政部總長ニ引繼クヘシ

第五條　雜種財産ヲ取得シタル官署長ハ特ニ財政部總長ト協定シタルモノヲ除クノ外之ヲ財政部總長ニ引繼クヘシ

第六條　國有財産ノ管理換ヲ爲サムトスルトキハ主管官署長間ニ於テ協議ノ上財政部總長ト協議スヘシ

第七條　主管官署長土地又ハ土地ニ關スル物權的權利ヲ取得シタルトキハ遲滯ナク之ヲ財政部總長ニ通知スヘシ

第八條　公用財産及公共用財産ハ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シ或ハ之ニ私權ヲ設定スルコトヲ得ス但シ其ノ用途ヲ妨ケサル限度ニ於テ他人ヲシテ使用又ハ收益ヲ爲サシムルハ此ノ限リニ在ラス

第九條　公用財産及公共用財産以外ノ國有財産ニ付賣拂讓與又ハ交換ヲ爲サムトスルトキハ主管官署長ハ豫メ財政部總長ト協議スヘシ

第十條　公用財産及公共用財産以外ノ國有財産ハ左ニ揭クル場合ニ限リ之ヲ讓與スルコトヲ得

一　公共團體ニ於テ公用又ハ公共用ニ供スル爲必要アルトキ

二　公共團體又ハ私人ニ於テ公共用財産ノ用途ニ代ルヘキ他ノ施設ヲ爲シタル爲其ノ用途ヲ廢止シ雜種財産トナシタル場合ニ於テ之ヲ其ノ施設ヲ爲シタル者ニ讓與スルトキ

第十一條　公用財産及公共用財産以外ノ國有財産ハ國、公共團體又ハ私人ニ於テ公用、公共用若ハ公益事業ノ用ニ供スル爲必要アルトキハ之ヲ他ノ同種ノ財産ト交換スルコトヲ得但シ評定價格ノ差額カ其ノ高價ナルモノノ價格ノ五分ノ一ヲ超ユルトキハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ其ノ價格均シカラサルトキハ金錢ヲ以テ補足スヘシ

第十二條　用途及之ニ關スル期間ヲ指定シテ國有財産ノ賣拂、讓與又ハ交換ヲ爲シタル場合ニ於テ指定期間內ニ之ヲ其ノ用途ニ供セス又ハ其ノ用途ヲ廢止シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

第十三條　國有財産ノ賣拂代金又ハ交換差金ハ財産引渡前之ヲ納付セシムヘシ但シ必要ト認ムルトキハ延納ヲ許可スルコトヲ得

第十四條　國有財産ヲ貸付スル場合ニ於テハ左ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

一　土地、建物以外ノ土地ノ定着物及ヒ鑛業權ニ付テハ三十年

二　建物其ノ他ノ物件ニ付テハ三年

貸付期間ハ之ヲ更新スルコトヲ得但シ更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトヲ得ス

第十五條　國有財産ハ公用、公共用若ハ公益事業ノ用ニ供スル爲必要アル場合及法律又ハ敎令ニ特別ノ規定アル場合ヲ除クノ外無償ニテ之ヲ貸付スルコトヲ得ス

第十六條　國有財産ノ貸付料ハ每年定期ニ之ヲ納付スヘシ但シ數年分ヲ前納スルコトヲ得

第十七條　國有財産ノ貸付期間內ニ公用、公共用若ハ公益事業ノ用ニ供スル爲必要ヲ生シタルトキハ政府ハ其ノ契約ヲ解除スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ契約ヲ解除シタル場合ニ於テハ借受人ハ之ニ因リテ生シタル損害ニ付キ賠償ヲ求ムルコトヲ得

第十八條　貸付期間ノ終了又ハ貸付契約ノ解除ニ當リ政府ニ於テ時價ヲ提供シ其ノ財産ノ上ニ存スル建物其ノ他ノ物件ヲ買取ルヘキ旨通知シタル

トキハ其ノ所有者ハ正當ノ理由ナクシテ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第十九條　貸付ニ關スル規定ハ貸付ニ依ラスシテ他人ヲシテ國有財産ノ使用又ハ收益ヲ爲サシムル契約ニ之ヲ準用ス

第二十條　國有地ノ商租ニ關シテハ賣拂、讓與、交換又ハ貸付ニ關スル規定ヲ準用ス

第二十一條　公用財産及公共用財産以外ノ國有財産ハ之ヲ出資ノ目的トナス場合ニ於テハ主管官署長ハ豫メ財政部總長ノ協議スヘシ

國有財産ヲ出資ノ目的トナス場合ニ於テハ主管官署長ハ豫メ財政部總長ト協議スヘシ

第二十二條　國有財産ニ關スル事務ニ從事スル職員ハ其ノ取扱ニ係ル國有財産ノ賣拂、讓與又ハ貸付ヲ受ケ或ハ之ト自己ノ所有物トノ交換ヲ受クルコトヲ得ス但シ本屬長官ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　主管官署長ハ其ノ所管ニ屬スル國有財産ニ付財政部總長ノ定ムル所ニ依リ臺帳ヲ備フヘシ

前項ノ規定ハ公共用財産ニ付テハ之ヲ適用セス

第二十四條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年七月五日）

附　則

第二十五條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年七月五日）

第二十六條　本法施行ノ際ニ於テ雜種財産ヲ管理スル官署ハ第四條ノ規定ニ準シ本法施行ノ日ノ現在ニ依リ之ヲ財政部總長ニ引繼クヘシ

第二十七條　本法施行前國有財産ニ付キ爲シタル處分契約其ノ他ノ行爲ハ仍其ノ效力ヲ有ス但シ期限ノ定メナキ貸付契約ニ付テハ本法ノ規定ニ準シ主管官署長其ノ期限ヲ限定ス

●國有財産臺帳規則

大同二年七月五日
財政部令第十七號

第一條　國有財産臺帳ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

但シ財産ノ性質ニ依リ其ノ記載事項ヲ省略スルコトヲ得

一　種　目
二　所在又ハ所屬
三　數　量
四　價　格
五　得喪變更ノ年月日及事由
六　其ノ他必要ナル事項

第二條　國有財産ノ臺帳ハ別ニ揭クル樣式ニ據リ之ヲ調製スヘシ但シ之ニ據ルコトヲ得サルモノニ付テハ主管官署長財政部總長ト協議シ別ニ其ノ樣式ヲ定ムルコトヲ得

第三條　國有財産ノ臺帳ニ登錄スヘキ價格ハ左ノ區分ニ依ルヘシ

一　購入ニ係ルモノニ付テハ購入價格
二　交換ニ係ルモノニ付テハ交換當時ニ於ケル評定價格
三　收用ニ係ルモノニ付テハ補償金額
四　建設及製造ニ係ルモノニ付テハ建設費又ハ製造費
五　株式及出資ニ係ル權利ニ付テハ拂込金額又ハ出資金額
六　前各號以外ノモノニ付テハ見込價格

第四條　國有財産臺帳ハ公有財産、林業財産、鑛業財産、雜種財産毎ニ別冊トシ尙公用財産中國防上秘密ヲ要スルモノハ別冊トスヘシ

第五條　國有財産臺帳ニハ土地、建物及國有財産法第一條第三號ニ揭クル權利ニ關スル圖面ヲ附屬セシムヘシ但シ重要ナラサル雜種財産ニ付テハ當分ノ間之ヲ省略スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年七月十四日）

（各樣式略）

●國有地處分執照發給規則

大同二年七月十一日
財政部令第十八號

改正　大同二年七月　財政部令第二十號

第一條　國有地處分執照發給規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

第二條　執照ハ財政部總長之ヲ發給ス

第三條　執照發給ニ關スル事務ハ國都建設局長、各省長及興安分省長ヲシテ之ヲ取扱ハシム

第四條　執照ハ一件毎ニ之ヲ發給ス

第五條　執照ハ第一號樣式ニ據ル

第六條　執照ヲ發給シタルトキハ執照臺帳ニ執照記載事項ヲ登錄スヘシ

第七條　執照臺帳ハ發給取扱官署ニ之ヲ備ヘ其ノ副本ヲ縣公署又ハ旗公署ニ備フヘシ

第八條　執照臺帳ハ第二號樣式ニ據ル

第九條　執照臺帳ニハ圖面ヲ附屬セシムヘシ

前項ノ附屬圖ハ街基ニ在リテハ千分ノ一ノ縮尺トシ其ノ他ハ五千分ノ一ノ縮尺トナスヘシ但シ之ニ據ルコトヲ得サルモノニ付テハ其ノ縮尺ヲ表示スヘシ

第十條　地積ノ表示ハ米突法ニ依リ尙慣用ノ單位稱呼ノ併記ヲ妨ケス

前項ノ地積ノ算出ハ三斜法ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條　執照ヲ損失又ハ紛失シタルトキハ其ノ事由ヲ具シ所轄縣公署又ハ旗公署ヲ經由シ發給取扱官署ニ其ノ再交付ヲ申請スルコトヲ得

前項ノ申請書ニハ縣公署又ハ旗公署ノ承認スル保證人二名以上ノ連署ヲ要ス

第十二條　前條ノ申請アリタルトキハ發給取扱官署ハ其ノ旨ヲ公告シ其ノ公告ノ日ヨリ六十日ヲ經過スルモ異議ヲ申出ツルモノナキトキハ新執照ヲ交付シ舊執照ハ之ヲ無效トス

第十三條　執照ヲ毀損シタルトキハ其ノ執照ヲ添付シ所轄縣公署又ハ旗公署ヲ經由シテ發給取扱官署ニ再交付ヲ申請スルコトヲ得

第十四條　執照發給ノ場合執照一枚ニ付手數料五角ヲ徵收ス但シ前二條ノ再交付ノ場合ニ在リテハ一枚ニ付一圓トス

第十五條　執照臺帳ノ謄本ノ交付ヲ受ケムトスルモノハ土地一件ニ付一角ノ手數料ヲ納メ發給取扱官署ハ所轄縣公署又ハ旗公署ニ之ヲ請求スヘシ

前項ノ執照臺帳謄本ハ第三號樣式ニ據ル

第十六條　執照發給後處分ノ取消又ハ契約ノ解除アリタルトキハ執照ヲ返還セシメ執照臺帳ノ記載事項ヲ抹消スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ第十四條ノ料金ハ之ヲ還付セス

第十七條　國有地ヲ商租ニ付シタルトキハ本規則ノ定ムル所ニ準シ商租執照ヲ發給ス

附　則

第十八條　本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年七月十五日）

（各樣式略）

●國都建設局土地建造物賣却及貸付規則

大同二年五月三十一日
敎令第四十三號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ國都建設局土地建造物賣却及貸付規則ヲ制定シ之ヲ公布セシム

國都建設局土地建造物賣却及貸付規則

第一章　總　則

第一條　國都建設局長土地又ハ建造物ノ賣却又ハ貸付ヲ爲サムトスル場合ハ別段ノ定メアルモノヲ除クノ外本規則ニ依ル

第二條　土地又ハ建造物ノ買受人又ハ借受人ハ國都建設局長ノ指定シタル期限內ニ於テ契約ニ定ムル所ニ依リ其ノ使用ヲ開始シ又ハ施設ヲ完了スルコトヲ要ス

第三條　國都建設局長ハ左記各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得

一　買受人又ハ借受人ニ於テ本規則ノ規定又ハ契約ノ條項ニ違背シタルトキ

二　契約ニ依リ貸付ケタル土地又ハ建造物カ公用公共用又ハ公益事業ノ施行ノ爲必要ナルトキ

第四條　買受人又ハ借受人ハ國都建設局長ノ承諾ヲ得テ契約ヲ解除スルコトヲ得

第五條　第三條第一號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタルトキハ買受人又ハ借受人ハ代金又ハ借受料ノ返還及損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス第三條第二號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタルトキハ借受人ハ借受料ノ返還及通常生シ得ヘキ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六條　契約カ解除其ノ他ノ原因ニ依リテ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ買受人又ハ借受人ハ國都建設局長ノ指示ニヨリ現狀ニ復シテ土地又ハ建造物ヲ返還スルコトヲ要ス但シ第三條第二號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　國都建設局長買受人又ハ借受人ニ通知ヲ爲ストキ買受人又ハ借受人其ノ豫メ屆出タル場所ニ在ラサルトキハ告示場ニ公告シテ通知ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ告示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ通知到達シタルモノト看做ス

第二章　土地及建造物ノ賣却

第八條　土地又ハ建造物ノ賣却ハ一般競爭契約ニ依ル但シ國都建設局長ニ於テ契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得

一　買受人又ハ借受人ニ於テ本規則ノ規定又ハ契約ノ條項ニ違背シタルトキ

二　契約ニ依リ貸付ケタル土地又ハ建造物カ公用公共用又ハ公益事業ノ施行ノ爲必要ナルトキ

第四條　買受人又ハ借受人ハ國都建設局長ノ承諾ヲ得テ契約ヲ解除スルコトヲ得

第五條　第三條第一號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタルトキハ買受人又ハ借受人ハ代金又ハ借受料ノ返還及損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス第三條第二號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタルトキハ借受人ハ借受料ノ返還及通常生シ得ヘキ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六條　契約カ解除其ノ他ノ原因ニ依リテ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ買受人又ハ借受人ハ國都建設局長ノ指示ニヨリ現狀ニ復シテ土地又ハ建造物ヲ返還スルコトヲ要ス但シ第三條第二號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　國都建設局長買受人又ハ借受人ニ通知ヲ爲ストキ買受人又ハ借受人其ノ豫メ屆出タル場所ニ在ラサルトキハ告示場ニ公告シテ通知ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ告示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ通知到達シタルモノト看做ス

第二章　土地及建造物ノ賣却

第八條　土地又ハ建造物ノ賣却ハ一般競爭契約ニ依ル但シ國都建設局長ニ於テ契約ノ全部又ハ一部ヲ解除スルコトヲ得

一　買受人又ハ借受人ニ於テ本規則ノ規定又ハ契約ノ條項ニ違背シタルトキ

二　契約ニ依リ貸付ケタル土地又ハ建造物カ公用公共用又ハ公益事業ノ施行ノ爲必要ナルトキ

第四條　買受人又ハ借受人ハ國都建設局長ノ承諾ヲ得テ契約ヲ解除スルコトヲ得

第五條　第三條第一號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタルトキハ買受人又ハ借受人ハ代金又ハ借受料ノ返還及損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得ス第三條第二號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタルトキハ借受人ハ借受料ノ返還及通常生シ得ヘキ損害ノ賠償ヲ請求スルコトヲ得

第六條　契約カ解除其ノ他ノ原因ニ依リテ其ノ效力ヲ失ヒタルトキハ買受人又ハ借受人ハ國都建設局長ノ指示ニヨリ現狀ニ復シテ土地又ハ建造物ヲ返還スルコトヲ要ス但シ第三條第二號ノ規定ニ該當スル爲契約ヲ解除シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第七條　國都建設局長買受人又ハ借受人ニ通知ヲ爲ストキ買受人又ハ借受人其ノ豫メ屆出タル場所ニ在ラサルトキハ告示場ニ公告シテ通知ニ代フルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ告示ノ日ヨリ七日ヲ經過シタルトキハ通知到達シタルモノト看做ス

第二章　土地及建造物ノ賣却

第八條　土地又ハ建造物ノ賣却ハ一般競爭契約ニ依ル但シ國都建設局長ニ於テ左記各號ノ一ニ該當スル場合ハ指名競爭契約又ハ定價指名契約ニ依ルコトヲ得

一　土地又ハ建造物ノ使用目的ニ依リ一般競爭契約ニ付スヘカラサル場合

二　公益事業ノ施行又ハ產業奬勵ノ爲必要ナル場合

第九條　一般競爭契約ニ依ル賣却ニ於テハ入札ノ方法ニ依リ申込ミタル者ノ見積賠買價額ノ中國都建設局長ノ豫定セル賣却價額ニ達シタル最高價額ノ入札人ヲ買受人トス但シ最高價額ノ入札人二人以上アルトキハ抽籤ヲ以テ買受人ヲ決ス

第十條　土地又ハ建造物ヲ一般競爭契約ニ依リ賣却セントスルトキハ少クトモ七日以前ニ左記事項ヲ公告スヘシ

一　賣却土地ノ所在地番地目及地積又ハ賣却建造物ノ所在及種別

二　入札執行ノ場所及日時

三　契約條項契約書案及入札心得ヲ示ス場所

第十一條　入札ヲ爲サントスル者ハ入札ト同時ニ其ノ見積賠買價額ノ百分ノ十以上ノ金額ヲ保證金トシテ國都建設局長ニ寄託スルコトヲ要ス

第十二條　左記各號ノ一ニ該當スル入札ハ無效トス

一　入札書ニ記名又ハ調印ヲ缺キタルモノ

二　國都建設局長ニ於テ入札ニ際シ其ノ秩序ヲ紊シ又ハ不正ノ行爲アリト認メタル者ノ入札

三　前各號ノ外別ニ指定シタル事項ニ違背シタルモノ

第十三條　買受人ハ落札ノ日ヨリ五日以內ニ契約ヲ締結スルコトヲ要ス

買受人契約ヲ締結セサルトキハ保證金ハ之ヲ返還セス

第十四條　國都建設局長必要ト認ムルトキハ入札又ハ開札ノ執行ノ延期中止若ハ取消ヲ爲スコトヲ得

第十五條　指名競爭契約ニ依ル賣却ニ於テハ國都建設局長ニ於テ適當ト認ムル買受希望者數人ヲ指定シ其ノ購買價額ノ見積ヲ徵シ國都建設局長ノ豫定セル賣却價格ニ達シタル最高價額ノ見積人ヲ買受人トス

定價抽籤契約ニ依ル賣却ニ於テハ國都建設局長ニ於テ申込期間ヲ定メ其ノ期間內ノ一般申込者ニ付キ抽籤ノ方法ニ依リ買受人ヲ決ス

第十六條　買受人ハ契約締結ト同時ニ代金ヲ完納スルコトヲ要ス但シ國都建設局長ノ承諾ヲ得タルトキハ其ノ指定ニ從ヒ二ケ年以內ニ分納スルコトヲ得

第十七條　買受人ハ代金ノ完納ニ依リ其ノ土地又ハ建造物ノ所有權ヲ取得ス

第十八條　國都建設局長ニ於テ左記各號ノ一ニ該當スト認メ且之ヲ告示場ニ公告シタル者ハ爾後少クトモ五ケ年間本規則ニ基ク入札ニ參加スルコト並ニ入札執行ノ場所ニ出入スルコトヲ得ス

一　入札ニ際シ連合ヲ爲シ又ハ爲サシメタル者

二　入札ノ參加又ハ買受人ノ契約締結ノ妨害ヲ爲シ妨害セシメタル者

三　第十三條ノ規定ニ從ヒ契約ヲ結ハサル者又ハ第三條第一號ニ該當スル爲契約ヲ解除セラレタル者

四　國都建設計畫ノ事業執行ヲ妨害シ又ハ妨害セシメタル者

第三章　土地及建造物ノ貸付

第十九條　土地又ハ建造物ノ貸付ハ指名競爭契約定料抽籤契約又ハ定料指名契約ニ依ル

指名競爭契約ニ依ル貸付ニ於テハ國都建設局長ニ於テ適當ト認ムル借受希望者二人以上ヲ指定シ其ノ借受料ノ見積ヲ徵シ國都建設局長ノ豫定セル貸付料金額ニ達シタル最高金額ノ見積人ヲ以テ借受人トス

定料抽籤契約ニ依ル貸付ニ於テハ國都建設局長ニ於テ豫メ貸付料及申込期間ヲ定メ其ノ期間內ノ一般申込者ニ付キ抽籤ノ方法ニ依リ借受人ヲ決ス

定料指名契約ニ依ル貸付ニ於テハ國都建設局長豫メ貸付料ヲ定メ其ノ適當ト認ムル借受希望者ヲ借受人トス

第二十條　貸付契約期間ハ三年以內トス

前項ノ期間ハ國都建設局長ノ承諾ヲ得テ之ヲ更新スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ逐次更新ノ時ヨリ前項ノ期間ヲ超ユルコトナシ

第二十一條　借受人ハ國都建設局長ノ指定ニ從ヒ借受料金ヲ納付スヘシ

第二十二條　借受人借受料金ヲ納付期日迄ニ完納セサルトキハ其ノ翌日ヨリ料金完納ノ前日迄日歩國幣五分以內ニ於テ國都建設局長ノ指示スル延滯金ヲ納付スルコトヲ要ス但シ國都建設局長ニ於テ特別ノ事情アリト認メタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十三條　借受人ハ土地又ハ建造物ノ借受契約ノ翌日ヨリ其ノ使用及收益ノ權利ヲ取得ス

第二十四條　借受人新京特別市內ニ居住セサルトキ又ハ借受期間內ニ新京特別市以外ニ其ノ居住ヲ移ス場合ハ新京特別市內ニ居住スル者ヲ選定シテ土地又ハ建造物ノ管理人トシ連署ノ上其ノ旨國都建設局長ニ屆出ツルコトヲ要ス

第二十五條　借受人ハ借受土地又ハ建造物ヲ轉貸シ若ハ其ノ權利ヲ讓渡シ或ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ國都建設局長ノ承諾ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十六條　借受人左記各號ノ場合ニ於テハ豫メ國都建設局長ノ承諾ヲ受クルヲ要ス

一　借受土地ニ豫メ國都建設局長ノ承諾ヲ受ケタル建造物以外ノ建造物ヲ築造スルトキ

二　借受土地又ハ建造物ノ狀態ニ著シキ變更ヲ加フルトキ

三　借受地上ニ在ル借地人ノ旣建造物ノ狀態ニ著シキ變更ヲ加フルトキ

附　則

第二十七條　本規則ノ規定又ハ契約ノ條項ニ違反シタル者ニ對シ國都建設局長ハ原狀回復其ノ他必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第二十八條　本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス（大同二年五月三十一日）

●滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令

大同元年十二月二十日
敎令第百十八號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令ヲ制定シ之ヲ公布セシム

滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令

第一條　大同元年六月三十日以前ニ於テ納付スヘキ田賦及營業稅並ニ附加雜款ニシテ大同元年十一月一日迄ニ未タ納付セサルモノハ國稅タルト地方稅タルトヲ問ハス總テ之ヲ免除ス

第二條　前條ニ於テ田賦及營業稅並ニ附加雜款ト稱スルハ田賦其ノ他土地ニ賦課スル一切ノ稅捐及其ノ附加捐營業稅及營業稅ノ性質ヲ有スル稅捐並ニ其ノ各罰款ヲ謂フ

第三條　本令ニ依リ納付ヲ免除セラルヘキモノニシテ大同元年十一月一日以後納付シタルモノハ之ヲ還付ス

第四條　本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ國稅ニ付テハ財政部總長地方稅ニ付テハ民政部總長又ハ興安總署總長之ヲ定ム

第五條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十二月二十日）

●滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令施行規則

大同元年十二月二十日
財政部令第十五號

滯納田賦及營業稅並附加雜款免除令施行規則左ノ通定ム

滯納田賦及營業稅並附加雜款免除令施行規則

第一條　滯納田賦及營業稅並附加雜款免除令（以下單ニ免除令ト稱ス）第三條ノ規定ニ依リ旣納金ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日以內ニ當該官署長ニ之カ請求ヲ爲スヘシ

變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因ル前項ノ期間內ニ請求シ得サリシモノハ其ノ事故ノ止ミタル時ヨリ六十日以內ニ之カ請求ヲ爲スコトヲ得

第二條　免除令第三條ノ規定ニ依ル還付金ハ之ヲ大同元年度ノ同種稅捐ニ充當スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十二月二十七日）

●滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令施行規則

大同元年十二月二十八日
民政部令第六號

玆ニ滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令第四號ノ規定ニ依リ施行規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令施行規則

第一條　滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令（以下免除令ト略稱ス）中第一條免除セル地方稅トハ市縣及其ノ他公共團體ノ收入ニ屬スル稅捐ヲ指ス

第二條　免除令第三條ノ規定ニ依リ旣納稅金ノ還付ヲ請求スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日以內ニ該管公署長官ニ具申スヘシ災害又ハ其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ前項期間ニ具申シ得サル者ハ該事故ノ終止セル日ヨリ六十日以內ニ之ヲ具申スヘシ

第三條　免除令第三條ノ規定ニ依リ還付金ヲ以テ大同元年度ノ同種稅捐ニ

充當スルヲ得

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十二月二十八日）

●滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令施行規則

大同二年一月二十一日
興安總署令第一號

茲ニ滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令第四條ノ規定ニ依リ施行規則ヲ制定シテ之ヲ公布ス

滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令施行規則

第一條　滯納田賦及營業稅並ニ附加雜款免除令（以下免除令ト略稱ス）第一條免除ノ地方稅トハ旗ノ收入ニ歸屬スルノ稅捐ヲ指テ言フ

第二條　凡ソ免除令第三條ノ規定ニ依リ既納稅金ノ返還ヲ請求スル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日內ニ於テ管轄旗公署ニ向テ請求スヘシ

變災或ハ其ノ他已ムヲ得サルノ事故ニ因リ前項期間內ニ於テ請求スル能ハサル時ハ事故終止ノ時ヨリ六十日內ニ請求スヘシ

第三條　免除令第三條定ムル所ノ返還金ハ大同元年度ノ同種稅金ニ引當ルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ施行ス（大同二年二月二日）

●田賦及附加雜捐稅率半減令

大同元年十二月二十日
敎令第百十九號

茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ田賦及附加雜捐稅率半減令ヲ制定シ之ヲ公布セシム

田賦及附加雜捐稅率半減令

第一條　田賦其ノ他土地ニ賦課スル一切ノ國稅ハ大同元年度分ニ限リ其ノ稅率ヲ半減ス

第二條　大同元年度分田賦及土地雜款ニシテ從前ノ稅率ニ依リ已ニ納付シタルモノハ其ノ半額ヲ還付ス

第三條　本令施行ニ關シ必要ナル規定ハ財政部總長之ヲ定ム

第四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十二月二十日）

●田賦及附加雜捐稅率半減令施行規則

大同元年十二月二十日
財政部令第十六號

田賦及附加雜捐稅率半減令施行規則左ノ通定ム

田賦及附加雜捐稅率半減令（以下單ニ半減令ト稱ス）第二條ノ規定ニ依リ既納金ノ還付ヲ受ケムトスル者ハ本令施行ノ日ヨリ六十日以內ニ當該官署長ニ之カ請求ヲ爲スヘシ

變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ前項ノ期間內ニ請求シ得サリシモノハ其ノ事由ノ止ミタル時ヨリ六十日以內ニ之カ請求ヲ爲スコトヲ得

第二條　半減令第二條ノ規定ニ依ル還付金ハ爾後納付スヘキ同種稅捐ニ充當スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十二月二十七日）

●警費臨捐廢止ノ件

大同元年十二月二十日
敎令第百二十號

茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ警費臨捐廢止ノ件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

警費臨捐廢止ノ件

警費臨捐ハ之ヲ廢止ス

本令ハ大同元年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●捲菸統稅驗訖證規則

大同二年二月三日
財政部令第一號

茲ニ捲菸統稅驗訖證規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

捲菸統稅驗訖證規則

第一條　捲菸ハ捲菸統稅章則ニ依ルノ外本規則ニ依リ捲菸統稅驗訖證（以下單ニ驗訖證ト稱ス）ヲ貼付スルニ非レハ之ヲ運送又ハ販賣スルコトヲ得ス但シ當該官吏ノ承認ヲ受ケタルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二條　驗訖證ハ財政部之ヲ發行ス

驗訖證ハ統稅ヲ納付シタル者ニ無償ニテ之ヲ交付ス

第三條　驗訖證ハ國內製造ノ捲菸ニ付テハ出廠前ニ於テ製造者輸入ノ捲菸ニ付テハ輸入ノ際輸入者又ハ引取人之ヲ貼付スヘシ

第四條　驗訖證ハ捲菸ノ最小容器又ハ包裹一個每ニ一枚ヲ貼付スヘシ

第五條　驗訖證ヲ貼付シタルトキハ貼付者ニ於テ容器又ハ包裹ト驗訖證面トニカケテ鮮明ニ消印シ駐廠員駐關員又ハ所轄稅捐局員ノ檢查ヲ受クヘシ

第六條　本規則施行ニ關シ必要ナル規定ハ稅務監督署長之ヲ定ム

附　則

本規則ハ大同二年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

本規則ト重複又ハ抵觸スル從前ノ規定ハ之ヲ廢止ス

從前ノ規定ニ依リ貼付シタル驗訖證ハ本規則ニ依リ貼付シタルモノト看做ス

本規則施行前出廠又ハ輸入シタル捲煙ニシテ本規則施行ノ際現ニ製造者輸入者又ハ販賣者ノ所有若ハ所持ニ係リ驗訖證ノ貼付ナキモノニ付テハ販賣者ニ於テ驗訖證ヲ貼付スヘシ

前項ニ依リ驗訖證ヲ貼付スヘキ販賣者ハ本規則施行ノ日ヨリ三十日以內ニ所轄稅捐局ニ申告シ驗訖證ノ交付ヲ受クヘシ

●捲菸統稅驗訖證規則施行期日延期ノ件

大同二年二月十五日
財政部令第二號

玆ニ捲菸統稅驗訖證規則施行期日延期ノ件ヲ公布ス

捲菸統稅驗訖證規則施行期日延期ノ件

大同二年財政部令第一號捲菸統驗訖證規則ノ施行期日大同二年三月一日ヲ大同二年四月一日トス

●捲菸統稅驗訖證事務規程要綱

大同二年二月三日
財政部訓令第二十六號

本年二月三日財政部令第一號ヲ以テ捲菸統稅驗訖證規則公布セラレ同規則施行ニ關シ必要ナル規定ハ稅務監督署長之ヲ定ムヘキモノナルモ其ノ內容ニ付テハ大體左記要綱ニ依リ速ニ之ヲ規定シ所轄稅捐局ニ訓令シ施行上遺憾ナキヲ期スヘシ此ニ令ス

捲菸統稅驗訖證事務規程要綱

第一條　大同二年三月一日以降販賣見込ノ捲菸ニ對シテハ二月中出廠又ハ輸入スルモノト雖驗訖證ヲ貼付セシメ可成販賣者ニ於テ貼付スル數量ヲ減少スルコトニ努ムヘシ

第二條　稅捐局ハ速ニ捲菸統稅驗訖證規則（以下單ニ規則ト稱ス）附則第四項ニ依リ販賣者ニ於テ驗訖證ヲ貼付スヘキ捲菸ノ概數ヲ調査報告スヘシ

第三條　輸入捲菸ニシテ輸入ノ際稅關構內埠頭構內又ハ驛構內ニ於テ驗訖證ヲ貼付スルコト困難ナルモノニ付テハ輸入者又ハ引取人ノ店舖若ハ倉庫迄ノ運送ヲ許可シ監督ノ上貼付セシムヘシ

前項ノ運送ニ付テハ駐關員運單ヲ發給シ之ヲ到着先稅捐局ニ通知スヘシ

第四條　免稅ノ取扱ヲ爲ス捲菸ニ付テハ驗訖證ヲ貼付セスシテ出廠セシムヘシ

第五條　駐廠員ノ派遣アル工場ニ對シテハ一箇月所要見込數ヲ限度トシテ驗訖證ヲ讓メ交付シ置キ製造ノ都度貼附セシムヘシ

前項ノ製造者ニ對シテハ驗訖證ノ受拂ヲ明確ニ記帳セシメ嚴重ニ監督スヘシ

第六條　驗訖證ハ捲菸ノ容器又ハ包裏ノ封緘部若ハ開閉部ニ貼附セシムヘシ

第七條　驗訖證ニ抑捺スル消印ニハ必ス所轄稅捐局名ノ頭字（例奉天又ハ瀋撫）ヲ刻セシムヘシ

第八條　驗訖證ノ貼付及消印ニ付テハ常ニ嚴重ナル監督ヲ爲スヘシ

第九條　規則附則第四項ニ依リ捲菸販賣者ヲシテ驗訖證ヲ貼付セシムル場合ハ必ス納稅ノ證據ヲ提出セシメ其ノ事實明瞭ナルモノニ限リ之ヲ交付スヘシ

第十條　前條ノ事務ハ努メテ之ヲ敏速ニ處理シ販賣上不便ナカラシムヘシ

第十一條　稅捐局ハ適宜ノ方法ニ依リ製造者輸入者及販賣者ニ對シ可成速ニ規則竝ニ其ノ趣旨ヲ徹底セシムヘシ

第十二條　規則施行後ハ可成頻繁ニ捲菸商ニ臨檢シ常ニ左記事項ヲ監視スヘシ

一　驗訖證ノ貼付ナキ捲菸ヲ所持シ又販賣シ居ラサルヤ

二　驗訖證ノ貼付方法及消印ノ方法ハ適法ナリヤ

三　僞造又ハ再貼用ノ驗訖證ナキヤ

第十三條　驗訖證ノ僞造行爲ハ刑事犯ナルヲ以テ之ヲ檢擧シタル場合ハ警察官署ニ引渡シ事件ノ概況ヲ報告スヘシ

第十四條　驗訖證ハ印花稅票ニ準シ鄭重ニ取扱ヒ其ノ出納ハ必ス帳簿ニ明記シ置クト共ニ受領證ヲ徵シ之ヲ保存スヘシ

第十五條　驗訖證ノ在庫數及所要見込數ニ付テハ常ニ周到ナル計算ヲ爲シ不足ヲ來スカ如キコトナキ樣注意スヘシ

第十六條　驗訖證ノ送附請求ハ少クトモ一箇月ノ餘裕ヲ置キテ之ヲ爲スヘシ

第十七條　稅捐局ハ驗訖證ノ交付又ハ捲菸ノ檢查ニ當リ如何ナル名義ニ於テモ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第十八條　特殊異例ニ屬スル事項ニ付テハ其ノ都度指揮ヲ受ケ處理スヘシ

●印花稅票發行ニ關スル件

大同元年十月二十日
財政部令第十一號

玆ニ印花稅票發行ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布ス

印花稅票發行ニ關スル件

第一條　印花稅票ハ財政部ニ於テ之ヲ發行ス

第二條　印花稅票ノ形式ハ別表ニ依ル

第三條　印花稅票ノ額面ハ之ヲ國幣トス

第四條　印花稅票ハ大同元年十月二十五日ヨリ之ヲ發賣ス

第五條　印花稅票ハ大同元年十一月一日ヨリ之ヲ使用スヘシ

第六條　從前各省ニ於テ發行シタル印花稅票ハ大同元年十月三十一日限其ノ效力ヲ失フ

第七條　前條ノ印花稅票ハ本令施行ノ日ヨリ大同元年十二月三十一日迄ノ間ニ於テ新印花稅票ト引換フ

前項ノ引換期間ハ變災其ノ他已ムヲ得サル事由アルモノニ付テハ之ヲ延長スルコトアルヘシ

第一項引換ニ關スル手續ハ別ニ之ヲ定ム

第八條　舊印花稅票ノ引換價格ハ額面ニ依ル但シ從前吉林省ニ於テ發行シタル印花稅票ノ引換價格ハ額面ノ百分ノ八十トス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十月二十一日）

（別表）　印花稅票ノ形式

種類	金額	寸法 縱	寸法 橫	模樣	刷色
普通印花	一分	二二粍	二六粍	大豆ヲ表ス	紅色
	貳分	同	同	同	綠色
	壹角	同	同	同	褐色
	五角	同	同	同	淡紫色
	壹圓	同	同	同	藍色
	貳圓	同	同	同	同

雙喜印花				
五圓	同	同	同	暗綠色
拾圓	同	同	同	黃褐色
四角	二六耗	三七耗	牡丹及鴛鴦ヲ表ス	濃紅色

●印花稅票引換規則

大同元年十月二十八日
財政部令第十二號

玆ニ印花稅票引換規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

印花稅票引換規則

第一條　大同元年十月二十日財政部令第一一號第六條ニ依ル印花稅票引換ニ關スル手續ハ本令ニ依ル

第二條　印花稅票ノ引換ハ左ニ揭クル官署ニ於テ之ヲ行フ但シ每一件ノ引換額面百圓ヲ超ユルモノニ付テハ稅務監督署ニ於テ之ヲ行フ

一　稅捐局
二　稅捐局分局
三　長綏印花稅處及濱江印花稅處
四　印花稅事務ヲ取扱フ縣公署

第三條　印花稅票ノ引換ヲ受ケムトスル者ハ大同元年十二月三十一日迄ニ前條各號ノ官署ニ舊印花稅票ヲ提出シ新印花稅票ノ交付ヲ請求スヘシ但シ變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ期間內ニ引換ヲ受クルコト能ハサリシコトノ證明アルモノニ付テハ期間經過後ト雖モ之カ引換ヲ爲スヘシ

第四條　左ニ揭クルモノハ之カ引換ヲ爲サス

一　僞造又ハ變造シタル印花稅票
二　既ニ使用シタル印花稅票
三　甚シク汚染シ又ハ破損シタル印花稅票
四　正當ノ印花稅票ナルコトノ判定困難ナルモノ

第五條　左ニ揭クルモノハ之ヲ沒收ス但シ第三條但書ニ該當スルモノニ付テハ此ノ限ニ在ラス

一　前條各號ニ該當スルモノ
二　舊印花稅票ニシテ引換期間ヲ經過シタルモノ

第六條　本令ニ依ル印花稅票ノ引換ニ付テハ如何ナル名義ニ於テモ料金ヲ徵收スルコトナシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年四月十三日）

●統稅印花票發行ニ關スル件

大同二年四月十三日
財政部令第三號

玆ニ統稅印花票發行ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布ス

統稅印花票發行ニ關スル件

第一條　統稅印花票ハ財政部之ヲ發行ス

第二條　統稅印花票ノ形式ハ別表ニ依ル

第三條　統稅印花票ハ大同二年五月一日ヨリ之ヲ使用スヘシ

第四條　從前省財政廳又ハ稅務監督署ニ於テ發行シタル統稅印花票ハ大同二年四月三十日限其ノ效力ヲ失フ

第五條　統稅印花票ノ使用方法ニ付テハ從前ノ例ニ依ル

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年四月十三日）

●熱河省印花稅票引換規則

大同二年五月四日
財政部令第七號

玆ニ熱河省印花稅票引換規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

熱河省印花稅票引換規則

第一條　熱河省ノ舊印花稅票ハ本規則ニ依リ大同元年十月二十日財政部令第十一號ニ依ル新印花稅票ト引換フ

第二條　印花稅票ノ引換ハ左ニ揭クル官署ニ於テ之ヲ行フ

一　熱河稅務監督署
二　熱河稅務監督署赤峰出張所及朝陽出張所
三　熱河稅務監督署管內各稅捐局
四　熱河省內各縣公署
五　其ノ他熱河稅務監督署長ノ指定シタル官署

第三條　印花稅票ノ引換價格ハ額面ニ依ル

第四條　印花稅票ノ引換期間ハ大同二年六月三十日限トス

前項期間內ニ引換ヲ受ケサル舊印花稅票ハ無效トス

第五條　左ニ揭クルモノハ之カ引換ヲ爲サス

一　僞造又ハ變造シタル印花稅票
二　既ニ使用シタル印花稅票
三　甚シク汚染シ又ハ破損シタル印花稅票
四　正當ノ印花稅票ナルコトノ判定困難ナルモノ

第六條　左ニ揭クルモノハ之ヲ沒收ス

一　前條各號ニ該當スルモノ
二　第四條第二項ニ該當スル印花稅票

第七條　本規則ニ依ル印花稅票ノ引換ニ付テハ如何ナル名義ニ於テモ料金ヲ徵收スルコトナシ

附　則

本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年五月八日）

●熱河省印花稅票引換事務規程

大同二年五月四日
財政部訓令第百十三號

熱河稅務監督署ニ令ス

熱河省印花稅票引換事務規程ハ既ニ本部ニ於テ制定セリ玆ニ該規程ヲ同封送付スルニ付貴署ハ直ニ遵照處理スヘシ此ニ令ス

熱河省印花稅票引換事務規程

第一條　熱河省ノ印花稅票引換手續ニ付テハ大同二年五月四日財政部令第七號熱河省印花稅票引換規則ニ依ルノ外本規程ニ依リ之ヲ取扱フヘシ

第二條　稅務監督ハ熱河省印花稅票引換規則（以下單ニ引換規則ト稱ス）ノ全文並ニ本規程ヲ引換規則第二條各號ノ引換官署（以下單ニ引換官署

ト稱ス）ニ通合スヘシ

第三條　印花稅票ノ引換ニ付テハ可成商務會其ノ他ノ團體ヲ利用シ取纏メ請求セシムヘシ

第四條　引換官署印花稅票引換ノ請求ヲ受ケタルトキハ提出ニ係ル印花稅票ヲ愼重ニ審査シ正當ノモノナルコトヲ認メタル場合ニ限リ之ニ相當スル新印花稅票ヲ交付スヘシ

第五條　引換官署ハ引換請求者（商務會ヲ利用スル場合ハ商務會ヲ請求者ト看做ス）ヨリ舊印花稅票ト共ニ引換請求書ヲ提出セシムヘシ請求者ニ對シ新印花稅票ヲ交付スルトキハ其ノ受領書ヲ提出セシムヘシ

前項ノ受領書ハ第一項ノ引換請求書ノ餘白ニ要旨ヲ記載シテ之ヲ代用セシムルコトヲ得

第六條　前條ノ請求書及受領書ニハ印花稅票ノ種類枚數額面金額及請求者氏名又ハ商號ヲ記載シ捺印セシムヘシ

第七條　引換官署ハ引換ニ方リ舊印花稅票ト同一額面ノ新印花稅票ナキトキハ便宜他ノ額面ノモノヲ交付シ置キ後日同一額面ノ新印花稅票ノ配付ヲ受ケタルトキ之ト引換フヘシ

第八條　引換官署引換規則第五條各號該當ノモノヲ受理シ又ハ發見シタルトキハ必ス之ヲ沒收シ沒收書ヲ交付スヘシ

前項ノ沒收書ニハ沒收シタル印花稅票ノ種類枚數額面金額提出者ノ氏名又ハ商號及沒收ノ理由（適用條項ノ記載ヲ以テ足ル）ヲ記載スヘシ

第九條　引換官署ハ印花稅票引換臺帳ヲ調製シ引換ニ關スル一切ノ事蹟ヲ明記スヘシ

前項ノ臺帳ニハ受理年月日舊印花稅票ノ種類枚數沒收印花稅票ノ種類枚數新印花稅票ノ交付年月日種類枚數及請求書ノ氏名又ハ商號ヲ記載スヘシ

第十條　引換官署ハ大同二年七月十日迄ニ印花稅票ノ引換事蹟ヲ稅務監督署ニ報告スヘシ

前項ノ報告書ニハ引換ヘタル新印花稅票ノ種類枚數額面金額及人員ヲ記載スヘシ

第十一條　稅務監督署ハ前條報告書ヲ取纏メ大同二年七月二十日迄ニ財政部ニ報告スヘシ

第十二條　引換官署ハ大同二年七月十日迄ニ引換濟舊印花稅票及沒收シタル印花稅票ヲ取纏メ稅務監督署ニ送付スヘシ但シ交通其ノ他ノ關係上送付スルコト能ハサル場合ハ稅務監督署ノ指揮ヲ受クヘシ

第十三條　稅務監督署ハ前條ノ印花票ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ヲ審査シ認定ヲ誤リタルモノヲ發見シタルトキハ速ニ引換官署ニ命シ訂正セシムヘシ

引換官署ノ認定誤謬ニ因ル官損ハ當該官署長ノ責任トス

第十四條　稅務監督署ハ財政部ヨリ何分ノ指揮アル迄引換ヲ了シタル舊印花稅票及沒收シタル印花稅票ヲ保管スヘシ

第十五條　引換官署ハ手數料其ノ他如何ナル名目ヲ以テスルモ引換請求者ヨリ料金ヲ徵收スルコトヲ得ス

第十六條　特殊異例ニ屬スル事項ニ付テハ縣公署及稅捐局ハ之ヲ稅務監督署ニ稅務監督署ハ之ヲ財政部ニ請訓シ指揮ヲ受クヘシ

●官運鹽ニ對スル鹽稅收納手續

大同元年十一月二十二日
財政部令第十四號

改正　大同二年八月　財政部令第二十一號

官運鹽ニ對スル鹽稅收納手續ヲ左ノ通定ム

官運鹽ニ對スル鹽稅收納手續

第一條　吉黑榷運署長鹽稅未納ノ鹽ヲ引取ラムトスルトキハ引取數量、鹽稅額鹽稅納付期日（鹽稅後納ノ場合ハ納付見込期日）其ノ他必要ナル事項ヲ鹽務署長ニ通知シ鹽稅ハ納付書ヲ添ヘ滿洲中央銀行國庫預金ニ拂込ヘシ

第二條　滿洲中央銀行吉黑榷運署長ヨリ鹽稅ノ納付ヲ受ケタルトキハ領收證書ヲ交付シ鹽務署長ニ領收濟通知書ヲ送付スヘシ

第三條　鹽務署長ハ鹽稅後納ノ通知又ハ前條ノ領收濟通知書ヲ收受シタルトキハ吉黑榷運署長ニ運鹽執照其ノ他必要ナル書類ヲ送付スヘシ

第四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年八月七日）

（納付書樣式略）

●滿洲國ノ對中華民國輸出入品並ニ船舶ニ對スル課稅制度等改正ニ關スル聲明書

滿洲國ハ其ノ建國當初ニ於テ諸外國トノ關稅並ニ通商航海關係ニ就テハ當分ノ內從來ノ制度其ノ儘ヲ踏襲スヘキコトヲ中外ニ聲明シ今日迄之ヲ實行シ來レリ

然ルニ滿洲國ハ其ノ後着々新興國家ノ名實ヲ整備シツツアルノミナラス日本國ニ於テモ右ノ事實ヲ認メテ是ヲ承認スルニ至リタル今日關稅並通商航海關係ニ於テ中華民國ヲ內國ト同一ニ取扱フカ如キハ其ノ儘之ヲ放置スルコト能ハス

玆ニ於テ滿洲國ハ今回關稅並通商航海關係ニ於テ中華民國ヲ純然タル外國トシテ取扱ヒ從來ノ變則的關係ヲ改ムルコトニ決定シ大同元年九月二十五日ヨリ左記ノ如ク實施スルコトトセリ

一　滿洲國ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ中華民國ニ仕向クル物品ニ對シテハ現行稅率ニ依リ輸出稅ヲ課ス

二　中華民國ヨリ海路又ハ陸路ニ依リ滿洲國ニ輸入スル物品ニ對シテハ現行稅率ニ依リ輸入稅ヲ課ス

三　噸稅ノ賦課ニ就テハ中華民國ニ於テ發給セラレタル噸稅納稅濟證書ハ滿洲國ニ於テハ其ノ效力ヲ有セサルモノトス

四　滿洲國諸港ト中華民國諸港間ノ內水航行權ハ之ヲ認メス中華民國ニ於テ發給セラレタル內水航行免狀ハ滿洲國ニ於テハ其ノ效力ヲ有セサルモノトス

五　右實施ノ爲メ山海關其他必要ノ地點ニ稅關ヲ設置シ徵稅ヲ開始ス滿洲國ハ此ノ變革ニヨリ內外商民ニ不測ノ損害ヲ蒙ラシムルコトヲ避クルカ爲メ本聲明ノ日ヨリ相當ノ猶豫期間ヲ置キテ之ヲ實施スルコトトシタルカ尙右實施ノ日以前ニ荷主ニ於テ善意ニ中華民國港以外ノ港ヨリ積出シ中華民國ノ諸港ニ於テ輸入稅ヲ徵收セラレ實施ノ

日以後ニ於テ滿洲國諸港ニ到着スル貨物ニ就テハ本聲明ノ適用上不當ノ損害ヲ與ヘサル樣相當ノ考慮ヲナスノ用意アリ

尙滿洲國ハ從來踏襲シ來リタル水災附加稅ハ此ノ機會ニ撤廢スル豫定ナリシモ偶々哈爾濱ヲ中心トスル北滿ノ水害極メテ甚大ナルモノアリ之カ救恤復興ニ多額ノ資金ヲ要スル新事態ノ發生ニ遭遇シタルヲ以テ本附加稅ハ暫ラク之ヲ賑災ノ目的ノ爲メ存續スルコトトシタリ右聲明ス

大同元年九月十五日

財政部總長　熙　洽
代理部務次長　孫　其　昌

●燐寸製造用鹽酸加里輸入護照發給臨時辦法

大同元年八月九日
財政部令第六號

玆ニ燐寸製造用鹽酸加里輸入護照發給臨時辦法ヲ左ノ如ク制定ス

燐寸製造用鹽酸加里輸入護照發給臨時辦法

第一條　燐寸製造用鹽酸加里輸入護照ハ財政部總長之ヲ發給ス

第二條　前條護照ノ發給ヲ受ケムトスル者ハ其ノ地商務會ノ證明書ヲ添付シ東北火柴公賣總處及火柴公賣總局ヲ經由シ財政部總長ニ申請スヘシ

第三條　前條ノ申請書ニハ申請人ノ住所氏名所要數量輸入先及輸入經路ヲ詳記スヘシ

第四條　東北火柴公賣總處及火柴公賣總局第二條ノ申請書ヲ受理シタルトキハ各意見書ヲ具シ財政部總長ニ進達スヘシ

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年八月十二日）

●工業用鹽輸出暫行辦法

大同二年五月十六日
財政部令第八號

玆ニ工業用鹽輸出暫行辦法ヲ制定シ之ヲ公布ス

工業用鹽輸出暫行辦法

第一條　鹽ヲ工業原料ニ使用スル爲日本國ニ輸出セムトスル者ハ鹽務署長ノ許可ヲ受クヘシ

前項ノ許可ヲ受ケムトスル者ハ輸出許可申請書ニ日本國專賣局長官ノ滿洲國鹽輸入命令書寫ヲ添ヘ鹽務署長ニ提出スヘシ

第二條　鹽務署長前條ノ許可ヲ爲シタルトキハ申請者ニ工業用鹽輸出許可書ヲ交付シ同時ニ輸出地稅關及日本國專賣局ニ其ノ旨通知スヘシ

第三條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ吉黑榷運署長ヨリ官鹽ノ賣下ヲ受クヘシ

第四條　輸出工業用鹽ニハ百斤（司馬秤）ニ付國幣五分ノ鹽稅ヲ課ス

第五條　第一條ノ許可ヲ受ケタル者ハ遲滯ナク左記事項記載ノ輸出計劃書ヲ鹽務署吉黑榷運署並ニ輸出地稅關ニ提出スヘシ計劃書ノ內容ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

一　鹽灘別引取作業開始及完了豫定期日

二　月別及鹽產地別ノ輸出數量
三　貯鹽場設備ノ有無
四　海陸包運人名
五　使用艀船數
六　廻送船籍所有者及噸數
七　寄港地名
八　仕向地名

第六條　輸出人ハ鹽ノ取引運搬及船積ニ付鹽務署長及吉黑榷運署長ノ指揮監督ニ從フヘシ

第七條　輸出鹽ノ船積ヲ了シタルトキハ鹽務署長ハ船長ニ輸出鹽船積證明書ヲ交付シ日本國專賣局ニ輸出鹽船積通知書ヲ送付スヘシ

第八條　鹽務署長又ハ吉黑榷運署長ハ鹽ノ輸出上必要アリト認ムルトキハ輸出人ニ對シ組合ノ組織其ノ他輸出統制上必要ナル事項ヲ命スルコトヲ得

第九條　輸出人前各條ノ規定ニ違反シタルトキハ鹽務署長又ハ吉黑榷運署長ハ輸出許可又ハ官鹽賣下ヲ取消スコトヲ得

第十條　本辦法ニ定ムルモノノ外ハ鹽ニ關スル現行章程ヲ適用ス

附　則

本令ハ大同二年五月十六日ヨリ之ヲ施行ス

●工業用鹽輸出監視手續章程

大同二年五月十六日
財政部訓令第百二十五號
鹽務署ニ令ス

工業用鹽輸出監視手續章程左ノ通リ定ムルニ付遵照スヘシ此ニ令ス

工業用鹽輸出監視手續章程

第一條　鹽務署長ハ工業用鹽輸出監視區劃ヲ設定シ監視官吏及監視員ノ執務地ヲ指定シ每年三月末日迄ニ之ヲ財政部總長ニ報告スヘシ報告後異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第二條　監視官吏ハ監視員ヲ監督シ鹽稅徵收及輸出鹽數量査定ノ事務ヲ處理スヘシ

第三條　監視員ハ監視區內ヲ巡察シ運鹽監視事務ニ從事スヘシ

監視員ハ手帳ヲ携帶シ官鹽ノ賣渡高輸出高現在高其ノ他輸出ニ必要ナル事項ヲ記載スヘシ

第四條　監視員ハ必要アリト認ムルトキハ搬出鹽坨ヲ指定スルコトヲ得

第五條　輸出鹽船積込着手前ニ於テ監視官吏ハ豫メ艀船內部ヲ檢査スヘシ

第六條　輸出鹽船積ノ爲艀船ニ鹽ヲ積込ミタルトキ又ハ一時船積ヲ中止スルトキハ監視官吏ハ船艙ニ封印ヲ施シ本船ヘ積替ヲ爲ストキ之ヲ除去スヘシ

第七條　前條ノ封印ヲ施シタルトキハ監視官吏ハ送狀（第一號書式）ヲ作成シ甲號ハ監視官吏之ヲ保存シ乙號ハ艀船ノ運搬人ニ交付スヘシ

第八條　監視官吏ハ本艀船積開始前船艙其ノ他ノ場所ヲ臨檢スヘシ

第九條　監視官吏ハ艀船ヨリ本船ニ鹽ノ積取ヲ爲ス際送狀ニ依リテ鹽ノ封印ヲ檢スヘシ

第十條　監視官吏ハ船積中立會監視ヲ爲シ退船後再ヒ船積ヲ開始スルトキハ前ニ施シタル封印ニ異狀ナキヤ否ヤヲ檢スヘシ

第十一條　鹽ノ船積終了シタルトキハ監視官吏ハ鹽務署長ニ報告（第二號

書式）ヲ爲シ及船長ニ託シテ所轄日本專賣支局ニ宛テ通知（第三號書式）ヲ爲スヘシ通知書ニハ必要ニ應シ船舶及封印場所ノ見取圖ヲ添附スヘシ

第十二條　輸出鹽船積ノ證明ヲ受ケムトスル者ハ輸出者ノ氏名住所鹽ノ斤數產地廻送船名發航地名寄港地名仕向地名及發航年月日ヲ記載シタル書面ニ該船積鹽ニ對スル所定ノ運鹽執照及船荷證券ヲ添ヘテ鹽務署ニ申請スヘシ

第十三條　前條ニ依リ船積證明書交付ノ申請アリタルトキハ鹽務署長ハ申請書及添附書類ヲ審査シ監視官吏ノ報告ニ對照シ第四號書式ニ依リ船積證明書ヲ交付スヘシ

第十四條　輸出鹽ヲ積載シタル船舶副荷積載ノ爲解封ヲ要スルトキハ鹽務署ニ申告スヘシ

前項ノ申告アリタルトキハ監視官吏ハ船舶ノ解封ヲ爲シ副荷積込後更ニ封印ヲ施スヘシ

第十五條　本規則ノ外工業用鹽輸出監視上必要アリト認メタル事項ハ鹽務署長之ヲ定ムヘシ

附　則

本令ハ大同二年五月十六日ヨリ之ヲ施行ス

（各書式略）

●暫行禁煙特稅徵收辦法

大同二年六月十三日
財政部令第十二號

玆ニ暫行禁煙特稅徵收辦法ヲ制定シ之ヲ公布ス

暫行禁煙特稅徵收辦法

第一條　禁煙特稅ニ關スル事務ハ熱河稅務監督署長之ヲ管掌ス

第二條　禁煙特稅ハ熱河省ニ在リテハ臨時禁煙指導分局長興安西分省ニ在リテハ旗長又ハ縣長之ヲ徵收ス

第三條　本辦法施行ニ關シ必要ナル規定ハ熱河稅務監督署長別ニ之ヲ定ム

附　則

本辦法ハ大同二年分禁煙特稅ヨリ之ヲ適用ス

本辦法ハ本辦法公布ノ日未納ニ屬スル禁煙罰金ノ徵收ニ付之ヲ適用ス

●契稅罰則適用停止ノ件

大同元年十二月二十日
教令第百二十一號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ契稅罰則適用停止ノ件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

契稅罰則適用停止ノ件

契稅條例第七條ノ規定及之ニ基ク罰則ハ大同元年十二月一日ヨリ大同二年六月三十日迄ノ期間其ノ適用ヲ停止ス

本令ハ大同元年十二月一日ヨリ之ヲ施行ス

●彩票條例

大同元年九月二十二日
教令第九十三號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ彩票條例ヲ制定シ之ヲ公布セシム

彩票條例

第一條　政府ハ其ノ益金ヲ以テ災害救濟費ニ充當シ又ハ災害救濟基金ヲ造成スル爲彩票ヲ發行スルコトヲ得

第二條　彩票ヲ發行セムトスルトキハ財政部總長ハ其ノ目的每回ノ發行高發行號數一號ノ價格得彩金發行期日及抽籤ノ期日竝ニ場所其ノ他必要ナル事項ヲ定メテ之ヲ公告ス

第三條　每回ノ得彩金ノ總額ハ彩票發行高ノ百分ノ五十以上トス

第四條　彩票一號ノ價格ハ五圓以下トス但シ一號ヲ數條ニ均等分割スルコトヲ得

第五條　彩票ノ當籤ハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

抽籤ハ財政部總長ニ於テ立會人三人以上ヲ指定シ公開シテ之ヲ行フ當籤彩票ノ番號ハ之ヲ公告ス

第六條　得彩金ハ當籤彩票ト引換ニ財政部總長ノ指定シタル場所ニ於テ其ノ所持人ニ之ヲ支拂フ但シ一號ヲ數條ニ分割シタル場合ハ其ノ條數ニ應シ均分シテ之ヲ支拂フ

第七條　得彩金ハ當籤公告ノ日ヨリ五日ヲ經タル後支拂ヲ開始ス

得彩金ノ請求權ハ支拂開始ノ日ヨリ起算シ六月ヲ經過スルニ依リテ消滅ス

第八條　彩票ニシテ汚染若ハ毀損ニ依リ其ノ眞贋又ハ回數番號ヲ鑑別シ難キモノハ之ヲ無效トス

第九條　彩票ハ財政部總長ノ指定シタル代賣人ヲシテ引受ケシメ販賣セシム

第十條　代賣人ニハ引受金額ニ應シ手數料ヲ交付ス但シ其ノ手數料ハ引受金額ノ百分ノ七ヲ超ユルコトヲ得ス

第十一條　代賣人ハ自己ノ販賣シタル彩票ニシテ當籤シタルモノアルトキハ當該彩票ノ所持人ヨリ得彩金ノ百分ノ三以內ヲ報酬トシテ受クルコトヲ得

第十二條　行使ノ目的ヲ以テ彩票ヲ僞造又ハ變造シタル者ハ六月以下ノ有期徒刑若ハ拘役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス僞造若ハ變造ノ彩票ヲ行使シ又ハ行使ノ目的ヲ以テ之ヲ他人ニ交付シタル者亦同シ

第十三條　本條例ノ施行細則其ノ他必要ナル事項ハ財政部總長之ヲ定ム

第十四條　本條例又ハ本條例ニ基キテ發スル命令ニ依ル公告ハ滿洲國政府公報ニ之ヲ揭載ス

第十五條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年九月二十二日）

●彩票條例施行細則

大同元年九月二十六日
財政部令第十號

玆ニ彩票條例施行細則ヲ制定シ之ヲ公布ス

彩票條例施行細則

第一條　彩票ニハ回數番號發行ノ目的發行高每號ノ價格抽籤ノ期日並場所及得彩金ノ額並支拂場所ヲ記載ス

天災事變其他已ムヲ得サル事由ニ因リ抽籤ノ期日又ハ場所ヲ變更スル必要ヲ生シタルトキハ其ノ旨ヲ公告ス

第二條　彩票代賣人ハ資產信用確實ト認ムル者ニ就テ財政部總長之ヲ指定ス

財政部總長前項ノ指定ヲ爲シタルトキハ代賣人ノ住所氏名及販賣場所ヲ公告ス

第三條　代賣人ヲ置ク地及代賣人ノ數ハ財政部總長之ヲ定メ公告ス之ヲ變

更シタルトキ亦同シ

第四條　代賣人ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ附屬樣式第一號ニ依ル彩票代賣人指定申請書ニ左ノ書類ヲ添附シテ財政部總長ニ提出スヘシ

一　身元ニ關スル官公署ノ證明書

二　經歷書

三　資產調書

四　每回ノ彩票引受見込高ヲ記載シタル書面

五　販賣場所ノ位置ヲ示シタル略圖

第五條　代賣人ノ引受クヘキ彩票ノ數ハ一人ニ付每回五百號ヲ下ルコトヲ得ス

第六條　財政部總長ハ代賣人ノ每回ニ於ケル彩票引受責任高ヲ決定シ之ヲ通知ス引受責任高ヲ變更シタルトキ亦同シ

第七條　代賣人彩票ノ販賣ヲ廢止セムトスルトキ又ハ彩票引受責任高ヲ變更セントスルトキハ遲クトモ一月前ニ財政部總長ニ願出ツヘシ

第八條　代賣人ハ每回遲クトモ彩票發行期日ノ三日前ニ彩票引受高ヨリ代賣手數料及得彩金支拂高ヲ控除シタル金額ヲ滿洲中央銀行ニ拂込ムヘシ

代賣手數料ニ得彩金支拂高ヲ加算シタル金額カ彩票引受高ヲ超ユルトキハ其ノ超過額ハ次回ノ引受高ヨリ之ヲ控除ス次回ノ引受ナキトキハ滿洲中央銀行ニ於テ之ヲ支拂フ第一項ノ拂込アリタルトキハ滿洲中央銀行ハ代賣人ニ對シ附屬樣式第二號ニ依ル彩票代金拂込領收書正副二通ヲ交付スヘシ

第九條　前條第四項ノ報告アリタルトキハ財政部總長ハ代賣人ニ對シ拂込代金ニ相當スル彩票ヲ交付ス

第十條　代賣人彩票ヲ受領シタルトキハ附屬樣式第四號ニ依ル彩票受領書ヲ財政部總長ニ提出スヘシ

第十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ財政部總長ハ何時ニテモ代賣人ノ指定ヲ取消スコトヲ得

一　彩票ノ引受高第六條ノ引受責任高ニ達セサルトキ

二　所定ノ期日迄ニ第八條ノ拂込ヲ爲ササルトキ

三　其ノ他法令ニ違反シ又ハ財政部總長ノ命令ニ違反シタルトキ

四　不都合ノ所爲アリタルトキ

第十二條　財政部總長ハ代賣人ニ對シ必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

第十三條　得彩金ハ一號ニ付三百圓以上ノ場合ニ在リテハ滿洲中央銀行ニ於テ三百圓未滿ノ場合ニ在リテハ當該彩票ヲ販賣シタル代賣人ニ於テ彩票引換ニ之ヲ支拂フモノトス

代賣人ハ他ノ代賣人ノ支拂ヲ拒絕シタル得彩金ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第十四條　滿洲中央銀行得彩金支拂ノ請求ヲ受ケタルトキハ當該彩票ヲ販賣シタル代賣人ヲシテ彩票ノ眞贋ヲ鑑定セシメ其ノ證明ヲ徵スルコトヲ要ス

第十五條　滿洲中央銀行又ハ代賣人ニ於テ得彩金ノ支拂ヲ爲シタルトキハ附屬樣式第五號又ハ第六號ニ依ル得彩金支拂計算書ニ證憑書類ヲ添附シテ財政部總長ニ報告スヘシ

第十六條　本細則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年九月二十六日）

（附屬樣式略）

●貨幣法

大同元年六月十一日
敎令第二十五號

改正　大同二年四月　敎令第二十二號

貨幣法

第一條　貨幣ノ製造及發行ノ權ハ政府ニ屬シ滿洲中央銀行ヲシテ之ヲ行ハシム

第二條　純銀ノ量目二三・九一公分ヲ以テ價格ノ單位トシ之ヲ圓ト稱ス

第三條　貨幣ノ計算ハ十進トシ一圓ノ十分ノ一ヲ角ト稱シ百分ノ一ヲ分ト稱シ千分ノ一ヲ厘ト稱ス

第四條　貨幣ノ種類ハ左ノ九種トス

紙幣	百圓	十圓	五圓
白銅貨幣	一圓	五角	
白銅貨幣	一角	五分	
青銅貨幣	一分	五厘	

第五條　紙幣ハ其ノ額ニ制限ナク法貨トシテ通用ス鑄貨ハ其ノ額面ノ百倍迄法貨トシテ通用ス

第六條　鑄貨ノ品位量目ハ左ノ如シ

一　一角白銅貨幣　總量　五公分（ニッケル二五參和銅七五ノ割合）

二　五分白銅貨幣　總量　三・五公分（ニッケル二五參和銅七五ノ割合）

三　一分青銅貨幣　總量　五公分（銅九五錫四亞鉛一ノ割合）

四　五厘青銅貨幣　總量　三・五公分（銅九五錫四亞鉛一ノ割合）

第七條　貨幣ノ樣式並ニ製造發行損幣引換及銷却ニ關シテハ敎令ヲ以テ之ヲ定ム

第八條　著シク汚染磨損又ハ毀損セル貨幣ハ其ノ額面價格ヲ以テ無手數料ニテ滿洲中央銀行ニ於テ之ヲ引換フ

第九條　鑄貨ニシテ模樣ノ認識シ難キモノ又ハ私ニ極印ヲ爲シ其ノ他故意ニ毀損セリト認ムルモノハ貨幣タルノ效力ナキモノトス

第十條　滿洲中央銀行ハ紙幣發行高ニ對シ三割以上ニ相當スル銀塊金塊ノ確實ナル外國通貨又ハ外國銀行ニ對スル金銀預ケ金ヲ保有スルコトヲ要ス

第十一條　前條ニ揭ケタル準備額ヲ控除セル殘餘ノ發行高ニ對シテハ公債證書政府ノ發行又ハ保證セル手形其ノ他確實ナル證券若ハ商業手形ヲ保有スルコトヲ要ス

第十二條　滿洲中央銀行ハ紙幣及鑄貨ノ發行高竝ニ準備ノ增減ニ關スル出納日表及每週平均高表ヲ作製シテ政府ニ進達シ且每週平均高ハ之ヲ公告スヘシ

第十三條　政府ハ滿洲中央銀行ノ監理官ヲシテ特ニ貨幣ノ製造及發行ヲ監督セシム

監理官ハ何時ニテモ貨幣ノ發行高未發行高及帳簿ヲ檢查スルコトヲ得

第十四條　從來流通シタル鑄貨及紙幣ニ關シテハ舊貨幣整理辦法ノ定ムル所ニ依ル

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年六月十一日）

●舊貨幣整理辦法

大同元年六月二十七日
敎令第三十八號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ舊貨幣整理辦法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム

舊貨幣整理辦法

第一條　從來流通シタル鑄貨及紙幣ハ本辦法ニ依ルノ外本辦法施行ノ日ヨリ一切其ノ流通ヲ禁止ス

第二條　從來流通シタル左ノ紙幣ハ本辦法施行後滿二年間一定ノ換算率ヲ以テ貨幣法ノ定ムル貨幣（以下單ニ新貨幣ト稱ス）ト同一ノ効力ヲ有スル期間滿了後ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

一　東三省官銀號發行ノ兌換券（天津券ヲ含マス）
二　邊業銀行發行ノ兌換券（天津券ヲ含マス）
三　遼寧四行號聯合發行準備庫發行ノ兌換券
四　東三省官銀號發行ノ匯兌券
五　公濟平市錢號發行ノ銅元票
六　東三省官銀號發行ノ哈爾濱大洋票
七　吉林永衡官銀錢號發行ノ哈爾濱大洋票
八　黑龍江省官銀號發行ノ哈爾濱大洋票
九　邊業銀行發行ノ哈爾濱大洋票
一〇　吉林永衡官銀錢號發行ノ官帖
一一　吉林永衡官銀錢號發行ノ小洋票
一二　吉林永衡官銀錢號發行ノ大洋票
一三　黑龍江省官銀號發行ノ官帖
一四　黑龍江省官銀號發行ノ四釐債券
一五　黑龍江省官銀號發行ノ大洋票

第三條　前條ノ換算率ハ財政部令ヲ以テ之ヲ定ム

第四條　從來流通シタル奉天省ノ十進銅元ハ本辦法施行後滿五年間新貨幣一分青銅貨ト同一ノ効力ヲ有ス期間滿了後ハ其ノ効力ヲ失フモノトス

第五條　第二條及第四條ニ揭クル紙幣又ハ鑄貨ハ滿洲中央銀行總分支行ニ於テ第三條又ハ第四條ニ依リ新貨幣ト之ヲ引換フ但シ本辦法施行後滿一年間ハ新貨幣ニ代ヘ第二條第一號及第二號ノ紙幣ヲ以テ引換フルコトヲ得

第六條　中國銀行及交通銀行ハ其ノ現在已ニ發行セル哈爾濱大洋票額ヲ限度トシ之ヲ通用スルコトヲ得但シ本辦法施行後五年以內ニ政府ノ命スル所ニ依リ之ヲ回收スヘシ

第七條　熱河省內ニ流通スル鑄貨及紙幣ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第八條　本辦法ハ大同元年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●舊貨幣整理辦法第三條ヲ以テ規定スル新貨幣ニ對スル舊貨幣ノ換算率

大同元年六月二十八日
財政部令第三號

舊貨幣整理辦法第三條ヲ以テ規定スル新貨幣ニ對スル舊貨幣ノ換算率左ノ通リ定ム玆ニ之ヲ公佈シ一般ニ週知セシム

一　東三省官銀號發行ノ兌換券（天津券ヲ含マス）　新貨幣壹圓ニ付　壹圓
二　邊業銀行發行ノ兌換券（天津券ヲ含マス）　新貨幣壹圓ニ付　壹圓
三　遼寧四行號聯合發行準備庫發行ノ兌換券　新貨幣壹圓ニ付　壹圓
四　東三省官銀號發行ノ匯兌券　新貨幣壹圓ニ付　五〇圓
五　公濟平市錢號發行ノ銅元票　新貨幣壹圓ニ付　六〇圓
六　東三省官銀號發行ノ哈爾濱大洋票（有監理官印）　新貨幣壹圓ニ付　一・二五圓
七　吉林永衡官銀錢號發行ノ哈爾濱大洋票（有監理官印）　新貨幣壹圓ニ付　一・二五圓
八　黑龍江省官銀號發行ノ哈爾濱大洋票（有監理官印）　新貨幣壹圓ニ付　一・二五圓
九　邊業銀行發行ノ哈爾濱大洋票（有監理官印）　新貨幣壹圓ニ付　一・二五圓
十　吉林永衡官銀錢號發行ノ官帖　新貨幣壹圓ニ付　五〇吊
十一　吉林永衡官銀錢號發行ノ小洋票　新貨幣壹圓ニ付　五〇圓
十二　吉林永衡官銀錢號發行ノ大洋票　新貨幣壹圓ニ付　一・三〇圓
十三　黑龍江省官銀號發行ノ官帖　新貨幣壹圓ニ付　一、六八〇吊
十四　黑龍江省官銀號發行ノ四釐債券　新貨幣壹圓ニ付　一四圓
十五　黑龍江省官銀號發行ノ大洋票　新貨幣壹圓ニ付　一・四〇圓

附　則

本令ハ大同元年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

●建國公債條例

大同元年十一月六日
敎令第百九號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ建國公債條例ヲ制定シ之ヲ公布セシム

建國公債條例

建國ニ伴フ必要ノ經費ニ充ツル爲政府ハ日貨公債三千萬圓ヲ發行シ之ヲ建國公債ト稱ス

本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年十一月十六日）

●建國公債發行規程

大同元年十一月十九日
國務院令第十七號

改正　大同元年十二月　國務院令第十九號

玆ニ建國公債發行規程ヲ制定シ之ヲ公布ス

建國公債發行規程

第一條　政府ハ建國公債條例ニ依リ日貨公債額面三千萬圓ヲ發行ス

第二條　本公債ノ元金ハ大同四年一月十一日ヨリ五ケ年間内ニ左記區分ニ依リ之ヲ償還ス

自大同四年一月十一日至大同五年一月十日	二百萬圓以上
自大同五年一月十一日至大同六年一月十日	四百萬圓以上
自大同六年一月十一日至大同七年一月十日	六百萬圓以上
自大同七年一月十一日至大同八年一月十日	八百萬圓以上
自大同八年一月十一日至大同九年一月十日	殘額

本公債ノ一部償還ハ抽籤ノ方法ニ依ル

政府ハ何時ニテモ本公債ノ買入銷却ヲ爲スコトヲ得

第三條　本公債ノ元金ヲ償還セントスルトキハ買入銷却ノ場合ヲ除キ其ノ金額期日其ノ他必要事項ヲ東京市及大阪市ニ於テ發行スル新聞紙各二種以上ニ廣告ス

第四條　本公債ノ發行價格ハ額面金額百圓ニツキ九十六圓五十錢トス

第五條　本公債ノ利率ハ一ケ年百分ノ五トス

第六條　本公債ノ利子ハ毎年六月一日及十二月一日ニ於テ各前六ケ月分ヲ支拂フ發行及償還ノ場合ニ於テ六ケ月ニ滿タサルトキハ日割ヲ以テ計算ス

但シ大同二年六月一日ニ支拂フヘキ利子ハ額面金額百圓ニツキ一圓九十五錢九厘五毛トス

第七條　本公債ノ證券ハ無記名利札付トシ百圓五百圓一千圓五千圓及一萬圓ノ五種トス

第八條　本公債ノ元利金ノ支拂事務ハ株式會社日本興業銀行本支店ニ於テ之ヲ取扱フ

第九條　本公債ノ申込期間ハ大同元年十二月一日ヨリ同三日迄トス同三日前ト雖モ其ノ申込ヲ締切ルコトアルヘシ

第十條　本公債ノ應募者ハ應募額及住所氏名ヲ記載シタル應募申込書ニ應募額百圓ニ付五圓ノ證據金ヲ添ヘ之ヲ取扱銀行ニ提出スヘシ

第十一條　本公債ノ應募總額カ發行額ヲ超過スルトキハ各應募申込ニ對シ適宜募入額ヲ定ム

第十二條　本公債ノ應募者ニシテ募入セラレタル者ハ左ノ區分ニ依リ募入額ニ對スル拂込ヲ爲スヘシ但シ第一回拂込ハ證據金ヲ以テ之ニ充ツ

第一回　大同元年十二月二十日	募入額百圓ニ付五圓
第二回　大同二年一月十日	募入額百圓ニ付九十一圓五十錢

募入外トナリタル應募者ノ證據金ハ其ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

第十三條　本公債ハ吉黑權運署及阿片專賣公署ノ益金ヲ以テ擔保トシ元利金ハ右益金中ヨリ優先ニ之ヲ支拂フ

第十四條　本規程ハ大同元年十一月十九日ヨリ之ヲ施行ス

●滿洲中央銀行繼承虧損補償公債條例

大同二年四月二十六日
敎令第二十七號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ滿洲中央銀行繼承虧損補償公債條例ヲ制定シ之ヲ公布セシム

滿洲中央銀行繼承虧損補償公債條例

第一條　滿洲中央銀行組織辦法第十一條第一項ノ規定ニ依リ滿洲中央銀行ニ虧損補償金トシテ交付スル爲政府ハ公債三千三百萬圓ヲ發行ス

第二條　本公債ノ交付價格ハ額面金額ニ依ル

第三條　本公債ノ利率ハ一箇年百分ノ五トス

第四條　本公債ノ元金ハ發行ノ日ヨリ十箇年以內ニ額面金額ヲ以テ之ヲ償還ス

第五條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年四月二十八日）

●滿洲中央銀行繼承虧損補償公債利子支拂ニ關スル件

大同二年四月二十六日
財政部令第六號

玆ニ滿洲中央銀行繼承虧損補償公債利子支拂ニ關スル件左ノ通定ム

滿洲中央銀行繼承虧損補償公債利子支拂ニ關スル件

第一條　大同二年敎令第二十七號ニ依ル公債ハ大同二年四月二十七日ヨリ利子ヲ附ス

第二條　本公債利子ノ支拂期日ハ每年六月十五日及十二月十五日トス

第三條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年四月二十八日）

●產金買上法

大同二年六月十四日
敎令第四十七號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ產金買上法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

產金買上法

第一條　政府ハ滿洲中央銀行ヲシテ產金業者ヨリ其ノ產金ヲ買上ケシム

前項ノ場合ニ於ケル買上價格ハ時價ヲ基準トシテ財政部總長之ヲ定ム

第二條　產金業者ハ其ノ產金ヲ產金後三月以內ニ滿洲中央銀行ニ賣却スヘシ但シ財政部總長ノ別ニ定ムル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條　產金業者ハ每月十五日迄ニ前月ノ產金額ヲ財政部總長ニ申告スヘシ

第四條　產金業者ハ每年十二月末日迄ニ翌一年間ノ產金見込額ヲ財政部總長ニ申告スヘシ

新ニ產金業ヲ始メタル者ハ事業開始後一月以內ニ當該年度產金見込額ヲ財政部總長ニ申告スヘシ

第五條　第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ違反ニ係ル產金ノ價格ノ二倍以下ノ罰金ニ處ス但シ違反ニ係ル產金ノ價格以下ニ降スコトヲ得ス

前項ノ場合ニ於テ實業部總長ハ其ノ產金事業ノ停止若ハ廢止ヲ命シ又ハ

鑛業權ヲ取消スコトヲ得

第六條　正當ノ理由ナクシテ第三條ノ規定ニ依ル申告ヲ爲サス又ハ虚僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ千圓以下ノ罰金ニ處ス

第七條　本法施行ニ關シ必要ナル規定ハ主管總長之ヲ定ム

附　則

第八條　本法施行ノ際現ニ產金ヲ業トスル者ハ本法施行後二月以內ニ最近一年間ノ產金額並ニ本年十二月末日迄ノ產金見込額ヲ財政部總長ニ申告スヘシ

第九條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年六月十四日）

●產金買上法施行規則

大同二年六月十四日
財政部令第十四號
實業部令第四號

玆ニ產金買上法施行規則ヲ制定シ之ヲ公布セシム

產金買上法施行規則

第一條　產金買上法及本規則ニ於テ產金業者ト稱スルハ鑛業權者若ハ鑛業權ノ賃借人タル砂金採取業者及砂金又ハ金礦其ノ他ノ含金礦石ヨリ金ヲ製錬スル者ヲ謂フ

第二條　砂金採取業者ハ其ノ採取セル砂金ヲ製錬人ニ賣却スルコトヲ得
製錬人ハ製錬ニ供スル爲砂金採取業者ヨリ其ノ採取セル砂金ヲ買入ルルコトヲ得

第三條　財政部總長產金買上ニ關シ必要アリト認ムルトキハ砂金採取業者ニ命シ其ノ採取セル砂金ヲ製錬人ニ賣却セシムルコトアルヘシ

第四條　產金買上法ニ依リ滿洲中央銀行ノ行フ產金買上ノ價格ハ財政部總長隨時之ヲ定メ公告ス

第五條　產金買上ノ場所ハ財政部總長之ヲ定メ公告ス
滿洲中央銀行ハ前項買上ノ場所ニ其ノ產金買上所ヲ設置スヘシ

第六條　財政部總長ハ製錬人ニ對シ產金ノ品位形態其ノ他產金買上ニ關シ必要ナル事項ヲ指定スルコトアルヘシ

第七條　產金業者產金買上法第三條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲ス場合ニハ砂金採取業者ニ在リテハ第一號書式製錬人ニ在リテハ第二號書式ニ依リ各月產金額申告書二通ヲ調製シ最寄ノ滿洲中央銀行產金買上所ヲ經テ財政部總長ニ提出スヘシ
砂金採取業者ニシテ其ノ砂金ヲ製錬人ニ賣却シタル者ハ前項ノ申告書ニ其ノ賣却額及賣却先ヲ記載スヘシ

第八條　產金業者產金買上法第四條第一項ノ規定ニ依リ申告ヲ爲ス場合ニハ砂金採取業者ニ在リテハ第三號書式製錬人ニ在リテハ第四號書式ニ依リ翌一年間ノ月別產金見込額申告書二通ヲ調製シ最寄ノ滿洲中央銀行產金買上所ヲ經テ財政部總長ニ提出スヘシ砂金採取業者產金買上所ヲ經テ財政部總長ニ提出スヘシ砂金採取業者ニシテ其ノ砂金ヲ製錬人ニ賣却セントスル者ハ前項ノ申告書ニ其ノ賣却見込額及豫定賣却先ヲ記載スヘシ
前二項ノ規定ハ新ニ產金業ヲ始メタル者カ產金買上法第四條第二項ノ規定ニ依リテ爲ス申告ニ付之ヲ準用ス

第九條　新ニ產金業ヲ始メタル者ハ事業開始ノ年度ノ月別產金見込額申告書ニ事業ノ現狀ヲ詳記セル書類ヲ添附シテ財政部總長ニ提出スヘシ

第十條　製錬人ハ第五號書式ニ依リ前月ノ砂金買入額及其ノ買入先ヲ記載シタル砂金買入額申告書二通ヲ調製シ之ヲ各月產金額申告書ニ添付シテ財政部總長ニ提出スヘシ

第十一條　滿洲中央銀行ハ產金業者カ產金買上法ノ規定ニ違反シタル疑アル事實ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ實業部總長及財政部總長ニ報告スヘシ

第十二條　實業部總長ハ部下ノ官吏ニ命シテ產金業者ノ所持ニ係ル產金其ノ生產出入ニ關スル一切ノ帳簿書類及生產上必要ナル建築物原料器具其ノ他ノ物件ヲ檢查セシムルコトアルヘシ

第十三條　本規則第四條及第六條ノ規定ハ滿洲中央銀行カ產金業者ニ非サル者ヨリ金地金又ハ砂金ヲ買上クル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第十四條　本規則ハ產金買上法公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第十五條　產金買上法施行ノ際現ニ產金ヲ業トスル者同法第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲ス場合ニハ產金額ニ付テハ第六號書式又ハ第七號書式產金見込額ニ付テハ第三號書式又ハ第四號書式ニ依リ最近一年間月別產金額申告書並ニ月別產金見込額申告書各二通ヲ調製シ最寄ノ滿洲中央銀行產金買上所ヲ經テ財政部總長ニ提出スヘシ

第十六條　產金買上法施行ノ際現ニ產金ヲ業トスル者ハ前條ノ申告書ニ事業ノ現狀ヲ詳記セル書類ヲ添付シテ財政部總長ニ提出スヘシ

（各書式略）

●金輸出禁止法

大同二年六月十四日
敎令第四十八號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ金輸出禁止法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

金輸出禁止法

金地金（砂金ヲ含ム）金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル製品ハ之ヲ輸出スルコトヲ得ス但シ財政部總長ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス
前項ノ規定ニ違反シタル者ハ違反ニ係ル物件ノ價格ノ二倍以下ノ罰金ニ處シ其ノ物件ヲ沒收ス

附　則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年六月十四日）

●金輸出禁止法施行規則

大同二年六月十四日
財政部令第十三號

玆ニ金輸出禁止法施行規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

金輸出禁止法施行規則

第一條　金地金（砂金ヲ含ム以下同シ）金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル製品ヲ輸出セムトスル者ハ左記要項ヲ詳記シタル許可申請書二通ヲ作リ金地金ノ場合ニ於テハ滿洲中央銀行ヲ、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル製品ノ場合ニ於テハ輸出地稅關ヲ經テ豫定積出日二週間前ニ財政

部總長ニ提出スヘシ但シ郵便ニ依リ輸出セムトスル者ニ在リテハ最寄ノ稅關ヲ經テ財政部總長ニ提出スヘシ

一　輸出セムトスル金地金、金ノ合金又ハ金ヲ主タル材料トスル製品ノ種類、數量及見積價格竝ニ合金ニ在リテハ其ノ成分

二　輸出者ノ住所及氏名又ハ商號

三　輸出先ノ地名及荷受人ノ住所及氏名又ハ商號

四　讓定積出年月日

五　輸出地

六　積載船舶名（船舶ニ依ラサル場合ハ其ノ輸送方法ヲ記載スヘシ）

七　輸出ヲ必要トスル事情

郵便ニ依リ輸出セムトスル者ニ在リテハ第四號第五號及第六號ニ代ヘ差出郵便局名及讓定差出年月日ヲ記載スヘシ

第二條　輸出ヲ許可シタル場合ニ於テハ滿洲中央銀行又ハ申請書經由稅關ヲ經テ輸出許可證ヲ申請者ニ交付ス

輸出ヲ許可セサル場合ニ於テハ其ノ旨滿洲中央銀行又ハ申請書經由稅關ヲ經テ之ヲ申請者ニ通知ス

第三條　第一條ノ物品ヲ輸出セムトスル者ハ輸出申告又ハ郵便差出ノ際輸出許可證ヲ稅關又ハ郵便局ヘ呈示スヘシ

第四條　旅行者ノ携帶スル手廻品及身邊裝飾品ニ付テハ前三條ノ手續ニ依ラス稅關長ハ現品ヲ呈示セシメ其ノ輸出ヲ許可スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年六月十九日）

第十輯　軍　事

●陸海軍條例

大同元年四月十五日
軍令第一號

玆ニ陸海軍條例ヲ制定シ之ヲ公布セシム

陸海軍條例

第一條　陸海軍ハ國内ノ治安並ニ邊境及江海ノ警備ニ任ス

第二條　執政ハ陸海軍ヲ統率ス

第三條　執政ハ警備司令官ノ擔任區域ヲ定メ之ニ所要ノ軍隊ヲ指揮セシメ當該區域ノ治安ニ任セシム

第四條　執政ハ艦隊司令官ノ擔任水域ヲ定メ之ニ所要ノ艦隊ヲ指揮セシメ當該水域ノ警備ニ任セシム

第五條　警備司令官ハ陸軍中將ヲ以テ之ニ充テ執政ニ直隷ス

第六條　艦隊司令官ハ海軍將官ヲ以テ之ニ充テ執政ニ直隷ス

第七條　警備司令官ノ責任ハ擔任區域内ニ於テ隨時情況ヲ詳察シ不逞ヲ掃蕩シ以テ域内ノ安全ヲ保ツニ在リ

第八條　警備司令官ハ隣接警備司令官ノ請求アルトキハ所要ノ兵力ヲ派遣スルコトヲ得若シ緊急ニシテ其ノ請求ヲ待ツ能ハサルトキハ自ラ責ニ任シ所要ノ兵力ヲ派遣スルコトヲ得

但シ前項ノ場合ニ於テハ遲滯ナク軍政部總長ニ報告スルト共ニ隣接警備司令官ニ通報スルコトヲ要ス

第九條　警備司令官ハ治安維持ノ爲兵力ヲ使用スルトキハ其ノ期間内ニ限リ當該主管地方ノ縣警察隊ヲ指揮スルコトヲ得

第十條　艦隊司令官ノ責任ハ絕エス其ノ擔任水域ヲ巡邏シ並ニ其ノ水域ヲ警備シ漁業船ヲ保護シ及密漁密賣ヲ監察スルノ任務ヲ有ス

第十一條　警備司令官及艦隊司令官ハ軍政及用兵ニ關シ軍政部總長ノ指揮ヲ承クルコトヲ要ス

●各省及興安各分省警備司令官竝ニ其ノ擔任區域及所屬軍隊ニ關スル件

大同二年五月三日
軍令第二號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ各省及興安各分省警備司令官並ニ其ノ擔任區域及所屬軍隊ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

各省及興安各分省警備司令官並ニ其ノ擔任區域及所屬軍隊ニ關スル件

第一條　各省及興安各分省ニ警備司令官ヲ置ク

第二條　各省及興安各分省警備司令官ノ擔任區域ハ當該各省及當該興安各分省トス但シ通遼縣ハ當分ノ間興安南分省警備司令官ノ擔任區域トス

第三條　各省及興安各分省警備司令官ノ指揮スル軍隊ハ治安ノ狀況ニ應シ軍政部總長其ノ都度之ヲ定ム

第四條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年五月五日）

第五條　大同元年軍令第二號ハ之ヲ廢止ス

●軍隊隷屬變更ニ關スル件

大同元年八月十三日
軍　令　第　四　號

茲ニ軍令第四號ヲ以テ左記部隊ハ吉林警備司令官隷屬ノ下ニ編入スルコトヲ規定ス

軍隊隷屬變更ニ關スル件

記

前洮遼警備司令官所屬張俊哲ノ第五支隊
前洮遼警備司令官所屬傳銘勛ノ第六支隊
總計約騎兵五千名

●軍令中ノ變通ニ關スル規則

大同元年四月二十五日
教　令　第　二　十　號

茲ニ軍令中ノ變通ニ關スル規則ヲ制定シ之ヲ公布セシム

軍令中ノ變通ニ關スル規則

軍令中軍ノ統率及機密ニ關スルモノハ種々ノ情形ニ依リ國務院官制第六條法制局官制第一條第一號公文程式令第五條及同令第六條ヲ適用セサルコトヲ得

但シ前項ノ軍令ハ國務總理ヨリ次回ノ國務院會議ニ於テ之ヲ宣布ス

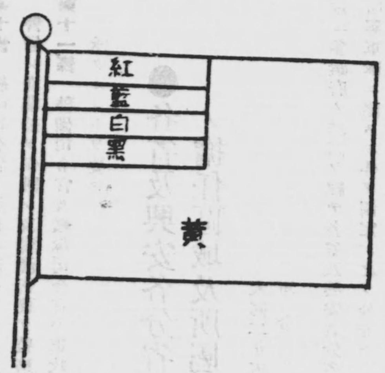
●滿洲國海軍旗式

大同元年四月二十五日
軍　令　第　三　號

茲ニ滿洲國海軍旗式ヲ制定シ之ヲ公布セシム

滿洲國海軍旗式

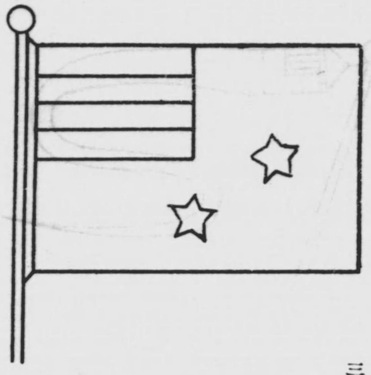
軍艦旗艦首旗海軍上將旗海軍中將旗海軍少將旗海軍代將旗長旗ノ制式ハ左圖ノ如シ



一　軍艦旗及艦首旗

國旗ニ同シ

但シ橫幅ハ縱幅ノ一・五倍トス

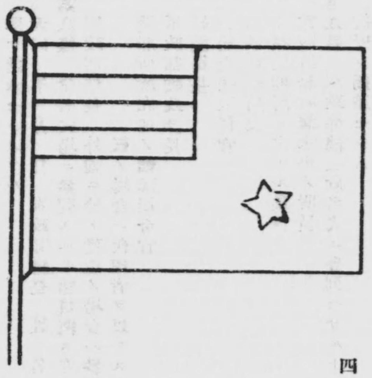


二　海軍上將旗

橫幅ハ縱幅ノ一・五倍トス
軍艦旗ニ白色ノ星三個ヲ附ス
星ノ大サ
外徑　縱幅ノ六分ノ一トス
內徑　縱幅ノ十二分ノ一トス
星ノ角　五
星ノ位置
一　旗ノ中央縱線上ニテ下緣ヨリ四分ノ一ノ處ニ在リ
二　一ノ星ノ右ニシテ其ノ距離ハ橫幅ノ四分ノ一ノ處ニ在リ
三　二ノ星ノ上方ニシテ其ノ距離ハ橫幅ノ四分ノ一ノ處ニ在リ

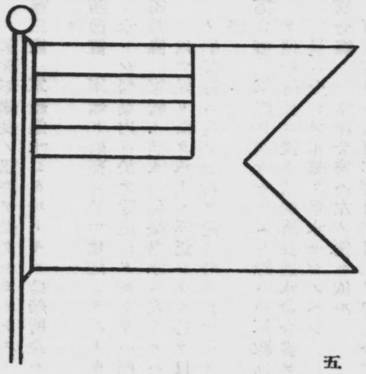
三　海軍中將旗

星ノ數　二
星ノ位置
一　中央縱線上ニテ下緣ヨリ四分ノ一ノ處ニ在リ
二　中央橫線上ニテ右緣ヨリ四分ノ一ノ處ニ在リ
其ノ他ハ海軍上將旗ニ同シ



四　海軍少將旗

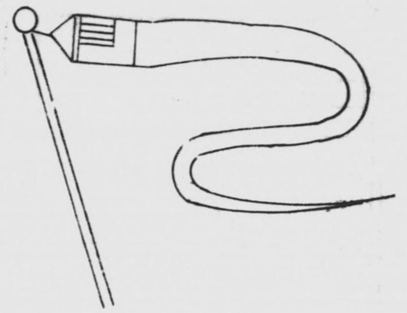
星ノ數　一
星ノ位置
對角線上ニテ右下隅ヨリ四分ノ一ノ處ニ在リ
其ノ他ハ海軍上將旗ニ同シ



五　海軍代將旗

燕尾型ニ開裂ス
縱幅二分ノ一ヲ上下ニ等分ス
其ノ他ハ軍艦旗ニ同シ

第十一輯　法務



六　長旗

橫幅ハ縱幅ノ四十ヨリ九十マテ

上端ハ軍艦旗ニ同シ其ノ他ノ部分ハ白色トス

●軍艦進水規則

大同二年四月二十四日
軍政部令第七號

茲ニ軍艦進水規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

軍艦進水規則

第一條　新造軍艦進水ノ期ニ近ツキタルトキハ造船所長ハ進水ノ期日ヲ豫定シ三十日以前ニ軍政部總長ニ通知スヘシ

軍政部總長ハ前項ノ通知ニ基キ命名式日ヲ定ム

軍艦ノ命名式ハ進水ノ時期ニ擧行セラルヽモノトス

第二條　命名式ノ期日決定シタルトキハ造船所長ハ進水次第書ヲ調製シ豫メ軍政部總長ノ認許ヲ受クルモノトス

第三條　軍艦進水シタルトキハ造船所長ハ直ニ之ヲ軍政部總長ニ報告スヘシ

第四條　軍艦ヲ船臺ニ於テ建造シタルトキハ之ヲ水上ニ浮泛セシムルヲ進水トシ船渠内ニ於テ建造シタルトキハ船渠外ニ出スヲ進水トス

第五條　軍艦ノ進水ハ船臺進水ニ在リテハ船體ノ水面ニ向テ進行ヲ起ス時ヲ以テ始リ全ク水上ニ浮泛シタル時ヲ以テ終リ船渠進水ニ在リテハ船體ノ船渠外ニ向テ進行ヲ起ス時ヲ以テ始リ全ク船渠外ニ出テタル時ヲ以テ終リトス

第六條　軍艦ヲ進水セシムルノ際ニハ軍政部總長進水命令書ヲ朗讀ス終テ之ヲ造船所長ニ授ク造船所長進水命令書ヲ受ケタルトキハ直ニ進水擔當ノ所員ニ令シテ軍艦ヲ進水セシムヘシ

第七條　進水命令書ハ左ノ例ニ依ル

何種艦何大同何年何月何日工ヲ起シ今ヤ艦體成ルヲ告ケ玆ニ命名ノ式ヲ擧ケ進水セシメラル

大同　年　月　日　軍政部總長　姓　名

第八條　命名式場ニ參列スヘキ諸員概ネ左ノ如シ

軍政部總長　外國ニ於テ建造ノ場合ハ參列セサルヲ例トシ百噸以下ノ軍艦ノ場合ハ代理者ヲ以テスルヲ例トス

造船所所在地ノ艦隊司令官

軍政部艦政課長

艤裝員長

造船造兵監督官

當該造船所長

當該造船所ノ主ナル職員

當該造船所進水掛ノ所員

第九條　軍政部總長命名式ニ參列セサルトキハ進水命令書ヲ其ノ代理者ニ送授シ朗讀セシム

●暫行懲治叛徒法

大同元年九月十日
敎令第八十號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行懲治叛徒法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

暫行懲治叛徒法

第一條 國憲ヲ紊亂シ國家存立ノ基礎ヲ急殆若ハ衰退セシムル目的ヲ以テ結社ヲ組織シタル者ハ左ノ區別ニ從ツテ之ヲ處斷ス

一 首魁ハ死刑

二 役員其ノ他ノ指導者ハ死刑又ハ無期徒刑

三 謀議ニ參與シ又ハ結社ニ加入シタル者ハ無期徒刑又ハ十年以上ノ有期徒刑

第二條 前條ノ目的ヲ以テ騷擾殺人襲撃放火脅迫其ノ他不法ノ行爲ヲ爲シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑若ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

前條ノ罪ヲ犯シタル者更ニ本條ノ罪ヲ犯シタルトキハ本刑ノ二分ノ一ヲ加重ス

第三條 出版通信其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス第一條ノ目的ヲ以テ其ノ目的タル事項ヲ宣傳シタル者ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第四條 第一條ノ目的ヲ以テ外國又ハ外國人ト勾結シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑若ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第五條 第一條ノ目的ヲ以テ軍警ヲ煽惑シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑若ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第六條 前五條ノ罪ヲ犯サシメムトスル目的ヲ以テ之カ煽動ヲ爲シタル者ハ各本條ニ照シテ之ヲ處斷ス

第七條 第一條乃至第五條ノ罪ヲ犯サシムルコトヲ目的トシテ金品其ノ他財産上ノ利益ヲ供與シ若ハ犯人ヲ藏匿シ其ノ他犯罪幇助ノ行爲アリタル者ハ無期徒刑又ハ十年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第八條 前各條ノ未遂罪ハ之ヲ罰ス

第九條 第一條乃至第五條ノ罪ヲ犯ス目的ヲ以テ其ノ豫備又ハ陰謀ヲ爲シタル者ハ無期徒刑又ハ三年以上ノ有期徒刑ニ處ス

第十條 本法ノ罪ヲ犯シ其ノ發覺前自首シタル者ハ本刑ノ三分ノ一又ハ二分ノ一ヲ減輕スルコトヲ得

自首人ノ告發ニ因リテ本法ノ犯罪者又ハ其ノ證據ヲ査獲シタルトキハ自首人ニ對シ其ノ本刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

犯罪者カ本法ノ數罪ヲ犯シ其ノ一部ヲ發覺シタル場合ニ於テ其ノ未發覺ノ罪ヲ自首シタルトキハ其ノ自首シタル罪ノ刑ノ三分ノ一又ハ二分ノ一ヲ減輕スルコトヲ得

第十一條 本法ノ罪ヲ犯シタル者ハ公權ヲ褫奪スヘク併セテ其ノ財産ヲ沒收スルコトヲ得

第十二條 現在公務員ニシテ本法ノ罪ヲ犯シタル者ハ其ノ本刑ノ三分ノ一又ハ二分ノ一ヲ加重ス

第十三條 法院ハ本法ノ罪ヲ犯シタル者ニ對シ其ノ情狀ニ依リ二年以上五年ヲ超エサル期間內ニ於テ謹愼ヲ誓約セシメ刑ノ言渡ヲ猶豫スルコトヲ得

刑ノ言渡ヲ猶豫セラレタル者其ノ期間內ニ於テ其ノ誓約ニ違反シタルト

キハ本刑ノ二分ノ一ヲ加重ス

誓約ニ違反スルコトナク其ノ期間ヲ經過シタルトキハ公訴ハ其ノ効力ヲ失フ

第十四條　本法ノ罪ヲ犯シタル者ハ軍法會議ニ附スル者ヲ除クノ外高等法院又ハ其ノ分院ニ於テ第一審ヲ管轄ス

第十五條　本法ハ何人ヲ問ハス本法施行區域外ニ於テ罪ヲ犯シタル者ニ亦之ヲ適用ス

第十六條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年九月十二日）

●暫行懲治盜匪法

大同元年九月十日
教令第八十一號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行懲治盜匪法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

暫行懲治盜匪法

第一條　强暴又ハ脅迫ノ手段ニ依リ他人ノ財物ヲ强取スル目的ヲ以テ衆衆又ハ結夥シタル者ハ之ヲ盜匪トス

盜匪ハ左ノ區別ニ依リ之ヲ處斷ス

一　首魁又ハ謀議ニ參與シ若ハ多衆ヲ指揮シタル者ハ死刑又ハ無期徒刑

二　其ノ他ノ者ハ無期徒刑又ハ十年以上ノ有期徒刑

盜匪ヲ幇助シタル者ハ正犯ヲ以テ之ヲ論ス盜匪ノ爲單ニ役ヲ執リ又ハ附和隨行シタル者ハ七年以下ノ有期徒刑

本條ノ罪ヲ犯シタル者ハ公權ヲ褫奪ス

第二條　盜匪左ノ各號ノ罪ヲ犯シタルトキハ死刑ニ處ス

一　公共危險罪
二　殺人罪
三　强盜及海盜罪
四　强姦罪
五　恐嚇罪
六　脫走罪

第三條　盜匪前條各號ノ罪ヲ除クノ外刑法其ノ他刑罰法令ノ罪ヲ犯シタルトキハ各本條本刑ノ三分ノ一ヲ加重ス

第四條　盜匪緩刑ノ宣告ヲ受ケ其ノ期間內ニ再ヒ盜匪トナリタルトキハ之ヲ死刑ニ處ス

第五條　盜匪ニ關スル案件ハ上訴ヲ許サス

第六條　地方法院本法ニ依リ刑ノ宣告ヲ下シタルトキハ全案卷宗ヲ附具シテ遲滯ナク高等法院長ニ報告シ其ノ核准ヲ待ツテ刑ヲ執行スヘシ但シ死刑執行ノ場合ハ併テ刑法第五十三條及刑事訴訟法第四百八十一條ノ規定ヲ適用ス

高等法院長前項ノ報告ニ對シ特ニ必要アリト認ムルトキハ提審ヲ命スルコトヲ得

前二項ニ依リ核准ヲ了ヘ若クハ提審ヲ命スヘキ期間ハ十日ヲ逾ユルコトヲ得ス

第七條　軍隊部隊ヲ爲ス盜匪ヲ剿討肅淸スルニ當リテハ臨陣格殺シ得ルノ外該事隊ノ司令官其ノ裁量ニ依リ之ヲ措置スルコトヲ得

第八條　高級警察官ノ指揮スル警察隊部隊ヲ爲ス盜匪ヲ剿討スルニ當リ其ノ臨陣格殺シ得ルノ外現場ニ於テ盜匪ヲ逮捕シ事應急迫ニシテ猶豫ヲ許ササル事情アルトキハ該高級警察官其ノ裁量ニ依リ之ヲ措置スルコトヲ得

第九條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年九月十二日）

●暫行懲治盜匪法施行法

大同二年一月十八日
教令第四號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行懲治盜匪法施行法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

暫行懲治盜匪法施行法

第一條　暫行懲治盜匪法施行前ノ行爲同法第一條乃至第三條ノ規定ニ該當シ未タ判決確定セサルモノハ左記各號ノ區別ニヨリ辦理ス

一　已ニ判決謄知ヲ經テ現ニ上訴審ニ繫屬中ナルモノハ第二審或ハ第三審ノ審判ヲ爲スヘシ但シ此ノ第二審ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ許サス

二　判決謄知ヲ經タルモ未タ上訴セス且上訴期間內ニ在ルモノハ上訴ヲ許サス

第二條　暫行懲治盜匪法ヲ適用シテ處斷シタル案件ハ之ヲ覆判ニ送ルコトヲ得ス暫行懲治盜匪法施行ノ當時已ニ判決謄知ヲ經タルモ未タ覆判ニ送ラサル案件亦同シ

第三條　凡ソ暫行懲治盜匪法施行前ノ行爲同法第一條乃至第三條ノ規定ニ該當シ既ニ覆判ニ送リタルモ未タ確定判決ヲ經サルモノハ左記各號ノ區別ニ依リ辦理ス

一　現ニ覆判審ニ繫屬中ナルモノニ付テハ刑事訴訟法所定ノ第一審訴訟手續ニ依リ審判ス

二　覆判審ニ於テ提審若ハ指定推事蒞審ノ裁定ヲ經テ現ニ倘ホ繫屬中ナルモノ亦前號ニ同シ

三　覆判審ニ於テ發回原審司法機關覆審ノ裁定ヲ經テ現ニ原審司法機關ニ繫屬中ナルモノニ付テハ刑事訴訟法所定ノ第一審訴訟手續ニ依リ審判ス

四　覆判ヲ經タル案件ニシテ現ニ上訴審ニ繫屬中ナルモノハ刑事訴訟法所定ノ第二審或ハ第三審ノ訴訟手續ニ依リ審判ス

但シ此ノ第二審ノ判決ニ對シテハ上訴ヲ許サス

第四條　暫行懲治盜匪法第六條第二項ニ依リ提審ヲ命シタルトキハ高等法院ハ刑事訴訟法所定ノ第一審訴訟手續ニ依リ審判スヘシ

第五條　第三條第一號及第四條ノ場合ニ於テハ原判決ハ既ニ撤回シタルモノト看做ス

第六條　暫行懲治盜匪法所定ノ犯罪ニ付テハ刑法第二條但書ノ規定ヲ適用セス

第七條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年一月二十日）

●從前ノ犯罪行爲處罰ニ關スルノ件

大同元年十一月九日
教令第百七號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ從前ノ犯罪行爲處罰ニ關スルノ件ヲ制定シ之ヲ公

布セシム

從前ノ犯罪行爲處罰ニ關スルノ件

大同元年三月九日以前ノ行爲其ノ行爲當時ノ施行法規ニ依リ犯罪タルトキハ該法規カ教令第三號ニ依リ援用ヲ受ケ且其ノ犯罪カ教令第十六號大赦令ニ依リ免除セラレタルモノニアラサル場合ニ限リ該援用法規又ハ之ニ代ルヘキ新法令ヲ適用シテ之ヲ處罰ス

●大赦令

大同元年三月十一日
教令第十六號

玆ニ大赦令ヲ制定シ之ヲ公布セシム

大赦令

滿洲國ニ在リテハ大同元年三月十一日以前ニ於ケル犯罪ハ左ノ犯罪ヲ除クノ他輕罪重罪既發覺未發覺既判決未判決既執行未執行ヲ問ハス政府組織法第十三條ニ依リ悉ク免除ス

刑法第二十一條第一項ノ罪
刑法第二百四十條第六項ノ罪
刑法第二百八十二條第一項ノ罪
刑法第二百八十三條第一項第二項ノ罪
刑法第二百八十四條第一項ノ罪
刑法第二百八十五條第一項ノ罪
刑法第二百九十八條第一項第二項及第二百九十六條ノ罪
刑法第三百四十五條ノ罪
刑法第三百四十六條第一項第二項第三項ノ罪
刑法第三百四十八條第一項ノ罪
刑法第三百四十九條ノ罪
刑法第三百五十條ノ罪
刑法第三百五十二條ノ罪
刑法第三百五十三條ノ罪
刑法第三百七十二條ノ罪
懲治綁匪條例第一條ノ罪
懲治綁匪暫行條例第二條ノ罪

凡テ共產及建國ニ危害ヲ與ヘル犯罪並ニ右ノ各罪ト同種ノ犯罪ハ如何ナル法令ニ依テ處斷セラレタリトモ凡テ之ヲ免除セス

●獄政訓練規則

大同二年六月十七日
司法部訓令第三百十三號

各省區高等檢察廳ニ令ス

獄政訓練規則

第一條　本部ハ獄政ヲ改良センカ爲所屬各監所ノ現職人員ヲ隨時召集シテ訓練スルコトヲ得

第二條　獄政訓練事務ハ本部行刑司長ニ於テ之ヲ監督處理ス

第三條　各監所ノ職員ハ皆期限ヲ分テ訓練スヘシ而テ其ノ訓練割當人員及前後順序ハ本部之ヲ指定ス

第四條　講習科目左ノ如シ

服務規律　法學通論　刑法大要　滿洲國司法制度概要　刑事訴訟法大要　滿洲國獄制及現行監獄法規　監獄會計法規監獄統計　監獄實務　日語滿語

第五條　訓練期間ハ四ケ月間トス

第六條　訓練時間ハ毎日六時間トシ必要ノ場合之ヲ增減スルコトヲ得

第七條　學員ハ訓練期間內現俸ヲ支給スル外ニ一人宛每月食宿費二十圓ト旅費ノ實費ヲ支給ス

第八條　各月末ニ所修ノ科目ニ付キ月試驗一回ヲ擧行シ訓練期間終了後各月所修ノ全科目ニ付キ卒業試驗ヲ擧行シテ證書ヲ授與ス

第九條　試驗成績平均六十點以上ノ者ヲ及第トス

第十條　訓練終了後ハ原職ニ歸任セシメ其ノ成績ノ最優者或ハ落第者ニ付テハ別ニ夫々之ヲ處理ス

第十一條　教授ハ行刑司長ヨリ總長ニ申請シ本部職員及最高院廳新京地方院廳ノ判事檢事中ヨリ詮衡シテ之ニ充ツ必要ノ場合ハ其ノ他機關ヨリ招聘スルコトヲ得

第十二條　本規則ニシテ若シ不完全ナル點アレハ隨時之ヲ修正スルコトヲ得

第十三條　本規則ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年六月二十八日）

●民事訴訟費用法

大同二年八月三十日
教令第六十八號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ民事訴訟費用法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

民事訴訟費用法

第一條　訴訟費用ハ他ノ法令ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外本法ニ依リ計算シ之ヲ徵收ス

第二條　財產權上ノ請求ニ係ル訴訟ニ付テハ訴訟物ノ金額或ハ價額ニ應シ左ノ區別ニ從ヒ審判費ヲ徵收ス

一	十圓以下	三	角
二	二十五圓以下	六	角
三	五十圓以下	一圓五角	
四	七十五圓以下	二圓二角	
五	百圓以下	三	圓
六	二百五十圓以下	六	圓
七	五百圓以下	十二	圓
八	七百五十圓以下	十五	圓
九	千圓以下	十八	圓
十	二千圓以下	二十二	圓
十一	三千圓以下	二十五	圓
十二	五千圓以下	三十	圓

十三　五千圓ヲ越ユルトキハ千圓又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ三圓ヲ加フ

訴訟物ノ金額カ銀兩銅幣或ハ外國貨幣ヲ以テ計算スルモノナルトキハ徵收時ニ於ケル公正ナル市價ニ依リテ國幣ニ換算スヘシ

訴訟物ノ價格ヲ算定スルニハ民事訴訟條例第五條乃至第十三條ノ規定ニ依ルヘシ

第三條　民事訴訟條例第六百八條ノ規定ニ依リ支付命令ノ申請ヲ起訴ト同シト視ルトキハ仍ホ前條ノ規定ニ依リ審判費ヲ徵收ス

第四條　財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ニ付テハ其ノ訴訟物ノ價額ヲ百圓ト看做シ審判費三圓ヲ徵收ス

第五條　財產權上ノ請求ニ非サル訴訟ト同時ニ財產權上ノ請求ヲ爲ストキハ其ノ多額ナル一方ノ訴訟物ノ金額又ハ價額ニ付第二條第一項ノ規定ニ依リ審判費ヲ徵收ス

第六條　本訴ト反訴ト其ノ目的カ同一ノ訴訟物ナルトキハ反訴ニ付キ別ニ審判費ヲ徵收セス

第七條　民事ニ付キ第二審法院ニ對シテ上訴スルトキハ第二條乃至第五條所定ノ審判費ノ十分ノ四ヲ加徵スヘク第三審法院ニ對シテ上訴スルトキハ十分ノ六ヲ加徵スヘシ

案件ノ發還又ハ發回更審後ニ於テ再ヒ上訴ヲ爲ストキ亦同シ

第八條　再審ノ訴ハ起訴法院ノ審級ニ應シ第二條乃至第五條及前條ノ規定ニ依リテ審判費ヲ徵收ス

第九條　左ニ揭クル申請或ハ申立ニ付テハ審判費一圓ヲ徵收ス

一　抗告或ハ再抗告

二　原狀回復ノ申請

三　假扣押或ハ假處分ノ申請

四　除權判決ノ申請

前項以外ノ申請或申立ニ付テハ審判費五角ヲ徵收ス但シ訴訟救助ノ申請ニ付テハ其ノ徵收ヲ免除ス

第十條　強制執行ニ付テハ執行物ノ競賣ノ金額ニ依リ左ノ區別ニ從ヒ執行費ヲ徵收ス

一	二十五圓以下	三角
二	五十圓以下	五角
三	百圓以下	一圓
四	二百五十圓以下	一圓八角
五	五百圓以下	二圓五角
六	千圓以下	三圓五角
七	千圓ヲ逾ユルトキハ千圓又ハ其ノ端數ヲ加フル毎ニ一圓五角ヲ加フ	

執行物カ競賣ヲ經サルモノナルトキハ其ノ金額又ハ價額ニ依リ前項所定ノ區別ニ從ヒ十分ノ五ヲ徵收ス

第二條第二項及第三項ノ規定ハ前項ノ金額又ハ價額ニ之ヲ準用ス

強制執行ノ費用ニ關シテハ本法ニ定メタルモノノ外他ノ法令ノ規定ニ依ル

第十一條　鈔錄費ハ滿州國文及日文ハ百字每ニ一角トシ百字未滿ノトキモ亦百字トシテ計算ス其ノ他ノ外國文ハ百語每ニ五角トシ百語未滿ノトキモ亦百語トシテ計算ス

圖面ハ一葉ニツキ三角トス但シ別ニ測量ヲ要シタルトキハ其ノ測量費ハ法院之ヲ酌定ス

謄譯費ハ滿洲國文ヲ日文ニ譯シ日文ヲ滿洲國文ニ譯スル場合ハ原文百字每ニ三角トシ其ノ他ノ外國文ニ關シテハ百字又ハ百語ニツキ一圓五角トシ百字又ハ百語未滿ノトキモ亦百字又ハ百語トシテ計算ス

繕狀處又ハ代書所ニ支拂ヒタル金額カ前三項ニ定ムルモノト異ナルトキハ其ノ額ニ依ル

第十二條　承發吏ノ手數料及立替金ニ關シテハ別ニ之ヲ定ム

第十三條　公報、新聞紙ヲ以テ公告シタル公告料ハ各其ノ定價ニ依ル

第十四條　郵便料、電信料、運送料ハ其ノ實費ニ依ル

第十五條　民事訴訟條例第二百五十一條ノ規定ニ從ヒ相當ノ訴訟代理人ニ委任スヘキコトヲ命シタルトキ又ハ同條例第三百九十九條ノ規定ニ從ヒ囑託ヲ爲シタルトキハ其ノ報酬ハ法院之ヲ酌定ス

第十六條　判決書其ノ他訴訟ニ關スル文書ヲ送達スルニハ每件一角ヲ徵收ス

承發吏ヲシテ前項ノ送達ヲ爲サシムル場合ニ於テ一日內ニ往返スルコト能ハサルトキハ一夜ニツキ宿泊料五角並ニ船車賃ノ實費ヲ徵收ス

第十七條　當事人及證人ノ日當ハ出頭一度ニツキ五角トス

鑑定人通譯及民事訴訟條例第三百九十九條ニ規定スル陳述人ノ日當ハ出頭一度ニツキ五角以上五圓以下ニ於テ法院之ヲ酌定ス

鑑定又ハ通譯ニ付キ特別ノ技能又ハ費用又ハ長時間ヲ要スルトキハ日當ノ外ニ法院ノ相當ト認ムル金額ヲ給スルコトヲ得

第十八條　當事人、證人、鑑定人、通譯及民事訴訟條例第三百九十九條ニ規定スル陳述人ノ宿泊料ハ一夜ニツキ五角以上五圓以下ニ於テ法院之ヲ酌定ス

第十九條　當事人、證人、鑑定人、通譯及民事訴訟條例第三百九十九條ニ規定スル陳述人ノ船車賃ハ實費ニ依リ法院之ヲ酌定ス

第二十條　當事人、證人、鑑定人、通譯及民事訴訟條例第三百九十九條ニ規定スル陳述人ノ日當宿泊料、船車賃及其ノ他ノ費用ハ其ノ請求ニ因リ法院之ヲ支拂フ

民事訴訟條例第三百九十九條ノ規定ニ依リ囑託ヲ受ケタルモノニ對スル報酬モ亦同シ

第二十一條　推事及法院職員證據調查ノ爲實地ニ出張スル場合ノ日當宿泊料及船車賃ハ證人ニ準シテ計算ス

第二十二條　本法ニ定メサル必要ノ費用ハ其ノ實費ニ依ル

第二十三條　當事人ノ豫納ニ係ラサル費用ハ審判ニ因リ其ノ費用ヲ負擔スヘキ者ヨリ法院之ヲ徵收スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依ル費用ノ徵收ハ第一審ノ受訴法院ノ決定ニ依リ民事訴訟執行規則ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其ノ決定ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

前項ノ規定ハ民事訴訟條例第百三十九條ノ規定ニ從ヒ訴訟救助ヲ受ケタル者ノ相手方ヨリ審判費用ヲ徵收スル場合ニ之ヲ準用ス

第二十四條　當事人カ訴訟救助ヲ申請スルトキハ相當ナル店舖ヲシテ保證セシメ或ハ鄰戶ノ確實ナル保證書ヲ添附提出スヘシ

當事人前項ノ保證又ハ保證書ヲ得ルコト能ハサル旨ヲ疏明シタルトキハ救助ノ要件ヲ具備スル場合ニ限リ法院ハ救助ヲ許可スルコトヲ得

第二十五條　法院カ救助ヲ許可シタル後當事人カ救助ヲ受クヘカラサルコトヲ發見シタルトキハ徴收スヘキ費用ニ付キ隨時ニ裁決ヲ以テ當事人或ハ保證ヲ爲シタル者ヲシテ追納セシムルコトヲ得

前項ノ裁決ハ民事訴訟執行規則ノ規定ニ從ヒ之ヲ執行ス其ノ裁決ハ執行力アル債務名義ト同一ノ效力ヲ有ス

第二十六條　法院ハ救助ヲ受ケタル者亡故シタル場合ニ於テ裁決ヲ以テ訴訟ノ承繼人ヨリ徴收スヘキ費用ヲ追納セシムルコトヲ得前條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

附　則

第二十七條　本法ハ公布ノ日ヨリ施行ス（大同二年八月三十日）

●暫行商租權登記法

大同二年六月十四日
教令第四十六號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ暫行商租權登記法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

第一條　商租權ノ得喪變更ハ本法ニ依リ登記ヲ爲スニ非サレハ之ヲ以テ第三者ニ對抗スルコトヲ得ス

第二條　前條ノ登記ニ付テハ本法ニ規定スルモノヲ除クノ外不動產ノ登記ニ關スル法令ヲ準用ス

第三條　不動產登記官署ハ別ニ商租權登記ニ關スル簿册ヲ備付クルコトヲ要ス

第四條　商租權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スル場合ニ於テハ申請書ニ不動產ノ登記ニ關スル法令ニ定ムル事項ノ外左記ノ事項ヲ記載スヘシ

一　商租期間

二　無條件更新ノ約定ノ有無

三　商租價額及其ノ支拂方法

第五條　商租契約ニ付商租期間滿了スルモ無條件ニテ之ヲ更新スルコトヲ得ル旨ノ約定アル場合ニ限リ商租權者單獨ニテ商租期間延長ノ登記ヲ申請スルコトヲ得

第六條　商租權ノ設定又ハ移轉ノ登記ヲ申請スルトキハ商租權ノ價額ノ千分ノ五ノ登記料ヲ納入スルコトヲ要ス

第七條　本法施行ニ關スル細則ハ司法部總長之ヲ定ム

附　則

第八條　本法ノ施行期日ハ司法部總長之ヲ定ム

第九條　本法施行前取得シタル商租權ニ關スル登記義務者所在不明ナルカ又ハ其ノ他已ムヲ得サル事情ニ因リ登記義務者カ登記ニ協力スルコトヲ得サル場合ニ限リ登記權利者單獨ニテ申請スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ登記申請書ニ單獨申請ニ協力スルコトヲ得サル事由ヲ記載シ其實狀ヲ證明シタル村區長及四鄰ノ保證書ヲ添附スルコトヲ要ス

登記官吏ハ前項ノ保證書ノ外必要ト認ムル證明文件ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第十條　本法施行前ノ商租契約ニシテ商租期間ノ更新ニ付別段ノ約定ナキモノノ商租期間ノ延長ノ登記ニ關シテハ第五條ノ規定ヲ準用ス

●河川航運業法

大同二年六月二十一日
教令第四十九號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ河川航運業法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

河川航運業法

第一條　本法ニ於テ河川航運業ト稱スルハ總噸數二十噸又ハ積量二百擔以上ニシテ櫓櫂ヲ以テ其ノ主要ナル運轉方法ト爲ササル船舶ヲ以テスル左ノ各號ノ一ニ該當スル業ヲ謂フ

一　河川及湖沼ニ於ケル一般旅客若ハ一般貨物ノ運送業

二　前號ノ業者ニ船舶ヲ貸貸スル業

三　河川及湖沼ニ於ケル曳船業

第二條　河川航運業ハ政府又ハ滿洲國人民ニシテ主管總長ノ許可ヲ得タル者ノ外之ヲ行フコトヲ得ス

政府ハ其ノ指定スル者ニ河川航運業ノ經營ヲ委託スルコトヲ得

第三條　河川航運業ヲ營マントスル者ハ左記各號ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ主管總長ニ差出シ許可ヲ受クヘシ

一　姓名、住所、公司ニ在リテハ其ノ名稱及本店ノ所在地

二　業務擔當者ノ姓名及住所

三　支店ノ所在地

四　河川航運業ノ種類（運送業、船舶貸貸業、曳船業又ハ運送及船舶貸貸業等）

五　經營航路

六　河川航運業ニ使用スル船舶ノ名稱、種類、番號、船籍港、總噸數又ハ積量、旅客定員及機關ヲ有スルモノハ其ノ馬力數

七　埠頭、物揚場其ノ他河川航運業ニ使用スル設備ノ構造及位置

前項ノ許可ヲ受ケタル河川航運業者或ハ業務擔當者、第一項第一號ニ掲クル住所若ハ本店ノ所在地又ハ第三號乃至第五號ニ掲クル事項ヲ變更セントスルトキハ主管總長ノ許可ヲ受クヘシ

第一項各號ノ事項中前項ニ掲クル事項以外ノ事項ニ變更アリタルトキハ二十日以內ニ主管總長ニ其ノ旨屆出ツヘシ

第四條　主管總長ハ地域ヲ指定シ其ノ地域內ニ本店又ハ支店ヲ有スル河川航運業者ヲシテ航業公會ヲ組織セシムルコトヲ得

主管總長ハ第二條第二項ニ依リ河川航運業ヲ委託シタル者ヲ前項ノ航業公會ニ加入セシムルコトヲ得

第五條　河川航運業者左ノ各號ノ一ニ該當スル事項ヲ行ハントスルトキハ主管總長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス

一　河川航運業ノ合併

二　河川航運業ノ讓渡又ハ讓受

三　河川航運業ニ屬スル設備ノ重要ナル部分ノ讓渡又ハ讓受

第六條　河川航運業者ハ他人ヲシテ自已ノ名義ヲ使用セシムルコトヲ得ス

第七條　主管總長公益ノ爲必要アルトキハ河川航運業者ニ屬スル船舶及其ノ事業ニ使用スル設備ヲ使用スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ船舶其ノ他ノ設備ヲ使用シタルトキハ相當ト認ムル補償金ヲ交付スルコトヲ要ス

第八條　主管總長ハ當該官吏ヲシテ河川航運業者ノ義務ヲ狀態會計及財産ヲ調査セシムルコトヲ得

河川航運業者ハ當該官吏ノ要求ニヨリ其ノ質問ニ應ヘ又ハ金櫃及帳簿其ノ他ノ書類ヲ提出スヘシ

第九條　河川航運業ニ使用スルノ目的ヲ以テ船舶ヲ建造又ハ購入セントスル者並ニ河川航運業經營ノ爲埠頭其ノ他ノ設備ヲ爲サントスル者ハ主管總長ノ許可ヲ受クルコトヲ要ス但シ本法施行ノ際建造又ハ築造中ノモノニ付テハ主管總長ノ許可ヲ得テ之ヲ完成セシムルコトヲ得

第十條　許可ヲ受ケスシテ河川航運業ヲ營ミタル者、河川航運業者ニシテ許可ヲ受ケサル河川湖沼ニ於テ河川航運業ヲ營ミタル者又ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者ハ二年以下ノ有期徒刑又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條　河川航運業者第八條第二項ノ規定ニ依ル命令ニ悖リタルトキハ一千圓以下ノ罰金ニ處ス

第十二條　河川航運業者本法各條ノ規定ニ違反シタルトキハ主管總長ハ業務ノ全部又ハ一部ノ停止ヲ命シ又ハ河川航運業ノ許可ヲ取消スコトヲ得

第十三條　本法施行ニ必要ナル規定ハ部令ヲ以テ定ム

第十四條　第一條所定ノ船舶以外ノ船舶ヲ以テ同條各號ニ該當スル業ヲ行フ者ニ付テハ部令ヲ以テ必要ナル規定ヲ爲スコトヲ得

附　則

本法ハ大同二年七月一日ヨリ施行ス

第十二輯　事

●私立學校暫行規程

大正二年七月十二日
文教部令第三號

茲ニ私立學校暫行規程ヲ制定シ之ヲ公布ス

私立學校暫行規程

第一條 本規程ハ私人或ハ私法人ノ設立スル學校ニ之ヲ適用ス

第二條 私立學校ヲ設立セムトスル者ハ中學校並ニ之ト同程度以上ノ學校ニ在リテハ文教部總長小學校其ノ他ノ學校ニ在リテハ所轄省長北滿特別區長官又ハ特別市長ノ許可ヲ受ク可シ

第三條 前條ノ規定ニ依ル許可申請書ニハ左記事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 趣旨
二 名稱
三 所在地
四 學則
五 教科用圖書及之ニ類スルモノノ名稱編著者及配當學年
六 校地及建造物ノ面積及圖面
七 資產、經費及維持方法
八 設立者及學校長ノ氏名經歷

前項各號ノ事項ヲ變更セムトスルトキハ前條ノ例ニ依リ許可ヲ受クヘシ

第四條 學則ニハ左ノ事項ヲ規定スヘシ

一 目的
二 修業年限、學年、學期及休日
三 入學、轉學及退學
四 學生定員及學級編制
五 教授科目及課程並ニ各學年每週ノ時間割
六 學費及徵收方法
七 其ノ他必要ナル事項

第五條 私立學校ヲ許可シタル官署ハ遲滯ナク之ヲ文教部總長ニ報告スヘシ

第六條 私立學校ヲ廢止セムトスルトキハ左記事項ヲ具シ其ノ許可ヲ受クヘシ

一 事由
二 期日
三 教職員及學生ノ善後方法
四 學校財產及經費ノ處置方法

第七條 學校長又ハ教職員ヲ採用セムトスルトキハ履歷、擔任學科目若ハ事務及待遇ヲ具シ許可ヲ受クヘシ

第八條 學校長又ハ教職員ニシテ不適任ト認ムルトキハ前條ニ依ル許可ヲ取消スコトアルヘシ

第九條 學校長又ハ教職員辭任シ又ハ之ヲ解任シタルトキハ遲滯ナク其ノ理由ヲ具シテ報告スヘシ

第十條 私立學校ニハ左ノ表簿ヲ備フヘシ

一 學校概況一覽表及學則
二 教職員ノ履歷書、出勤簿、校務分掌表

三　學籍簿、除籍簿、卒業生名簿
四　學生出席簿、授業時間表
五　豫算決算書、出納簿、資產原簿

第十一條　私立學校ハ每學年開始後一ヶ月以內ニ左記事項ヲ報告スヘシ

一　各教職員ノ校務分掌及待遇表
二　學級數及各學年男女別學生數
三　該年度經費豫算及前年度收支決算
四　前年度主要實施事項
五　前年度學生出席及入退學統計
六　前年度各教職員出勤狀況
七　前年度卒業生數及卒業後ノ狀況

第十二條　私立學校ノ臨時休業一ヶ月以上ニ亘ルトキハ事由ヲ具シ許可ヲ受クヘシ其ノ期間延長ノ場合亦同シ

第十三條　私立學校ノ施設、經營、教育方法等ニシテ不適當ト認ムルトキハ其ノ設立許可ヲ取消スコトアルヘシ

第十四條　本規程ニヨル出願又ハ報告ハ設立者又ハ管理者ヨリ學校所在地ノ縣市長又ハ設治局長若ハ北滿特別區長官或ハ特別市長ヲ經由第二條所定ノ官署ニ對シテ之ヲナスヘシ

附　則

第十五條　本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年七月十七日）

第十六條　本規程施行以前ヨリ存立スル各私立學校ハ本規程ニ依リ其ノ設立ヲ許可セラレタルモノト看做ス

前項ノ私立學校ハ本規程施行後三個月以內ニ第三條各號ノ事項ヲ第二條所定ノ官署ニ屆出ツヘシ

●孝子節婦等表彰暫行規程

大同二年二月十五日
文教部令第一號

茲ニ孝子節婦等表彰暫行規程ヲ制定シ之ヲ公布ス

孝子節婦等表彰暫行規程

第一條　孝子節婦義僕等ノ類及社會敎化上功績顯著ニシテ國民ノ模範タルヘキ者ハ本規程ニ依リ文教部總長之ヲ表彰ス

第二條　各省長東省特別區長官及新京特別市長ハ前條ニ該當スルモノアルトキハ左ノ事項ヲ具シ之ヲ文教部總長ニ申請スヘシ

一　姓名
二　年齡
三　本籍
四　現住所
五　家族及家庭狀況
六　經歷
七　表彰ノ事由

第三條　文教部總長ハ表彰スヘキモノト認ムル者ニハ表彰狀及賞品ヲ授與ス表彰セラルヘキ者死亡シタル時ハ之ヲ遺族ニ授與ス

第四條　本規程ハ團體ニモ之ヲ適用ス

第五條　本規程ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年二月二十日）

第十三輯　產　業

●滿洲國經濟建設綱要

大同二年三月一日

滿洲國經濟建設ニ關スル聲明書左ノ如シ

第一　序說

我カ滿洲國ハ舊東北軍閥弊政ノ跡ヲ受ケ昨年三月高遠ナル理想ノ下ニ建國シ爾來滿一年內外實ニ多事多難ナリシト雖モ內ハ極力往日ノ暗黑政治ヲ廓清シ諸般ノ法律制度ヲ改善シ政治機構ノ基礎ヲ固メ幣制並ニ財政ノ確立ヲ計ルト共ニ一方匪禍ノ肅清治安ノ維持ニ努メ外ハ獨立國家トシテ善隣トノ友好關係ヲ深厚ニシ國際的地位ノ向上ニ努力シ來レリ

抑々建國ノ本義ハ一ニ順天安民ニシテ之カ具體化ハ三千萬民衆ノ樂土實現ニアリ

今ヤ建國一周年紀念日ニ際シ玆ニ經濟建設ノ方針ヲ確立シ健實ナル步調ヲ以テ此ノ理想實現ノ歷史的大事業ニ第一步ヲ踏出サントス

素ヨリ爲政ノ事タルヤ多言ヲ取ラス只實行ニアリト雖モ經濟建設ノ大業ハ確固タル方針周到ナル計畫共同一致ノ努力ヲ以テスルモ猶ホ至難ノ事ニ屬スサレハ玆ニ敢テ其根本方針並建設計劃ノ綱要ヲ示シ官民協力實行邁進ノ規準ト爲ス

而シテ本綱要ハ永年ニ亙ル大計ナルヲ以テ近キ將來ニ關シテハ別ニ計劃ヲ策定シ之ヲ公表スルトコロアルヘシ

第二　經濟建設ノ根本方針

我國經濟ノ建設ニ當リテハ無統制ナル資本主義經濟ノ弊害ニ鑑ミ之ニ所要ノ國家的統制ヲ加ヘ資本ノ效果ヲ活用シ以テ國民經濟全體ノ健全且ツ潑溂タル發展ヲ圖ラントス斯クシテ國民大衆ノ經濟生活ヲ豐富安固ナラシメ其ノ國民的生活ヲ向上シ我國力ヲ充實シ併セテ世界經濟ノ發展ニ貢獻シ文化ノ向上ヲ計リ以テ建國ノ大理想タル模範國家ヲ實現スルハ經濟建設究極ノ目標ナリ

右大目標ニ到達スル爲メ次ノ四大根本方針ノ下ニ經濟建設ニ邁進スルヲ要ス　曰ク國家全體ノ利益ヲ基調トシ利源開拓實業振興ノ利益カ一部階級ニ壟斷サルルノ弊ヲ除キ萬民共樂ナラシムルヲ以テ方針第一トス　曰ク國內賦存ノ凡有資源ヲ有效ニ開發シ經濟各部門ノ綜合的發達ヲ計ル爲メ重要經濟部門ニハ國家的統制ヲ加ヘ合理化方策ヲ講スルヲ以テ方針第二トス　曰ク利源ノ開拓實業ノ奬勵ニ當リテハ門戶開放機會均等ノ精神ニ則リ廣ク世界ニ資本ヲ求メ特ニ先進諸國技術經驗其ノ他凡有文明ノ粹ヲ蒐メテ之ヲ適切有效ニ利用スルヲ以テ方針第三トス　曰ク東亞經濟ノ融合合理化ヲ目途トシ先ツ善隣日本トノ相互依存ノ經濟關係ニ鑑ミ同國トノ協調ニ重心ヲ置キ相互扶助ノ關係ヲ益々緊密ナラシムルヲ方針第四トス　叙上ノ四方針ハ經濟建設ノ根本方針タルヲ以テ凡有場合ニ徹底遵奉シ其ノ完成ヲ期スルモノトス

第三　經濟統制ノ方策

前述根本方針ノ主旨ニ基キ政府ハ現下ノ情勢上實現可能ニシテ最善ナル手段トシテ下記ノ範圍ニ於テ國民經濟ノ統制ヲ行フ

一　國防的若クハ公共公益的性質ヲ有スル重要事業ハ公營又ハ特殊會社ヲシテ經營セシムルヲ原則トス

二　右以外ノ產業及資源等各般ノ經濟事項ハ民間ノ自由經營ニ委スル只特ニ

國民ノ福利ヲ重ンシ其ノ生計ヲ維持スル爲ニ生產消費ノ兩方面ニ亙リ必要ナル調節ヲ行フ

第四　交通ノ充實

我國經濟ノ根幹タル農業其ノ他一般資源ノ開發振興治安ノ維持商業ノ隆盛對外經濟連繫上交通ノ整備ハ經濟建設ノ基礎工作トシテ最モ緊要ナルヲ以テソノ有機的擴充ヲ企圖ス

一　鐵　道

(イ)鐵道建設ハ經濟開發ヲ主眼トシ併セテ國防ノ安固及治安ノ維持ヲ期スルヲ以テ方針トス

(ロ)將來鐵道ノ總延長ハ二萬五千粁ヲ目途トシ今後十ケ年間ニ先ツ四千粁ノ新線ヲ敷設シ既設ノモノト合シ總延長一萬粁ニ達セシム

(ハ)主要鐵道ハ國有トシ統一經營ス

二　港　灣

(イ)我國經濟開發ヲ促進シ生產地方ト海港トヲ最モ經濟的ニ連絡スル爲我國港灣ノ外隣國ノ港灣ヲ有效ニ利用ス

(ロ)營口安東ノ兩港ニ所要ノ改修ヲ加フ

(ハ)葫蘆島ノ築港工事ハ將來經濟上ノ要求切實ヲ加フルノ時ニ完成ス

(ニ)海運ハ差當リ近海航路ノ充實ヲ圖リ外洋航路ニ付テモナルヘク速ニ其ノ發展ヲ期ス

三　河　川

河川ノ重要性ニ鑑ミ黑龍江松花江鴨綠江及遼河ニ於ケル河運ノ便ヲ增進ス

四　道　路

(一)國民ノ一般交通ノ便ヲ加ヘ治安ヲ維持スル爲主要都市相互間及主要都市ト縣城間ヲ聯絡スル爲ノ路線其ノ他未開地方ノ開發及國防等ノ必要ニ屬スル路線等總計約六萬粁ヲ十ケ年間ニ之ヲ新設又ハ改修ス

(ロ)今後此等路線上ニハ全國ニ亙リ自動車交通ヲ發達セシム

五　通　信

(イ)國內ニ於テハ通信ノ統一聯絡ヲ主眼トシ併セテ海外聯絡通信ノ充實ヲ期ス

(ロ)有線無線ノ電氣通信ヲ統一經營シ經濟幹線及之ニ附隨スル支線ノ改良擴張ト主要都市電話施設ノ改善擴張放送施設ノ擴充ヲ行フ

六　空　運

目途月歩ノ趨勢ニ鑑ミ空運ノ發達ヲ助長シ優秀ナル機材ト技術トヲ有スル滿洲航空會社ニ之ヲ經營セシメ差シ當リ今後三ケ年間ニ航空路約三、五〇〇粁ヲ開拓シ更ニ將來歐亞及東洋各地間航空路ノ開拓ニ努ム

七　都市計畫

(イ)國都新京ハ廣袤二百平方粁　收容人口五十萬ヲ目標トシ模範的都市ヲ建設ス

(ロ)奉天哈爾濱吉林齊齊哈爾等ノ都市ニ對シテハ適當ノ時期ニ近代的都市計劃ノ實現ヲ期ス

第五　農業ノ開發

(一)農產業

(1)我國民經濟ハ農ヲ以テ其ノ根幹トス

而シテ農產增殖ノ目標ハ外國ニ依存スル農產物ノ自給ヲ圖ルト共ニ一般農產物ノ輸出ニ努メ以テ農民大衆ノ福利ヲ增進シ其ノ生活ヲ向上セシメントス

(2)農產ノ改良增殖

(イ)我農業經營ノ基幹ヲ爲ス大豆高粱粟玉蜀黍ニ付テハ之カ栽培ニ指導奬勵ヲ加ヘ品種ノ改良ト其ノ增殖ヲ圖ル

(ロ)棉ハ栽培面積三十萬町歩繰棉年產額一億五千萬斤ニ達セシム

(ハ)小麥ハ栽培面積二百三十萬町歩年產額二千萬石ニ達セシム

(ニ)煙草麻類落花生胡麻蓖麻罌粟甜菜果樹蔬菜等ノ栽培並柞蠶ノ飼育ヲ奬勵シテ農業經營ノ改善並農家經濟ノ福利ヲ圖ル

(二)畜產業

(1)我國ノ畜產ハ其ノ量豐富ナルニ拘ラス資質劣等ナルモノ多ク資源トシテノ價値低キ憾アリ仍テ其ノ資源ノ開發ハ家畜頭數ノ增加ト共ニ品種ノ改良ヲ行フヲ以テ主眼トス

(2)家畜ノ改良增殖

(イ)馬ハ「アラブ」「アングロアラブ」等ニ依リ在來種ノ改良ヲ行ヒ少クトモ改良馬二百萬頭ヲ保持セムトス

(ロ)緬羊ハ主トシテ「メリノ」ニ依リ在來種ノ改良ヲ行ヒ少クトモ四百萬頭ノ在來種ヲ改良種ニヨリテ置換ス

(ハ)牛ハ在來種ノ選擇淘汰ヲ行ヒ優良型ノ增殖ニ努メ少クトモ二百七十萬頭ノ整備ヲ圖ル

(ニ)豚ハ國內ニ於ケル肉類需給ヲ目標トシ主トシテ「バークシヤー」ニ依リ其ノ改良增殖ヲ行フモノトス

(3)家畜衞生制度ヲ確立シ畜產業ノ安定ヲ圖リ畜產資源ノ涵養ニ資ス

(4)牧野ノ改良ヲ行ヒ以テ家畜頭數ノ增加ヲ促進ス

(三)林　業

(1)林業ハ森林ノ濫伐ヲ抑制シ之カ保護增殖ニ努メ合理的經營ニ依ツテ林力ノ保續ヲ圖ルヲ主眼トス

(2)新タナル林場權ノ發放ハ暫ク之ヲ中止シ今後五ケ年ヲ期シテ林場權ノ整理ヲ行フト共ニ主要森林ノ基礎調査ヲ行ヒ國有林ヲ規整シ之カ合理的經營ノ基礎ヲ確立セントス國有林ノ經營ハ國營ヲ原則トシ必要ニ應シ其ノ他ノ形ニ依テ之ヲ行ヒ公有林私有林ハ政府監督ノ下ニ夫々合理的經營ヲ爲サシメ又一面造林ヲ奬勵シ林業發達ヲ圖ルモノトス

(四)水產業

(1)漁業

孵化養殖ニ依リ資源ノ涵養ニ努メ濫獲ヲ戒メテ其ノ恒久的利用ヲ圖ラムトス

(2)製鹽業

鹽田ノ整備擴張ヲ行ヒ鹽業ノ發達ヲ期ス

(五)農業經營

在來ノ牧畜農業經營ヲ基礎トシ各種新作物ヲ栽培セシムルト共ニ副業經營並機械農法ヲ加味シテ其ノ改善ヲ圖ル

(六)農業施設

(1)農村ノ振興ヲ圖リ農家ノ經濟力ヲ充實セシムルヲ目途トシ盛ンニ農村組合制度ヲ興シ以テ生產消費ノ改善ヲ圖リ賦資ヲ圓滑ナラシメテ斯業ノ發達ヲ促スノ外農村諸制度ノ改善確立ヲ圖ル

（2）農業ノ指導奬勵ヲ行フ爲漸次各種試驗機關家畜改良機關獸疫研究機關試作地苗圃模範造林地等ノ機關ヲ設置ス
（3）大同元年度ヨリ概ネ五ケ年間ニ氣象施設ヲ完備ス
（4）治水灌漑事業等ニ付基礎的調査ヲ行フ

（七）土　地
（1）速カニ土地ノ調査ニ着手シ土地制度ヲ確立シ土地兼併ノ弊ヲ防止ス
（2）未耕地ハ農地開拓ノ特殊機關ヲ設置シ農業移民ヲシテ十五ケ年間ニ於テ概ネ五百萬町歩ノ開發ヲ行ハシム

第六　鑛工業ノ振興

（一）方針
鑛産資源ヲ開發シ基礎工業及國防工業ノ確立ヲ圖リ國民經濟ヲ豐富ナラシメ國富ヲ增大セシムルヲ以テ方針トス

（二）鑛　業
（イ）石炭ハ諸炭礦ヲ統一シ合理的生産ト供給トヲ行ヒ以テ低廉豐富ナル燃料ヲ提供スルト共ニ輸出ノ增進ヲ圖ル
（ロ）國防鑛産資源ハ原則トシテ特殊會社ヲシテ其ノ鑛業權ヲ確保セシメ以テ無統制濫掘ヲ戒ムルト共ニ其ノ開發ニ便ス
（ハ）砂金及金鑛ハ國有ノモノト然ラサルモノトニ區分シ國有以外ノモノハ之ヲ一般ニ開放ス

（三）工　業
（イ）左記工業ハ國内需要ニ伴ヒ所要ノ統制ノ下ニ逐次發達セシム
金屬工業
機械工業
油脂工業
バルプ工業
曹達工業
酒精工業
柞蠶工業
紡績工業
製粉工業
セメント工業
醸造工業
（ロ）前記以外ノモノハ差當リ自然ノ發達ニ委スルモ將來必要ニ應シ所要ノ統制ヲ加フルコトアルヘシ
（ハ）電氣事業ハ統一經營ヲ行ヒ豐富低廉ナル電力ヲ供給ス

（四）施　設
（イ）工業ノ健全ナル發達ヲ促進シ施設集中ノ利益ヲ圖ルタメ左ノ地方ニ工業地域ヲ設定ス
奉　天
安　東
哈爾濱
吉林附近
（ロ）工業品ノ規格ヲ統一ス

第七　金融ノ整備

舊軍閥ノ政治中其ノ害毒ノ大ナリシハ紙幣ノ濫發片紙ノ流行ナリシニ鑑ミ

政府ハ建國當初ノ既定方針ニ基キ國幣ノ流通ト其ノ價値ノ維持ニ努メ以テ金融ノ基礎ヲ鞏固ナラシムルト共ニ一般的ニ信用制度ヲ改善シ流通經濟ノ暢達ヲ圖ル
（1）滿洲中央銀行ハ速カニ附業ヲ整理シ通貨ノ調節安定ヲ計リ專ラ金融ノ統制ニ任ス
（2）産業組合金融組合等各種庶民金融機關並一般金融機關ノ整備ヲ計リ之ニ對シ適當ナル助成並ニ取締ノ方法ヲ講ス
（3）農工業ノ發達ニ資スル爲メ特殊金融機關ヲ設立シ割增金付債券ノ發行ヲ特許スル等ノ方法ニヨリ長期低利資金ノ供給ヲ行ハントス
（4）彩票ノ發行ハ政府自ラ之ヲ行フノ外之ヲ許可セス
割增金附債券ノ發行ハ前號ニ揭ケタルモノヽ外之ヲ許可セス
（5）一般國民ニ對シ貯蓄心ヲ涵養セシムル爲メ郵便貯金制度ヲ改善シ其ノ發達ヲ計ル

第八　商業ノ助長
（一）一般商業ニ對シテハ努メテ之ヲ助長奬勵シ取引ノ圓滑ヲ期シ國内産業ノ販路ヲ廣ク世界ニ求メ商賈ノ繁榮ヲ計ラントス
之カ爲メ我商民ノ特徵ハ益々之ヲ助長セシメ舊慣ノ改ムヘキハ之ヲ矯正シ以テ取引ノ合理化ヲ期ス
又生活ノ必要品其ノ他國民生活ニ重要ナル關係ヲ有スル商品ニツキテハ適切ナル供給ト價格ノ調節トヲナス
（二）新ニ特許法商標法等ヲ發布シ工業所有權ノ保護ヲ計リ寄託保險等ニ關スル法制ヲ定メ度量衡ノ制度ヲ統一シ其ノ他取引所ノ制度ヲ改善スル等商取引ニ關スル文明的施設ヲナサムトス
（三）關稅政策ハ貿易ノ振興ヲ旨トシ國際取引ノ增進ヲ期ス

第九　私經濟ノ改善
政府ハ單ニ民ニ福スル舊東北軍閥ノ政治ヲ排スルニ止ラス積極的ニ各種ノ政策及施設ヲ實行シ濟世救民以テ惠澤ヲ一般民衆ニ及ホシ其ノ私經濟ヲ改善シ民力培養ニ努ムサレト徒ラニ遊民徒食ノ輩ノ存在ヲ許サス自治隣保扶助ノ美風ヲ作興普及スル之カ爲メ左ノ如キ方策ヲ講ス
一　凡有方法ヲ講シ國民大衆ノ生命及財産ノ安固ヲ期ス
二　官民協力シ適當ノ施設ヲ行ヒ恒ニ飢饉其ノ他天災ニ備ヘ野ニ餓莩ナカラシムルヲ期ス
三　稅制ヲ整理シ負擔ノ均衡及輕減ヲ圖リ民力ノ伸張ヲ期ス
四　國民大衆ニ對シ生活必需品ノ低廉ナル供給ヲ圖ル
五　各種産業組合及金融組合ノ健全ナル發達ヲ圖リ相互扶助ノ實ヲ擧クルニ努ム
六　一般失業者ニ對シテ生業ヲ與フルノ道ヲ講ス

第十　結　論
以上開示セル經濟各部門ニ關スル建設方針ノ要綱ハ尙其ノ規模小ナリト雖モ漸次我國財政經濟ノ實力ニ應シ其計劃ヲ擴大セントスルモノニシテ然モ本計劃ヲ以テ進ムモ現在我國總生産額三十億圓ハ十年ヲ出テスシテ倍加スルヲ疑ハス況ンヤ尙將來ニ於ケル國力ノ增大ハ期シテ待ツヘキモノアラン然リト雖モ前記初期方針ノ實行ニ於テモ巨額ノ資本ト優秀ナル技術及國民一致ノ協力ヲ必要トス其ノ經濟建設資金ハ廣ク之ヲ世界ニ求ムルト共ニ國内ニ於テハ主トシテ中小資本ノ吸收ニ努メ國民全般ノ福利增進ヲ主眼トシ技術的指導亦之ヲ中外ニ求ムヘシ

要ハ國家ト國民永遠ノ繁榮ヲ基調トシテ世界ニ比類ナキ新經濟組織ヲ完成シ我王道建國ノ大使命ヲ全フセントスルニ在リ玆ニ三千萬民衆ニ本建設綱要ヲ示シテ切ニ其ノ確固タル決心ト協力ヲ冀望スル所以ナリ

●滿洲中央銀行法

大同元年六月十一日
敎令第二十六號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ滿洲中央銀行法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム

滿洲中央銀行法

第一條　滿洲中央銀行ハ株式會社トシ國內通貨ノ流通ヲ調節シ其ノ安定ヲ保持シ金融ヲ統制ス

第二條　滿洲中央銀行ハ總行ヲ新京ニ分行ヲ奉天吉林齊齊哈爾及哈爾濱ニ設置ス滿洲中央銀行ハ政府ノ許可ヲ受ケ前項ノ分行ノ外重要地ニ分行又ハ支行ヲ設置シ若ハ他ノ銀行ト代理店契約ヲ締結スルコトヲ得政府ハ必要有リト認ムルトキハ分行支行又ハ代理店ノ設置ヲ命スルコトヲ得

第三條　滿洲中央銀行ノ存立期間ハ設立認可ノ日ヨリ滿三十年トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ得テ之ヲ延長スルコトヲ得

第四條　滿洲中央銀行ノ資本ハ三千萬圓トシ之ヲ三十萬株ニ分チ一株ヲ百圓トス但シ株主總會ノ決議ニ依リ政府ノ許可ヲ得テ資本ノ增加ヲ爲スコトヲ得

第五條　滿洲中央銀行ノ株式ハ之ヲ數回ニ分割シテ募集スルコトヲ得

第六條　滿洲中央銀行ノ株券ハ總テ記名式トシ特ニ政府ノ許可ヲ受ケタル者ノ外株主タルコトヲ得ス

第七條　滿洲中央銀行ノ株式發行ノ價額ハ券面額ヲ下ルコトヲ得ス
第一回拂込ノ金額ハ株金ノ二分ノ一ヲ下ルコトヲ得ス

第八條　政府ハ滿洲中央銀行ノ株式中五萬株以上ヲ引受クルモノトス
政府ハ前項ニ規定セル限度ノ株式ニ付テハ之ヲ讓渡又ハ處分スルコトヲ得ス

第九條　政府ハ滿洲中央銀行資本ノ半額迄引受クルコトヲ得

第十條　滿洲中央銀行ノ營業ハ左ノ如シ
一　政府發行ノ手形爲替手形其ノ他商業手形ノ割引又ハ買入
二　金銀塊外國通貨ヲ擔保トスル貸付
三　金銀塊外國通貨ノ賣買
四　諸預リ金及當座貸越
五　金銀塊外國通貨貴重品竝ニ諸證券類ノ保護預リ
六　公債證書政府發行ノ手形其ノ他政府ノ保證ニ係ル各種ノ證券ヲ擔保トスル貸付
七　確實ナル擔保アル貸付
八　平常取引約定アル諸會社銀行又ハ商人ノ爲ノ手形取立
九　爲替及荷爲替
十　右ノ外營業ノ都合ニ依リ國債證券地方債證券其ノ他政府ノ指定スル確實ナル有價證券ヲ買入ルルコトヲ得

第十一條　滿洲中央銀行ハ營業ノ爲必要ナル物件ヲ買入レ又ハ債務辨償ノ爲引受ケタル物件ヲ所有スルノ外動產不動產ヲ買取ルコトヲ得ス債務辨濟ノ爲引受ケタル動產ハ六月以內ニ不動產ハ一年以內ニ之ヲ賣却スヘシ但シ買受人ナキカ又ハ買受人アルモ其ノ代價ヲ不適當ト認ムルトキハ政

府ノ許可ヲ受ケ之ヲ延期スルコトヲ得

第十二條　滿洲中央銀行ハ自行株券ヲ取得シ又ハ質權ノ目的トシテ受入ルルコトヲ得ス

第十三條　滿洲中央銀行ハ如何ナル場合ト雖其ノ役員及使用人ニ對シ貸付ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條　滿洲中央銀行ハ貨幣法ノ定ムル所ニ依リ貨幣ノ製造及發行ヲ爲ス

第十五條　滿洲中央銀行ハ政府ノ許可ヲ得テ借入金ヲ爲スコトヲ得

第十六條　滿洲中央銀行ハ豫メ政府ノ許可ヲ得タル銀行ニ預ケ金ヲ爲スコトヲ得

第十七條　滿洲中央銀行ハ國庫金取扱ニ關スルノ外地方團體ノ公金取扱ノ事務ヲ代理スルコトヲ得

第十八條　滿洲中央銀行ハ本法ニ定ムル以外ノ業務ヲ營ムコトヲ得ス

第十九條　滿洲中央銀行ニ總裁一人副總裁一人理事五人以上監事三人以上ヲ置ク

第二十條　總裁副總裁ハ其ノ任期ヲ五年トシ政府之ヲ命スルモノトス
理事ハ其ノ任期ヲ四年トシ百株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ選舉シ政府ノ認可ヲ得テ就任スルモノトス
監事ハ其ノ任期ヲ三年トシ五十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任スルモノトス

第二十一條　理事又ハ監事ハ其ノ任期ヲ經過スルモ新理事又ハ新監事ノ就任スル迄繼續シテ其ノ職務ヲ行フ

第二十二條　理事又ハ監事ニ缺員ヲ生シタルトキハ株主總會ヲ招集シ補缺選擧ヲ行フヘシ其ノ補缺員ハ前任者ノ殘任期ヲ繼クモノトス但シ理事又ハ監事ニ缺員アルモ理事ニアリテハ三人監事ニアリテハ一人在任シ役員總會ニ於テ其ノ事務ニ差支ナシト認ムルトキハ補缺選擧ヲ行ハサルコトヲ得

第二十三條　理事ハ其ノ所有ニ係ル滿洲中央銀行ノ株券百株ヲ在任中監事ニ供託スルコトヲ要ス
前項ノ株券ハ本人退職スト雖其ノ期ニ屬スル決算報告カ株主總會ノ承認ヲ得タル後ニ非サレハ之ヲ受戻スコトヲ得ス

第二十四條　總裁副總裁理事及常務監事ハ何等ノ名稱ニ拘ラス報償ヲ得テ他ノ職務ニ就キ又ハ商業ニ從事スルコトヲ得ス但シ政府ノ許可ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　總裁ノ職務權限ハ左ノ如シ
一　總裁ハ一切ノ業務ニ付滿洲中央銀行ヲ代表ス
二　總裁ハ法律命令及定款ノ規定竝ニ株主總會理事會及役員總會ノ決議ニ從ヒ一切ノ行務ヲ執行ス
三　總裁ハ株主總會理事會及役員總會ノ議長タルヘシ

第二十六條　副總裁ハ總裁事故アルトキ其ノ職務ヲ代理シ總裁缺員ノトキ其ノ職務ヲ行フ
總裁副總裁共ニ事故アルトキハ政府ハ理事ノ一人ヲシテ總裁ノ職務ヲ代理セシム

第二十七條　副總裁及理事ハ總裁ヲ輔佐シ總裁ノ命ヲ承ケテ滿洲中央銀行ノ業務ヲ分掌ス

第二十八條　監事ハ滿洲中央銀行ノ業務ヲ監査ス

監事ハ互選ニ依リ一名ノ常務監事ヲ定ムルコトヲ得

第二十九條　總裁副總裁理事及常務監事ノ報酬及手當ノ額ハ政府ノ定ムル所ニ依ル

監事ノ報酬ハ株主總會ノ決議ニ依リ之ヲ定メ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三十條　奉天吉林齊齊哈爾及哈爾濱ノ各分行ニハ理事ヲ分駐セシムルコトヲ得

第三十一條　總裁副總裁及理事ハ理事會ヲ組織ス

理事會ハ總裁之ヲ招集シ重要ナル行務ヲ決議ス

第三十二條　重要業務ノ方針ニ關シ理事會ニ意見ヲ具申セシムル爲重要各分行ニ地方委員會ヲ設クルコトヲ得

第三十三條　監事ハ監事會ヲ組織シ理事會ニ於テ決議サレタル事項ノ中特ニ定メタル事項ヲ調査シ正當ナリト認ムルトキハ之ヲ承認ス

第三十四條　總裁副總裁理事及監事ハ役員總會ヲ組織ス

役員總會ハ總裁之ヲ招集シ特ニ重要ナル事項ヲ決議ス

第三十五條　滿洲中央銀行ハ毎年二回通常株主總會ヲ開ク必要生シタルトキ臨時株主總會ヲ開クコトヲ得

株主總會ニ於ケル株主ノ議決權及議決ノ方法ハ定款ニ於テ之ヲ定ム

第三十六條　滿洲中央銀行ハ毎營業期ニ於テ資本ノ缺損ヲ補フ爲純益ノ百分ノ八以上ヲ積立テ且利益配當ノ平均ヲ得セシムル爲純益ノ百分ノ二以上ヲ積立ツヘシ

滿洲中央銀行ハ前項積立ノ外純益ノ百分ノ二十以上ヲ積立テ金塊外國金通貨又ハ金勘定ノ預ケ金トシテ保有スヘシ

第三十七條　株主ニ對シ配當シ得ヘキ利益金額カ拂込資本ニ對シ一年百分ノ十ノ割合ヲ超過スルトキハ滿洲中央銀行ハ該超過額ノ四分ノ三ヲ政府ニ納付スヘシ

第三十八條　株主ニ對シ配當シ得ヘキ利益金額カ政府持株以外ノ株式ノ拂込金額ニ對シ每營業期ニ於テ一年百分ノ六ノ割合ニ達スル迄ハ政府持株ニ配當ヲ爲スコトヲ要セス

前項ノ百分ノ六ヲ超過シタル利益金額ハ政府持株ニ之ヲ配當ス但シ政府持株以外ノ株式ニ對スル配當率ヲ超ユルコトヲ得ス

第三十九條　株主ニ對シ配當シ得ヘキ利益金額カ政府持株以外ノ株式ノ拂込金額ニ對シ每營業期ニ於テ一年百分ノ六ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ創立年度ヨリ五年ヲ限リ之ニ達スル金額ヲ補給ス

第四十條　政府ハ滿洲中央銀行監理官ヲ置キ銀行一般ノ事務ヲ監理セシム

第四十一條　定款ヲ改正又ハ變更セムトスルトキハ株主總會ニ於テ決議シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條　政府ハ滿洲中央銀行業務ノ監督上必要ナル命令ヲ發スルコトヲ得

第四十三條　滿洲中央銀行ハ營業上警報ノ狀況ヲ每月一回政府ニ報告スヘシ

附　則

第四十四條　滿洲中央銀行開業ノ際合併スル各銀行號ノ從來營ミタル業務ハ第十八條ノ規定ニ拘ラス合併ノ日ヨリ一年間之ヲ行フコトヲ得

第四十五條　設立初度ノ理事及監事ハ特ニ政府之ヲ任命ス

前項ノ理事及監事ハ第二十條第二項及第三項ニ規定スル持株數ヲ要セス

第四十六條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年六月十一日）

●滿洲中央銀行組織辦法

大同元年六月十一日
敎令第二十七號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ滿洲中央銀行組織辦法ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム

滿洲中央銀行組織辦法

第一條　滿洲中央銀行創立ノ事務ヲ掌ラシムル爲政府ハ滿洲中央銀行創立委員若干名ヲ命ス

第二條　創立委員ハ滿洲中央銀行法ニ從ヒ定款ヲ作成シ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　滿洲中央銀行ノ第一回株式募集額ハ資本ノ半額トシ政府及創立委員ノ內特ニ政府ニ於テ指名シタル者之ヲ引受クルモノトス

前項ノ引受アリタルトキハ創立委員ハ遲滯ナク株金額ノ二分ノ一ヲ拂込マシムルコトヲ要ス

第四條　創立委員ハ前條ノ拂込アリタルトキハ其ノ旨ヲ政府ニ進達シ銀行設立ノ認可ヲ受ケ其ノ事務ヲ滿洲中央銀行總裁ニ引繼クヘシ

第五條　前條ノ手續ヲ終リタルトキヲ以テ滿洲中央銀行ハ成立シタルモノトス

第六條　東三省官銀號邊業銀行吉林永衡官銀錢號及黑龍江省官銀號（以下舊行號ト稱ス）ハ滿洲中央銀行開業ト同時ニ之ヲ合併シタルモノトス

附　則

第七條　滿洲中央銀行ハ總行ヲ新京ニ置キ舊行號總分支行號ハ總テ滿洲中央銀行分支行トス但シ滿洲中央銀行ノ都合ニ依リ其ノ一部ヲ廢合スルコトアルヘシ

第八條　中華民國內ニ於ケル舊行號分支行號ハ之ヲ閉鎖シ其ノ債務ハ當分ノ間之カ支拂ヲ停止ス

第九條　舊行號ノ行員ニシテ滿洲中央銀行ニ於テ特命シタル者ハ其ノ行員トシ特命ナキ者ハ解職セラレタルモノトス

第十條　各舊行號ニ於ケル資本及諸積立ハ夫々合併直前其ノ金額ヲ取崩シ之ヲ舊行號整理基金トシテ整理シ後日不良資產ノ缺損償却ニ充ツヘシ

第十一條　各舊行號ヨリ承繼シタル資產負債ヲ精査シ缺損アルトキハ政府之ヲ補償ス

前項資產ノ評價其ノ他ニ因ル缺損ノ査定ハ滿洲中央銀行ノ役員ト政府任命委員トヲ以テ組織スル査定委員會之ヲ行フ

第十二條　舊行號ハ滿洲中央銀行開業ノ前日營業締切現在ヲ以テ公定率ニ依リ換算シタル新貨幣單位（分位以下切捨）ノ貸借對照表ヲ作成シ滿洲中央銀行ニ送付スヘシ滿洲中央銀行ハ之ニ依リ合併貸借對照表ヲ作成シ政府ノ許可ヲ得テ之ヲ公表スヘシ

第十三條　附屬事業ニ對スル出資ハ貸金トシテ整理スヘシ前條ノ合併貸借對照表ニ於テモ亦同シ

第十四條　滿洲中央銀行法第四十四條ニ該當スル業務ハ滿洲中央銀行設立ノ日ヨリ一年以內ニ之ヲ分離シ別ニ設クル會社ヲシテ經營セシムルモノトス

本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年六月十一日）

●滿洲中央銀行監理官章程

大同元年七月二日
敎令第四十五號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ滿洲中央銀行監理官章程ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム

第一條　滿洲中央銀行監理官ハ財政部總長ノ命ヲ承ケ該行ノ一切ノ事務ヲ監理ス

第二條　滿洲中央銀行管理官ハ財政部理財司長又ハ財政部總長ノ命スル財政部官吏ヲ以テ之ニ充ツ

第三條　滿洲中央銀行監理官ハ隨時滿洲中央銀行總分支行ニ就キ銀行諸般ノ業務ヲ監査シ必要アリト認ムルトキハ同行ノ金庫發行券庫帳簿及諸般ノ文書ヲ檢査シ又ハ銀行役員ヲシテ計算書報告書其ノ他ノ書面ヲ檢印ノ上差出サシムルコトヲ得

第四條　滿洲中央銀行監理官ハ特ニ貨幣ノ製造及發行ヲ監督シ何時ニテモ貨幣ノ發行高未發行高發行準備高及帳簿ヲ檢査シ又ハ必要ナル書類ヲ差出サシムルコトヲ得

第五條　滿洲中央銀行監理官ハ理事會監事會役員總會地方委員會及株主總會ニ出席シテ意見ヲ陳述スルコトヲ得但シ表決ノ數ニ加ハルコトヲ得ス

第六條　滿洲中央銀行監理官カ該行カ法律命令若ハ定款ニ背戻シ又ハ公益ヲ害スル行爲アリト認ムルトキハ速ニ財政部總長ニ具申シ其ノ指揮ヲ請フヘシ

第七條　滿洲中央銀行監理官ハ該行將來ノ方針又ハ業務ノ改善若ハ定款其ノ他規定ノ改正ニ付意見アルトキハ之ヲ財政部總長ニ具申スヘシ

第八條　滿洲中央銀行監理官ハ滿洲中央銀行ニ對スル認可其ノ他ノ命令ニ關シ主任司處ノ合議ヲ受クルモノトス

第九條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年七月二日）

●邊業銀行株券管理辦法

大同元年四月三十日
敎令第二十一號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ邊業銀行株券管理辦法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

邊業銀行株券管理辦法

邊業銀行株券中現ニ株主權ヲ行使シ能ハサル株券ハ政府ニ於テ之ヲ管理シ並ニ其ノ株主權ヲ代行ス

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年五月二日）

●遼寧四行號聯合發行準備庫整理辦法

大同元年四月三十日
敎令第二十二號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ遼寧四行號聯合發行準備庫整理辦法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

遼寧四行號聯合發行準備庫整理辦法

第一條　遼寧四行號聯合準備庫ハ本辦法ニ依リテ之ヲ解散ス

第二條　遼寧四行號聯合準備庫ノ發行シタル兌換券ノ中中國銀行及交通銀行ノ領用シタルモノハ各當該銀行ヨリ其ノ領用金額ニ準シテ東三省官銀號ニ現金若ハ東三省官銀號邊業銀行ノ兌換券ヲ以テ之ヲ支拂フモノトス

第三條　前條ノ辦法ニ依リ支拂濟ノ後ハ東三省官銀號ハ遼寧四行號聯合發行準備庫券ニ對シ發行額全部ノ兌換義務ヲ負ヒ中國銀行及交通銀行ノ兌換責任ハ直ニ終了スルモノトス

第四條　本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年五月二日）

●滿洲中央銀行ノ發行スル貨幣ノ樣式並ニ製造發行損幣引換及銷却ニ關スル件

大同元年七月二日
敎令第四十六號

改正　大同元年九月　敎令第八十三號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ滿洲中央銀行ノ發行スル貨幣ノ樣式並ニ製造發行損幣引換及銷却ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布施行セシム

滿洲中央發行ノ發行スル貨幣ノ樣式並ニ製造發行損幣引換及銷却ニ關スル件

第一條　滿洲中央銀行ハ貨幣ノ樣式ヲ定メ若ハ之ヲ變更セントスルトキハ財政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

第二條　滿洲中央銀行ハ製造セントスル貨幣額ニ付各種類毎ニ財政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

第三條　滿洲中央銀行ハ第一條及第二條ノ認可ヲ受ケタルトキハ其ノ貨幣ノ樣式ヲ發行期日ヨリ少クトモ一ケ月前ニ公告スヘシ

第四條　滿洲中央銀行ノ發行スル紙幣ノ番號ハ一記號毎ニ百萬トス

第五條　滿洲中央銀行ハ左ノ各號ノ標準ニ依リ損幣ノ引換ヲ爲スヘシ

一　表裏兩面ヲ具備セル紙幣ニシテ其ノ三分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ全額五分ノ二以上ヲ存スルモノハ券面金額ノ半額

二　分裂シタル小片ナリト雖之ヲ接シテ同一紙幣ノ紙片ナルコトヲ認メ得ヘキモノハ前號ニ準ス

第六條　前條ニ該當スルモノト雖紙幣ノ紙質色彩ノ變化又ハ其ノ他ノ原因ニ依リ眞僞鑑別シ難キモノ及滿洲中央銀行ニ於テ其ノ券面ニ穿孔ヲ施シタル形跡アルモノ若ハ其ノ疑アルモノハ之ヲ引換セス

第七條　貨幣ノ銷却ハ紙幣ニ於テハ燒棄方法ニ依リ又補助貨ニ於テハ鎔解方法ニリ滿洲中央銀行監理官立會ノ上之ヲ執行スヘシ

第八條　本手續ニ關スル細則ハ滿洲中央銀行總裁之ヲ定メ財政部總長ノ認可ヲ受クヘシ

第九條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同元年七月二日）

●賽　馬　法

大同二年五月三日
敎令第三十四號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ賽馬法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

賽馬法

第一條　政府又ハ馬ニ關スル知識ノ普及ヲ目的トスル民法第四十六條所定ノ法人ニシテ主管總長ノ許可ヲ受ケタルモノニ非サレハ本法ニ依ル賽馬ヲ行フコトヲ得ス

第二條　賽馬ハ春秋二季ノ定期賽馬及臨時賽馬ノ二種トス

第一條所定ノ法人臨時賽馬ヲ行ハムトスルトキハ主管總長ノ認可ヲ受クルコトヲ要ス

第三條　前條ノ規定ニ依ル賽馬ノ入場者ハ命令ノ定ムル所ニ依ル無料入場者ヲ除クノ外入場料ヲ支拂フヘシ

第四條　政府及第一條所定ノ法人ハ入場者ニ對シ券面金額一圓以上二十圓以内ノ勝馬票ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

第五條　政府ハ券面金額壹圓以上拾圓以内ノ搖彩票ヲ券面金額ヲ以テ發賣スルコトヲ得

第六條　當該賽馬ノ開催ニ關係アル官吏當該賽馬ヲ開催スル法人重事監事若ハ職員又ハ當該賽馬ノ開催執務委員調教師騎手馬夫其ノ他當該賽馬ノ事務ニ從事スル者ニ對シテハ勝馬票ヲ發賣スルコトヲ得ス前項所定ノ者ハ當該賽馬ニ關スル勝馬票ヲ購買スルコトヲ得ス

第七條　政府及第一條所定ノ法人ハ當該競爭ニ付テノ勝馬票ノ賣得金額ヲ超エサル範圍内ニ於テ勝馬票的中者ニ拂戻金ヲ交付スルモノトス

第八條　政府ハ搖彩票當籤者ニ對シ當該競爭ニ付テノ搖彩票ノ賣得金額ヲ超エサル範圍内ニ於テ配當金ヲ交付スルモノトス

第九條　第七條所定ノ拂戻金ノ債權ハ發賣當日第八條所定ノ配當金ノ債權ハ六箇月内ニ於テ之ヲ行ハサルトキハ消滅ス

第十條　政府勝馬票ヲ發賣シタルトキハ賣得金額ヨリ第七條所定ノ戻拂金ヲ控除シタル殘額ヲ收得ス

第十一條　第一條所定ノ法人勝馬票ヲ發賣シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ賣得金額ノ百分ノ十以内ニ相當スル額ヲ政府ニ納付スヘシ

第一條所定ノ法人勝馬票ヲ發賣シタルトキハ賣得金額ヨリ前項ノ政府納付金及命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ收得トナルヘキ賣得歩合金ヲ控除シタル殘額ヲ第七條所定ノ拂戻金トナスコトヲ要ス

第十二條　政府搖彩票ヲ發賣シタルトキハ賣得金額ヨリ第八條所定ノ配當金ヲ控除シタル殘金ヲ收得ス

第十三條　第十條所定ノ收得金額及第十一條第一項所定ノ納付金額ニ相當スル額ハ馬ノ改良增殖及馬事知識ノ普及ノ爲必要ナル經費ニ充當スルコトヲ要ス

前條所定ノ政府收得金額ニ相當スル額ハ前項ノ經費並ニ畜產事業及社會事業ノ爲必要ナル經費ニ充當スルコトヲ要ス但シ馬ノ改良增殖及馬事知識普及ノ爲必要ナル經費ハ總額ノ二分ノ一ヲ下ルコトナシ

第十四條　主管總長ハ第一條所定ノ法人ニ對シ馬ノ改良增殖及馬事知識ノ普及又ハ搖彩票ノ發賣ニ關スル協力ヲ命スルコトヲ得

第十五條　第一條所定ノ法人ノ重事長ハ主管總長之ヲ任命ス

第十六條　主管總長ハ公益上必要アリト認ムルトキハ第一條所定ノ法人ノ章程ノ改正ヲ命シ又ハ其ノ總會ノ決議ヲ取消スコトヲ得

第十七條　主管總長ハ第一條所定ノ法人又ハ重事ノ行爲カ法令若ハ之ニ基キテ爲ス處分ニ違反シタルトキ又ハ公益ヲ害スト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　賽馬ノ停止
二　勝馬票發賣ノ停止又ハ制限
三　重事ノ解任

主管總長ハ第一條所定ノ法人ノ社員賽馬ニ關シ公益ヲ害スル所爲アリト認ムルトキハ當該法人ニ對シ其ノ除名ヲ命スルコトヲ得

第十八條　賽馬場ノ開設又ハ維持競走馬ノ出馬登錄又ハ出場賽馬ノ觀覽勝馬票ノ發賣購買搖彩票ノ購買拂戻金又ハ賽馬賞金ノ交付又ハ受領配當金ノ受領其ノ他賽馬ノ開催又ハ施行ニ關シテハ課稅スルコトヲ得ス

第十九條　第一條所定ノ法人ニ非スシテ勝馬票又ハ之ニ類スルモノヲ發賣シ又ハ本法ニヨル賽馬ニ關シ多衆ヲ集合シ財物ニ依ル賭事ヲ爲シタル者ハ三年以下ノ有期徒刑ニ處シ五千圓以下ノ罰金ヲ併科スルコトヲ得

第二十條　政府ハ相當ノ補償金ヲ以テ第一條所定ノ法人ニ屬スル賽馬施設ヲ收用スルコトヲ得

第二十一條　第六條ノ規定ニ違反シタル者ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第二十二條　本法ノ施行期日ハ軍政部總長之ヲ定ム（大同二年七月一日軍政部令第十號ヲ以テ大同二年七月一日ヨリ施行）

●賽馬法施行規則

大同二年七月一日
軍政部令第十一號

茲ニ賽馬法施行規則ヲ左ノ如ク規定ス

第十三輯　產　業

第一條　本規則ニ於テ賽馬ノ主催者ト稱スルハ賽馬法第一條ノ規定ニ依リ賽馬施行ノ許可ヲ受ケタル法人又ハ國ノ管理スル賽馬場ノ場長ヲ謂フ

本規則ニ於テ搖彩票發賣管理者ト稱スルハ搖彩票ノ發賣抽籤及配當金ニ關スル事務ヲ管理スル官吏ヲ謂フ

第二條　本規則ニ於テ賣得金額ト稱スルハ勝馬票ノ發賣金額ヨリ第二十三條第二項ノ規定ニ依リ買戻ノ請求ニ應スヘキ金額ヲ控除シタルモノヲ謂フ

第三條　賽馬法第一條所定ノ法人ハ主管官署ノ指示スル設計要件ニ隨ヒ賽馬場内ニ於ケル搖彩票ノ發賣抽籤配當金交付其ノ他搖彩票ノ經營ニ必要ナル施設ヲ爲スヘシ

第四條　賽馬法第一條ノ規定ニ依ル認可ノ申請ヲ爲サムトスル法人ハ左ノ事項ヲ記載シタル書面ニ章程ノ寫ヲ添附シテ主管總長ニ提出スヘシ

一　賽馬場ノ所在地
二　賽馬場及其ノ附近ノ地圖
三　馬場ノ長サ幅俯瞰圖縱斷面圖並ニ內部及外側ノ設備構造及保續改造ノ方法
四　觀覽所優選所檢量所勝馬票發賣所拂戻金交付所搖彩票發賣所配當金交付所抽籤所厩舍給水設備馬糧倉庫事務所守衞ニ關スル施設馬ノ衞生及防疫施設其ノ他ノ工作物ノ位置構造設備並ニ圖面
五　賽馬場ノ設備ニ要スル經費ノ見積額
六　入場料ノ金額
七　入場徽章ニ關スル事項

八　勝馬票ノ種類券面金額樣式及發賣方法ニ關スル事項
九　賽馬法第七條ノ規定ニ依ル拂戻金ノ支給方法
十　第二十七條ノ規定ニ依ル賣得歩合金
十一　賽馬場ノ設備及事業ノ經營ニ要スル經費ノ支辨方法

前項第八號ノ勝馬票ノ種類ニハ單勝式勝馬票及複勝式勝馬票又ハ單勝式勝馬票若ハ複勝式勝馬票ヲ記載スヘシ

第一項第十一號ノ經費ノ支辨方法ニハ申請ヲ爲ス法人ニ對スル債權者及其ノ債權ノ內容ヲ附記スヘシ

第一項第一號及第三號乃至第十一號ニ揭クル事項ヲ變更セムトスルトキ又ハ第三號及第四號ニ揭クルモノニ付補修ヲ爲サムトスルトキハ主管總長ニ認可ヲ申請スヘシ

主管總長必要ト認ムルトキハ第一項第三號第四號及第六號乃至第十一號ニ揭クル事項ノ變更ヲ命スルモノトス

第五條　馬場ハ左ノ事項ヲ具備スルコトヲ要ス

一　長サ二千米以上ナルコト
二　走路ノ內側ノ柵ハ半徑百米以下ノ弧形ヲ成ス部分ヲ有スルコト
三　三十分ノ一以上ノ斜面二個處以上ヲ有スルコト
四　五百米以上ノ直線平坦走路ヲ有スルコト
五　幅四十米以上ナルコト
六　方向ヲ反對ニ變換シ得ル走路ノ設備ヲ有スルコト
七　障碍競爭ノ設備ヲ有スルコト
八　馬場ノ兩側ニハ堅牢ナル柵ヲ設備スルコト

第六條　勝馬票ノ發賣所及拂戻金ノ交付所ハ賽馬場內ニ之ヲ設置スヘシ但シ主管官署ノ指定シタル競走ニ付テノ搖彩票ニ限リ主管總長ノ指定シタル代賣人ヲシテ之ヲ引受ケシメ賽馬場外ニ於テ發賣セシムルモノトス

第七條　競走ノ種類ハ駈歩競走繫駕競走及障碍競爭トシ賽馬ノ主催者ハ定期ノ賽馬ニ於テ全種類ノ競走ヲ行フコトヲ要ス

第八條　駈歩競走及障碍競走ノ距離ハ二千米以上トシ繫駕競走ノ距離ハ四千米以上トス但シ明ケ六歲以下ノ新馬ノミヲ以テスル競走ニ在リテハ駈歩競走及障碍競走ノ距離ヲ一千六百米迄繫駕競走ノ距離ヲ二千四百米迄明ケ四歲ノ馬ノミヲ以テスル競走ニ在リテハ競走ノ距離ヲ一千米迄短縮スルコトヲ得

第九條　明ケ三歲以下ノ馬明ケ八歲以上ノ馬及左記各號ノ一ニ該當スル馬ハ之ヲ競走ニ用フルコトヲ得ス但シ主管官署ノ指定スルモノニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

一　第十二條所定ノ檢査ニ合格セサルモノ
二　第十二條所定ノ檢査ニ於テ英純血種ノ血液量百分ノ二十五ヲ超ユルモノト認メタルモノ
三　牡馬ニシテ體高一・五〇米ヲ超ユルモノ
四　牝馬ニシテ體高一・四五米ヲ超ユルモノ
五　二箇月以上競走ニ關スル準備訓練ヲ受ケサルモノ
六　去勢セラレタルモノ

第十條　駈歩競走及障碍競走ニ於ケル馬ノ負擔重量ハ明ケ五歲ノ春季ニ於テ競走距離一千六百米ノトキ牡馬ニ在リテハ五十五瓩牝馬ニ在リテハ五十三瓩ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ重量ハ馬ノ年齡ノ進ムニ隨ヒ之ヲ增加スヘシ但シ年齡ノ進ムニ隨ヒ競走ノ距離ヲ增加スルモノニ在リテハ其ノ距離ノ增加ヲ斟酌シテ負擔重量ヲ定ムルコトヲ得

第十一條　賽馬ノ主催者ハ主管官署ノ指定スル種牡馬ト國內產牝馬トノ配合ニ依リ生シタル馬ノミヲ以テスル競走ニ對シテハ主管官署ノ命スル所ニ依リ其ノ賞ヲ厚クスヘシ

第十二條　主管官署ハ其ノ命シタル官吏ヲシテ競走ニ用フヘキ馬ノ檢查ヲ爲サシムヘシ但シ國有種馬又ハ其ノ候補馬ニ在リテハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ檢查ハ馬ノ年齡種類體格健康調練其ノ他競走馬ノ資格ニ關スル條件等ニ付テ之ヲ行フモノトス

第十三條　定期賽馬ハ一回二十四日內ヲ以テ其ノ開催日數トス

第十四條　賽馬法第一條所定ノ法人ハ主管官署ノ指示スル要件ニ基キ左ノ事項ニ付キ賽馬施行規程ヲ定メ主管總長ニ其ノ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　番組編成ニ關スル事項
二　開催執務委員ノ執務ニ關スル事項
三　競走馬ニ關スル事項
四　負擔重量輕曳重量竝ニ障碍ノ種類及程度ニ關スル事項
五　競走及審判ニ關スル事項
六　馬ノ所有者及騎手ニ關スル事項
七　賽馬場內ノ取締ニ關スル事項
八　無料入場者ニ關スル事項

前項第六號ノ騎手ニ關スル事項トハ主管總長ノ指示スル事項ノ外當該法人ニ屬シ又ハ其ノ開催スル賽馬ニ參加スル騎手ノ資格待遇賞罰其ノ他騎手ノ取扱ニ關スル事項ヲ謂フ

第十五條　賽馬ノ主催者ハ定期ノ賽馬開催十日前迄明ケ七歲ヲ超エサル國內產新馬五十匹以上ノ出馬ノ登錄ヲ爲スコトヲ要ス

第十六條　賽馬ノ主催者ハ出馬登錄ヲ締切リタルトキハ速ニ主管官署ニ出馬連名簿及競走番組ヲ提出スヘシ

出馬連名簿ニハ第十二條ノ規定ニ依ル檢查ニ必要ナル事項及各馬ノ將來ノ用途ヲ記載スルコトヲ要ス

第十七條　賽馬ノ主催者ハ左ニ揭クル者ニ鑒メ主管官署ニ屆出テタル各別ノ徽章ヲ交付シ賽馬場ニ於テハ之ヲ佩用セシムヘシ

一　無料入場者
二　賽馬法第六條第二項ニ規定スル者
三　勝馬票發賣所及拂戻金交付所ノ係員

搖彩票ノ發賣所抽籤所及配當金ノ交付所ノ係員ハ賽馬場內ニ於テハ主管官署ノ交付シタル白色ノ徽章ヲ佩用スヘシ

第六條第二項但書ノ規定ニ依ル代賣人ハ主管官署ノ定ムル徽章ヲ佩用スヘシ

第十八條　賽馬法第一條所定ノ法人ハ其ノ役員又ハ職員ニシテ鑒メ其ノ氏名ヲ主管官署ニ屆出テタル者ニ非レハ勝馬票ノ發賣投票ノ管理第二十三條第二項所定ノ買戻及拂戻金ノ交付ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得ス

第十九條　勝馬票及搖彩票ハ各之ヲ二個以上ノ片ニ區リ成ル切符トシ一片ハ勝馬票ニ在リテハ賽馬ノ主催者賽馬場內ニ於テ發賣スル搖彩票ニ在リテハ當該搖彩票發賣管理者賽馬場外ニ於テ發賣スル搖彩票ニ在リテハ第六

條所定ノ代賣人ニ於テ之ヲ保存シ他ノ各片ハ之ヲ購買者ニ交付スヘシ切符ノ各片ハ其ノ區別ヲ明瞭ニシ各片ニ左ノ事項ヲ記載スヘシ但シ搖彩票ノ購買者ニ交付スル前項ノ切符ノ片ハ賽馬場内ニ於テ發賣スルモノト然ラサルモノトノ色彩ヲ異ラシムルコトヲ要ス

一　券面金額及通番號
二　競走施行ノ年月日ヲ示スニ足ルヘキ文字及競走番號
三　馬ノ番號但シ勝馬票ニ限リ之ヲ記載スルモノトス
四　代賣人引受發賣ヲ示スニ足ルヘキ文字但シ代賣人ノ引受發賣スル搖彩票ニ限リ之ヲ記載スルモノトス

第二十條　勝馬票ノ發賣ハ當該競走ニ參加スヘキ馬ノ確定シタル後之ヲ開始スヘシ

勝馬票ノ發賣ハ出走馬カ馬場ニ入リタル後競走ノ出發點ヲ出發スル前之ヲ締切ルヘシ賽馬場内ニ於ケル搖彩票ノ發賣ハ出走馬カ馬場ニ入ル前之ヲ締切ルヘシ

第二十一條　賽馬ノ主催者ハ各競走ニ付勝馬票ノ發賣ヲ締切リタルトキハ遲滯ナク各馬ニ對スル單勝式勝馬票若ハ複勝式勝馬票ノ發賣金額又ハ單勝式勝馬票及複勝式勝馬票ノ各發賣金額ヲ揭示スヘシ

搖彩票發賣管理者ハ當該競走ニ付發賣スル搖彩票ノ發賣ヲ締切リタルトキハ遲滯ナク其ノ發賣金額ヲ公示スヘシ

前項ノ公示ハ賽馬場内ニ於テ發賣シタルモノト然ラサルモノトニ區分シタル總券面金額ナルコトヲ要ス

第二十二條　賽馬法第一條所定ノ法人賽馬ヲ開催セムトスルトキハ左ノ事項ヲ記載シタル認可申請書ヲ出馬登錄締切期日前三十日迄主管官署ニ提出シテ其ノ認可ヲ申請スヘシ但シ六月ニ於テ開催セムトスルトキハ五月一日迄之ヲ申請スルコトヲ要ス

一　開催ノ日時及豫備ノ日時ヲ設クル場合ニ在リテハ其ノ事由並ニ該日時
二　番組ノ要項（各競走ノ番組種類名稱競走距離賞金額賞品ノ種類負擔重量及輓曳重量ノ條件）
三　開催執務委員

臨時賽馬ノ認可ヲ申請セムトスルトキハ第一項ノ申請書ニ開催ノ事由ヲ附記スルコトヲ要ス

主管官署必要ト認ムルトキハ何時ニテモ開催ノ日時及其ノ豫備日時ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第二十三條　競走ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スル事由ヲ生シタルトキハ當該競走ニ付爲シタル勝馬投票ヲ無效トス

一　競走ノ爲馬場ニ入リタル馬一匹トナリタルコト
二　競走成立セサルコト
三　競走ニ勝馬ナキコト
四　同一人ノ所有又ハ管理ニ屬スル馬ノミ競走ノ爲馬場ニ入リタルコト

前項ノ場合ニ於テ當該競走ノ勝馬票ノ所持人ハ券面金額ヲ以テ其ノ買戻ヲ請求スルコトヲ得勝馬票ニ表示セラレタル馬カ馬場ニ入ラサルトキ其ノ勝馬票ニ付亦同シ

第二十四條　單勝式勝馬投票及複勝式勝馬投票ヲ併セ行フ賽馬ノ主催者ハ當該競走ニ付テノ勝馬票發賣開始ノ時ニ於テ競走ニ參加スヘキ馬四匹以下ナルトキハ第一着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスルモノトス第一着第二着及第三着ト爲リタル馬七匹以下五匹以上ナルトキハ第一着及第二着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トシ單勝式勝馬投票及搖彩投票ニ於テハ第一着第二着及第三着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トス但シ其ノ勝馬票ノ發賣開始ノ時ニ於テ競走ニ參加スヘキ馬七匹以下五匹以上ナルトキハ第一着及第二着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トシ單勝式勝馬投票ヲ併セ行ハサル場合ニ限リ其ノ勝馬票ノ發賣開始ノ時ニ於テ競走ニ參加スヘキ馬四匹以下ナルトキハ第一着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスルモノトス第一着第二着及第三着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスル場合ニ於テ第一着又ハ第二着ト爲リタル馬二匹アルトキハ次着順以下ノ馬ハ之ヲ一着宛繰下ケタル着順ノ馬ハ其ノ超エタル馬數一匹毎ニ更ニ一着順宛繰下ケタル着順ノ馬ト看做スモノトス

第一着及第二着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスル場合ニ於テ第一着ト爲リタル馬二匹以上アルトキハ次着順以下ノ馬ハ前項ノ規定ニ依リ繰下ケタル著順ノ馬ト看做ス

第二十六條　賽馬法第十一條ノ規定ニ依リ政府ニ納付スヘキ金額ハ勝馬票ノ一競走ノ賣得金額六千圓以上ノ場合ニ在リテハ賣得金額ノ百分ノ十トシ勝馬票ノ一競走ノ賣得金額六千圓未滿ノ場合ニ在リテハ賣得金額ヲ左ノ各級ニ區分シ遞次ニ各率ヲ適用シテ算出シタル金額トス

五百圓以下ノ金額　百分ノ三・〇
五百圓ヲ超ユル金額　百分ノ五・〇
一千圓ヲ超ユル金額　百分ノ七・〇
二千圓ヲ超ユル金額　百分ノ九・〇

三千圓ヲ超ユル金額　百分ノ一一・〇
四千圓ヲ超ユル金額　百分ノ一三・〇
五千圓ヲ超ユル金額　百分ノ一六・〇

第二十七條　賽馬法第一條所定ノ法人ハ勝馬票ノ賣得金額ニ對シ主管總長ノ認可ヲ受ケテ定メタル歩合ノ金額ヲ賣得歩合金トシテ收得スルコトヲ得但シ前條ノ規定ニ依リ政府ニ納付スヘキ金額ト賣得歩合金トノ合計ハ賣得金額ノ百分ノ二十ヲ超ユルコトヲ得ス

國ノ管理スル賽馬ニ於テ勝馬票ノ發賣ニ付政府ノ收得スヘキ金額ハ賣得金額ノ百分ノ二十ヲ超エサル範圍ニ於テ主管官署ノ定ムル額トス

第二十八條　賽馬法第八條ノ規定ニ依ル配當金總額ハ別段ノ規定ヲ設クル場合ノ外各競走ニ付發賣金額ノ百分ノ八十トス

政府ノ代賣人ニ交付スル手數料ハ其ノ引受金額ノ百分ノ十ヲ超エサル範圍ニ於テ主管官署之ヲ定ム

代賣人ハ自己ノ發賣シタル搖彩票ニシテ當籤シタルモノアルトキハ當籤者ヨリ其ノ取得シタル配當金ノ百分ノ五以内ニ相當スル額ヲ報酬トシテ請求スルコトヲ得

第二十九條　搖彩票發賣管理者ハ各競走ニ付搖彩票ノ發賣ヲ締切リタルトキハ抽籤ヲ爲シ搖彩票ノ當籤番號及該番號ニ該當スヘキ出走馬ノ番號ヲ抽籤ニ依リテ決定シ當籤番號該番號ニ該當スヘキ出走馬ノ番號及馬名ト共ニ之ヲ揭示スヘシ

出走馬數三十匹ヲ超ユル場合ニ於テハ當籤番號ハ出走馬一匹ニ付一箇トシ出走馬數三十匹以下ノ場合ニ於テハ當籤番號ノ總數三十箇ヲ超エサル範圍ニ於テ出走馬一匹ニ付當籤番號十箇以下ヲ決定シ競走成立セサル場

合ニ於テハ當籤番號三十箇ヲ決定スルモノトス
第一項ノ規定ニ依ル當籤番號ノ抽籤及該番號ニ該當スヘキ出走馬ノ番號ノ抽籤ハ同時ニ且公開シテ之ヲ行フヘシ
當籤シタル番號ニ的中セル搖彩票ヲ所持スル者ハ之ヲ搖彩票當籤者トスル各搖彩票當籤者ノ勝者及其ノ順位ハ第一項ノ決定ニ依リ當籤番號ニ該當スル出走馬ニ付テ第二十五條所定ノ勝馬及其ノ着順ニ應シテ決定セラルルモノトス

第三十條　搖彩票當籤者ニ對スル配當金ノ配當ハ配當金總額ニ付左ノ各號ニ依リ之ヲ爲スヘシ但シ別段ノ規定ヲ爲シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

一　配當金總額ノ十分ノ二ノ額ニ相當スル金額ハ之ヲ勝者トナラサル搖彩票ノ當籤者ニ平分シテ配當ス但シ競走成立セサルカ又ハ競走ニ勝馬ナキトキハ配當金總額ニ相當スル金額ヲ平分シ搖彩票當籤者ニ配當スルモノトス

二　前號前段ノ規定ニ依ル配當ヲ爲シタル殘額ハ第一着第二着及第三着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスル場合ニ於テハ第一着ト爲リタル馬ニ該當スル搖彩票當籤者ニ其ノ十分ノ七ノ額ニ相當スル金額ヲ第二着ト爲リタル馬ニ該當スル搖彩票當籤者ニ其ノ十分ノ二ノ額ニ相當スル金額ヲ第三着ト爲リタル馬ニ該當スル搖彩票當籤者ニ其ノ十分ノ一ノ額ニ相當スル金額ヲ平分配當シ第一着及第二着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスル場合ニ於テハ第一着ト爲リタル馬ニ該當スル搖彩票當籤者ニ其ノ十分ノ八ノ額ニ相當スル金額ヲ第二着ト爲リタル馬ニ該當スル搖彩票當籤者ニ其ノ十分ノ二ノ額ニ相當スル金額ヲ平分配當シ第一着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスル場合ニ於テハ第一着ト爲リタル馬ニ該當スル搖彩票當籤者ニ全額ニ相當スル金額ヲ平分配當ス

前項第二號ノ場合ニ於テ第一着又ハ第二着ト爲リタル馬二匹以上アリタルトキハ此等ノ馬ノ全部又ハ一部カ同着ニ非スシテ勝馬ト爲リタル場合ニ於テ各勝馬ニ該當スル搖彩票當籤者ノ受クヘキ配當金額ノ合計額ヲ同着シタル馬ノ數ニ依リ平分シタル額ニ相當スル金額ヲ其ノ同着馬ニ該當スル各搖彩票當籤者ニ平分配當スルノモトシ第三着ト爲リタル馬ノミ二匹以上アリタルトキハ同着ニ非スシテ第三着ト爲リタル勝馬ニ對スル配當金額ヲ同着シタル馬ノ數ニ依リ平分シタル額ニ相當スル金額ヲ同着馬ニ該當スル各搖彩票當籤者ニ平分配當スルモノトス競走ノ爲馬場ニ入リタル馬一匹ト爲リ該馬勝馬ト爲リタル場合ニ於テハ配當金總額ニ相當スル金額ヲ該馬ニ該當スル各搖彩票當籤者ニ平分配當スルモノトス

第三十一條　勝馬確定シタルトキハ賽馬ノ主催者ハ當該競爭ニ對スル勝馬票ノ賣得金額ニ付附錄ニ定ムル算式ニ依リ各勝馬ニ對スル勝馬票ノ拂戻金總額ヲ算出シ之ヲ當該勝馬ニ對スル各勝馬票ノ券面金額ニ按分シタルモノヲ以テ拂戻金トシ勝馬票的中者ニ對シ勝馬票引換ニ之ヲ交付スヘシ

前項ノ規定ニ依リ拂戻金ノ算出ヲ爲ス場合ニ於テ勝馬票的中者無キ勝馬アルトキハ其ノ算出ニ付之ヲ勝馬ニ非サルモノト看做ス賽馬法第九條ノ規定ニ依リ其ノ債權消滅シタル拂戻金ハ國ノ管理スル賽馬ニ在リテハ政府賽馬法第一條所定ノ法人ノ經費スル賽馬ニ在リテハ當該法人之ヲ收得ス

第三十二條　勝馬票的中者無カリシ場合ニ於テハ賽馬法第一條所定ノ法人ハ賣得金額ヨリ第二十六條所定ノ納付金額及第二十七條所定ノ收得金額ヲ控除シタル殘額ヲ拂戻金總額トシ之ヲ各出走馬ニ對スル勝馬票ノ券面金額ニ按分シタルモノヲ以テ拂戻金トシ勝馬票所持者ニ之ヲ交付スヘシ

國ノ管理スル賽馬ニ於テ前項ノ場合交付スヘキ拂戻金ノ算出ニ付テハ第二十七條第一項ノ規定ヲ準用ス

前二項ノ規定ニ依リテ決定シタル拂戻金ハ勝馬票引換ニ之ヲ交付スルコトヲ要ス

第三十三條　搖彩票發賣管理者ハ勝馬確定シタルトキハ左ノ區分ニ依リテ配當金ヲ搖彩票當籤者ニ搖彩票ト引換ニ交付スヘシ

一　賽馬場内ニ於テ發賣シタル搖彩票ノ配當金ニ在リテハ賽馬場内ノ交付所ニ於テ當籤者ニ之ヲ交付ス

二　代賣人ノ發賣シタル搖彩票ノ配當金ニ在リテハ主管官署ノ定ムル所ニ依リ代賣人又ハ其ノ代理人ヲ立會セシメ當籤者ニ之ヲ交付ス

搖彩票ニシテ汚染若ハ毀損ニ因リ其ノ眞贋番號又ハ競爭番號ヲ鑑別シ難キモノハ之ヲ無效トス

賽馬法第九條ノ規定ニ依リ其ノ償權消滅シタル配當金ハ政府之ヲ收得ス

第三十四條　拂戻金又ハ配當金ヲ交付スル場合ニ於テ其ノ交付金額ニ一角未滿ノ端數アルトキハ其ノ端數ヲ切捨テ拂戻金又ハ配當金ヲ交付スルコトヲ得

前項ノ端數切捨ニ依リ生シタル金額ハ賽馬法第一條所定ノ法人ノ管理スル拂戻金ニ在リテハ當該法人其ノ他ニ在リテハ政府之ヲ收得ス

第三十五條　賽馬ノ主催者ハ勝馬票ノ受拂及發賣金ノ出納ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル帳簿ヲ備フヘシ

搖彩票發賣管理者ハ搖彩票ノ受拂及搖彩票ノ發賣金ノ出納ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル帳簿ヲ備フヘシ

賽馬法第一條所定ノ法人ハ賽馬場ノ設備及賽馬ノ經營ニ要シタル經費ノ出納ヲ明瞭ナラシムル爲必要ナル帳簿ヲ備フヘシ

二十七條第二項ノ規定ヲ準用ス

第三十六條　賽馬ノ主催者ハ各定期又ハ臨時ノ賽馬終了後十五日内ニ左ノ事項ヲ記載シタル報告書ヲ主管官署ニ提出スヘシ

一　出馬登錄馬數及入場馬數

二　馬場ニ入リタル馬ノ名稱新古馬ノ別馬ノ種類（明瞭ナルモノニ限ル）性別毛色年齡體高胸圍管圍特徵產地血統（明瞭ナルモノニ限ル）及所有者

三　各競爭ニ於ケル勝馬ノ名稱著順競爭距離速度負擔重量輓曳重量騎手生產者（明瞭ナルモノニ限ル）竝ニ受賞・種類金額數量及價格

四　入場者ノ員數ニ付キ無料入場者有料入場者ノ區分及其ノ等級區分竝ニ入場料ノ金額ニ付キ其ノ等級區分

五　各競爭ニ於ケル勝馬票ノ發賣枚數發賣金額第二十三條第二項ノ規定ニ依リ買戻ノ請求ニ應スヘキ金額竝ニ之ニ應シタル金額及拂戻シタル拂戻金ノ總額

六　賽馬場内諸般ノ狀況

七　賽馬開催ニ關スル收支計算

八　賽馬開催ノ爲ニ蒙リタル設備ノ損害ヲ復舊スル爲ノ經費

前項第五號ニ掲クル事項ハ單勝式勝馬投票及複勝式勝馬投票ヲ併セ用フル賽馬ニ在リテハ勝馬投票ノ種類別ニ第一項ノ報告書ニ之ヲ記載スヘシ

第三十七條　賽馬法第一條所定ノ法人ハ每年一月末日迄其ノ年ノ三月一日ヨリ翌年二月末日ニ至ル間ニ於ケル豫算ヲ定メ主管官署ノ認可ヲ申請スヘシ

第三十八條　賽馬法第一條所定ノ法人ハ會計ニ關スル規程ヲ定メ主管總長

ニ認可ヲ申請スヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

第三十九條　國ノ管理スル賽馬場ノ場長ハ馬ニ關シ公益ヲ圖ルコトヲ目的トスル民法第四十六條所定ノ法人其ノ社員又ハ主管官署ノ指定シタル者ヲ依囑シテ賛助員ト爲スコトヲ得

賽馬場長ハ賛助員ニ對シ主管官署ノ定メタル補助金及手當ヲ支給スルコトヲ得但シ法人ニ對シテハ手當ヲ支給セス

賛助員ハ賽馬場長ノ請求アルトキハ其ノ所有馬ヲ賽馬ニ參加セシメ其ノ他賽馬ノ補助ヲ爲スコトヲ要ス

賽馬場長ハ賛助員不適當ト認ムルトキハ其ノ依囑ヲ解クコトヲ得

第四十條　賽馬ノ主催者ハ入場者ニ對シ賽馬場內ノ取締ニ關スル規定ヲ知ラシムル施設ヲ爲シ當該官吏又ハ法人ノ役員ニ於テ入場者該規定ニ違背スト認メタルトキハ其ノ退場其ノ他必要ナル處置ヲ爲スコトアル旨ヲ掲示スルコトヲ要ス

第四十一條　賽馬法第一條所定ノ法人ハ主管官署ノ認可ヲ受ケ役員職員騎手其ノ他開催ノ事務ニ從事スヘキ者ノ業務分擔及取締ニ關スル事項ヲ規定スヘシ

主管官署賽馬法第一條所定ノ法人ニ屬シ又ハ法人ノ開催スル賽馬ニ參加スル騎手ニシテ公益ヲ害スル所爲アリト認メタルトキハ法人ニ對シ其ノ資格ヲ取消シ又ハ賽馬ニ參加スルコトヲ制限若ハ禁止スルコトヲ命ス

第四十二條　賽馬法第一條所定ノ法人ノ董事長ハ社員總會ニ於テ選擧シタル三人ノ候補者中ヨリ主管總長之ヲ任命ス

賽馬法第一條所定ノ法人ハ董事長任命ノ申請ヲ爲ス場合ニ於テハ各候補者ノ履歷書選擧ノ決議ヲ證スル書面及申請ノ參考トナルヘキ事項ノ調書ヲ主管總長ニ提出スヘシ

賽馬法第一條所定ノ法人ハ其ノ董事又ハ監事退職シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨主管總長ニ屆出ツヘシ

第四十三條　賽馬法第一條所定ノ法人ノ役員職員又ハ傭人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第九條ノ規定ニ違反シタル者

二　第十七條第一項第二號ニ揭クル者ニシテ賽馬場ニ於テ所定ノ徽章ヲ佩用セサル者

三　第二十條第一項又ハ第二項ノ規定ニ違反シタル者

四　正當ノ理由ナク第三十六條ノ規定ニヨル報告ヲ怠リ又ハ虛僞ノ報告ヲ爲シタル者

五　第四十一條第二項ノ規定ニ依ル主管官署ノ命令ニ違反シタル者

第十二條ノ檢査ヲ拒ミ妨ケ又ハ忌避シタル者及審判員又ハ發馬係員ノ職務ヲ妨害シタル者亦前項ニ同シ

第四十四條　賽馬法及本規則ノ規定ニ依リ賽馬法第一條所定ノ法人其ノ他ノ者ヨリ主管總長ニ書類金錢其ノ他ノ物ヲ提出又ハ納付セムトスルトキ及主管總長ヨリ賽馬法第一條所定ノ法人其ノ他ノ者ニ書類金錢其ノ他ノ物ヲ下付セムトスルトキハ主管官署ヲ經由スルモノトス

第四十五條　本規則ハ大同二年七月一日ヨリ施行ス

附　則

第五條所定ノ馬場ニ具備スヘキ事項中期間ヲ限リテ主管總長ノ認可ヲ受ケタルトキハ馬場ノ長サヲ一千六百米迄減縮シ方向變換斜面及障碍競走ノ設

備ハ大同七年三月末日迄之ヲ爲スコトヲ得此等ノ場合ニ在リテハ第四條ノ申請ニ之カ設備完成ニ關スル計畫ヲ記載スヘシ大同五年四月一日迄第七條所定ノ競走ノ種類中一部ヲ實施スルコトヲ得

第八條所定ノ競走ノ距離ハ大同十年三月末日迄駈步競走及障碍競走ニ在リテハ一千六百米迄繫駕競走ニ在リテハ二千四百米迄之ヲ短縮スルコトヲ得

大同七年三月末日迄明ケ三才以下ノ馬及明ケ十三才以上ノ馬ヲ除ク外第九條第二號乃至第四號及第六號ニ該當スル馬ヲ競走ニ用フルコトヲ得但シ第三號又ハ第四號ニ該當スル馬ニ在リテハ豫メ競走回數ヲ限リ主管總長ノ認可ヲ受クルコトヲ要シ第五號ノ準備訓練期間ハ大同二年ニ限リ之ヲ一箇月迄短縮スルコトヲ得

第十五條所定ノ新馬ハ大同五年末日迄其ノ十分ノ五以內ニ相當スル數迄去勢セラレタル馬ヲ用フルコトヲ得ルモノトス

大同七年三月末日迄第十條所定ノ負擔重量ヲ輕減スルコトヲ得

大同七年三月末日迄第十五條所定ノ新馬數ハ之ヲ三十匹迄減スルコトヲ得

附　錄

算　式

$$\left(甲+\frac{乙}{丁}\right)\times\left(1-丙\right)$$

「甲」ハ當該勝馬ニ對スル勝馬票ノ總券面金額トス

「乙」ハ馬場ニ入リタル馬ニシテ勝馬以外ノモノニ對スル勝馬票ノ總券面金額トス

「丙」ハ賽馬法第一條所定ノ法人ニ在リテハ政府ニ納付スヘキ金額及法人ノ收得スルコトヲ得ヘキ賣得步合金額ノ合計額ノ勝馬票ノ賣得金額ニ對スル割合トシ國ノ管理スル賽馬場ニ在リテハ第二十七條第二項ノ規定ニ依リ政府ノ收得スヘキ金額ノ賣得金額ニ對スル割合トス

「丁」ハ左表ノ場各ヲ除クノ外勝馬ノ數トス

		丁			摘要
		第一着ノ勝馬	第二着ノ勝馬	第三着ノ勝馬	
第一着第二着及第三着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスル場合	第二着ノ勝馬三匹以上アルトキ	(丁)−(戊−2)	$\left\{(丁)-(戊-2)\right\}\times\frac{戊}{2}$		(丁)ハ勝馬ノ數戊ハ第二着ノ勝馬ノ數
	第三着ノ勝馬二匹以上アルトキ	(丁)−(戊−1)	(丁)−(戊−1)	$\left\{(丁)-(戊-1)\right\}\times戊$	(丁)ハ勝馬ノ數戊ハ第三着ノ勝馬ノ數
第一着及第二着ト爲リタル馬ヲ以テ勝馬トスル場合	第二着ノ勝馬二匹以上アルトキ	(丁)−(戊−1)	$\left\{(丁)-(戊-1)\right\}\times戊$		(丁)ハ勝馬ノ數戊ハ第二着ノ勝馬ノ數

●黑龍江省暫行縣倉管理辦法

大同二年四月二十七日
黑龍江省公署訓令

各縣局ニ令ス

黑龍江省暫行縣倉管理辦法

第一章　總　論

第一條　各縣局ハ均シク穀物貯蓄ヲ行ヒ以テ荒年ニ備フヘシ

第二條　各縣倉管理辦法ハ省公署ニテ本省地方ノ情形ヲ參酌シテ之ヲ擬定シ黑龍江省暫行縣倉管理辦法ト稱ス

第三條　本省ニテ從前施行セル社倉積穀簡章或ハ縣倉管理細則ハ本辦法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

第四條　以前ノ社倉或ハ縣倉ニシテ若シ商民ニ貸付或ハ預入タル穀物アラハ別ニ縣倉ヲ設ケ繼續管理シ現存ノ穀物ト看做スト而テ前社倉或ハ縣倉ノ責任アル人員ハ三個月內ニ其ノ整理ヲ了シ新設ノ縣倉ニ預ケ入ルヘシ若シ請求スルモ返濟ノ見込ナク或ハ確實ナル保證人ナキ場合ニハ前社倉或ハ縣倉ノ責任者ニテ賠償ノ責ヲ負フヘシ該縣長設治員ハ此ニ對シ確實ナル保證人ヲ立テシメ或ハ富紳ノ引受證ヲ取リ三個月內ニ補足スルコトヲ承認セシムヘシ

第五條　各屬中ニ若シ特殊ノ事情アリ穀物貯蓄ヲ實行シ難キ場合ハ審查ヲ申請スヘシ然ラサレハ本辦法接受ノ後直ニ籌設ニ著手スヘシ

第二章　建　倉

第六條　各縣縣倉ハ各縣城ニ設クヘシ但シ各縣局ニテ管轄區域ノ廣大ナルカ或ハ其ノ他特殊ノ事情アル場合ハ省公署ニ申請シ認可ヲ得テ他處ニ移設シ或ハ分倉ヲ添設スルコトヲ得

第七條　各縣局從來ノ社倉或ハ縣倉ハ之ヲ改組ス社倉縣倉ナキ處ハ適當ナル官有家屋ヲ修繕シテ之ニ充ツ官有家屋ナキ處ハ新ニ建築ヲナス其ノ修繕建築等ノ費用ハ地方ノ舊存公金中ニ就テ許可ヲ受ケタル後之ヲ使用ス若シ地方公金ナケレハ該縣長設治員ニテ別ニ之ヲ調達或ハ募集シ許可ヲ申請スヘシ

第三章　收　穀

第八條　地方每ニ穀倉ヲ劃當テ徵收ス其ノ劃當數量ハ左ノ如シ

一　熟地百晌以上ヲ耕作スル農家ハ每晌每年秋穫後ニ穀物二升ヲ納ム

二　熟地五十晌以上ヲ耕作スル農家ハ每晌每年秋穫後ニ穀物一升半ヲ納ム

三　熟地十晌以上ヲ耕作スル農戶ハ每晌每年秋穫後ニ穀物一升ヲ納ム

四　熟地十晌以下ヲ耕作スル農戶ハ納穀ヲ免除ス

若シ富商或ハ公益ニ熱心ナル人ニシテ大量穀物ヲ縣倉ニ義捐スルモノハ之ヲ許可ス並ニ奬勵法ヲ申請シテ以テ奬勵ニ資ス

第九條　前條ノ地方每ニ穀物ヲ徵收スル方法ニシテ地主小作ノ關係アルモノハ地主ト小作人トニ之ヲ分擔セシム但シ須ク先ツ小作人ヨリ之ヲ納付セシム

第十條　倉穀收納ノ斗ハ本省ノ前權度局ニテ規定セル斗ヲ標準トス

第十一條　倉穀ヲ納付スルモノハ秋穫後ニ前條ニ依テ辦理ス若シ延引シテ翌年三月一日以後ニ納付シタル者ハ其ノ納付ノ穀數ニ對シ一倍ノ罰穀ヲ

徵ス四月一日後ニ納付スル者ハ二倍ヲ罰ス延テ五月一日後ニ至ル者ハ三倍ヲ罰ス

第十二條　各戶耕作地ノ調查及納穀ノ督促倉庫收納等ノ事ハ縣公署ヨリ該縣ノ公正ナル紳士ニ命令シテ責任ヲ以テ處理セシム各公安分局所モ亦協助ノ責ヲ負フヘシ

第十三條　縣倉ニテ倉穀ヲ受ケ入レタル時ハ其ノ經收員ヨリ納付者ニ對シ正式ノ領收證ヲ交付スヘシ其ノ領收證ノ接續ノ部及年月ノ上ニハ縣印ヲ押捺スヘシ玆ニ領收證樣式ヲ規定スル左ノ如シ

（樣　式　略）

第十四條　各縣倉穀ノ劃當徵收及寄附ハ處理完竣後ニ於テ倉中原有穀數及新收穀數ニ付四柱明細書ヲ作成シ省公署ニ送達シテ備案ス並ニ縣公署ニテ之ヲ揭示ス但翌年三月一日ヨリ遲キヲ得ス若シ人民ノ納穀未了ノ者ハ之ヲ報告スヘシ然ラサレハ該縣長倉長ニ對シテ責任ヲ問フ

第十五條　縣倉ノ事務ハ縣長責任ヲ以テ之ヲ處理ス並ニ縣長ハ地方法團會議ヲ招集シ公正ナル紳士五人ヲ推擧シテ倉務委員トナシ協助處理セシム又縣長ハ委員中ニ就テ一人ヲ指定シテ倉長トナシ責任ヲ負ハシム倉長ニハ縣公署ヨリ委任狀ヲ交付シ省公署ニ報告シテ備案ス

前項ノ管理ハ縣長交代ノ場合ハ後任縣長ヨリ地方法團及各界首領ヲ招集シ穀倉ニ至リ誠實ニ一一引繼ヲ受ケ明細書ヲ作成シ省公署ニ報告スヘシ

第十六條　倉穀ノ管理ハ縣長其ノ全責任ヲ負フモ倉務ニ關シ特別事項アル場合ハ縣公署ニ於テ縣長ヨリ倉長及各委員等ヲ招集シ倉務會議ヲ開催ス

第十七條　各縣ノ倉穀ハ救恤ニ充テ平價賣出以外ニハ他ノ用途ニ充テ或ハ代金ニ換ヘテ貯存スルヲ得ス規定ニ依リ貸借スル者ハ一年內ニ返濟スルヲ要ス

第十八條　賣出救恤等ノ各辦法ハ縣長ニテ臨時之ヲ定メ或ハ縣長ヨリ各委員會議ヲ招集シテ之ヲ定メ省公署ノ認可ヲ經テ之ヲ施行ス若シ災情重大ナル時ハ一面處理ヲ爲シ一面報告備案スルモ亦可ナリ

第十九條　穀物ノ新舊交換及穀物利息收入ノ爲每年倉穀ヲ商店ニ貸與シ或ハ村民ニ貸付クヘシ但シ貸出ノ穀數ハ現在穀數ノ半額ヲ超ユルヲ得ス若シ收穫ニ荒歉ノ情況アル時ハ貸出ヲ中止シテ以テ非常ニ備フ

第二十條　商店ノ倉穀貸借ニハ確實ナル保證人ヲ立テシム若シ村民食用ニ充ツル爲貸借スル時ハ資產アル紳士等ノ引受保證及村民相互ノ保證ヲ取リ其ノ上縣長ハ責任ヲ以テ調查ヲ加ヘ省公署ニ報告シテ審查ニ備フ

第二十一條　商民ノ食料用トシテ穀物ヲ貸借スル時ハ當年秋穫後ニ必ス回收スヘシ遲クモ十二月十五日ヲ過クルヲ得ス以テ備荒ニ便ニシ流弊ヲ免ル其利率ハ年息二分ヲ標準トス

前項貸穀返還ノ期ハ特別災歉ニ因リ期限ヲ誤ル外ハ保證人ヲ呼出シ嚴重催促シ以テ狡黠者ノ爲ニ利用サルルヲ免ル

第二十二條　倉長ハ倉穀ノ保存受拂ノ全責任ヲ負フモ一切ノ倉務ニ付テハ縣長ヨリ委員會議ヲ招集シ辦法ヲ定メ省公署ノ許可ヲ經タル後始メテ處理スルコトヲ得

前項ノ會議ニハ縣長ヲ主席トス

第二十三條　縣長ハ倉長ノ不適任ヲ認ムル時ハ委員中ニ就テ別ニ人選ヲナシ申請ノ後之ヲ改任ス前倉長ハ仍委員ト爲ス若シ倉務委員會ヲ改組スルノ必要アリト認ムル時ハ亦地方法團會議ヲ招集シ新ニ委員ヲ推擧ス前項倉長ノ交代及倉務委員會ノ改組ニハ地方法團過半數アレハ之ヲ提議實行スルヲ得

第二十四條　縣倉ノ印ハ省公署ニテ樣式ヲ定メ縣ニテ之ヲ刊刻ス

第二十五條　倉長ハ倉穀管理ノ前ニ先ツ確實ナル三戶ノ保證ヲ立ツ倉長若シ專斷ニ倉穀ヲ使用スル等ノ事アレハ保證人ハ之カ賠償ノ責ヲ負フ

第二十六條　倉長及倉務委員在職三年以上ニ及ヒ勞績ノ顯著ナル者ハ縣長ヨリ奬勵法ヲ申請スヘシ

第二十七條　倉長及倉務委員ニシテ若シ擅ニ倉穀ヲ使用シタル事アレハ規則ニ照シ免職ノ上保證人ヨリ賠償セシメ並ニ法廷ニ引渡シ相當ノ罪ニ處ス

第五章　經　費

第二十八條　穀物利息ノ收入ヲ以テ縣倉經費ノ支拂ニ充ツ利息ニシテ剩餘アル場倉ハ之ヲ貯存シテ利殖ヲ謀ル地方每ニ徵收スル正穀ハ絲毫ノ流用ヲ許サス以テ備荒ノ本旨ニ符ス

第二十九條　縣倉經費ハ縣ヨリ省公署ニ申請シ許可ヲ得タル後始メテ支拂ヲナス並ニ穀物利息收入ノ數及縣倉經費ハ穀息ノ幾割ニ當ルヲ詳細報告ス

第三十條　倉長及委員ハ均シク無給トス若シ臨時ニ手當或ハ車馬費支給ノ必要アルヲ認ムル時ハ前條經費內ヨリ之ヲ支出ス經費以外ノ剩餘穀息內ヨリ支出スルヲ得ス

第六章　附　則

第三十一條　本辦法ニシテ不備ノ點アレハ縣公署ヨリ省公署ニ申請シ之ヲ修正スルヲ得

第三十二條　本辦法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年六月二十一日）

第十四輯　交通、郵政

●國有鐵道等ノ經營ヲ南滿洲鐵道株式會社ニ委託スルノ件

大同二年二月九日
交通部佈告第七號

茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ鐵道法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

鐵道法

第一條 鐵道ハ國有トス但シ一般運送ノ用ニ供スル鐵道ニシテ主トシテ一地方ノ交通ヲ目的トスルモノ及一般運送ノ用ニ供セサル鐵道ハ國有トセサルコトヲ得

第二條 國有ノ目的ヲ達スル爲必要ナル鐵道ハ之ヲ敷用ス

敷用スヘキ鐵道敷用ノ期日補償其ノ他ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第三條 前條ノ規定ハ敷用スル鐵道ニ附帶スル事業ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第四條 國有鐵道ノ軌間ハ一米四三五トス但シ一般運送ノ用ニ供セサル鐵道ニ付テハ之ニ依ラサルコトヲ得

第五條 第一條但書ニ該當スル鐵道ニシテ國有ニアラサルモノニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第六條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年二月二十八日）

●船舶檢查暫行規程

大同元年五月二十五日
交通部令第一號

所屬各機關ニ令ス

茲ニ船舶檢查暫行規程ヲ制定シ同規程寫ヲ夫々送付致スニ付遵奉スヘシ此ニ令ス

船舶檢查暫行規程

一 現ニ滿洲國內ニ在リテ中華民國ノ船籍ヲ有スル船舶ハ爾後須ク滿洲國國旗ヲ揭揚スヘシ

二 滿洲國船舶ハ（國內制度ノ完成ニ至ル迄ハ仍從來ノ取扱ニ依ル）日本帝國海軍協會ノ船體檢查ヲ受クヘシ凡ソ上記ノ檢查ヲ受ケ檢查證書ヲ所有スルモノハ方ニ滿洲國國籍證書ヲ交付ス既ニ本年度ノ該協會ノ檢查ヲ受ケタルモノニハ卽チ國籍證書ヲ交付ス

●鐵道法

大同二年二月九日
教令第七號

茲ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ鐵道法ヲ制定シ之ヲ公布セシム

鐵道法

第一條 鐵道ハ國有トス但シ一般運送ノ用ニ供スル鐵道ニシテ主トシテ一地方ノ交通ヲ目的トスルモノ及一般運送ノ用ニ供セサル鐵道ハ國有トセサルコトヲ得

第二條 國有ノ目的ヲ達スル爲必要ナル鐵道ハ之ヲ敷用ス

敷用スヘキ鐵道敷用ノ期日補償其ノ他ニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第三條 前條ノ規定ハ敷用スル鐵道ニ附帶スル事業ニ付之ヲ適用スルコトヲ得

第四條 國有鐵道ノ軌間ハ一米四三五トス但シ一般運送ノ用ニ供セサル鐵道ニ付テハ之ニ依ラサルコトヲ得

第五條 第一條但書ニ該當スル鐵道ニシテ國有ニアラサルモノニ付テハ別ニ之ヲ定ム

第六條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年二月二十八日）

●瀋海呼海齊克三鐵道收用ニ關スル件

大同二年二月九日
敎令第八號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ瀋海呼海齊克三鐵道收用ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

瀋海呼海齊克三鐵道收用ニ關スル件

第一條　政府ハ鐵道法第二條及第三條ノ規定ニ依リ瀋海鐵路公司呼海鐵路公司齊克鐵路工程局所屬ノ鐵道及之ニ附帶スル一切ノ事業ヲ收用ス

第二條　前條ノ鐵道及附帶事業收用ノ期日ハ政府之ヲ指定ス

第三條　收用補償價格ノ決定ハ各會社ト協商シテ辦理ス
協定調ハサルトキハ收用審查委員會ニ諮問シテ交通部總長之ヲ定ム
收用審查委員會ノ組織ハ別ニ之ヲ定ム

第四條　政府ハ買收ノ日ニ於テ會社ノ現ニ有スル鐵道及附帶事業ニ關スル權利義務ヲ承繼ス但シ會社ノ株主ニ對スル權利義務並ニ借入金ニ關スル權利義務ハ此ノ限ニ在ラス
前項但書ノ借入金ニ就キ鐵道又ハ其ノ附帶事業ヲ擔保トセル場合ニ於テハ政府ハ其ノ借入金ニ關スル權利義務ヲ承繼スルモノトス

第五條　收用補償金ハ第三條ニ依リテ定メタル價格ニ依リ五十年內ニ償還スヘキ六分利附國債證券ヲ以テ之ヲ交付ス但シ五十圓未滿ノ端數ハ之ヲ五十圓トス

第六條　政府ハ收用ノ日ヨリ國債證券交付ノ日ニ至ル迄收用補償額ニ對シ一個年百分ノ六ノ割合ニ相當スル金額ヲ會社ニ交付ス

第七條　政府ハ收用ノ執行ニ必要ナル額ヲ限度トシテ公債ヲ發行スルコトヲ得

第八條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年二月二十八日）

●軍事郵件ニ關スル件

大同二年三月二十二日
敎令第十八號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ軍事郵件ニ關スル件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

軍事郵件ニ關スル件

第一條　左ニ揭クルモノハ之ヲ軍事郵件ト爲スコトヲ得
一　戰時又ハ事變ニ際シ戰地若ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣セラルル軍隊軍艦軍衙軍人又ハ軍屬ヨリ發スル郵件
二　戰時又ハ事變ニ際シ戰地又ハ之ニ準スヘキ地ニ在ルモノニシテ當該軍衙ノ許可ヲ得タル者ヨリ發スル郵件
三　前二號ニ揭クル者ニ宛テ發スル郵件

第二條　前條第一號及第二號ニ依ル軍事郵件ハ其ノ料金ヲ免除ス
前條第三號ニ依ル軍事郵件ハ料金完納ノモノニ限ル其ノ料金未納又ハ不足ノモノハ差出人ニ還付シ不納額ノ二倍ヲ徵收ス

第三條　軍事郵件ニ關シ必要ナル制限並ニ軍事郵件取扱ニ關スル損害賠償ハ主管總長別ニ之ヲ定ムルコトヲ得

第四條　條約ニ依リテ取扱フ郵件ニハ第二條及第三條ヲ適用セス

第五條　軍事郵件ノ取扱開始及終止ハ交通部總長之ヲ命ス

第六條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年三月二十四日）

●軍事郵件ノ取扱ヲ本邦駐屯日本陸海軍ニ於テ發送又ハ接受スル郵件ニ準用ノ件

大同二年三月二十二日
敎令第十九號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ軍事郵件ノ取扱ヲ本邦駐屯日本陸海軍ニ於テ發送又ハ接受スル郵件ニ準用ノ件ヲ制定シ之ヲ公布セシム

軍事郵件ノ取扱ヲ本邦駐屯日本陸海軍ニ於テ發送又ハ接受スル郵件ニ準用ノ件

大同二年敎令第十八號「軍事郵件ニ關スル件」ヲ本邦內ニ駐屯スル日本陸海軍ニ於テ發送又ハ接受スル郵件ニ準用ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年三月二十四日）

●軍事郵件章程

大同二年三月二十二日
交通部令第一號

玆ニ軍事郵件章程ヲ制定シ之ヲ公布ス

軍事郵件章程

第一條　戰地又ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊軍艦軍衙軍人軍屬ニ宛テ又ハ該地ニ在ル者ニシテ當該軍衙ノ許可ヲ得タル者ニ宛テ發スル軍事郵件ハ左ノ種類ニ限ル

一　郵件
（一）書狀
（二）明信片
（三）新聞紙　印刷物　傳片
二　小包

第二條　戰地又ハ之ニ準スヘキ地ニ在リ又ハ該地ニ派遣スル軍隊軍艦軍衙軍人軍屬並ニ該地ニ在ル者ニシテ當該軍衙ノ許可ヲ得タル者ヨリ發スル軍事郵件ハ左ノ種類ニ限ル

一　郵件
（一）書狀　一通ノ重量公用ハ六百グラム私用ハ二十グラムヲ超過セサルモノ但シ從軍記者等ノ軍事通信ニ關スル書狀ハ一通ノ重量ヲ二百グラム迄トナスコトヲ得
二　小包

第三條　第一條及第二條ニ定ムル軍事郵件ノ種類ハ時宜ニ依リ之ヲ增減スルコトアルヘシ

第四條　軍事郵件ハ差出人ニ於テ其ノ表面ニ「軍人郵件」ノ四字ヲ記載シ倘公務ニ屬スルモノハ「公務」ノ二字ヲ朱記スヘシ

第五條　公務軍事郵件ハ掛號快信航空郵遞及存局候領トナスノ外特殊取扱トナスコトヲ得ス

第六條　私用軍事郵件ニシテ第一條ニ依ルモノハ掛號又第二條ニ依ルモノハ存局候領トナスノ外特殊取扱トナスコトヲ得ス

第七條　軍事郵件ノ差出人ハ其ノ郵件ノ差立前ニ限リ名宛變更又ハ取戻ヲ其ノ引受局所ニ請求スルコトヲ得但シ之カ爲メ事務ニ差支アルトキハ拒絕スルコトアルヘシ

第八條　軍事快信竝ニ軍事小包ノ轉送及遲附ニ關シテハ別ニ料金ヲ徵收セス

第九條　第一條ニ依ル軍事郵件ハ普通郵局ノ取扱中ニ亡失又ハ毀損シタル場合ニ限リ一般ノ規定ニ依リ其ノ損害ヲ賠償ス

第二條ニ依ル軍事郵件ニ對シテハ總テ其ノ損害ヲ賠償セス

第十條　軍事郵件ノ取扱ニ關シテハ本章程ニ定ムルモノヲ除クノ外一般ノ規定ニ依ル

第十一條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年三月二十四日）

●軍事郵件寄遞章程

大同二年三月二十二日
軍政部令第一號

玆ニ軍事郵件寄遞章程ヲ規定シ之ヲ公布ス

軍事郵件寄遞章程

第一條　本章程ハ戰地若ハ之ニ準スル地域又ハ該地ニ派遣ノ途中ニ於ケル軍事郵件ノ寄遞ニ關スル事項ヲ規定スルモノトス

第二條　戰地若ハ之ニ準スル地ニ在ル軍人軍屬以外ノ者ハ軍司令部艦隊司令部又ハ特ニ定ムル軍衙ノ許可ヲ得テ軍事郵件ヲ差出スコトヲ得

第三條　前條ノ郵件ハ其ノ表面ニ軍衙ノ證明ヲ受クルコトヲ要ス

第四條　軍事郵件ハ軍事郵件取扱局所在地ニアリテハ之ヲ其ノ局ニ差出スヘシ

但シ軍事郵件ノ爲ニ郵便函ヲ設ケタル地ニアリテハ其ノ普通郵件ニ限リ其ノ函ニ差入ルルコトヲ得

第五條　軍事郵件取扱局所在地外ニ在ル者ヨリ差出ス郵件ハ各部隊又ハ各艦ニ於テ取纏メ之ヲ公務ト私用トニ區分シテ軍事郵件取扱局ニ差付スルモノトス

第六條　戰地派遣ノ途中軍事郵件取扱局ナキ地ニ於テ差出ス軍事郵件ハ各部隊又ハ各艦ニ於テ取纏メ軍事郵件タルコトヲ證明シ當該地ノ普通郵局ニ差出スモノトス

第七條　本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年三月二十四日）

●航空郵便規則

大同元年十月二十六日
交通部令第七號

玆ニ航空郵便規則ヲ左ノ通制定シ之ヲ公布ス

航空郵便規則

第一條　郵便物ハ本規則ノ定ムル所ニ依リ航空取扱ト爲スコトヲ得

第二條　航空郵便物ヲ運送スヘキ航空線路ハ別ニ之ヲ告示ス

第三條　航空郵便物ニ付テハ通常ノ郵便料金ノ外左ノ特別料金ヲ完納スルコトヲ要ス

種別	區別	國內相互間及關東州ニ宛ツルモノ	朝鮮ニ宛ツルモノ	日本內地ニ宛ツルモノ
書狀	重量二十瓦毎又ハ其ノ端數毎ニ	一角五分	一角五分	三角
郵便葉書	通常	往返信各別ニ七分	同七分上	同一角五分上
	往復			一角五分
新聞紙	五十瓦毎ニ（但シ二瓩迄）	二角五分	二角五分	五角
	百瓦迄	二角五分	二角五分	五角
書籍印刷物業務用書類	二百五十瓦迄	六角	六角	一圓二角五分
	五百瓦迄	一圓二角	一圓二角	二圓五角
	一瓩迄	二圓四角	二圓四角	五圓
	二瓩迄（但シ書籍ニシテ單冊ヲ差出ス場合ニ限ル）	四圓八角	四圓八角	十圓
	三瓩迄	七圓二角	七圓二角	十五圓
商品見本	百瓦迄	二角五分	二角五分	五角
	二百五十瓦迄	六角	六角	一圓二角五分
	三百五十瓦迄	八角	八角	一圓七角五分
	五百瓦迄	一圓二角	一圓二角	二圓五角
小包郵便物	一瓩迄	—	一圓	二圓
	一瓩ヲ超ユル部分ハ五百瓦又ハ其ノ端數毎ニ	—	五角	一圓

第四條　航空郵便物ニハ其ノ表面ニ「航空」ノ指定ヲ明瞭ニ表示スヘシ

第五條　航空郵便物ハ之ヲ郵局ニ差出スヘシ但シ書留ニ非サル通常郵便物ハ之ヲ郵便函ニ差入ルルコトヲ得

第六條　郵便函ニ差入レタル航空郵便物ニシテ通常ノ郵便料金及航空特別料金ヲ完納セサルモノハ「航空」ノ指定ヲ抹消シ航空取扱ヲ爲サス但シ既納料金額カ航空特別料金ニ達スルモノニ限リ航空取扱ヲ爲スコトアルヘシ此ノ場合ハ料金不足ノ郵便物ノ例ニ依リ不足料金ヲ徵收ス

第七條　航空郵便物ト雖航空路ニ依ルトキハ運達スト認ムル場合ハ通常ノ方法ニ依リ之ヲ遞送スルコトアルヘシ

第八條　航空郵便物ハ其ノ名宛地ノ郵局ニ於テ配達又ハ交付シ能ハサルトキハ通常ノ方法ニ依リ之ヲ轉送又ハ還付ス

第九條　航空郵便物ノ航空特別料金ハ左ノ場合ニ限リ差出人ノ請求ニ依リ之ヲ還付ス

一　郵局ノ過失ニ因リ通常ノ方法ニ依リ到達シ得ヘキ時刻ヨリモ遲レテ受取人ニ到達シタル場合

二　通常ノ方法ノミニ依リ遞送シタル場合

第十條　本令ハ大同元年十一月三日ヨリ之ヲ施行ス但シ國內相互間及關東州宛航空小包郵便物ハ當分ノ內之カ取扱ヲ爲サス

●航空郵便規則第二條ニ依ル佈告

大同元年十月二十九日
交通部佈告第五號

玆ニ航空郵便規則第二條ニヨリ航空郵便線路ヲ左ノ如ク指定ス

線路名	局名	航空回數
齊齊哈爾　新義州線	齊齊哈爾　哈爾濱	奉天　新義州間毎週往復各六回其ノ他毎日一回
	新京　奉天	
	新義州	
新京　龍井村線	新京　吉林	毎週往復各三回（月曜日　水曜日　金曜日）
	敦化　龍井村	

●暫行郵便貯金規則

大同二年四月二十二日
交通部令第二號

玆ニ暫行郵便貯金規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

暫行郵便貯金規則

第一章　總則

第一條　貯金ノ預入及拂戻ハ原簿所管廳及受持郵便局所ニ於テ之ヲ貯金預ケ人原簿ニ登記シ且預入ニ於テハ原簿所管廳ニ於テ原簿登記ヲ了シタル旨ヲ預ケ人ニ通知ス

第二條　學校又ハ公益團體ニ於テ本規則ノ定ムル所ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ當該書類ニ其ノ名稱ヲ記載シ其ノ印ヲ押捺シ且代表者又ハ管理者ニ於テ相當肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ

第三條　貯金ノ預入及拂戻並ニ各種ノ届出等ハ別ニ定ムル場合ヲ除クノ外受持郵便局所ニ就キ之ヲ爲スヘシ

前項受持郵便局所ハ當該貯金通帳ノ交付ヲ爲シタル郵便局所トス

第四條　貯金預ケ人受持郵便局所ヲ變更セムトスルトキハ原簿所管廳ニ之ヲ請求スヘシ此ノ場合ニ於テハ請求書ト共ニ貯金通帳ヲ任意ノ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

原簿所管廳ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ貯金通帳番號ヲ更訂シタル上新受持郵便局所ヲ經テ之ヲ差出人ニ返付ス

第五條　貯金通帳ニハ預ケ人ニ於テ其ノ表紙ノ餘白ニ簡單ナル文詞記號ヲ以テ貯金ノ目的ヲ表示スル事ヲ得

第六條　貯金預ケ人未成年又ハ心神喪失者ニシテ自己ノ財産ヲ自ラ處理スルコトヲ得サル場合ニハ其ノ父母又ハ後見人若ハ近親者ヲ以テ之カ代理人ト爲スコトヲ得

代理人ハ原簿所管廳ノ定ムル書式ニ從ヒ身分證明書ヲ作成シ之ヲ受持郵便局所ニ届出ツルコトヲ要ス

代理人本規則ノ定ムル所ニ依リ記名捺印ヲ要スル場合ニ於テハ代理人タル肩書ヲ附シ記名捺印スヘシ

第七條　前條ノ代理人及本人共ニ受持郵便局所ニ出頭シ本人自ラ自己ノ財産處分ヲ爲シ得ル能力アルコトヲ證スヘキ書類ヲ提出シタルトキハ爾後本人自ラ貯金ニ關スル行爲ヲ爲スコトヲ得

前項書類ニハ代理人及本人ノ連署捺印アルコトヲ要ス

第八條　貯金預ケ人及其ノ他ノ關係人ニ於テ氏名ヲ改メ又ハ住所ヲ移轉シタルトキハ其ノ届書ニ記名捺印シ之ヲ受持郵便局所ニ届出スヘシ

學校又ハ公益團體カ代表者又ハ管理者ヲ變更シタルトキ亦同シ

前項ノ届出ヲ爲シタルトキハ同時ニ受持郵便局所ニ於テ通帳中變更ニ係ル事項ヲ訂正ノ上主務者證印ヲ爲ス

第九條　郵便貯金事務ニ關シ郵便官署ニ提出スル書類ニハ受持郵便局所名及當該通帳ノ番號ヲ附記スヘシ

第十條　天災事變其ノ他非常ノ場合ニ於テ必要ト認メタルトキハ特ニ指定シタル郵便局所ニ限リ本規則ノ手續ニ依ラス貯金ノ拂戻其ノ他ノ取扱ヲ爲ス

前項非常取扱ニ關スル必要ナル事項ハ當該郵便局所ニ之ヲ掲示ス

第十一條　原簿所管廳及郵便局所ニ於テ必要ト認ムルトキハ預ケ人ニ對シ身分證明又ハ正當預ケ人タル證據物件ノ提出ヲ要求スルコトヲ得

第二章　貯金預入

第一節　一般預入

第十二條　新ニ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ貯金預入申込書ヲ調製シ之ニ現金ヲ添ヘ郵便局所ニ差出スヘシ

第十三條　郵便局所ニ於テ前條ノ申込書及現金ヲ受領シタルトキハ預ケ人名義ノ通帳ヲ調製シ預入金ノ記入ヲ爲シ之ヲ預ケ人ニ交付ス

第十四條　貯金預ケ人再度以後ノ預入ヲ爲サムトスルトキハ現金ヲ受持郵便局所ニ差出シ通帳ニ預入金ノ記入ヲ受クヘシ

第十五條　郵便局所ニ於テ貯金ヲ受入レタルトキハ通帳ニ預入金額預入年月日現在高其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ主務者調印シテ之ヲ證明ス

第二節　貯金切手預入

第十六條　郵便貯金ニ預入スルコトヲ得ル貯金切手ハ左ノ二種トス

一　五分貯金切手

二　一角貯金切手

第十七條　貯金切手ニ依リ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ハ郵便局所ノ交付スル貯金票紙ニ同一種類ノ貯金切手ヲ其ノ相當欄全部ニ貼付シ郵便局所ニ差出シ通帳ニ其ノ記入ヲ受クヘシ

第三節　郵便爲替ニ依ル貯金

第十八條　受持郵便局所ニ於テ拂渡スヘキ郵便爲替ハ之ヲ郵便貯金トシテ預入スルコトヲ得

前項郵便爲替ハ郵便爲替法規ノ定ムル所ニ適合スルモノナルコトヲ要ス

第三章　貯金拂戻

第一節　通常拂戻

第十九條　貯金預ケ人貯金ノ拂戻ヲ受ケムトスルトキハ受持郵便局所ニ就キ其ノ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻金受領證ヲ調製シ通帳ト共ニ之ヲ當該郵便局所ニ差出スヘシ受持郵便局所ニ於テ前項ノ請求ヲ受ケタルトキハ受領書ニ押捺シタル印影ト自局ニ保管シアル當該預ケ人ノ印鑑ト對照シ相違ナキヲ認メタル上通帳ニ拂戻金額及差引殘高ヲ記入シ之ヲ拂戻金ト共ニ預ケ人ニ交付ス

前項ノ場合貯金ノ全部拂戻ヲ爲スモノナルトキハ貯金通帳ハ預ケ人ニ之ヲ返付セス

第二十條　貯金ノ全部拂戻ヲ爲シタル場合未タ元金ニ組入サル利子アルトキハ原簿所管廳ニ於テ之ニ對スル拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

前項拂戻證書ハ第二十一條ノ例ニ依リ受持郵便局所ニ於テ現金ノ交付ヲ

受クヘシ

第二節　特別拂戻

第二十一條　貯金預ケ人ハ受持郵便局所以外ノ貯金取扱郵便局所ニ就キ貯金ノ拂戻ヲ請求スルコトヲ得此ノ場合ハ郵便局所ノ交付スル用紙ニ依リ貯金拂戻請求書ヲ調製シ之ヲ貯金取扱郵便局所ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テハ貯金ノ全部拂戻ヲ受ケムトスルモノナルトキハ貯金通帳モ共ニ差出シ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第二十二條　前條ノ拂戻請求ニ對シテハ其ノ請求書ヲ預ケ人ノ印鑑及預ケ人原簿ニ對照シ印鑑其ノ他ニ相違ナキヲ認メタル上原簿所管廳ニ於テ拂戻證書ヲ調製シ之ヲ請求人ニ送達シ拂戻請求書ハ之ヲ拂渡郵便局所ニ送付ス

第二十三條　貯金拂戻請求人拂戻證書ノ送達ヲ受ケタルトキハ其ノ證書ニ受領證印ヲ爲シタル上之ヲ拂渡郵便局所ニ差出シ尙一部拂戻ノモノニ在リテハ當該通帳ヲモ差出スヘシ

拂渡郵便局所ニ於テハ拂戻證書ヲ拂戻請求書ニ對照シ拂戻金額通帳番號預ケ人ノ氏名及印鑑ノ符合スルコトヲ認メタル上拂戻金ヲ交付シ尙一部拂戻ニ在リテハ通帳ニ拂戻金額ヲ記入シ之ヲ請求人ニ返付ス

第二十四條　貯金拂戻證書ノ有效期間ハ發行ノ日ヨリ六十日トス但シ拂戻金ノ拂渡ヲ停延シタル爲經過シタル日數ハ其ノ有效期間ニ算入セス

第二十五條　貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ原簿所管廳ニ再度拂戻證書ノ交付ヲ請求スルコトヲ得

一　拂戻證書ヲ亡失シタルトキ

二　拂戻證書毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三　拂戻證書有效期間ヲ經過シタルトキ

再度拂戻證書ノ請求ニ對シテハ證書一枚ニ付料金一角ヲ徵收ス

第二十六條　貯金預ケ人再度拂戻證書ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳番號拂戻金額並ニ請求ノ事由等ヲ記載シタル請求書ニ記名捺印シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ原證書アルモノハ之ヲ添ヘ郵便局所經由原簿所管廳ニ差出スヘシ

第二十七條　原簿所管廳ニ於テ前條ノ請求ヲ受ケタルトキハ原證書ニ對シ拂渡ヲ爲ササルコトヲ確メタル上再度拂戻證書ヲ發行シ之ヲ請求人ニ送達ス

第二十八條　再度拂戻證書ヲ發行シタルトキハ原證書ハ無效トス

第四章　据置貯金

第二十九條　定ノ期日ニ至ラサレハ拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル貯金ハ之ヲ据置貯金トス

据置貯金ノ拂戻開始期日ハ最初預入ノ日ヨリ起算シ二箇年乃至十箇年目ニ相當スル日ヲ貯金預ケ人任意之ヲ指定スヘシ但シ一箇年未滿ノ端數ヲ附スルコトヲ得ス

第三十條　据置貯金ノ預ケ人ニハ特別貯金通帳ヲ交付ス前項ノ通帳ニ記入シタル貯金ハ凡テ据置貯金ト看做ス

第三十一條　据置貯金ノ預入ヲ爲サムトスルモノハ貯金預入申込書ニ据置ノ旨及其ノ拂戻開始年月日並預入ノ日ヨリ拂戻開始ノ日ニ至ル迄ノ年數ヲ明記スヘシ

第五章　再度通帳

第三十二條　貯金預ケ人ハ左ノ場合ニ於テ再度貯金通帳ノ交付ヲ原簿所管廳ニ請求スルコトヲ得

一　通帳ヲ亡失シタルトキ

二　通帳毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三　通帳餘白ナキニ至リタルトキ

前項第一號及第二號ニ依ル再度通帳ノ請求ニ對シテハ通帳一册ニ付料金二角ヲ徵收ス

第三十三條　貯金預ケ人通帳ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度貯金通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ貯金取扱郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ再度貯金通帳請求書ヲ調製シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ通帳アルモノハ之ヲ添ヘ受持郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人通帳餘白ナキニ至リタル爲再度貯金通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第三十四條　原簿所管廳ニ於テ再度貯金通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ貯金預ケ人原簿ニ依リ再度貯金通帳ヲ發行シ受持郵便局所ヲ經テ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ貯金預ケ人ニ交付ス

第三十五條　再度貯金通帳ヲ發行シタルトキハ原通帳ハ無效トス

第六章　貯金利子

第三十六條　郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ年四分八厘トス但シ一定ノ期日ニ至ラサレハ拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ之ニ年二厘四毛ヲ加ヘタルモノトス

第三十七條　郵便貯金ハ預入ノ日ヨリ拂戻金拂渡ノ前月迄又拂戻證書ヲ發行シタルモノハ其ノ拂戻證書發行ノ前月迄之ニ利子ヲ附ス但シ月ノ十六日以後ノ預入ニ係ルモノハ預入當月ハ利子ヲ附セス

廳ニ請求スルコトヲ得

一　通帳ヲ亡失シタルトキ

二　通帳毀損汚斑シテ不判明トナリタルトキ

三　通帳餘白ナキニ至リタルトキ

前項第一號及第二號ニ依ル再度通帳ノ請求ニ對シテハ通帳一册ニ付料金二角ヲ徵收ス

第三十三條　貯金預ケ人通帳ヲ亡失毀損若ハ汚斑シタル爲再度貯金通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ貯金取扱郵便局所ニ於テ交付スル用紙ニ依リ再度貯金通帳請求書ヲ調製シ之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ通帳アルモノハ之ヲ添ヘ受持郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

貯金預ケ人通帳餘白ナキニ至リタル爲再度貯金通帳ノ交付ヲ請求セムトスルトキハ通帳ヲ郵便局所ニ差出シ其ノ受領證ヲ受取ルヘシ

第三十四條　原簿所管廳ニ於テ再度貯金通帳交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ貯金預ケ人原簿ニ依リ再度貯金通帳ヲ發行シ受持郵便局所ヲ經テ前條ノ受領證ト引換ニ之ヲ貯金預ケ人ニ交付ス

第三十五條　再度貯金通帳ヲ發行シタルトキハ原通帳ハ無效トス

第六章　貯金利子

第三十六條　郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ年四分八厘トス但シ一定ノ期日ニ至ラサレハ拂戻ヲ爲ササル條件ヲ以テ預入シタル郵便貯金ニ付スヘキ利子ノ割合ハ之ニ年二厘四毛ヲ加ヘタルモノトス

第三十七條　郵便貯金ハ預入ノ日ヨリ拂戻金拂渡ノ前月迄又拂戻證書ヲ發行シタルモノハ其ノ拂戻證書發行ノ前月迄之ニ利子ヲ附ス但シ月ノ十六日以後ノ預入ニ係ルモノハ預入當月ハ利子ヲ附セス

第三十八條　貯金利子ハ毎年六月及十二月ノ各末日ヲ期トシ之ヲ元金ニ加ヘ其ノ總額ニ對シ翌月ヨリ更ニ利子ヲ附ス但シ一圓未滿ノ端數ニ對シテハ利子ヲ附セス

未タ元金ニ加ヘラレサル利子ハ之カ拂戻ノ請求ヲ爲スコトヲ得ス但シ全部拂戻ヲ爲スモノハ之ノ限リニ在ラス

第七章　通帳檢閱

第三十九條　貯金預ケ人ハ何時ニテモ所持ノ貯金通帳ヲ貯金取扱郵便局所ニ差出シ原簿所管廳ノ檢閱ヲ請求スルコトヲ得

第四十條　原簿所管廳ニ於テ貯金通帳ヲ檢閱セムトスルトキハ貯金預ケ人ニ其ノ旨ヲ通告ス

貯金預ケ人前項ノ通告ヲ受ケタルトキハ其ノ通告書ニ指示スル方法ニ依リ通帳ヲ指定セラレタル郵便局所ニ差出スヘシ

第四十一條　貯金預ケ人前二條ニ依リ通帳ヲ郵便局所ニ差出シタルトキハ通帳受領證ヲ受取ルヘシ

第四十二條　檢閱ノ爲提出ニ係ル貯金通帳ハ原簿所管廳ニ於テ之ヲ當該貯金預ケ人原簿ニ對照シ其ノ預拂金ノ正當ナルコトヲ確メ且未タ通帳ニ記入セラレサル利子アルトキハ之ヲ記入シタル上通帳檢閱ノ旨ヲ表示ス

前項檢閱濟貯金通帳ハ受持郵便局所ニ於テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ預ケ人ニ交付ス

第四十三條　五年間貯金ノ預入及拂戻ナク且檢閱ノ爲ニスル通帳ノ提出ナキ貯金ニ對シテハ最後ノ預入拂戻又ハ檢閱アリタル日ヨリ滿五年以後ノ利子ヲ附セス

第八章　貯金相續

第四十四條　貯金預ケ人死亡シタル場合ハ正當相續人ニ於テ死亡ノ證明書及正當相續人タルコトヲ證明スル資料並ニ當該貯金通帳ヲ添ヘ受持郵便局所ニ届出ツヘシ

第四十五條　受持郵便局所ニ於テ前項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ局所長ニ於テ其ノ事實ヲ調査シ届出ノ正當ナルコトヲ認メタル上之ヲ原簿所管廳ニ申報スルト共ニ請求人ニ對シテハ貯金通帳受領證ヲ交付ス

第四十六條　原簿所管廳ハ前條届出及當該局所長ノ申報ニ基キ審査ノ上貯金預ケ人ノ名義ヲ書換ヘ通帳ハ受持郵便局所長ヲ經テ通帳受領證ト引換ニ之ヲ請求人ニ返付ス

附　則

本規則ハ大同二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス

郵便貯金條例施行細則ハ本規則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

左ニ參照トシテ郵便貯金條例ヲ附ス

郵便貯金條例

第一條　郵便貯金ハ交通部ノ主管ニ屬シ郵政機關ニ於テ之ヲ兼管ス

第二條　郵便貯金ノ預入及拂戻ハ幣制統一ニ至ル迄該地方ニ通用スル銀圓ニ限ル

第三條　郵便貯金ハ一人又ハ一團體毎ニ一口ヲ限トシ其ノ預入總額三千元ヲ超過スルコトヲ得ス但シ學校又ハ公益團體ニ在リテハ四千元迄之ヲ爲スコトヲ得

第四條　郵便貯金ノ預入額ハ一元ヲ單位トス一元ニ滿タサルモノハ郵便局ニ於テ交付スル貯金臺紙ニ同一種類ノ貯金切手ヲ貼付シ一元ニ達シタルトキ之ヲ預入スルコトヲ得

第五條　新ニ貯金預入ヲ開始シタルトキハ郵便局ニ於テ郵便貯金通帳ヲ交付ス其ノ後ノ預入及拂戻ノ際ニハ貯金通帳ヲ以テ受拂ノ證據トナス

前項ノ通帳ハ入質又ハ他人ニ讓渡スルコトヲ得ス但シ遺贈ハ此ノ限ニ在ラス

第六條　郵便貯金ノ拂戻ハ全部拂戻ノ場合ヲ除クノ外一元ヲ以テ單位トス

第七條　郵便貯金ハ郵便貯金取扱區域内ニ於テハ執レノ郵便貯金取扱局ニ於テモ預入及拂戻ヲ爲スコトヲ得其ノ取扱區域ハ隨時之ヲ告示ス

第八條　郵便貯金ハ隨時之ヲ拂戻スコトヲ得但シ一口ノ拂戻金三百元ヲ超過スル場合ハ郵便貯金取扱郵便局ハ預ケ人ニ對シ三日以前ニ該拂戻ノ豫告ヲ要求スルコトヲ得又特殊ノ場合ニ在リテハ郵便局ハ其ノ理由ヲ預ケ人ニ通告シ支拂ヲ延期スルコトヲ得

第九條　郵便貯金ノ元利金ニ對シテハ郵政ニ於テ之ヲ擔保ス

第十條　郵便貯金ノ利率ハ交通部之ヲ定ム

第十一條　郵便貯金ノ利子ハ毎半年一回之カ計算ヲ爲シ貯金通帳及貯金原簿ニ規定ニ依リ記入ヲ爲スモノトス

第十二條　郵便貯金ハ主管機關ニ於テ責任ヲ以テ運用シ之ニ依リ生シタル利益ハ他ニ流用スルコトヲ得ス

第十三條　郵便貯金ノ元利金ニ對シテハ課稅ヲ爲サス

第十四條　郵便貯金事務ニ關シ無能力者ノ郵便官署ニ對シテ爲シタル行爲ハ能力者ノ爲シタル行爲ト看做ス

第十五條　郵便貯金ハ普通貯金ノ外ニ郵便爲替ヲ以テスル貯金ヲ取扱フコトヲ得其ノ規定ハ別ニ之ヲ定ム

第十六條　本條例施行細則ハ交通部令ヲ以テ之ヲ定ム

第十七條　本條例ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス（大同二年五月一日）

●暫行郵便貯金取扱規程

大同二年四月二十二日
交通部訓令第七十九號

茲ニ暫行郵便貯金取扱規程ヲ規定シ同封送付ス直ニ遵照シ茲ニ所屬ヲシテ一體ニ遵照辦理セシムヘシ此ニ令ス

暫行郵便貯金取扱規程

第一章　總　則

第一條　貯金事務取扱者ハ本規程ノ外郵便貯金條例暫行郵便貯金規則及貯金ニ關スル各種ノ告示其ノ他ノ令達ヲ精讀通曉シ常ニ取扱上ノ過誤ナキコトヲ期スヘシ

第二條　貯金事務取扱者ハ預ケ人ノ氏名金額其ノ他貯金ニ關スル事項ヲ他人ニ漏洩スヘカラス

貯金ニ關スル事項（統計ニ關スルモノヲ除ク）ヲ他人ニ示スノ必要アルトキハ所管郵政管理局長ノ許可ヲ受クヘシ但シ司法官署等ヨリ法令ノ規定ニ基キ要求アリタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　郵便局所ニ於テ貯金事務ヲ取扱フヘキ時間ハ別ニ告示スル所ニ依ルヘシ但シ特別ノ事情ニ依リ必要アルトキハ取扱時間ヲ延長スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ速ニ其ノ事由及延長時間ヲ所轄郵政管理局長ニ報告スヘシ其ノ變更廢止ノ場合亦同シ

前項ノ取扱時間ハ之ヲ局所前ニ掲示スヘシ

第四條　郵便局所又ハ原簿所管廳ニ於テ通帳又ハ各種證書ニ記載スル金高ハ特ニ明瞭正確ニ壹弐參肆伍ノ文字ヲ以テ記載（アラビヤ數字ヲ除ク）スヘシ預ケ人ヲシテ拂戻請求書又ハ拂戻金受領證ニ金高ヲ記載セシムル場合亦同シ

通帳ニ金額等ヲ誤記シタルトキハ塗抹改竄及挿字ヲ爲サス其ノ行ニ朱ノ廢線ヲ施シ主務者印ヲ押捺シ更ニ次行ニ記入スヘシ

第五條　預ケ人其ノ他ノ關係人ヨリ貯金ニ關スル各種ノ請求アリタル場合ニ於テ特ニ保證人ヲ立テシムルトキハ預ケ人又ハ其ノ他ノ關係人ヲシテ當該書類（又ハ別紙）ニ其ノ請求ノ事由竝ニ之ニ基因シ官ニ損害ヲ釀シタルトキハ直ニ辨償スヘキ旨ヲ記載シ記名捺印セシメタル上保證人ヲシテ其ノ肩書ヲ附シ之ニ連署セシムヘシ

前項ニ依リ保證人ヲ立テシメタル場合ニ於テハ郵便局所ノ長ニ於テ保證人ノ資格ヲ調査シ且保證債務ヲ承認セルモノナルコトヲ確メタル上當該書類ノ餘白又ハ裏面ニ（保證人調査濟）ト記載シ主務者印ヲ押捺スヘシ

第六條　貯金事務ニ關シ保證人又ハ證明書ヲ要スル場合ト雖モ郵便局所主務者ニ於テ其ノ事實ヲ確知スルトキハ之ヲ省略スルコトヲ得

此ノ場合ニ於テハ當該書類ノ餘白又ハ裏面ニ其ノ旨ヲ證明シ主務者印ヲ押捺スヘシ

第七條　郵便局所ニ於テ各種ノ請求書等ヲ受ケタルトキハ其ノ記載方等總テ過誤遺漏ナキコトヲ確メ且料金ノ徵收ヲ要スルモノナルトキハ之ニ對スル郵便切手ニ過不足ナキコトヲ確メ日附印ヲ以テ該切手ニ消印スヘシ但シ請求書等ノ記載事項ノ過誤遺漏ノ廉アルモ其ノ事項明カナルトキハ受付局所ニ於テ便宜之ヲ修補訂正スヘシ

第八條　郵便局所ニ於テハ事務上支障ナキ限リ預ケ人等ノ依頼ニ應シ預入申込書及其ノ他ノ書類ヲ代書スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ其ノ代書シタル者當該書類ノ餘白ニ「代書」ト附記シ認印ヲ押捺スヘシ

第九條　郵便局所ニ於テ外國文字ヲ以テ記載シタル各種ノ請求等ヲ受ケタル場合ニ於テ取扱者之ヲ讀了シ得ルトキハ其ノ儘取扱ヒ讀了シ能ハサルトキハ漢文ニ翻譯シ差出サシムヘシ但シ記名捺印ヲ要スル場合ト雖モ外國人（日本人ヲ除ク）ナルトキハ其ノ署名ヲ以テ之ニ代フルコトヲ得ルモノトス

第十條　**インキ**又ハ鉛筆ヲ以テ記載シタル各種ノ書類ニシテ散漫消滅ノ虞アルモノハ更ニ其ノ傍ニ墨書セシムヘシ

第十一條　郵便局所ニ於テ受付ケタル通帳請求書及其ノ他ノ書類ニシテ原簿所管廳ニ廻送ヲ要スルモノハ當該受持局所屬ノ區別ニ從ヒ之ヲ廻送スヘシ

第十二條　貯金ニ關スル各種ノ書類ニシテ別段ノ規定ナキモノハ當該局所ニ於テ適宜整理シ六箇月間之ヲ保存スヘシ

本規程ニ依リ郵便局所及原簿所管廳間竝ニ各其ノ相互間ニ往復スル書類又ハ預ケ人等ニ發送スル書類ハ別段ノ規定アルモノヲ除クノ外總テ無料通常郵便ニ依ルヘシ

第二章　預　入

第一節　現金預入

第十三條　郵便局所ニ於テ新ニ貯金ノ預入ヲ爲サムトスル者ヨリ其ノ申出ヲ受ケタルトキハ自局カ受持郵便局所ナルコトヲ確メタル上通帳ニ現金ヲ添ヘ（差出サシメ前條ノ例ニ依リ取扱フヘシ）氏名受持局名及職業ヲ記載セシメ且印鑑欄内ニ正副印章ヲ鮮明ニ押捺ノ上現金ト共ニ差出サシメタル上左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　申込書ニ依リ通帳貯第三號（通帳ハ番號ヲ逐ツテ順次記入使用スヘシ）ニ預ケ人ノ住所氏名受持局名通帳番號預入年月日預入金額及現在高大寫數目等ヲ式ノ如ク記載捺印シ尚通帳番號ヲ申込書ノ相當欄ニ轉記スヘシ

二　前號ノ通帳ニ依リ新ニ貯金副原簿ニ預ケ人ノ口座ヲ設ケ之ニ受持局名通帳番號住所氏名職業預入年月日預入金額及現在高ヲ記入シ且預入申込書ノ副印鑑ヲ截離シ印鑑欄ニ貼付スヘシ

三　次ニ預拂金報告書貯第二號正副ニ受持局名報告番號（番號ハ日毎ニ順次使用シ同一日數頁ニ渉ル場合ハ「何番ノ二」又ハ「何番ノ三」ト記入シ月毎ニ更新スヘシ）通帳番號預ケ人氏名預入金額及現在高ヲ記載シ取扱者捺印ノ上備考欄ニ「新」ト附記スヘシ

四　次ニ通帳預拂金報告書及貯金副原簿ヲ對照シ相違ナキヲ確メタル上通帳ニハ主務者證印ノ上之ヲ預ケ人ニ交付シ申込書及預拂報告書正本ハ相當捺印ノ上所轄郵政管理局（以下單ニ管理局ト稱ス）經由原簿所管廳ニ送付シ貯金副原簿印鑑欄ノ個所ハ主務者印ヲ以テ契印ノ上通帳番號順ニ又預拂報告書副本ハ日順ニ之ヲ整理保管スヘシ

第十四條　郵便局所ニ於テ既ニ通帳ヲ所持スル者ヨリ貯金預入ノ申出ヲ受ケタルトキハ自局カ受持郵便局所ナルコトヲ確メタル上通帳ニ現金ヲ添ヘ（差出サシメ前條ノ例ニ依リ取扱フヘシ）

第十五條　原簿所管廳ニ於テ前二條ニ依リ郵便局所ノ取扱ニ係ル預入申込書及預拂報告書ノ廻付ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　申込書ニ依リ貯金原簿貯管第一號ニ預ケ人ノ口座ヲ設ケ其ノ相當ノ部ニ受持郵便局所名通帳番號預ケ人住所氏名及職業ヲ記載シ且申込書ノ印鑑票ノ分ヲ切取リ相當欄ニ貼付スヘシ

二　預拂報告書ニ依リ當該原簿相當ノ部ニ預入年月日預入金額及現在高ヲ式ノ如ク登記シ且其ノ現在高ヲ算出シタル上預拂報告書ノ現在高ト吻合スルコト

三　原簿登記ヲ了シタルトキハ貯金原簿ニ依リ貯金預入登記濟通知書貯管第二號ヲ作成シ之ヲ預ケ人宛發送付スヘシ

第二節　切手預入

第十六條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ切手預入ノ申出ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　預入申込書又ハ通帳ニ切手貯金臺紙貯第五號ヲ添ヘ差出サシムヘシ

二　臺紙ニ規定外ノ切手ノ貼付種類ノ異ナル切手ノ混貼又ハ毀損汚痕等ニ因ル無效貯金切手ノ貼付ナキコト及臺紙ニ記載ノ住所氏名ハ通帳又ハ申込書ト符合スルコトヲ確ムヘシ

三　次ニ臺紙ニ貼付ノ切手金額ヲ合計シ其ノ合計額及通帳ノ番號ヲ臺紙相當欄ニ記載シタル上臺紙ニ依リ通帳預拂報告書及貯金副原簿ニ式ノ如ク記載シ且備考欄ニ「切手」ト記載シ通帳ハ之ヲ預ケ人ニ返付シ臺紙ハ其ノ切手ニ日附印ヲ以テ消印ヲ施シ之ヲ預拂報告書ニ添屬シ管理局經由原簿所管廳ニ送付スヘシ

第十七條　原簿所管廳ニ於テ切手預入ヲ貯金原簿ニ登記スルトキハ切手貯金ナルコトヲ表示スル外第十五條ノ例ニ依リ處理シ切手臺紙ハ相當檢査ノ上適宜保存スヘシ

第三節　預入事故整理

第十八條　郵便局所ニ於テ新規預ケ人ニ通帳交付ノ際通帳ノ番號順ヲ誤リ使用シタルコトヲ發見シタルトキハ中間番號ニ當ル通帳ハ更ニ順次使用スヘシ但シ中間番號ニ當ル通帳ヲ使用スルトキハ其ノ最初及最終使用ノ通帳ニ對スル申込書ニ通帳不順使用ノ開始又ハ終了ノ旨ヲ附箋スヘシ

第十九條　管理局長ニ於テ管内郵便局所取扱者カ故意ニ正當ノ報告ヲ爲サスシテ預入金ヲ消費シタルコトヲ發見シタルトキハ其ノ事實ヲ精査シ預入ノ事實ヲ確認シ得ルモノニシテ且現ニ通帳ニ正式ノ記入アルモノニ在リテハ預入報告洩トシテ追加報告ノ手續ヲ爲サシメタル上被害金回收ノ措置ヲ講シ速ニ其ノ旨ヲ郵務司長ニ報告シ其ノ他ハ事實ヲ詳具シ交通部總長ノ指揮ヲ受ケ處理スヘシ

第三章　拂　戻

第一節　通常拂戻

第二十條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ貯金拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ自局カ受持郵便局所ナルコトヲ確メタル上左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　貯金拂戻金受領證用紙貯第六號ヲ與ヘ之ニ通帳番號受持郵便局所名拂戻金額預ケ人ノ住所氏名等ヲ記載セシメ且受領證印ノ部ニ預ケ人ヲシテ自ラ捺印セシメ通帳ト共ニ差出サシムヘシ

二　前號ノ書類ヲ受取リタルトキハ左ノ事項ヲ調査スヘシ

（イ）通帳ト受領證トニ記載セル預ケ人住所氏名通帳番號等ハ符合スルヤ否

（ロ）貯金副原簿ノ印鑑ト受領證ニ押捺シアル印鑑ト吻合スルヤ否

（ハ）貯金副原簿ト現在高ト貯金通帳ノ現在高ト吻合スルヤ否

（ニ）拂戻請求高ハ現在高ノ範圍内ナリヤ否

（ホ）通帳ニ僞造變造ノ疑ナキヤ否及預拂金額等ニ改竄ノ痕跡ナキヤ否

三　前項ノ手續ヲ了シタルトキハ受領證ニ依リ貯金副原簿及貯金通帳ニ拂戻年月日拂戻金額及現在高ヲ記載捺印シ其ノ差引ニ相違ナキコトヲ確メタル上大寫數目ヲ記載シ且拂戻金受領證ト貯金通帳「大寫數目」欄ニ主務者印ヲ以テ契印ヲ施シタル上通帳ハ拂戻金ト共ニ預ケ人ニ之ヲ交付シ受領證ニ日附印ヲ押捺スヘシ

前項ノ手續ヲ了シタルトキハ受領證ニ依リ貯金預拂報告書相當欄ニ通帳番號預ケ人氏名拂戻金額及貯金簿現在高等ヲ記載捺印シ報告書及受領證ハ管理局經由原簿所管廳ニ送付スヘシ但シ貯金全部拂戻ノモノナルトキハ貯金通帳ハ之ヲ取上ケ貯金副原簿ト共ニ預拂報告書ニ添付シ事務日誌ニ其ノ旨記載スヘシ

第二十一條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ三百圓以上ノ拂戻請求ヲ爲スヘキ旨豫告ヲ受ケ又ハ預ケ人ニ對シ拂戻ノ豫告ヲ要求シタルトキハ其ノ指定期日ニ於テ拂渡ニ支障ナカラシムル爲メ資金ノ充實ヲ圖ルヘシ但シ此ノ場合運送途中其ノ他ニ於テ盜難等ノ危險發生スルコトナキヤ否ヲ充分ニ考慮シ遺憾ナキヲ期スヘシ

第二十二條　原簿所管廳ニ於テ拂戻ニ係ル預拂報告書等ノ廻送ヲ受ケタルトキハ預拂報告書ニ依リ當該原簿相當ノ部ニ拂戻年月日拂戻金額ヲ式ノ如ク登記シ且其ノ現在高ヲ算出シタル上預拂報告書ノ現在高ト吻合スルコトヲ確メ拂戻金受領證ハ一日毎ニ原簿ト對照ノ上適宜整理保管スヘシ

前項ノ場合全部拂戻ノモノナルトキハ貯金原簿ニ就キ利子ノ計算ヲ行ヒ之ニ對スル拂戻計算票貯管第四號及拂戻證書貯管第三號ヲ調製（拂戻スヘキ利子ナキトキハ此ノ限ニ在ラス）シ證書面金額記載ノ下部ニ利子追拂ノモノナルコトヲ表示シ且主務者記名調印ノ上之ヲ預ケ人ニ發送シ貯金原簿及貯金通帳並ニ貯金副原簿ハ無效トシ又拂戻計算票ハ證書番號順ニ整理保管スヘシ

第二十三條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ利子追拂ニ係ル拂戻證書ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ證書相當ノ部ニ預ケ人自ラ捺印ノ上之ヲ差出サシメ且預拂報告書ニ相當記載ノ上備考欄ニ「利子追拂」ノ旨表示シタル上拂戻金ヲ交付シ拂戻證書ハ拂渡日附印押捺ノ上預拂報告書ト共ニ管理局經由原簿所管廳ニ送付スヘシ

第二節　特別拂戻

第二十四條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ貯金特別拂戻ノ請求ヲ受ケタルトキハ貯金拂戻請求書用紙貯第七號ヲ與ヘ之ニ拂戻金額通帳番號受持郵便局所名拂戻郵便局名預ケ人ノ住所氏名等ヲ記載シ且印鑑欄ニ豫テ届出ノ印章ヲ鮮明ニ押捺シタル上之ヲ差出サシムヘシ但シ全部拂戻ヲ請求スルモノナルトキハ貯金拂戻請求書用紙ニ拂戻金額ヲ記載セシメス且貯金通帳ヲ差出サシメタル上第八十條ニ依ル通帳受授ノ手續ヲ爲スヘシ

郵便局所ニ於テ前項ノ請求書類ヲ受ケタルトキハ其ノ相當欄ニ日附印ヲ押捺シ尚拂渡郵便局所カ貯金取扱局所ナルコトヲ確メタル上之ヲ受持郵便局所經由原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第二十五條　受持郵便局所ニ於テ前條書類ノ廻送ヲ受ケタルトキハ當該貯

金副原簿ニ就キ拂戻請求金額ノ拂戻ヲ爲シ得ルコト及印鑑ノ吻合スルコトヲ確メ拂戻請求書餘白ニ「現在高何程」ト記載シ且主務者證印ノ上之ヲ原簿所管廳ニ發送スヘシ但全部拂戻ノモノナルトキハ貯金副原簿ヲモ添付シ其ノ旨事務日誌ニ記載スヘシ

第二十六條　原簿所管廳ニ於テ前條書類ノ廻送ヲ受ケタルトキハ一部拂戻ノモノニアリテハ貯金拂戻請求書ト貯金原簿トヲ對照シ通帳番號預ケ人住所氏名受持郵便局所名及貯金現在高等ニ相違ナキコトヲ確メ拘請求書ノ印影ト貯金原簿ノ印鑑ト吻合スルコトヲ認メタル上左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　當該原簿相當ノ部ニ拂戻年月日拂戻金額ヲ式ノ如ク登記シ且其ノ現在高ヲ算出スヘシ

二　請求書ニ依リ拂戻金計算票及貯金拂戻證書ニ相當事項ヲ記載（炭酸紙使用）スヘシ

三　貯金原簿ニ依リ貯金特別拂戻通告書貯管第五號ニ式ノ如ク記載シタル上拂戻請求書及貯金原簿ノ各拂戻金額現在高等ト吻合スルコトヲ確ムヘシ

四　前各號ノ手續キヲ了シタルトキハ拂戻證書ニ主務者記名調印シ且證書請求書及特別拂戻通告書ノ相當欄ニ發行日附印ヲ押捺シ證書ハ預ケ人ニ請求書ハ拂渡郵便局所ニ又特別拂戻通告書ハ受持郵便局所ニ送付シ計算票ハ證書番號順ニ整理保管スヘシ

第二十七條　原簿所管廳ニ於テ第二十五條ノ貯金全部拂戻ニ係ル書類ノ廻送ヲ受ケタルトキハ貯金拂戻請求書貯金原簿貯金副原簿及貯金通帳ト對照シ通帳番號預ケ人住所氏名受持郵便局所名貯金預拂金額等ニ相違ナキコトヲ確メ尚請求書ノ印影ト貯金原簿及貯金副原簿ノ印鑑ト吻合スルコトヲ確メ拂戻金額ノ拂戻ヲ爲シ得ルコト及印鑑ノ吻合スルコトヲ認メタル上左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　當該原簿ニ拂戻金額（利子ヲ計算ニ包含セシムルコト）ヲ算定記載シ且拂戻金計算票及貯金拂戻證書ニ相當事項ヲ記載スヘシ

二　次ニ貯金拂戻請求書ニ拂戻金額ヲ記載シタル上貯金原簿拂戻金計算票貯金拂戻證書及貯金副原簿其ノ他ノモノト各計算シ符合スルコトヲ確ムヘシ

三　前各號ノ手續ヲ了シタルトキハ拂戻證書ニ主務者記名調印シ且證書及請求書ハ相當欄ニ發行日附印ヲ押捺シ證書ハ拂戻請求人ニ送付シ請求書ハ拂渡局所ニ送付シ計算票ハ證書番號順ニ別途整理保管シ通帳及貯金副原簿ハ無效處理ノ上適宜整理保存スヘシ

第二十八條　郵便局所ニ於テ原簿所管廳ヨリ自局所ニ於テ拂渡ヲ爲スヘキ拂戻請求書ノ廻付ヲ受ケタルトキハ拂戻金ノ拂渡ヲ爲スニ支障ナキコトヲ確メタル上之ヲ保管スヘシ

第二十九條　郵便局所ニ於テ拂戻請求人ヨリ拂戻金拂渡ノ請求ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　拂戻證書相當ノ部ニ捺印ノ上之ヲ差出サシメ尚一部拂戻ノモノニアリテハ當該通帳ヲモ差出サシムヘシ

二　前號ノ書類ヲ受取リタルトキハ全拂ノモノニアリテハ拂戻證書ノ金高通帳番號預ケ人氏名及印影ヲ保管シアル拂戻請求書ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上拂戻金ヲ交付スヘシ

三　又一部拂戻ノモノニアリテハ前號ノ例ニヨリ證書請求書及通帳ヲ交互ニ對照點査シ且通帳ノ現在高ヲ調査シテ拂戻ヲ爲シ得ルコト並

ニ通帳ニ斷片綴合等ノ作爲ナキコトヲ確メタル上證書ト貯金通帳ノ「大寫數目」欄ニ主務者印ヲ以テ契印ヲ施シ拂戻金ト共ニ通帳ヲ預ケ人ニ交付スヘシ

前項ノ手續ヲ了シタルトキハ證書及請求書相當欄ニ日附印ヲ押捺シ請求書ハ順次編綴シ之ヲ自局證據ト（トシテ保存シ置キ拂濟證書（貯金副原簿アルモノハ共ニ）ハ管理局經由原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第三十條　受持郵便局所ニ於テ第二十六條第四號ノ貯金特別拂戻通告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ之ニ依リ當該貯金副原簿ニ拂戻月日拂戻金額ヲ記載シ且現在高ヲ算出シ尚其ノ備考欄ニ記帳月日及拂渡局名ヲ記入ノ上特別拂戻通告書ニ處理濟日附印ヲ押捺シ之ヲ原簿所管廳ニ返送スヘシ

第三十一條　原簿所管廳ニ於テ前條特別拂戻通告書ノ返送ヲ受ケタルトキハ副原簿ニ記帳濟ナルコトヲ確メタル上適宜整理保存スヘシ

第三十二條　原簿所管廳ニ於テ第二十九條ノ拂濟證書ノ廻送ヲ受ケタルトキハ計算票ニ拂濟監査日附印ヲ押捺シ適宜整理保存スヘシ

第三十三條　郵便局所ニ於テハ毎日自局所ニ保管スル拂戻請求書ニ依リ之ニ對スル拂濟證書ノ有效期間ヲ調査シ其ノ期間滿了ノモノアルトキハ拂戻請求書ノ裏面ニ其ノ事由ヲ記載シ日附印ヲ押捺シテ之ヲ原簿所管廳ニ廻送シ其ノ旨事務日誌ニ記載スヘシ

第三節　再度拂戻證書

第三十四條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ再度拂戻證書交付ノ請求ヲ受ケタルトキハ通帳番號受持局名拂戻金額請求ノ事由及住所氏名ヲ記載シタル再度證書請求書（貯第十二號）ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ尚證書ノ毀損汚斑若ハ有效期間經過ノ爲メ再度證書ノ請求ニ依ルモノナルトキハ

請求書ニ其ノ證書ヲ添ヘ差出サシメタル上其ノ餘白ニ日附印ヲ押捺シ尚原證書ハ自局所ニ於テ拂渡スヘキモノニシテ之ニ對スル拂戻請求書ヲ保管スルトキハ共ニ之ヲ原簿所管廳ニ廻送シ其ノ旨ヲ事務日誌ニ記載スヘシ

第三十五條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ再度拂戻證書請求書類ノ廻付ヲ受ケタルトキハ其ノ請求書ヲ當該貯金原簿ニ對照シテ正當本人ノ請求ニ係ルモノナルコト及預ケ人原簿及拂戻金計算票竝ニ郵便局所ヨリ返送ヲ受ケタル當該拂戻請求書ニ依リ拂戻金ノ未拂ナルコトヲ確メタル上再度貯金拂戻證書（貯管第六號）ヲ左ノ如ク調製シ當該拂戻請求書及拂戻金計算票ニ再度證書發行ノ旨及發行年月日並ニ再度證書ノ番號ヲ附記シ證書ハ發行日附印及主務者記名調印ノ上請求人ニ送付シ拂戻請求書ハ拂渡局所ニ送付スヘシ

第四節　拂戻事故整理

第三十六條　郵便局所ニ於テ原簿所管廳ヨリ廻送ヲ受ケタル拂戻請求書ニ左ノ事故アルトキハ直ニ原簿所管廳ニ照會ノ上相當處理スヘシ

一　拂戻金額不明ノ場合

二　拂戻證書發行日附印不明若ハ押捺洩ノ場合

第三十七條　郵便局所ニ於テ拂戻金拂渡ニ際シ左ノ事故アルトキハ第三十九條ニ依リ拂渡停延ノ手續ヲナシ速達ノ方法ニ依リ原簿所管廳ニ照會スヘシ

一　證書ト拂戻請求書ト金額不符合ノ場合

二　證書金額不明ノ場合

三　拂戻請求書未著ノ場合

四　證書ト拂戻請求書ト通帳番號又ハ氏名不符合ノ場合

五　證書ニ主務者記名調印洩ノ場合

六　其ノ他拂戻金拂渡ニ支障アル場合

第三十八條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ拂戻請求書未著ノ通報ヲ受ケタルトキハ拂戻金拂渡未濟ナルコトヲ確メタル上拂戻金ニ對スル代用拂戻請求書ヲ調製シ金額五十圓以上ノモノニ對シテハ貯金預入申込書添付ノ上之ヲ拂渡局所ニ廻送スヘシ

第三十九條　郵便局所ニ於テ事故又ハ資金缺乏ノ爲拂戻金ノ拂渡ヲ停延スルトキハ左ノ例ニ依リ證書ノ裏面ニ停延ノ事由及日數ヲ記載シ且日附印ヲ押捺シ之ヲ請求人ニ返付シ拂戻金額通帳番號請求人住所氏名及其ノ事由ヲ事務日誌ニ記載スヘシ

例

何々（事故ノ要旨ヲ記スヘシ例ヘハ資金缺乏ノ時ハ「資金缺乏」ト記スルノ類）ニ因リ何月何日迄何日間拂渡ヲ停延ス　（日附印）

第四十條　郵便局所ニ於テ拂戻金拂渡停延後其ノ事故判明シ又ハ資金充實シ拂渡ニ支障ナキニ至リタルトキハ速ニ其ノ旨ヲ請求人ニ通知シ一般ノ手續ニ依リ拂渡ヲナシ其ノ事由ヲ事務日誌ニ記載スヘシ但停延期間內ニ事故判明セス又ハ資金充實セサル爲停延期間ノ延長ヲ要スト認メタルトキハ速ニ其ノ事由及停延期間延長ノ日數ヲ請求人ニ通知シ其ノ旨ヲ事務日誌ニ記載スヘシ

第四十一條　郵便局所ニ於テ拂戻ニ關シ預ケ人等ヨリ提出セシメタル各種ノ書類及證書又ハ請求書ノ事故ニ關シ原簿所管廳ヨリノ證明ニ關スル書類ハ拂濟ノ後左ノ區別ニ從ヒ處理スヘシ

一　請求書ノ事故證明ニ關スル書類ハ當該拂濟請求書裏面ニ貼付スヘシ

二　前號以外ノ書類ハ總テ當該拂濟證書ノ裏面ニ貼付スヘシ

第四章　利子

第一節　貯金利子

第四十二條　原簿所管廳ニ於テハ別ニ定ムル所ニ從ヒ受入金又ハ拂戻金ニ對シテハ元加時期迄ノ期間內ニ於テ付與スヘキ元金ヲ算出シ原簿相當欄ニ記入スヘシ

前項ノ利子額ハ毎年六月三十日及十二月三十一日ヲ區切リテ計算シ之ヲ元金ニ加ヘ原簿相當欄ニ記入スヘシ

第二節　通帳利子記入

第四十三條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ利子記入ノ爲差出シタル通帳ヲ受ケタルトキハ第八十條ニ依リ通帳受授ノ手續ヲ爲シ通帳ハ貯金副原簿ト預拂金額等ヲ對照シ其ノ相違ナキコトヲ確メタル上之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

前項ノ場合ニ於テ貯金通帳ト貯金副原簿ニ相違ノ廉アルトキハ其ノ事實ヲ調査ノ上調査書ヲ作成シ通帳ト共ニ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第四十四條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ通帳ノ廻送ヲ受ケタルトキハ之ヲ貯金原簿ニ對照シ預ケ人ノ氏名及預拂金額等ニ相違ナキヲ確メタル上原簿ニ依リ通帳中最終受拂記載ノ次行「預入欄」ニ元加利子ヲ記入シ摘要欄ニ元加時期ヲ表示シ且現在高ヲ記入シタル上其ノ首部ニ檢閱印鑑形第六號ヲ又相當欄ニ主務者印ヲ押捺シ原簿備考欄ニ通帳檢閱（年月日記入ヲ要ス）ノ旨ヲ表示シ通帳ハ受持郵便局所ニ送付スヘシ

前條第二項及貯金通帳ト貯金原簿ト對照ノ上事故アルモノ有リタルトキハ其ノ事實ヲ精査シ相當處理スヘシ

第四十五條　郵便局所ニ於テ原簿所管廳ヨリ利子記入濟通帳ノ廻付ヲ受ケタルトキハ相當手續濟ナルコトヲ確メ通帳ニ依リ副原簿ニ利子額現在高等ヲ登記シタル上第八十一條ニ依リ預ケ人ニ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第四十六條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ通帳ノ廻付ヲ受ケタルトキハ利子記入以外ノ事由ニ依リ提出ニ係ルモノト雖未タ通帳ニ記入セサル元加利子アルトキハ通帳ニ之カ記入ノ手續ヲ爲スヘシ

第五章　再度通帳

第四十七條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ通帳紛失又ハ毀損汚斑ノ爲再度通帳ノ請求ヲ受ケタルトキハ再度通帳請求書用紙貯十一號ヲ與ヘ之ニ原通帳番號受持郵便局所名請求事由請求人ノ住所氏名等ヲ記載シ印鑑欄ニ捺印ノ上之ニ料金相當ノ郵便切手ヲ貼付シ尚毀損汚斑ノ場合ニアリテハ其ノ通帳ヲ添ヘ差出サシメ且貯金副原簿ニ對照シ印鑑其ノ他記載事項ニ相違ナキヲ確メタル上第八十條ニ依リ通帳類受授ノ手續ヲ爲シ請求書ハ相當欄ニ日附印ヲ押捺シ郵便切手ハ日附印ヲ以テ消印シタル上毀損汚斑ノ通帳アルトキハ共ニ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

預ケ人ヨリ通帳餘白ナキニ至リタル爲再度通帳ノ請求ヲ受ケタルトキハ其ノ通帳ヲ差出サシメ貯金副原簿ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上第八十條ノ例ニ依リ相當手續ヲ爲シ通帳ハ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第四十八條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ前條ノ再度通帳請求書又ハ通帳ノ廻付ヲ受ケタルトキハ其ノ請求書ハ之ヲ貯金原簿ニ對照シ相違ナキヲ確メ原簿ニ依リ原通帳番號ヲ襲用シテ再度通帳ヲ式ノ如ク調製シ通帳ニ發行年月日現在高ヲ記入シ摘要欄ニ發行事由ヲ記載シ且主務者印ヲ押捺シタル上之ヲ受持郵便局所ニ發送スヘシ但シ餘白ナキ爲再度通帳ノ請求ニ係ルモノナルトキハ原通帳ニ無効處分ヲ施シ共ニ之ヲ送付シ又原通帳紛失ニ係ルモノナルトキハ原簿備考欄ニ再度通帳發行ノ事由及年月日ヲ附記シ且原簿及通帳ノ番號ノ下ニ「ノ二」又ハ「ノ三」等ノ例ニ依リ再度通帳發行回數ヲ表示スル文字ヲ附記スヘシ

第四十九條　郵便局所ニ於テ原簿所管廳ヨリ前條再度通帳ノ廻付ヲ受ケタルトキハ貯金副原簿ト現在高等ヲ對照シ相違ナキヲ確メタル上預ケ人ニ返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五十條　郵便局所ヨリ犯罪其ノ他ノ證據物件トシテ通帳ヲ司法官廳ヘ提出中當該預ケ人ヨリ再度通帳ノ請求アリタルトキハ通帳紛失ノ手續ニ準シ特ニ料金ヲ徵セス再度通帳交付スルコトヲ得

但シ當該預ケ人ニ對スル犯罪ノ證據物件トシテ提出中ノモノハコノ限ニ在ラス

第六章　通帳檢閱

第五十一條　原簿所管廳ニ於テハ毎月自管區預ケ人ノ所持スル通帳中一定ノ數量ヲ取上ケ之カ檢閱ヲ爲スヘシ

第五十二條　原簿所管廳ニ於テ貯金通帳ヲ檢閱セムトスルトキハ通帳檢閱通告書（貯管第七號）ヲ式ノ如ク調製シ之ヲ當該預ケ人ニ發送スヘシ

第五十三條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ自己ノ任意ニ依リ又ハ原簿所管廳ヨリノ通告ニヨリ檢閱ヲ受クル爲貯金通帳ノ差出アリタルトキハ第八十條ノ例ニ依リ通帳ハ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第五十四條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ檢閱ノ爲メ差出シタル貯金通

帳ノ廻付ヲ受ケタルトキハ之ヲ預ケ人原簿ニ對照シ預ケ人ノ氏名預拂年月日同上金額等ニ相違ナキヲ確メタル上第四十四條ノ例ニ依リ處理スヘシ

第五十五條　郵便局所ニ於テ檢閱濟ニ係ル貯金通帳ヲ原簿所管廳ヨリ廻付ヲ受ケタルトキハ第八十一條ニ依リ相當手續ヲ爲スヘシ

第七章　相續

第一節　名義書換

第五十六條　郵便局所ニ於テ貯金預ケ人死亡ノ旨ヲ以テ其ノ相續人ヨリ貯金名義書換ノ請求ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　名義書換請求書貯第九號ヲ與ヘ式ノ如ク記入シ捺印ノ上相續ニ係ル通帳死亡ノ證明書及正當相續人タルコトヲ證明スル資料ヲ添ヘ差出サシムヘシ

二　前號ノ書類ヲ受取リタルトキハ其ノ局所ノ長ニ於テ其ノ事實ヲ調査シ屆出ノ正當ナルコトヲ認メタルトキハ調査復命書添付第八十條ニ依リ通帳受授ノ手續ヲ爲シタル上通帳及請求書（添屬書類アルモノハ共ニ）ハ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第五十七條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ貯金名義書換請求書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ相當審査ノ上原簿及通帳面ノ住所氏名並印鑑等ニ訂正（印鑑訂正ノ個所ニハ主務者印ヲ以テ契印スヘシ）ヲ施シ且貯金原簿備考欄ニ事由ヲ附記シ通帳ハ訂正ノ個所ニ主務者證印ノ上印鑑紙副ノ分ヲ添付受持郵便局所ニ送付シ關係書類ハ適宜整理保管スヘシ

第五十八條　郵便局所ニ於テ原簿所管廳ヨリ名義書換ヲ了シタル通帳等ノ廻付ヲ受ケタルトキハ貯金副原簿ヲ索出シ住所氏名及印鑑等ノ訂正ヲ施シ印鑑訂正ノ個所ハ主務者印ヲ以テ契印シ副原簿備考欄ニ事由附記ノ上第八十一條ニ依リ預ケ人ニ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二節　轉記

第五十九條　郵便局所ニ於テ貯金預ケ人ヨリ貯金相續其ノ他ノ理由ニ依リ二冊以上ノ通帳ヲ所持スル事由ニ基キ之ヲ一冊ニ合併方請求ヲ受ケタルトキハ當該通帳番號受持局名預ケ人住所氏名及其ノ事由ヲ記載捺印シタル貯金轉記請求書及當該貯金通帳ヲ差出サシムヘシ

前項ノ書類ヲ受取タルトキハ相當審査シ貯金副原簿アルモノハ之ト對照シ相違ナキヲ確メタル上各通帳ニ對シ第八十條ノ例ニ依リ相當手續ヲ爲シ通帳及請求書（添屬書類アルモノハ共ニ）並ニ廢止サルヘキ貯金副原簿ハ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第六十條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ轉記請求書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ相當審査ノ上左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　廢止スヘキ預ケ人原簿通帳並ニ副原簿ニ對シ全拂ノ手續ヲ爲シタル上原簿副原簿及通帳ニ其ノ旨附記スヘシ

二　合併受入セラルヘキ預ケ人原簿及通帳ハ預入金ノ例ニ依リ受入ノ手續ヲ爲シ且貯金原簿及通帳中受入金記載ノ備考欄又ハ摘要欄ハ「轉記受入」ト記載スヘシ

三　前各號ノ手續ヲ了シタルトキハ預金記入濟ノ通帳ハ受持郵便局ニ送付スヘシ

第六十一條　郵便局所ニ於テ原簿所管廳ヨリ前條通帳ノ廻付ヲ受ケタルトキハ當該副原簿ニ對シ預入ノ例（預拂報告書ノ調製ハ之ヲ要セス）ニ依リ相當登記ヲ爲シタル通帳ハ第八十一條ニ依リ預ケ人ニ交付ノ手續ヲ爲スヘシ

第八章　異動變更

第一節　貯金關係人ノ異動

第六十二條　公益團體又ハ學校等ノ代表者管理者ノ異動届アリタルトキハ其ノ届書ニ新舊ノ代表者管理者連署シアルコト及新代表者新管理者ノ印鑑（預入申込書ヲ使用スルコトヲ得）添付シアルコトヲ確メタル上印鑑中「副」ノ分ハ之ヲ貯金副原簿ニ貼付シ其ノ届書ノ餘白ニ「副原簿印鑑訂正濟」ト附記シ日附印ヲ押捺シ之ヲ原簿所管廳ニ廻送シ且新代表者管理者ヲシテ通帳ノ氏名及印鑑ノ部ヲ訂正セシムヘシ

第六十三條　預ケ人又ハ其ノ他ノ關係人ヨリ改氏名ノ届出アリタルトキハ貯金副原簿ニ相當訂正ヲ加ヘ其ノ届書ノ餘白ニ「副原簿訂正濟」ト附記シ日附印ヲ押捺ノ上之ヲ原簿所管廳ニ廻送シ且通帳氏名ヲ訂正ノ上主務者證印スヘシ

第六十四條　代表者管理者變更ノ場合ニ於テ舊代表者又ハ管理者連署シ得サルトキハ預ケ人ヲシテ其ノ變更ノ事實ヲ認ムルニ足ルヘキ證明書ヲ差出サシメタル上之ヲ審査シ適當ト認メタルトキハ相當處理ノ上之ヲ當該届書ニ添付スヘシ

第二節　改印及轉居

第六十五條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ改印届出ヲ受ケタルトキハ其ノ届書貯第八號ニ相當事項ヲ記載捺印シ通帳ト共ニ差出サシメタル上左ノ手續ヲナスヘシ

一　改印届書ト通帳ト對照シ通帳番號預ケ人住所氏名受持局名符合スルコト及届書ニ押捺セル印鑑ハ鮮明ナルコトヲ確ムヘシ

二　改印届書ニ日附印ヲ押捺シタル上印鑑紙中副ノ分ハ貯金副原簿ニ貼付シ主務者印ヲ以テ契印シ通帳ハ預ケ人ニ返付シ改印届書ハ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第六十六條　公益團體又ハ學校等ノ代表者管理者ノ異動届アリタルトキハ其ノ届書ニ新舊ノ代表者管理者連署シアルコト及新代表者新管理者ノ印鑑（預入申込書ヲ使用スルコトヲ得）添付シアルコトヲ確メタル上印鑑中「副」ノ分ハ之ヲ貯金副原簿ニ貼付シ其ノ届書ノ餘白ニ「副原簿印鑑訂正濟」ト附記シ日附印ヲ押捺シ之ヲ原簿所管廳ニ廻送シ且新代表者管理者ヲシテ通帳ノ氏名及印鑑ノ部ヲ訂正セシムヘシ

第六十七條　郵便局所ニ於テ預ケ人ヨリ轉居届出ヲ受ケタルトキハ其ノ届書貯第八號ニ相當事項ヲ記載捺印ノ上貯金通帳ト共ニ差出サシメ貯金副原簿ノ印鑑其ノ他記載事項ト對照シ正當本人ト認メタルトキハ副原簿及貯金通帳ノ住所ヲ訂正主務者證印シタル上届書ニ日附印ヲ押捺シ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第六十八條　原簿所管廳ニ於テ前三條ニ依ル各種ノ届出ヲ受ケタルトキハ相當審査ノ上正當ノ届出ト認メタルトキハ貯金原簿摘要欄ニ相當訂正ヲ施シ且訂正年月日ヲ附記シ届書ハ適宜整理保存スヘシ

第三節　受持局變更

第六十九條　郵便局所ニ於テ預ケ人轉居其ノ他ノ事由ニ依リ受持局變更ノ申出ヲ受ケタルトキハ貯金受持局變更請求書貯第十號ヲ與ヘ之ニ通帳番號新舊受持局名住所氏名等式ノ如ク記載捺印シ通帳ト共ニ差出サシメタル上左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　自局カ新受持局ナルトキハ通帳ト請求書ト相互對照シ通帳番號受持局名住所氏名等總テ相違ナキヲ確メタル上第八十條ノ例ニ依リ通帳受授ノ手續ヲナシ貯金受持局變更請求書ハ餘白ニ使用順ニ逢シタル通帳番號ヲ「新通帳番號何番」ト記載シ新番號ニ依ル代用貯金副原簿（樣式適宜ニシテ受持局名及通帳番號預ケ人氏名等ヲ記載シ摘要欄ニ其ノ事由ヲ附記スルコト）ヲ調製シ貯金副原簿ハ一般副原簿ト共ニ整理保管シ受持局變更請求書ハ受付日附印押捺ノ上通帳ト共ニ書留郵便ニ依リ舊受持郵便局ニ送付シ事務日誌ニ當該新番號及事由ヲ記載スヘシ

二　自局カ舊受持局ナルトキハ前條ノ例ニ依リ處理スルノ外貯金副原簿ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上貯金副原簿貯金通帳並ニ受持局變更請求書ハ一括緊縛シ書留郵便ニ依リ新受持局ニ送付シ其ノ旨事務日誌ニ記載スヘシ

第七十條　舊受持局及新受持局ニ於テ前條書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　舊受持局ニ於テハ前條第二號ノ例ニ依リ取扱ヒ受持局變更請求書ハ餘白ニ經由日附印押捺ノ上貯金通帳貯金副原簿ト共ニ書留郵便ニ依リ原簿所管廳ニ送付シ其ノ旨事務日誌ニ記載スヘシ

二　新受持局ニ於テハ前條ノ例ニ依リ取扱ヒ副原簿面通帳番號及受持局名等訂正ノ上受持局變更請求書餘白ニ「副原簿面受持局名及通帳番號訂正濟」ト附記シ日附印押捺ノ上副原簿ハ代用ノ分ト引換ヘ自局受持原簿トシテ一般ノ例ニ依リ處理シ貯金通帳及受持局變更請求書ハ書留郵便ニ依リ原簿所管廳ニ送付スヘシ

第七十一條　原簿所管廳ニ於テ前條書類ノ送付ヲ受ケタルトキハ貯金原簿ヲ索出シ相互對照シ相違ナキヲ確メタル上左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　貯金原簿貯金通帳ノ受持局名及通帳番號ヲ訂正シタル上貯金原簿摘要欄ニ訂正事由及年月日ヲ簡記シ貯金通帳訂正ノ個所ニハ主務者印ヲ押捺（貼紙訂正ノモノハ契印スルコト）スヘシ

二　前號ノ手續ヲ了シタルトキハ通帳ハ書留郵便ニ依リ新受持局ニ送付シ受持局變更請求書ハ處理濟日附印押捺ノ上適宜保存スヘシ

第七十二條　新受持局ニ於テ前條通帳ノ送付ヲ受ケタルトキハ相互對照シ手續濟ノモノナルコトヲ確メタル上貯金通帳ハ一般ノ例ニ依リ處理スヘシ

第九章　据置貯金

第七十三條　郵便局所ニ於テ新ニ据置貯金預入ノ申出ヲ受ケタルトキハ第十三條及第十六條ノ手續ヲ爲スノ外特ニ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　預入申込書備考欄ニ「据置何年間」ト附記セシムヘシ

二　通帳表面ニ「据置表示印」（第一號雛形）摘要欄ニ「据置貯金印」（第四號雛形）ヲ押捺シ其ノ相當欄ニ据置年限及拂戻開始年月日ヲ記入スヘシ

三　貯金副原簿ノ貯金通帳番號上部ニ「据置表示印」ヲ押捺シ又摘要欄ニ据置年限及拂戻開始年月日ヲ記入スヘシ

第七十四條　原簿所管廳ニ於テ据置貯金預入申込書及預拂金報告書ノ送付ヲ受ケタルトキハ一般ノ例ニ依リ處理スルノ外預入申込書ニ依リ當該貯金原簿ニ前條第三號ノ手續ヲ爲スヘシ

第七十五條　郵便局所ニ於テ据置貯金預ケ人ヨリ据置期間延伸ノ申出ヲ受ケタルトキハ請求書及通帳ヲ差出サシメ延伸期間ノ適當ナルコトヲ確メタル上通帳表紙ノ据置貯金印ニ縱横線ヲ畫シテ前期間取消ノ手續ヲ爲シ其ノ上面ニ紙片ヲ貼付シ之ニ主務者印ヲ以テ契印シタル上据置貯金印ヲ押捺シ請求書ニ依リ相當記入シ且貯金副原簿摘要欄ニ据置期間延伸ノ旨並ニ新据置期間拂戻開始期日等ヲ附記シタル上通帳ハ之ヲ預ケ人ニ返付

シ請求書ハ其ノ餘白ニ「貯金副原簿及通帳手續濟」ト附記シ日附印ヲ押捺シ之ヲ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

第七十六條　原簿所管廳ニ於テ郵便局所ヨリ前條請求書ノ廻付ヲ受ケタルトキハ郵便局所ノ手續濟ナルコトヲ確メ當該貯金原簿摘要欄ニ据置期間延伸ノ旨及承認年月日（郵便局所日附印ニ依ル）新据置期間並新拂戻開始年月日ヲ附記スヘシ

第七十七條　郵便局所ニ於テ据置貯金預ケ人ヨリ不得已事由ニ因リ据置期間内ニ於テ貯金ノ拂戻ヲ受ケタキ旨申出ヲ受ケタルトキハ其ノ認可申請書ヲ差出サシメ郵便局所ノ長ハ速ニ其ノ事實ヲ審査シタル上意見ヲ附シ管理局經由交通部總長ニ送付スヘシ

交通部總長ニ於テ前項ノ申請ヲ承認シタルトキハ通帳番號受持郵便局所名預ケ人名並ニ拂戻承認金額ヲ記載シタル認可書ヲ預ケ人ニ交付スヘシ

第七十八條　郵便局所ニ於テ前條承認ニ係ル据置貯金ノ拂戻請求ヲ受ケタルトキハ當該拂戻請求書又ハ貯金拂戻金受領證ニ認可書ヲ添ヘ差出サシメ一般ノ例ニ依リ取扱ヒタル上認可書ハ貯金拂戻金受領證又ハ拂戻請求書ニ貼付スヘシ但シ拂出ノ際通帳面摘要欄及副原簿備考欄ニハ「特別認可」ト附記スヘシ

第七十九條　郵便局所ニ於テ貯金預ケ人ヨリ据置貯金ノ期間滿了セル通帳ノ呈示又ハ提出ヲ受ケタルトキハ通帳面及副原簿ニ表示セル据置貯金表示印並ニ据置貯金印ヲ抹消シ通帳面抹消ノ個所ハ之ニ主務者印ヲ押捺スヘシ

注　意

据置貯金ニシテ其ノ期間滿了シタルモノハ總テ通常貯金トシテ取扱フヘシ

第十章　通帳類受授

第八十條　郵便局所ニ於テ預ケ人等ヨリ貯金全拂利子記入檢閲名義書換轉記再度通帳請求等ノ爲差出シタル通帳ヲ受領シタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　通帳受授簿貯第及通帳受領證貯第十五號ニ通帳番號受持郵便局所名請求人氏名請求事由等ヲ式ノ如ク記載（炭酸紙使用）シ各相當欄ニ日附印ヲ押捺ノ上受領證ハ之ヲ通帳差出人ニ交付スヘシ

二　通帳ニ請求書添屬セルモノハ其ノ請求書相當ノ部ニ日附印ヲ押捺シ請求書添屬ナキモノハ通帳表面中央上部ニ適宜ノ附箋ヲ爲シ之ニ請求種別ニ從ヒ「利子記入」「檢閲」「無餘白」其ノ他適宜ノ文字ヲ記載シ日附印ヲ押捺スヘシ

三　前各號ノ手續ヲ了シタルトキハ請求書アルモノハ之ヲ添ヘ原簿所管廳ニ廻送スヘシ

通帳紛失ニ因ル再度通帳交付請求其ノ他ノ場合ニ於テ通帳以外ノ書類ニ對シ受領證ヲ交付スルトキハ受授簿及受領證摘要欄ニ其ノ書類ノ種別ヲ記載シ前項ノ例ニ依リ取扱フヘシ

第八十一條　郵便局所ニ於テ原簿所管廳ヨリ利子記入檢閲名義書換轉記等ノ手續ヲ了シタル通帳又ハ再度通帳ノ廻送ヲ受ケタルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　自局所ヲ經由シテ通帳又ハ請求書ヲ差出シタルモノナルトキハ受授簿ノ到着日附印欄ニ日附印ヲ押捺スヘシ

二　他局所ヲ經由シ通帳又ハ請求書ヲ差出シタルモノナルトキハ受授

簿ニ式ノ如ク記載シタル上到着日附印欄ニ日附印ヲ押捺シ受領證用紙ハ之ヲ棄却スヘシ

前項ノ手續ヲ了シタルトキハ預ケ人ニ對シ通帳受領證所持ノ上通帳受領ノ爲メ出頭方通知シ通帳ニ貼付ノ附箋紙餘白又ハ受授簿ニ通知月日ヲ附記シ預ケ人ノ出頭ヲ俟ツテ通帳受領證ト引換ニ之ヲ交付スヘシ但シ特殊ノ事由又ハ郵便物集配ノ狀況ニ依リ通帳受領證ト引換ニ交付スルヲ不便ト認メタルトキハ便宜書留郵便ニ依リ之ヲ預ケ人ニ返付スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受授簿摘要欄ニ日附印ヲ押捺スヘシ

第八十二條　郵便局所ニ於テ通帳ト引換濟ニ係ル通帳受領證ヲ受取リタルトキ又ハ交付未了ノ通帳アルトキハ左ノ手續ヲ爲スヘシ

一　通帳ト引換濟ニ係ル受領證ハ之ヲ受授簿ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上受授簿中當該記載ノ上部ニ之ヲ貼付スヘシ

二　交付未了ノ通帳ハ其ノ事由ヲ調査シ交付ノ見込アルモノハ自局ニ留置處理シ又交付ノ見込ナキモノハ其ノ事由ヲ記載セル附箋ヲ貼付シタル上日附印ヲ押捺シ貯金通帳ハ之ヲ原簿所管廳ニ廻送シ受授簿摘要欄ニ其ノ旨附記スヘシ

三　前號ノ場合ニ於テ預ケ人他ノ郵便局區内ニ移轉シタルモノナルトキハ通帳ハ之ヲ當該受持局ニ廻送シ受授簿摘要欄ニ其ノ旨ヲ附記スヘシ

第八十三條　郵便局所ニ於テ官衙學校工場等ニ集合セル多數ノ預ケ人ヨリ利子記入又ハ檢閲ノ爲差出シタル多數ノ通帳ヲ同時ニ受取ルトキハ其ノ總代人ヲ定メシメ之ト通帳ノ受授ヲ爲スコトヲ得此ノ場合ニ於テハ受授簿及受領證ニハ通帳番號ヲ記載セス「何ノ誰外何人分通帳何册」ト記載シ通帳ニハ一册毎ニ附箋紙ヲ貼付シ其ノ餘白ニ官衙學校工場等ノ名稱及「何人合同」ト附記スヘシ但シ原簿所管廳受持區域ヲ異ニスル通帳ハ各受持原簿所管廳毎ニ合同スヘシ

第十一章　帳簿用紙及印章

第八十四條　本規程ニ依リ郵便局所ニ於テ使用スヘキ帳簿用紙及印章（鑵形ハ別紙附錄ニ掲ク）並ニ各其ノ保存期限左ノ如シ

名稱	番號	保存期限
貯金預入申込書	貯第一號	二年
貯金受拂報告書	貯第二號	二年
貯金通帳	貯第三號	一年（但シ原通帳紛失ノ爲發行ニ係ル再度通帳ハ十年）
貯金副原簿	貯第四號	五年（但シ原通帳紛失ノ爲再度通帳發行ニ係ルモノハ十年）
貯金切手台紙	貯第五號	一ケ月
貯金拂戻金受領證	貯第六號	三年
貯金拂戻請求書	貯第七號	二年
改印轉居屆書	貯第八號	一年
名義書換請求書	貯第九號	一年
受持局變更請求書	貯第十號	一年
再度通帳請求書	貯第十一號	一年
再度拂戻證書請求書	貯第十二號	一年
事務日誌	貯第十三號	一年
通帳受授簿	貯第十四號	一年

通帳受領證	貯第十五號	一年
据置表示印	第一號雛形	—
据置貯金印	第四號雛形	—
主務者印	第七號雛形	—

第八十五條　本規程ニ依リ原簿所管廳ニ於テ使用スヘキ帳簿用紙及印章（雛形ハ別紙附錄ニ掲ク）並ニ各其ノ保存期限左ノ如シ

名稱	番號	保存期限
貯金原簿	貯第一號	五年（但シ通帳紛失ノ爲再度通帳ノ發行ニ係ルモノハ十年）
貯金登記濟通知書	貯管第二號	一年
貯金拂戻證書	貯管第三號	三年
拂戻金計算票	貯管第四號	三年
貯金特別拂戻通知書	貯管第五號	一年
再度貯金拂戻證書	貯管第六號	三年
通帳檢閲通告書	貯管第七號	—
送付書	貯管第八號	六ヶ月
證書用主務者印	第二號雛形及第六號雛形	
通帳用主務者印	第三號雛形	—
通帳檢閲印	第五號雛形	—

第八十六條　帳簿用紙ノ保存期限ハ當該帳簿用紙使用終了ノ日ノ翌日ヨリ起算スルモノトス

前項ノ帳簿用紙ニ添屬セル他ノ書類ノ保存期限ハ當該帳簿用紙ノ保存期限ト同一トス

第八十七條　郵便局所ニ於テ第八十四條ニ掲クル帳簿用紙及印章ノ交付ヲ受ケタルトキハ安全ニ之ヲ保管スヘシ貯金通帳ハ缺乏ニ至ラサル前六ケ月以内ノ使用數量ヲ見積リ二ケ月前ニ原簿所管廳ニ交付ヲ請求スヘシ

第八十八條　原簿所管廳ニ於テ通帳ヲ郵便局所ニ交付スルトキハ送付書（貯管第八號）ヲ添ヘ書留小包郵便ニ依リ發送スヘシ

第八十九條　郵便局所ニ於テ原簿所管廳ヨリ通帳ノ送付ヲ受ケタルトキハ送付書ニ對照シ相違ナキヲ確メタル上領收證ヲ作製記名調印シ領收證ハ之ヲ原簿所管廳ニ廻送シ通帳ハ順次通帳番號ヲ記入シ送付書ト共ニ適宜整理保存スヘシ

未タ預ケ人ニ交付セサル通帳ヲ毀損汚斑シ使用ニ堪ヘサルニ至ラシメタルトキハ通帳ニ其ノ旨ヲ附記シ管理局經由原簿所管廳ニ送付スヘシ

附　則

第九十條　本規程ハ大同二年五月一日ヨリ之ヲ施行ス從前施行ニ係ル郵便貯金取扱ニ關スル規程通牒及指令回答ハ本規程施行ノ日ヨリ之ヲ援用準據スルコトヲ得ス

●郵便貯金取扱局所指定

大同二年四月二十二日
交通部令第三號

茲ニ各該郵便貯金取扱局所ヲ左ノ通指定シ大同二年五月一日ヨリ事務ヲ開始ス尚從前ノ郵便貯金取扱區域ハ本令公布ノ日ヨリ之ヲ廢止ス此ニ令ス

記

奉天　奉天大西門裡　安東　營口
鐵嶺　通遼　洮南　孫家臺
千金寨　四平街　錦州　公主嶺
遼陽　新民　遼源　山城子
西安　西豐　東豐　海龍
蓋平　海城　本溪　鳳城
哈爾濱　哈爾濱道裡　哈爾濱五道街　吉林
新京　新京頭道溝　雙城　一面坡
齊齊哈爾　綏化　昂昂溪　阿城
依蘭　海倫　龍井村　海林
呼蘭　寧安　扶餘　賓縣
農安　延吉　石頭河子　珠河
甜草崗　安達　砧泰來　三岔河
張家灣　敦化　蛟河　下九台
滿洲里　海拉爾　琿春　和龍
汪清　龍井村頭道溝

大同二年四月二十二日

交通部總長　丁鑑修

第十五輯　外　事

●對外通告

玆ニ奉天吉林黑龍江熱河東省特別區並蒙古各旗盟ノ民衆ハ全體奮起シテ獨立政府ヲ組織シ一九三二年三月一日ヲ以テ中華民國ヨリ完全ニ分離シ滿洲國ヲ建設ス本總長ヨリ貴外總長ニ對シ此旨ヲ通告シ得ルハ至極光榮トスル所ナリ

惟フニ舊來軍閥東北諸省ニ盤踞シ人民ノ休戚ヲ顧ミス惟私利ヲ是レ圖ル內ハ苛斂誅求ヲ擅ニシテ人民ヲ塗炭ノ苦ニ陷ラシメ外ハ信義ヲ無視シ各國ヲ目シテ仇敵ト爲ス加之中原ニ統一政府ナク群雄角逐シ戰禍連年同胞ヲ殺戮シ人民生ヲ聊スルノ時ナシ是ニ於テ滿洲國人民ハ此ノ舊軍閥覆滅ノ機ニ乘シ同心協力シテ新國家ヲ建設シタル次第ナリ故ニ滿洲國政府ハ內ハ法律制度ノ完備ニ力ヲ竭シ以テ人民ノ安寧ヲ保證シ其ノ福利ヲ增進セシメ外ハ左ノ諸原則ヲ遵守シ以テ國交ノ親睦ヲ期シ世界平和ニ貢獻セントス

一　信義ヲ尊重シ事ノ大小ヲ論セス總テ和睦親善ノ主義ニ基キテ之ヲ處理シ以テ國際平和ノ維持增進ヲ圖ル

二　國際間ノ信義ヲ尊重シ國際法規及慣例ヲ遵守ス

三　中華民國ノ各國ニ對シテ有スル條約上ノ義務中國際法及國際慣例ニ照シ新國家ニ於テ當然繼承スヘキモノハ直ニ之ヲ繼承シ誠意ヲ以テ之ヲ履行ス

四　外國人ノ滿洲國領土內ニ於テ有スル旣得權利ヲ侵害スルコトナキハ勿論其ノ生命財產ニ對シテハ當然之ヲ保護ス

五　外國人ノ滿洲國ニ來住セントスル者ハ均シク之ヲ歡迎シ各民族ニ對シテ平等公正ナル待遇ヲ與フ

六　各國トノ通商貿易ハ努メテ之ヲ容易ナラシメ以テ世界經濟ノ發展ニ貢獻ス

七　門戶開放主義ヲ遵守シ外國人ノ滿洲國ニ於ケル經濟活動ニ對シテ便宜ヲ與フ

以上ノ諸原則ハ乃チ滿洲國建設ノ趣旨ナリ

玆ニ貴國政府ノ完全ナル諒察ヲ得且ツ我滿洲國トノ間ニ正式ニ外交關係ヲ成立セラレンコトヲ切望ス

大同元年三月十二日

滿洲國外交部總長　謝　介　石

●議定書

大同元年九月十五日
條約第一號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ大同元年九月十五日國務總理鄭孝胥ト日本帝國特命全權大使武藤信義ノ新京ニ於テ共同署名調印シタル議定書ヲ批准シ之ヲ公布セシム

議定書

日本國ハ滿洲國カ其ノ住民ノ意思ニ基キテ自由ニ成立シ獨立ノ一國家ヲ成スニ至リタル事實ヲ確認シタルニ因リ

滿洲國ハ中華民國ノ有スル國際約定ハ滿洲國ニ適用シ得ヘキ限リ之ヲ尊重スヘキコトヲ宣言セルニ因リ

日本國政府及滿洲國政府ハ日滿兩國間ノ善隣ノ關係ヲ永遠ニ鞏固ニシ互ニ

其ノ領土權ヲ尊重シ東洋ノ平和ヲ確保センカ爲左ノ如ク協定セリ

一　滿洲國ハ將來日滿兩國間ニ別段ノ約定ヲ締結セサル限リ滿洲國領域內ニ於テ日本國又ハ日本國臣民カ從來ノ日支間ノ條約協定其ノ他ノ取極及公私ノ契約ニ依リ有スル一切ノ權利利益ヲ確認尊重スヘシ

二　日本國及滿洲國ハ締約國ノ一方ノ領土及治安ニ對スル一切ノ脅威ハ同時ニ締約國ノ他方ノ安寧及存立ニ對スル脅威タルノ事實ヲ確認シ兩國共同シテ國家ノ防衞ニ當ルヘキコトヲ約ス之カ爲所要ノ日本國軍ハ滿洲國內ニ駐屯スルモノトス

本議定書ハ署名ノ日ヨリ效力ヲ生スヘシ

本議定書ハ日本文及漢文ヲ以テ各二通ヲ作成ス日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニスルトキハ日本文本文ニ據ルモノトス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本議定書ニ署名調印セリ

昭和七年九月十五日即チ大同元年九月十五日新京ニ於テ之ヲ作成ス

日本帝國特命全權大使　武藤信義　印

滿洲國國務總理鄭孝胥　印

●議定書調印ニ關スル聲明

滿洲國外交部總長　謝介石

本日我滿洲國國務總理ト日本國滿洲派遣特命全權大使トノ間ニ議定書ノ調印カ行ハレ之ニ依リ日本國ハ滿洲國ノ獨立ヲ正式ニ承認シ爾今兩國ハ相互ニ獨立國トシテ相提携シテ東亞ノ平和延イテ世界ノ平和ノ確立ニ貢獻シ得ルニ至リマシタコトハ世界ノ歷史ニ一新紀元ヲ劃スル重大ナル事實テアツテ同時ニ人類ノ幸福ニ寄與スルコト甚大ナルモノトシテ寔ニ慶祝ニ堪ヘヌ次第テアリマス

本年三月民意ニ依リ滿洲國カ溥儀執政ヲ迎ヘ獨立ヲ內外ニ宣言シテカラ玆ニ半歲此ノ間百官有司ノ努力ト一般民衆ノ覺醒トニ依リ國礎ハ益々鞏キヲ加ヘマシタ又日本軍ノ絕大ナル援助ニ依リ七月末馬占山ノ沒落セルヲ一段落トシテ境域內ノ兵匪モ大體討伐シ盡サレ又海關ノ接收ト共ニ財政ノ基礎モ確立シテ吾人ノ所期セル安住樂土ノ實現モ決シテ遠クナイノテアリマス

滿洲國ハ三千萬民衆ノ意思ニ基イテ建設セラレ內ハ民衆ノ福祉ヲ目標トシテ精進シ外ハ國際ノ親善ヲ準則トシテ行動シツツアルモノテアツテ其ノ國家トシテノ立場ハ世界列國ノ何レニ伍スルモ何等遜色ナキハ勿論其獨立ハ列國ノ承認ノ有無ニ關セス旣ニ儼然タル事實テアリ此ノ事實ヲ無視シテハ國際關係ノ圓滿ナル處理ハ到底不可能テアリ又之ヲ無視スル如キハ決シテ世界ノ平和ト人類ノ幸福トニ忠實ナルモノト稱シ得ナイノテアリマス

然ルニ今回列國中我國ノ存立ニ最モ重大ナル關係アリ且我國トノ接觸交涉ノ最モ多イ日本國カ基本的議定書ノ調印ニ依リ率先シテ三千萬民衆ノ熱望セル滿洲國正式承認ヲ斷行サレタコトハ內ハ我カ國礎ヲ固メ外ハ我カ國際的地位ヲ强ムル上ニ於テ正ニ絕大ナル貢獻ヲ爲シタルモノテ寔ニ欣幸ニ堪エナイ所テアリマス殊ニ右議定書中ニハ滿日兩國ノ間ニ相互依存ノ盟ヲ成シ滿洲國ノ存立ヲ永遠ニ確保スル趣旨カ含マレテ居リマシテ從來三千萬民衆ノ中ニ我國ノ前途ニ付何等カノ杞憂ヲ抱ケルモノアリシトスルモ右杞憂ハ今回ノ擧ニ依リ完全ニ一掃サレタ次第テアリマス

吾人ハ此ノ機ニ從來滿洲國ノ奪還ヲ夢ミツツ土匪軍ヲ操縱シテ我國ノ治安ノ攪亂ニ努メ來ツタ張家一派ノ舊軍閥竝右舊軍閥ノ濁流ヲ淨化セラレタル滿洲國ノ地域ニ再ヒ流入セシメンカ爲ニ歐米諸國ヲ東亞ノ國際紛爭ニ捲込マントシツツアル國民黨ノ政治家ニ對シ一日モ速カニ此ノ新事態ニ覺醒シ虛心坦懷滿日兩國ト共ニ東亞民族融和ノ方針ニ向ハンコトヲ希望スルモノテアリマス

更ニ常ニ正義人道ヲ標榜シ民族自決ヲ高唱スル歐米諸國及國際聯盟ニ對シテハ舊軍閥ノ暴政ヨリ脫離獨立シタル滿洲國ヲ其ノ民衆ノ意思ニ反シ再ヒ舊軍閥ノ手ニ戻シ水深大熱ノ中ニ投セントスル如キハ大ナル矛盾テアリ同國ノ健全ナル發達ヲ援助奬勵スルコトコソ其ノ義務テアルコトヲ指摘シ又我國ノ獨立及之ニ對スル日本ノ支持テフ現實ヲ無視スルコトハ徒ラニ東亞ノ平和ヲ紛亂ニ導クノミナルコトヲ認識シ以テ今後速カニ我國承認ノ擧ニ出テンコトヲ期待スルモノテアリマス

列國中ニハ或ハ日滿兩國ノ特殊緊密ノ關係ヲ云爲スルモノアルヤモ計リ難イモノテアルカ斯ル關係ハ兩國ノ地理的又歷史的關係ニ顧ミ固ヨリ當然ノコトテアリ又世界各國ノ間ニモ幾多ノ事例ノ存スルモノテ敢テ論スルニ足ラナイノテアリマス惟フニ列國ノ大多數カ特ニ關心ヲ有スルノハ滿洲國ノ經濟上ノ門戶開放ト國際義務ノ履行ノ二點ニ存スルモノテアリマセウカ右ニ關シテハ旣ニ建國宣言及對外通告中ニ明瞭ニ宣明セラレテ居ル通リヲ今後滿洲國ノ國際的地位ノ確立ト共ニ益々如實ニ證明セラルルノテアリマス

カ若シ尙疑アラハ列國ハ宜シク日本國ト同樣我國ヲ承認シ右二點ヲ確保スル條約ヲ締結スレハ足ル次第テアリマス

支那及歐米ニテハ滿洲國ノ實質ヲ何等知ルコトナク爲ニセントスルモノノ宣傳ニ乘セラレテ種々ノ惡靡ヲ放ツテ居ルモノモアル樣テアルカ左樣ノコトハ今後事實ニ依ツテ着々反駁サレテ行クコトテアツテ別ニ宣傳ヤ辯明ヲ爲ス必要ハ無イ

吾人ハ只側目モフラス勇悍ニ着實ニ建國宣言ト對外通告ノ趣旨ニ從ツテ理想ノ彼岸ニ向テ力强キ步ミヲ續クノミテアリマス

玆ニ我國ノ獨立ヲ正式ニ承認セラレマシタ善隣日本帝國及國民ニ對シ深厚ナル謝意ヲ表スルト同時ニ吾等三千萬民衆ノ滿洲國ノ理想實現ニ對スル確固不拔ノ信念ヲ披歷シタイト思ヒマス

大同元年九月十五日

●大滿洲國領事館成立宣言

我カ滿洲地方三千萬民衆ハ舊軍閥ノ殘害ヲ受クルコト二十年ノ久シキニ亙ントス苛斂誅求至ラサルナク人民ハ流離其ノ寄ル所ヲ失ヒ困苦萬狀其ノ極痛ノ深キ筆舌ノ能ク盡ス所ニアラサルナリ加之國際間ノ信義ヲ無視シ條約ヲ蹂躙シ遂ニ往年ノ露支衝突及昨年九月十八日ノ事變ヲ誘發スルニ至レリ而シテ其ノ禍源ヲ究ムレハ均シク舊軍閥ノ妄大自尊ニシテ毫モ善隣相親ムヲ知ラサルヲ以テ斯ル結果ヲ來タセルナリ現在幸ニ隣邦ノ協助ヲ得テ舊軍閥ノ壓迫ヲ脫シ滿洲新國ヲ建立シタリ新國家ハ王道ヲ以テ政綱トナシ雜覇詐欺ノ術ヲ取ラス大同ヲ以テ主義トナシ亦種族ノ偏見無シ政治ヲ刷新シ實業ヲ振興シ利源ヲ開拓シ財政ヲ整理シ務メテ富國安民ノ道ヲ講シ斯土ニ居ル者ヲシテ皆能ク居ニ安ンシ業ヲ樂マシム本年三月ヨリ執政職ニ就キ政府成立シテ以來已ニ半載有餘此ノ半年中諸凡草創百廢將ニ興ラントス構造困難ニシテ建設繁重ナリ現ニ概ネ其ノ緒ニ就キ政務亦軌道ニ入ル斯ノ如クシ

テ遂行セハ政與リ事擧リ日ニ鞏固ヲ臻サン斯クテ我三千萬民衆必スヤ能ク從前ノ舊軍閥一切ノ弊政ヨリ脫却シテ安樂ノ幸福ヲ享受スルハ斷言シテ憚ラサル所ナリ國外ノ居留民ヲ顧念シ亦保護ノ道ヲ講スヘシ故ニ蘇聯政府ト再三交涉シ領事ヲ派遣シ我カ在外居留商民ノ保障ト爲スヲ商議ス今ヤ已ニ交涉委協シブラゴエチンスクニ領事館ヲ設立ス其ノ他浦鹽斯德ハバロウスクチタ等各處ノ領事館モ亦次第ニ成立ス玆ニ我カ在外居留民ノ爲ニ重要ナル二項ヲ宣示ス卽チ官吏ノ惡習ヲ革除スルコト其ノ一ナリ領事ノ職責ヲ盡スコト其ノ二ナリ故ニ凡テ在外居留民ノ事業ハ必ス充分ノ保護ヲ與フ在外居留民ノ請求ハ必ス臨時適當ノ處理ヲトルヘシ並ニ國交ノ敦睦友情ノ融洽ヲ講シ務メテ海外ノ同胞ヲシテ國內ノ人民ト同シク安樂ノ幸福ヲ享ケシムヘシ是乃チ我カ新國家德ヲ以テ民ヲ愛シ遠境ニアル人民ヲ忘レサルノ至意ニ外ナラス今領事館設立ノ初ニ當リ宣言ヲ發表ス凡ソ我カ在外同胞幸ニ鑒察セヨ

大淸洲國外交部總長　謝　介　石

大同元年九月十七日

●外國旅券及外國人入國旅券查證規則

大同二年四月十二日
外交部令第一號

玆ニ外國旅券及外國人入國旅券查證規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

外國旅券及外國人入國旅券查證規則

第一條　外國ニ旅行セムトスル者ニ下付スル旅券ハ外交部總長之ヲ發給シ外國ニ在リテハ我カ在外公館ノ設置アル場合ハ該官署之ヲ發給ス

第二條　旅券下付ヲ申請セムトスル者ハ旅券下付願（別紙第一號書式）ニ左記書類及寫眞ヲ添ヘ當該官署ニ申請スヘシ

一　身許申告書（別紙第二號書式）
二　他ヨリ派遣セラルル場合ニハ派遣者ノ保證書（別紙第三號書式）
三　外國在留者ヨリノ呼寄ニ關スル書信ヲ有スル者ハ該書信
四　其ノ他參考トナル可キ書類アルトキハ該書類
五　寫眞二葉（最近撮影ニ係ル手札形半身脫帽無臺紙）

當該官署ハ其ノ認定ニ依リ前項第一號及第二號ノ書類ノ提出ヲ省略セシメ又ハ申請者外國官署ノ下付シタル入國ニ關スル許可書通知書若ハ證明書ヲ有スルトキハ該書類ヲ呈示セシムルコトヲ得

第三條　公用ノ爲外國ニ旅行セムトスル者及其ノ同伴セムトスル家族從者ニ關シテハ本人所屬長官ヨリ各寫眞二葉且ツ從者ニ付テハ本人ノ身許保證書（別紙第四號書式）ヲ添付シテ外交部總長ニ公用旅券ノ下付ヲ請求スヘシ（別紙第五號書式）

公用ノ爲外國ニ在ル者其ノ家族又ハ從者ヲ呼寄セムトスル場合ハ前項ニ準ス（別紙第六號書式）

第四條　旅券ノ下付ヲ受ケタル後該旅券面記載ノ事項ニ變更ヲ生シタルトキ其ノ他旅券ノ書換ヲ必要トスル場合ハ事由ヲ具シ旅券發給ノ權限アル官署ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ

第五條　旅券ノ下付ヲ受ケタル者旅券ノ日附ヨリ六個月以內ニ出發セサルトキハ該旅券ハ其ノ效力ヲ失フ

第六條　特定ノ地ニ數次往復スル者ニ對シテハ願出ニ依リ往復旅券ヲ下付スルコトヲ得

前項ノ旅券ハ其ノ日附ヨリ三年ヲ經過シタル後初メテ歸國シタルトキ其ノ效力ヲ失フ

第七條　無效又ハ失效ノ旅券ハ遲滯ナク旅券發給ノ權限アル官署ニ返納スヘシ有效ナル旅券ト雖旅券發給ノ權限アル官署ヨリノ命令アルトキ亦同シ

第八條　旅券ヲ紛失シ又ハ滅失シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ旅券發給ノ權限アル官署ニ屆出ツヘシ紛失シタル旅券ヲ發見シタル場合亦同シ

第九條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ其ノ旅券ヲ沒收シ百圓以下ノ罰金又ハ三個月以下ノ徒刑若ハ拘役ニ處ス

一　虛僞ノ記載又ハ申立ヲ爲シ其ノ他欺罔ノ手段ニ依リ旅券ノ下付ヲ受ケタル者又ハ之ヲ幇助シタル者
二　他人ノ旅券ヲ使用シ又ハ他人ヲシテ自己ノ旅券ヲ使用セシメタル者
三　前號ノ目的ヲ以テ旅券ヲ授受シタル者及之ヲ幇助シタル者
四　旅券ヲ返納スヘキ場合之ヲ返納セスシテ使用シ又ハ事實ヲ僞リテ旅券ヲ紛失シ若ハ滅失シタル旨ヲ屆出タル者
五　行使ノ目的ヲ以テ旅券ヲ僞造若ハ變造シ又ハ情ヲ知リテ僞造若ハ變造シタル旅券ヲ使用シ若ハ使用セシメタル者

第十條　旅券發給及書換ニ關シテハ左ノ手數料ヲ徵收ス

普通旅券發給　一葉毎ニ　五圓
數次往復旅券發給　同　十圓
旅券書換　同　三圓

前項ノ諸手數料ハ印花ヲ以テ納付スヘシ在外公館ニ於テハ別ニ定ムル換算率ニ從ヒ當該駐在國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ納付スル事ヲ得

第十一條　旅券下付願ハ國內ニ在リテハ縣長首都警察總監又ハ哈爾濱警察廳長ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

第十二條　配偶者又ハ子ヲ同伴セムトスルトキハ本人ノ旅券下付願ニ其ノ同伴セムトスル者ノ氏名ヲ併記シ別紙ニ其ノ年齡身分身體ノ特徵其ノ他必要ナル事項ヲ各人別ニ記載スルコトヲ得

前項ノ場合發給官署ハ本人及同伴セムトスル者ノ氏名ヲ併記シタル一葉ノ旅券ヲ發給スヘシ

第十三條　從前ノ條約若ハ慣例ニ依リ入國ニ付旅券查證ヲ要スヘキ者本邦ヘ入國セムトスルトキハ豫メ我カ在外公館ニテ旅券ノ查證ヲ受クヘシ我カ在外公館ノ設置ナキ國ヨリ來リタル者ハ入國ノ際外交部ヨリ派出セル官吏ニ就キ旅券ノ查證ヲ受クヘシ

旅券查證ノ手數料ハ別ニ之ヲ定ム

第十四條　本令中外國旅券ニ關スル規定ハ在留無國籍人ニ之ヲ準用ス

第十五條　本令ハ大同二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

（各書式略）

●外國旅券發給及外國人入國旅券查證施行細則

大同二年四月十二日
外交部令第二號

玆ニ外國旅券發給及外國人入國旅券查證施行細則ヲ制定シ之ヲ公布ス

第一條　旅券下付願ハ縣長長春縣ニ於テハ首都警察總監哈爾濱警察廳管轄區ニ於テハ哈爾濱警察廳長ヲ經由シテ之ヲ差出スヘシ

第二條　東省特別區黑龍江省興安省及吉林省內ノ居住者ハ外交部北滿特派員ニ旅券ノ下付ヲ申請スルコトヲ得

第三條　本邦ニ入國セムトスル者ハ豫メ本邦駐在自國公館ヲ經由シ本邦駐在自國公館ナキトキハ本邦內居住ノ身許確實ナル者ノ保證書ヲ差出シ外交部總長又ハ外交部北滿特派員ニ旅券查證豫諾書ノ下付ヲ申請スルコトヲ得旅券查證豫諾書ヲ有スル者旅券查證ヲ受クル際之ヲ旅券ト共ニ提出スルトキハ當該官吏ハ迅速ニ且特別ノ事情ナキ限リ必ス旅券查證ヲ爲スヘキモノトス

第四條　入國ニ際シ左記各號ノ一ニ該當スルコトヲ證明スルニ足ル切符船室車室保留承諾書其ノ他ノ確證ヲ有シ且旅行目的國當該官署ノ查證ヲ受ケタル旅券又ハ之ニ代ル可キ書類ヲ有スル者ハ之ヲ提示シテ旅券查證官吏ニ通過查證ノ申請ヲ爲スコトヲ得

一　船舶ノ寄港ニ依リ本邦ニ立寄リ同一船舶ノ引續キ爲ス航海ニテ外國ニ向ケ立去ル場合

一　本邦ニ於テ下船スルモ二十日以內ニ他ノ船ニ乘換ヘ又ハ鐵道若ハ航空機ニ依リ本邦ヲ立去ル場合

一　鐵道若ハ航空機ニ依リ本邦ニ入國シ二十日以內ニ外國ヘ向ケ立去ル場合

前項ノ場合ニ於テ所定ノ期間ヲ過キテ本邦ヲ立去ルトキハ出國ノ際入國查證料ヲ追徵ス

第五條　通過查證ハ旅券面又ハ之ニ代ル可キ書類面ニ查證年月日入國地名及入國年月日ヲ記シ其ノ左側ニ查證者ノ官職氏名ヲ署シ官印ヲ押捺スルモノトス

第六條　旅券查證料並ニ旅券查證豫諾書發給手數料ハ左ノ通之ヲ定ム

一　入國旅券查證料　每件　拾圓

一　通過旅券查證料　每件　貳圓

一　旅券查證豫諾書發給手數料

本邦ト通商航海條約ヲ締結セル國ノ國民　無料

其ノ他　貳圓

前項查證料及手數料ハ外交部總長ニ於テ必要ト認メタル場合ニ於テハ之ヲ免除スルコトヲ得

第七條　本令ノ諸手數料ハ印花ヲ以テ納付スヘシ在外公館ニ於テハ別ニ定ムル換算率ニ從ヒ當該駐在國ノ貨幣ヲ以テ之ヲ納付スルコトヲ得

第八條　本令ハ大同二年六月一日ヨリ之ヲ施行ス

●國外在留人假登錄暫行規則

大同二年四月十九日
外交部令第三號

玆ニ國外在留人假登錄暫行規則ヲ制定シ之ヲ公布ス

國外在留人假登錄暫行規則

第一條　在外公館長ハ其ノ管轄區域內在留人ニシテ本邦ノ國籍取得ヲ要求スル者ニ對シ適當ト認ムル時ハ國籍ノ假登錄ヲ爲スコトヲ得但シ他國ノ國籍ヲ有セルモノハ此限ニ在ラス

第二條　國籍假登錄ヲ爲サムトスル者ハ國籍假登錄申請書（別紙第一號書式）ニ左記書類及寫眞ヲ添ヘ當該官署ニ申請スヘシ

一　身許申告書（別紙第二號樣式）

二　國內在住ノ確實ナル者ノ保證書アル時ハ該保證書

三　其ノ他參考トナルヘキ書類アルトキハ該書類

四　寫眞二葉（最近撮影ニ係ル手札形半身脫帽無臺紙）

當該官署ハ認定ニ依リ前項第一號及第二號ノ書類ノ提出ヲ省略セシムルコトヲ得

第三條　當該官署ハ國籍假登錄ヲ受ケタル者ニ對シ滿洲國人民ニ對スルト同一ナル保護ヲ與ヘ且國籍假登錄證明書ヲ下付スルコトヲ得

第四條　當該官署ハ國籍假登錄ヲ受ケタル者左記各號ノ一ニ該當スト認メタルトキハ其ノ假登錄ヲ取消シ又ハ國籍假登錄證明書ノ無效ヲ布告スルコトヲ得

一　我國ノ利益ヲ害シ公安ヲ亂シ又ハ風俗ヲ紊ス虞アル者

二　我國ノ法規及慣行ヲ無視スル所爲アル者

三　欺罔ノ所爲ニ依リ假登錄ヲ受ケタル者

第五條　當該官署ハ國籍假登錄申請ニ基キ國籍假登錄原簿ヲ作成スヘシ當該官署ハ國籍假登錄原簿ニ關スル事項ヲ每年四回外交部總長ニ報告スヘシ

第六條　國籍假登錄手數料及國籍假登錄證明書下付手數料左ノ通定ム

國籍假登錄	一件　一圓
登錄書換	一件　一圓
國籍假登錄證明書	一件　一圓

第七條　本規則ハ公布ノ日ヨリ施行ス（大同二年四月二十四日）

（書樣式略）

附錄

滿洲電信電話株式會社

滿洲國政府組織表

●關於設立滿洲滿日合辦通信公司之協定

大同二年五月十六日
條約第一號

玆ニ參議府ノ諮詢ヲ經テ大同二年三月二十六日新京ニ於テ滿洲國全權委員ガ日本國全權委員ト共ニ署名調印シタル關於設立滿洲滿日合辦通信公司之協定ヲ批准シ關係往復文書ト共ニ之ヲ公布セシム

滿洲ニ於ケル日滿合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定

日本國政府及滿洲國政府ハ關東州南滿洲鐵道附屬地及滿洲國ノ行政權ノ下ニ在ル地域ニ於ケル兩國政府所有ノ電氣通信施設ヲ合併シテ之ガ經營ヲ爲スコトヲ希望シ之ガ爲日滿合辦ノ株式會社ヲ設立スルノ必要ナルヲ認メ玆ニ左ノ條款ヲ訂立セリ

第一條

日滿兩國政府ハ協力シテ日滿合辦ノ株式會社ヲ設立セシメ關東州南滿洲鐵道附屬地及滿洲國ノ行政權ノ下ニ在ル地域ニ於テ有線無線ノ電氣通信事業ヲ經營セシムルモノトス

前項ノ電氣通信事業ハ鐵道及航空事業ニ附帶スルモノ竝ニ官署及警備專用ノモノヲ含マザルモノトス

第二條

本會社ノ資本金ハ日本國通貨五千萬圓トス但シ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケ之ヲ增減スルコトヲ得

第三條

本會社ノ株式ハ記名式トシ日滿兩國ノ政府公共團體若ハ國民又ハ兩國ノ法令ノ何レカニ依リ設立シタル法人ニシテ其ノ議決權ノ過半數ガ兩國ノ國民若ハ法人ニ屬スルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

第四條

日滿兩國政府ハ關東州南滿洲鐵道附屬地及滿洲國ノ行政權ノ下ニ在ル地域ニ於テ現ニ兩國政府ノ所有スル電氣通信施設ヲ以テ夫々其ノ出資ニ充ツルモノトス

前項ノ電氣通信施設ハ鐵道及航空事業ニ附帶スルモノ並ニ官署及警備專用ノモノヲ含マザルモノトス

滿洲國ノ國民又ハ法人ハ其ノ所有スル電氣通信施設ヲ以テ其ノ出資ニ充ツルコトヲ得

本條ノ現物出資ニ對シテハ全額拂込ノ株式ヲ割當ツルモノトス

本條ノ現物出資ノ價格ハ其ノ施設ノ現有價格ヲ基準トシテ公正ナル方法ニ依リ之ヲ算出スルモノトス

第五條

本會社ノ取締役及監査役ハ日滿兩國ノ何レカ一方ノ國民タルモノトス

本會社ノ取締役及監査役定員中兩國國民ノ割合ハ其ノ所屬國ノ政府國民及法人ノ有スル株數ニ比例スルモノトス但シ一方ノ國民ノ取締役及監査役數ハ他方ノ國民ノ取締役及監査役數ノ三分ノ一ヲ下ラザルモノトス

第六條

本會社ノ利益配當ハ公正ナル一定率ヲ超エザルモノトス

附　錄　滿洲電信電話株式會社

政府持株以外ノ株式ニ對スル利益配當ハ或程度ノ率ニ達スル迄政府持株ニ優先シテ之ヲ爲スコトヲ得

第七條

第四條ノ規定ニ依リ滿洲國ノ政府國民又ハ法人ニ割當テタル株式ニ對シテハ其ノ出資當時第一回拂込ノ際滿洲國ノ國民又ハ法人ノ所有スル株式ニ對シテハ株金毎回拂込當時ニ於ケル換算率ヲ規準トシ滿洲國通貨ヲ以テ利益配當金ノ支拂ヲ爲スコトヲ得

第八條

本會社ノ財產所得及營業本會社ノ爲ス登記及登錄並ニ本會社ノ事業ニ要スル物件ハ關東州南滿洲鐵道附屬地及滿洲國ノ行政權ノ下ニ在ル地域ニ於テ租稅其ノ他一切ノ公課ヲ免除セラルルモノトス

第九條

本會社ハ土地ノ收用電線路ノ建設交通機關ノ利用料金ノ徵收其ノ他事業經營上必要ナル事項ニ關シ從來官營事業ニ與ヘラレタル所ト同樣ノ特權ヲ享有スルモノトス

第十條

本會社ノ電氣通信施設又ハ其ノ附屬設備ニ屬スル物件ハ之ヲ擔保權ノ目的ト爲シ又ハ差押假差押若ハ假處分ノ目的ト爲スコトヲ得ス

第十一條

日滿兩國政府ハ本會社ノ業務ヲ監督ス

日滿兩國政府ハ本會社ノ業務ニ關シ監督上必要ナル命令ヲ爲スコトヲ得

日滿兩國政府ハ本會社ノ決議又ハ役員ノ行爲ニシテ本協定兩國ノ法令若ハ本會社ノ定款ニ違反シ公益ヲ害シ又ハ監督官廳ノ命令ニ違反シタルトキハ其ノ決議ヲ取消シ又ハ役員ヲ解任スルコトヲ得

第十二條

本會社ノ定款ノ變更取締役及監査役ノ選任及解任社債ノ募集料金ノ決定及變更利益金ノ處分合併及解散ノ決議毎營業年度ノ事業計畫電氣通信ニ關スル業務協定ノ締結又ハ電氣通信施設若ハ其ノ附屬設備ニ屬スル物件ノ讓渡ニ付テハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受クルモノトス

第十三條

日滿兩國軍事官憲ハ本會社ノ事業ニ關シ軍事上必要ナル命令ヲ爲シ及本會社ノ施設ニ對シ軍事上必要ナル措置ヲ爲スコトヲ得之ガ爲本會社ニ損害ヲ被ラシメタルトキハ其ノ補償ヲ爲スモノトス

第十四條

日滿兩國政府ハ本會社ノ施設ヲ鐵道航空營備其ノ他ノ目的ノ爲必要ナル通信ノ用ニ供スベキコトヲ命ズルコトヲ得

第十五條

本會社ハ其事業經營上必要アルトキハ鐵道及航空事業ニ附帶スル電氣通信施設又ハ營備專用ノ電氣通信施設ノ利用ニ付當該國監督官廳ニ稟申スルコトヲ得

第十六條

日滿兩國政府ハ本會社解散ノ處アリト認ムルトキハ相當ノ價格ヲ以テ本會社ノ所有スル電氣通信施設及其ノ附屬設備ヲ買收スルコトヲ得

第十七條

本會社ニ付テハ本協定ニ定ムルモノノ外日滿兩國政府間ニ別ニ定ムル所ニ據ルモノトス

第十八條

本會社ハ國際電氣通信ニ付テハ條約其ノ他ノ國際取極ニ定ムル所ニ據ルモノトス

第十九條

日滿兩國政府ハ夫々十五名ノ設立委員ヲ命シ兩國政府監督ノ下ニ會社設立ニ關スル一切ノ事務ヲ處理セシムルモノトス

第二十條

設立委員ハ定款ヲ作リ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケタル後株主ヲ募集スルモノトス

第二十一條

設立委員ハ株主ノ募集ヲ終リタルトキハ株式申込證ヲ日滿兩國政府ニ提出シ會社設立ノ許可ヲ申請スルモノトス

前項ノ許可ヲ受ケタルトキハ設立委員ハ遲滯ナク各株式ニ付第一回ノ拂込ヲ爲サシメ其ノ拂込アリタルトキハ遲滯ナク創立總會ヲ招集スルモノトス

第二十二條

創立總會終結シタルトキハ設立委員ハ其ノ事務ヲ會社ニ引渡スモノトス

第二十三條

本協定ハ日滿兩國ニ於テ正式ノ手續ニ依リ批准セラルベク批准書ハ成ルベク速ニ新京ニ於テ之ヲ交換スベシ

本協定ハ批准書交換ノ日ヨリ効力ヲ生スヘシ

本協定ハ日本文及漢文ヲ以テ右二通ヲ作成ス日本文本文ト漢文本文トノ間ニ解釋ヲ異ニシタルトキハ日本文本文ニ依リ之ヲ決ス

右證據トシテ下名ハ各本國政府ヨリ正當ノ委任ヲ受ケ本協定ニ記名調印スルモノナリ

昭和八年三月二十六日即チ大同二年三月二十六日新京ニ於テ之ヲ作ル

日本帝國特命全權大使　武藤信義　印

滿洲國外交部總長　謝介石　印

（來翰）

以書翰啓上致候陳者本日調印ノ滿洲ニ於ケル日滿合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定第四條ニ關シ本使ト閣下トノ間ニ日本國政府ノ出資ハ間島地方ニ於ケル電氣通信施設關東州芝罘間海底電信線及佐世保關東州間海底電信線ヲ含マサルコト並ニ日本國政府ノ現物出資ノ價額ハ日本國通貨一千五百萬圓乃至一千八百萬圓滿洲國政府ノ現物出資ノ價額ハ日本國通貨四百萬圓乃至六百萬圓トスルコトニ諒解成立致候

本使ハ閣下ニ於テ右諒解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

右申進旁本使ハ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候敬具

昭和八年三月二十六日

日本帝國特命全權大使　武藤信義　印

滿洲國外交部總長　謝介石殿

（往翰）

滿洲國外交部總長謝照復ヲ爲ス事

貴大使本日附照會ニ接スルニ曰ク本日議訂セル滿洲ニ於ケル滿日合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定第四條ニ貴總長ト本大使トノ間ニ日本國政府ノ出

資ハ間島方面ノ電氣通信施設關東州芝罘間ノ海底電線及佐世保關東州間ノ海底電線ヲ含マス並ニ日本國政府現物出資ノ價額ヲ日本國通貨一千五百萬圓以上一千八百萬圓以下トシ滿洲國政府現物出資ノ價額ヲ日本國通貨四百萬圓以上六百萬圓以下トナスノ諒解已ニ成立セリ本大使ハ前述ノ諒解ニ對シ貴總長ノ確認ヲ予ヘラレンコトヲ請フト依テ本總長ハ玆ニ此項諒解ヲ確認シタルニ付貴大使ニ照復スル査照ヲ翼フ

右照會ス

日本帝國特命全權大使武藤閣下

・大同二年三月二十六日

謝　介　石印

（來翰）

以書翰啓上致候陳者本日調印ノ滿洲ニ於ケル日滿合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定ニ關シ本使ト閣下トノ間ニ本協定ニ依リ設立セラルベキ會社ニ對スル日滿兩國政府ノ監督命令認可及許可ハ兩國所定ノ監督官廳協議ノ上之ヲ爲スベキコトニ諒解成立致候

本使ハ閣下ニ於テ右諒解ヲ確認セラレンコトヲ希望致候

右申進旁本使ハ閣下ニ向テ重テ敬意ヲ表シ候敬具

・昭和八年三月二十六日

日本帝國特命全權大使　武　藤　信　義印

（往翰）

滿洲國外交部總長謝照復ヲ爲ス事

貴大使本日附照會ニ接スルニ曰ク本日議訂セル滿洲ニ於ケル滿日合辦通信會社設立ニ關スル協定第十七條ニ貴總長ト本大使トノ間ニ會社ニ關スル滿洲國法令ノ規定ハ會社ニ關スル日本國商法及其ノ附屬法令ノ規定ト比較スルニ大體ニ於テ相同ジキニ鑑ミ本會社該協定中未ダ規定ヲ設ケザル事項ニ關シテハ便宜上ノ見地ニヨリ日本國商法及其ノ附屬法令ニ據テ處理スルノ諒解已ニ成立セリ本大使ハ前述ノ諒解ニ對シ貴總長カ諒解ヲ予ヘラレンコトヲ請フト依テ本總長ハ玆ニ此項諒解ヲ確認セルニ付貴大使ニ照復ス査照相成度右照會ス

日本帝國特命全權大使武藤閣下

大同二年三月二十六日

謝　介　石印

委任令

外交部總長謝介石ヲ特派シテ滿洲國全權委員トナシ日本國特派ノ全權委員ト滿洲ニ於ケル滿日合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定ヲ協議セシム事創始ニ關スルヲ以テ該委員ハ慣重協議ノ上協定條款ヲ締結シテ之ヲ提出シ審査批准ヲ俟テ施行スヘシ此ニ令ス

執政　溥儀印

大同二年三月二十四日

國務總理　鄭　孝胥

外交部呈

滿洲ニ於ケル滿日合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定ハ大同二年三月二十六日我國全權委員ト日本國全權委員ニテ署名調印シタリ玆ニ該協定二通並ニ批准文案ヲ送達ス審査ノ上執政ニ轉呈シ批准施行アランコトヲ請フ謹テ鄭國務總理ニ呈ス

附　協定二通並批准文案一件（略ス）

外交部總長　謝　介　石

大同二年三月二十七日

外交部呈

滿日合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定批准書ハ本部ニテ正本副本各一通ヲ作成シタリ何卒執政ニ轉呈シ署名蓋璽ヲ請ヒ並ニ貴總理副署調印ノ上還付相成度其ノ上介石副署調印シ以テ換文ニ便ス玆ニ文書ヲ具シ該批准書正副本各一通ヲ添ヘテ進達ス伏シテ審査ノ上速ニ施行セラレンコトヲ乞フ謹テ國務總理ニ呈ス

附　批准書正副本各一通（略ス）

外交部總長　謝　介　石

大同二年五月十日

國務院指令第十二號

外交部總長謝介石ニ令ス

滿日合辦通信會社協定ノ批准書ヲ進達シ執政ニ轉呈シ夫々署名調印ヲ請フ件ニ

來文ハ閱覽セリ進達セル滿日合辦通信會社協定ノ批准書ハ已ニ執政ニ轉呈シテ署名ノ上國璽ヲ蓋用セラレ並ニ本總理モ副署調印ヲ了シタリ玆ニ正副本トモ本令ト共ニ還付スルニ付貴總長ハ直ニ査照シ副署調印ノ上換文シテ

附　錄　滿洲電信電話株式會社

可ナリ此ニ合ス

附・還付ノ批准書正副本各一通（略ス）

大同二年五月十一日　　國務總理　鄭　孝胥

委任令

外交部總長謝介石ニ合ス

今回滿洲國全權委員ト日本國全權委員ト訂立セル滿洲ニ於ケル滿日合辦通信會社ニ關スル協定ハ本月十日本執政之ヲ批准シ國璽ヲ鈐用シタリ玆ニ該總長ヲ特命シテ批准書交換全權委員トナシ日本國批准書交換全權委員ト新京ニ於テ前項批准書ヲ交換シ以テ信守ヲ昭ニスヘシ此ニ合ス

執政　溥儀御

大同二年五月十三日　　國務總理　鄭　孝胥

外交部佈告第一號

大同二年三月二十六日新京ニ於テ署名調印セラレタル滿洲國日本國間ノ滿洲ニ於ケル滿日合辦通信會社ノ設立ニ關スル協定ノ批准書ハ大同二年五月十五日新京ニ於テ交換セラレタリ

大同二年五月十五日　　外交部總長　謝　介石

●滿洲電信電話株式會社定款

第一章　總則

第一條　本會社ハ昭和八年三月二十六日即チ大同二年三月二十六日日本國政府及滿洲國政府間ニ於テ締結シタル滿洲ニ於ケル日滿合辦通信會社設立ニ關スル協定ニ依リ設立シ滿洲電信電話株式會社ト稱ス

第二條　本會社ハ關東州、南滿洲鐵道附屬地及滿洲國ノ行政權ノ下ニ在ル地域ニ於テ電信、電話、無線電信、無線電話放送無線電話其ノ他ノ電氣通信事業ヲ經營スルヲ以テ目的トス但シ鐵道及航空事業ニ附帶スルモノ竝ニ官署及警備專用ノモノヲ含マサルモノトス

本會社ハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケ前項ノ事業ノ外之ニ附帶スル事業ヲ營ムコトヲ得

第三條　本會社ノ資本金ハ日本國通貨五千萬圓トス

第四條　本會社ハ本店ヲ新京ニ置ク

第五條　本會社ノ公告ハ日本國官報及滿洲國政府公報ニ掲載シテ之ヲ爲ス

第六條　本會社ノ每營業年度ノ事業計畫、電氣通信ニ關スル料金ノ決定及變更、業務協定ノ締結又ハ電氣通信施設若ハ其ノ附屬設備ニ屬スル物件ノ讓渡ニ付テハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受クルモノトス

第二章　株式

第七條　本會社ノ株式ハ記名式トシ日滿兩國ノ政府、公共團體若ハ國民又ハ兩國ノ法令ノ何レカニ依リ設立シタル法人ニシテ其ノ議決權ノ過半數カ兩國ノ國民若ハ法人ニ屬スルモノニ限リ之ヲ所有スルコトヲ得

本會社ノ株主ニシテ前項ノ資格ヲ喪失シタルトキハ遲滯ナク其ノ旨ヲ會社ニ通知シ且三月以內ニ其ノ所有スル株式ヲ他ニ讓渡スルコトヲ要ス若シ其ノ株式ヲ讓渡セサルトキハ本會社ニ株券ヲ提出セシメ會社ハ之ヲ賣却ス賣却ニ依リテ得タル金額ハ賣却費用ヲ控除シ其ノ殘額ヲ交付ス此ノ

場合ニ於テハ名義書換停止期間中ト雖モ名義ノ書換ヲ爲スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ株主其ノ株式ヲ讓渡セス又ハ株券ヲ會社ニ提出セサルトキハ會社ハ該株券ヲ無效トシテ之ヲ公告シ別ニ新株券ヲ發行シ之ニ依リ前項ニ定メタル手續ヲ履行ス

第八條　本會社ハ滿洲國ノ政府、公共團體、國民又ハ法人ニ割當テタル株式ニ對シ其ノ出資又ハ第一回拂込ノ際ノ申出ニ依リ滿洲國通貨ニ換算シテ利益配當金ノ支拂ヲ爲ス株券（乙種ト稱ス）ヲ發行スルモノトス此ノ場合ニ於ケル換算率ハ出資ノ日又ハ每回拂込期日ニ於ケル時價ヲ基準トシ本會社之ヲ定メ以後變更セサルモノトス

第九條　本會社ハ日本國政府ノ出資スル電氣通信施設竝ニ之ニ附帶スル物件ヲ金一千六百五十萬圓ニ評定シ之ニ對シ全額拂込ノ株式三十三萬株ヲ又滿洲國政府ノ出資スル電氣通信施設竝ニ之ニ附帶スル物件ヲ金六百萬圓ニ評定シ之ニ對シ全額拂込ノ株式十二萬株ヲ與フルモノトス

前項ニ依リテ日本國政府及滿洲國政府ノ所有スル株式ハ之ヲ他ニ讓渡スルコトヲ得ス

第十條　本會社ノ株式ハ百萬株トシ一株ノ金額ヲ金五十圓トス

第十一條　本會社ノ株券ハ一株券、五株券、十株券、一百株券、一千株券及一萬株券ノ六種トス

第十二條　本會社ノ株券ニハ社名、設立登記ノ年月日、資本ノ總額、一株ノ金額、拂込ノ金額及番號ヲ記載シ總裁之ニ記名捺印スルモノトス

第八條ニ依リ滿洲國通貨ニ換算シテ利益配當金ノ支拂ヲ爲ス株券ニハ其ノ旨及換算率ヲ記載スルモノトス

第十三條　株金拂込ハ一株ニ付第一回ヲ金十二圓五十錢トス

第二回以後ノ拂込金額竝ニ其ノ拂込期日及方法ハ取締役會ノ決議ヲ以テ之ヲ定メ少クトモ六十日前ニ各株主ニ之カ通知ヲ發スヘシ

第十四條　株式引受人株金拂込期間內ニ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ本會社ハ十四日以內ニ其ノ拂込ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間內ニ之ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其ノ株式引受人ニ通知スルコトヲ得

株式引受人前項ノ通知ニ拘ラズ拂込ヲ爲サザルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テ設立委員ハ其ノ者ガ引受ケタル株式ニ付更ニ株主ヲ募集シ又ハ他ノ株式引受人ニ之レヲ引受ケシムルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ既ニ拂込ミタル株式申込證據金ハ之ヲ還付セス

第十五條　株主株金拂込期間內ニ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ本會社ハ三十日以內ニ其ノ拂込ヲ爲スヘキ旨及其ノ期間內ニ之ヲ爲ササルトキハ株主ノ權利ヲ失フヘキ旨ヲ其ノ株主ニ通知スルコトヲ得

株主前項ノ通知ニ拘ラス拂込ヲ爲ササルトキハ其ノ權利ヲ失フ此ノ場合ニ於テハ本會社ハ其ノ旨ヲ公告ス

前項ノ場合ニ於テハ本會社ハ株式ノ各讓渡人ニ對シ三十日以內ニ拂込ヲ爲スヘキ旨ノ催告ヲ發スルモノトス此ノ場合ニ於テハ最モ先ニ滯納金ノ拂込ヲ爲シタル讓渡人株式ヲ取得スルモノトス

讓渡人カ拂込ヲ爲ササルトキハ會社ハ株式ヲ競賣ニ付シ競賣ニ依リテ得タル金額カ滯納金額ニ滿タサルトキハ從前ノ株主ヲシテ其ノ不足金額ヲ辨濟セシムルモノトス若シ從前ノ株主カ十四日以內ニ之ヲ辨濟セサルトキハ會社ハ讓渡人ニ對シテ其ノ辨濟ヲ請求スルモノトス

前四項ノ規定ハ本會社カ損害賠償及第十六條ニ定メタル違約金ヲ請求スル權利ニ影響ヲ及ホスコトナシ

第十六條　株主拂込ノ期間内ニ株金ノ拂込ヲ爲ササルトキハ其ノ拂込ムヘキ金額ニ對シ拂込期日ノ翌日ヨリ拂込當日迄金百圓ニ付一日金四錢ノ割合ヲ以テ違約金ヲ徵收ス

第十七條　第十五條ニ定メタル讓渡人ノ責任ハ讓渡ヲ株主名簿ニ記載シタル後二年ヲ經過シタルトキハ消滅ス

第十八條　會社其ノ他公私ノ法人カ本會社ノ株式ヲ所有スルトキハ其ノ代表者ヲ定メ本會社ノ株主名簿ニ之カ記載ヲ受クヘシ
株式カ數人ノ共有ニ屬スルトキハ共有者ハ株主ノ權利ヲ行フヘキ者一名ヲ定ムルコトヲ要ス
共有者ハ連帶シテ株金拂込ノ義務ヲ負フモノトス

第十九條　株式ノ移轉ハ取得者ノ氏名及住所ヲ株主名簿ニ記載シ且其ノ氏名ヲ株券ニ記載スルニ非サレハ之ヲ以テ本會社ニ對抗スルコトヲ得サルモノトス

第二十條　株式ノ讓渡ニ依リ株券ノ名義書換ヲ爲サントスルトキハ本會社所定ノ書式ニ依ル當事者連署ノ書面ニ株券及本會社ニ於テ必要ト認ムル證據書類ヲ添ヘ之ヲ本會社ニ提出スヘシ
改氏名、相續其ノ他ノ事由ニ依リテ株券ノ名義書換ヲ爲サントスルトキハ前項ニ準ジテ本會社ニ書面ヲ提出スベシ

第二十一條　株券ノ種類ノ變更又ハ汚損若ハ毀損シタル株券ノ引換ヲ爲サントスル株主ハ株券引換請求書ニ株券ヲ添ヘ之ヲ本會社ニ提出スヘシ株券ヲ亡失シタル株主ハ其ノ事由ヲ詳記シタル書面ヲ作成シ本會社ノ適當ト認ムル保證人二名ノ連署ヲ以テ本會社ニ新株券交付ノ請求ヲ爲スコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ本會社ハ直ニ其ノ旨ヲ公告シ其ノ最終ノ公告ノ日ヨリ六十日以内ニ故障ヲ申出ツル者ナカリシトキニ限リ請求者ニ新株券ヲ交付ス

第二十二條　株式名義書換ノ手數料ハ株券一通ニ付金二十錢トシ株券引換及新株券交付ノ手數料ハ株券一通ニ付金五十錢トス

第二十三條　株主又ハ其ノ法定代理人ハ株式取得ノトキ本會社所定ノ書式ニ依リ其ノ氏名、住所及印鑑ヲ本會社ニ届出ツヘシ其ノ變更アリタルトキ亦同シ

第二條ニ揭クル地域又ハ日本國領域内ニ住所又ハ居所ヲ有セサル株主ハ前記ノ地域内ニ假住所又ハ代理人ヲ定メ之ヲ本會社ニ届出ツヘシ

第二十四條　本會社ハ定時株主總會前四十日以内ニ於テ本會社ノ定ムル日ヨリ同總會ノ終了ノ日迄株式ノ讓渡ニ依ル名義ノ書換ヲ停止ス
前項ノ場合ヲ除クノ外本會社必要ト認ムルトキハ豫メ其ノ旨ヲ公告シテ名義書換ヲ停止スルコトヲ得

第三章　株主總會

第二十五條　本會社ノ定時株主總會ハ毎年三月、臨時總會ハ必要アル毎ニ總裁之ヲ招集ス
資本ノ十分ノ一以上ニ當ル株主ハ會議ノ目的タル事項及招集ノ理由ヲ記載シタル書面ヲ提出シ總會ノ招集ヲ請求スルコトヲ得

第二十六條　總會ノ議事ハ豫メ通知シタル事項ノ外ニ渉ルコトヲ得ス

第二十七條　總會ヲ招集スルニハ少クトモ二十五日前ニ株主ニ之カ通知ヲ發スヘシ總會ノ日時及場所ハ總裁之ヲ定ム

第二十八條　總會ノ議長ハ總裁之ニ當ル
總裁差支アルトキハ副總裁、副總裁差支アルトキハ理事中ノ一人之ニ代ハル

第二十九條　總會ノ議長ハ會議ヲ延期シ又ハ會場ヲ變更スルコトヲ得但シ延期會議ノ議事ハ前會議ニ於テ議了セサリシ事項ノ外ニ渉ルコトヲ得ス

第三十條　各株主ハ一株ニ付一箇ノ議決權ヲ有ス

第三十一條　株主ハ他ノ株主ニ委任シテ其ノ議決權ヲ行フコトヲ得此ノ場合ニ於テハ本會社ニ委任狀ヲ差出スヘシ

第三十二條　總會ノ議長ハ株主トシテ其ノ議決權ヲ行使スルコトヲ妨ケス

第三十三條　總會ノ決議ハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ爲スモノトス

第三十四條　定款ノ變更、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ總株主ノ半數以上ニシテ資本ノ半額以上ニ當ル株主出席シ其ノ議決權ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス
前項ノ場合ニ於テ出席株主定數ニ滿タサルトキハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ヲ爲シ各株主ニ對シテ其ノ假決議ノ趣旨ノ通知ヲ發シ更ニ一月以内ニ第二回ノ總會ヲ招集スヘシ
第二回ノ總會ニ於テハ出席シタル株主ノ議決權ノ過半數ヲ以テ假決議ノ認否ヲ決ス

第三十五條　總會議事ノ要領ハ之ヲ議事錄ニ記載シ議長及議長ノ指名シタル出席株主二名以上之ニ記名捺印スヘシ

第三十六條　本會社ノ定款ノ變更、社債ノ募集、合併及解散ノ決議ハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケタルトキ其ノ効力ヲ生スルモノトス

第四章　取締役及監査役

第三十七條　本會社ニ取締役五名及監査役三名ヲ置ク
取締役及監査役ハ日滿兩國ノ何レカ一方ノ國民タルコトヲ要ス
取締役及監査役定員合計數中兩國國民ノ割合ハ取締役及監査役全員ノ選任ノ際ニ於ケル其ノ所屬國ノ政府、公共團體、國民及法人ノ有スル株數ノ比例ヲ基準トシテ之ヲ定ム但シ一方ノ國民ノ取締役及監査役合計數ノ三分ノ一ヲ下ラサルモノトス

第三十八條　取締役及監査役ハ十株以上ヲ所有スル株主中ヨリ株主總會ニ於テ之ヲ選任ス
取締役及監査役ノ選任及解任ノ決議ハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケタルトキ其ノ效力ヲ生スルモノトス

第三十九條　取締役在任中ハ其ノ所有スル本會社ノ株式十株ヲ監査役ニ供託スヘシ
前項ニ依リ供託シタル株式ハ當該取締役退任ノ際ニ於ケル營業年度ニ關スル總會カ其ノ決算ヲ承認シタル後ニ非サレハ之ヲ還付セス

第四十條　取締役ノ任期ハ三年、監査役ノ任期ハ二年トス但シ任期中ノ最終ノ配當期ニ關スル定時總會ノ終結以前ニ任期滿了スルトキハ其ノ終結ニ至ル迄之ヲ伸長ス補缺ニ依リテ就任シタル取締役及監査役ノ任期ハ其ノ前任者ノ殘任期間トス

第四十一條　取締役及監査役ニ缺員ヲ生シタルトキハ補缺選擧ヲ行フ但シ取締役及監査役ノ缺員各二名ヲ超エサルトキハ次回ノ改選期迄之ヲ延期スルコトヲ得
補缺選擧ニ於テ選出セラルヘキ取締役及監査役ハ其ノ前任者ノ所屬國ノ

國民タルヘキモノトス

第四十二條　取締役ハ總裁一名、副總裁一名及理事三名ヲ、監査役ハ監事一名ヲ互選ス

第四十三條　總裁ハ本會社ヲ代表シ取締役會ノ議長トナリ且會社一切ノ務ヲ總理ス總裁ニ事故アルトキハ副總裁、副總裁ニ事故アルトキハ理事中ノ一人其ノ職務ヲ行フ

第四十四條　副總裁ハ總裁ヲ輔佐シ會社ノ經營ニ參與ス

理事ハ總裁ヲ輔佐シ會社ノ業務ヲ分掌ス

監事ハ常時會社ノ業務ヲ監査スルモノトス

第四十五條　取締役會ハ取締役ヲ以テ組織シ重要ナル社務ヲ決議ス

取締役會ハ總裁之ヲ招集シ其ノ議事ヲ主宰ス

否同數ナルトキハ議長之ヲ決ス

第四十六條　取締役及監査役ノ受クヘキ報酬及手當ハ株主總會ノ決議ヲ以テ之ヲ定ム

第五章　計算

第四十七條　本會社ノ營業年度ハ每年一月一日ヨリ十二月三十一日迄トス

第四十八條　本會社ノ利益金ハ每營業年度ニ於ケル總收入金額中ヨリ諸經費、諸損失及諸償却金ヲ控除シタル殘額トス

第四十九條　本會社ノ利益金ハ日滿兩國政府ノ認可ヲ受ケ左ノ方法ニ依リ每營業年度之ヲ處分スルモノトス

一、法定積立金

二、職員以下退職給與積立金

三、株取締役及監査役賞與金

四、株主配當金

利益金ノ五分以上

利益金ノ三分以內

利益金ヨリ前期ニ於ケル總收入金額中ヨリ諸經費諸損失及諸償却金ヲ控除シタル殘額ヲ引去リ尙殘額アルトキハ之ヲ株式ニ付其ノ株金ニ應シ若ハ特別積立金トシ又ハ再配當ヲ爲シ若ハ後期繰越金トス

第五十條　每營業年度ニ配當シ得ヘキ金額カ總株式ノ拂込金額ニ對シ年六分ノ割合ニ達セサルトキハ先ツ株式ノ拂込金額ニ對シ年六分ノ割合ニ達スルニ至ル迄兩國政府持株ニ配當ヲ爲シ尙殘額アルトキハ之ヲ日滿兩國政府持株ニ配當スルモノトス

每營業年度配當金ハ株式ノ拂込金額ニ對シ年一割ノ割合ニ達セサル場合ニ於テハ其ノ不足ヲ補フ爲メ積立金ヨリ之ヲ補充スルコトヲ得

超ユルコトヲ得サルモノトス

第五十一條　配當金ハ二月二十日現在ノ株主名簿ニ依リ株主ニ之ヲ拂渡ス

新ニ拂込ミタル株金ニ對シテハ其ノ拂込期日ノ屬スル月ノ翌月ヨリ此ノ配當金ノ拂渡期日並ニ場所ハ總裁之ヲ定メ株主ニ通知スヘシ

算シテ配當金ヲ算出スルモノトス

第六章　附則

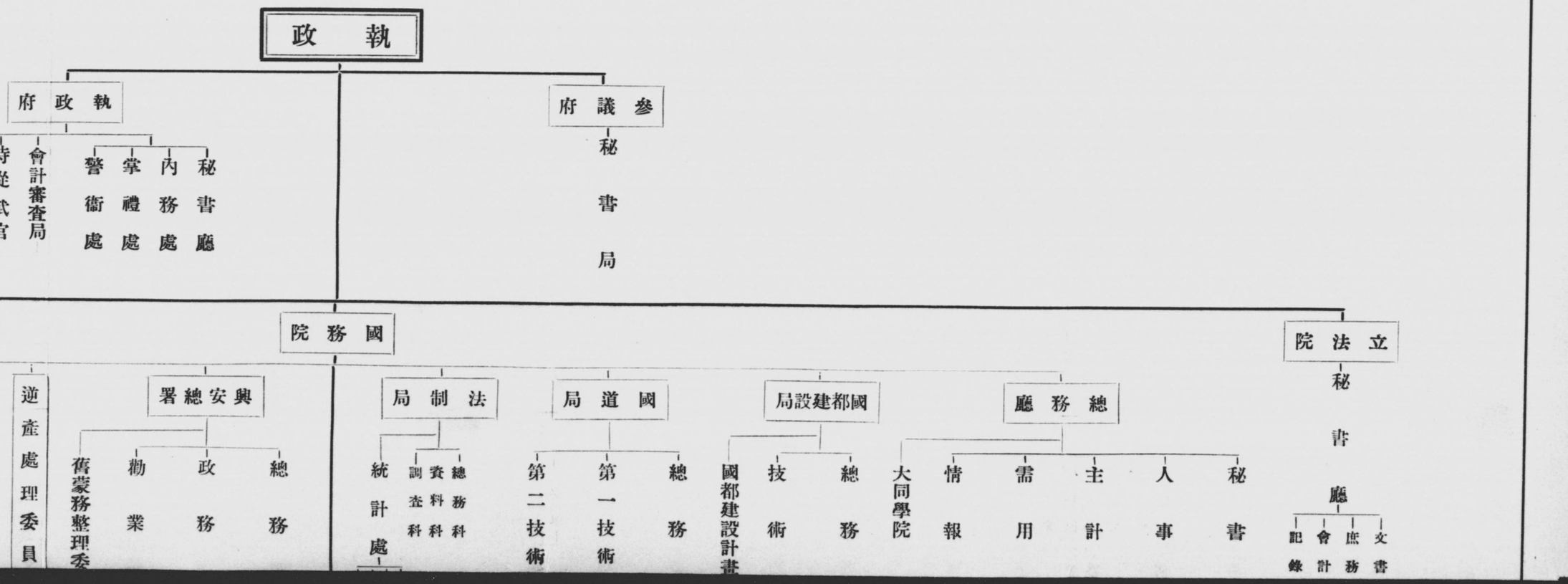
第五十二條　本會社ノ眞摯ニ歸スヘキ設立前項ノ命令中政府ノ立替ニ係ルモノハ政府ニ償還ノ日ハ金十萬圓ヲ限度トス

第五十三條　取締役ノ及ヒ監査役ノ報酬ハ第四十六條之ヲ定ムルコトヲ得

第五十四條　創立總會ニ於テモ之ヲ定メサルトキハ第一回ノ定時總會ニ於テ之ヲ定ム

第五十五條　本定款ハ日本文及漢文ヲ以テ各一通ヲ作成シ兩國ニ於ケル日本文ト漢文トノ間ニ異ヲ生シタルトキハ日本文ニ依リ之ヲ決スル

滿洲國政府組織表


政執
執政府
秘書廳
內務處
掌禮處
警衛處
會計審查局
侍從武官
侍衛官
內廷局
參議府
秘書局
國務院
總務廳
秘書
人事
主計
需用
情報
大同學院
國都建設局
總務
技術
國都建設計畫
國道局
總務
第一技術
第二技術
法制局
總務科
資料科
調查科
統計處
興安總署
總務
政務
勸業
舊蒙務整理委
逆產處理委員
臨時訂立條約準備委員
積欠善後委員
官衙建築計畫委員
滿洲中央銀行繼承資產委員會
立法院
秘書廳
文書
庶務
會計
記錄